

令和6年 第7回 川口市教育委員会定例会

日 時 令和6年4月19日(金)

午後3時00分

場 所 川口市教育委員会室

日 程

1 開 会

2 点 呼

3 前回会議録の承認

(1) 第6回川口市教育委員会定例会会議録

4 教育長報告

(1) 5月行事予定について	—	1
(2) 3月市議会定例会の概要について	—	5
(3) 教育財産(建物)の解体について	—	8 1
(4) 川口市公民館運営審議会委員の解嘱について	—	8 2
(5) 川口市スポーツ推進委員の解嘱について	—	8 3
(6) 川口市スポーツ推進審議会委員の解嘱について	—	8 4
(7) 神根運動場周辺整備事業について	—	当日 1
(8) 令和6年度特色ある学校づくり推進校のテーマ及び学校支援員について	—	8 5
(9) 学級編制の特例に係る取扱いについて	—	8 9
(10) 令和5年度学校自己評価のまとめについて	—	9 1
(11) 川口市立小中学校在り方検討委員会の設置について	—	18 4
(12) 令和5年度川口市立高等学校卒業者の進路状況について	—	18 5
(13) 令和6年度川口市立高等学校入学者選抜結果について	—	18 7
(14) 令和6年度川口市教育相談支援員について	—	18 8
(15) 令和6年度川口市特別支援教育支援員について	—	19 0
(16) 令和6年度川口市特別支援学級等補助員について	—	19 2
(17) 令和6年度川口市学校図書館司書について	—	19 4
(18) 令和6年度川口市部活動指導員について	—	19 6
(19) 英語教育について	—	19 8
(20) 川口市立学校におけるいじめ問題の現状について	—	当日 2 (秘)

5 協議事項

(1) 6月市議会案件について	—	当日 3 (秘)
-----------------	---	----------

6 議 事

議案第37号 川口市スポーツ推進委員を委嘱することについて	—	20 1
-------------------------------	---	------

7 その他

8 閉 会

教育長報告（1）

令和6年5月行事予定表

日	曜日	教育総務課	生涯学習課	文化財課	中央図書館	科学館	スポーツ課	日	曜日
1	水							1	水
2	木							2	木
3	金	憲法記念日			おさなごのおはなし会 (11:00 前川図書館)	開館記念日無料公開 わくわく屋台村(9:30 科学展示室)		3	金
4	土	みどりの日			おはなし会 (14:30 全館)			4	土
5	日	こどもの日						5	日
6	月	振替休日						6	月
7	火				わらべうたとえほんの会 (11:00 中央図書館)			7	火
8	水					来館(旭幼稚園)		8	水
9	木	全国都市教育長協議会定期総会 並びに研究大会長崎大会 (9:00 長崎県長崎市)			親子で楽しむ絵本とわらべうた (10:30 戸塚図書館) おはなしじゅうたん(10:30 鳩ヶ谷図書館)	来館(新郷松原幼稚園、 柏市立富勢東小学校)		9	木
10	金	全国都市教育長協議会定期総会 並びに研究大会長崎大会 (9:30 長崎県長崎市)			絵本とわらべうたの会 (10:30 新郷図書館) おはなし会(11:00 芝北文庫)			10	金
11	土				おさなごのおはなし会 (11:00 前川図書館) おはなし会(14:30 全館)	夜間観測会 (19:30 天文台)		11	土
12	日			端午の茶会 (10:00 旧田中家住宅)				12	日
13	月						第17回川口ツデーマーチ実行委員会 (18:00 メディアセブン)	13	月
14	火		市民大学 「健康とコミュニケーション講座」① (10:00 新郷南公民館)					14	火
15	水	南部地区教育委員会連合会 理事会・定期総会 (13:30 オンライン)				来館(上青木中学校)		15	水

令和 6 年 5 月 行事 予 定 表

日	曜日	教 育 総 務 課	生 涯 学 習 課	文 化 財 課	中 央 図 書 館	科 学 館	ス ポ ー ツ 課	日	曜日
16	木	教育委員会定例会 (15:30 教育委員会室)					全日本中学校通信陸上競技埼玉県大会 川口市予選会(～17日) (8:45 青木町公園総合運動場)	16	木
17	金							17	金
18	土		市民大学「盆栽講座」① (10:00 芝北公民館)		わらべうたであそぼう (11:00 横曽根図書館) おはなし会(14:30 全館)			18	土
19	日							19	日
20	月							20	月
21	火		市民大学 「健康とコミュニケーション講座」② (10:00 新郷南公民館)		わらべうたとえほんの会 (11:00 中央図書館)			21	火
22	水					来館(富士見市立水谷東小学校)		22	水
23	木	埼玉県市町村教育委員会連合会総会 (13:30 羽生市産業文化ホール)			親子で楽しむ絵本とわらべうた (10:30 戸塚図書館) おはなしじゅうたん(10:30 鳩ヶ谷図書館)			23	木
24	金			市指定無形民俗文化財 「安行原の蛇造り」 (9:00 安行原)	絵本とわらべうたの会 (10:30 新郷図書館) おはなし会(11:00 芝北文庫)	来館(流山市立八木北小学校)		24	金
25	土				おはなし会 (14:30 全館)	メカモグラ・ビッグコーストーナメント「メカモグラ体験」「トーナメント大会」(10:00 展示) 科学ものづくり教室「入門！電気工作(スクローラーⅡ)」(13:00 展示) 夜間観測会(20:00 天文台)		25	土
26	日					メカモグラ・ビッグコーストーナメント 「メカモグラ体験」「トーナメント大会」(10:00 展示) 科学ものづくり教室「入門！電気工作(ロボクワガタ)」(13:00 展示)		26	日
27	月	南部教育長会議 (浦和合同庁舎)						27	月
28	火		市民大学 「健康とコミュニケーション講座」③ (10:00 新郷南公民館)			休館日(館内整理日)		28	火
29	水							29	水
30	木							30	木
31	金	関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会 総会及び研修会(茨城大会) (13:00 茨城県古河市)						31	金

令和6年 5月 行事予定表

日	曜日	庶務課	学務課	指導課	学校保健課	市立高等学校	日	曜日
1	水			令和6年度埼玉県学力・学習状況調査(小5・中2) 小学校低学年基礎学力定着度調査(～14日)	令和6年度川口市養護教諭部会総会(15:00 第一本庁舎601会議室) 川口市学校給食献立委員会(新郷・南平学校給食センター、自校調理中学校) (15:30 第二庁舎地階第1会議室)		1	水
2	木				川口市学校給食献立委員会 (新郷・南平学校給食センター調理小学校) (15:30 第二庁舎地階第1会議室)		2	木
3	金						3	金
4	土						4	土
5	日						5	日
6	月						6	月
7	火			教育支援センター正式開始式 (11:40 芝園・朝日教室)	川口市学校給食献立委員会 (元郷学校給食センター調理中学校) (15:30 元郷学校給食センター会議室)		7	火
8	水			令和6年度埼玉県学力・学習状況調査(小4・中1)	川口市学校給食献立委員会 (元郷学校給食センター調理小学校) (15:30 元郷学校給食センター会議室)		8	水
9	木		大貫海浜学園最初隊(慈林小)	学校訪問 (芝小・新郷小) 学力向上訪問(前川東小・上青木中)	川口市学校給食献立委員会 (自校調理小学校) (15:30 第二庁舎地階第1会議室)		9	木
10	金			学校訪問 (東中) 学力向上訪問(里中・芝中)	結核対策委員会第1回専門部会 (19:00 局2階会議室)		10	金
11	土			高校生海外派遣事業二次選考試験(面接) (8:30 教育研究所)			11	土
12	日						12	日
13	月		人事評価当初申告教育長面談 (8:45 教育委員会室)				13	月
14	火		人事評価当初申告教育長面談 (8:30 教育委員会室)	中堅教諭等研修(小・中)開講式 令和6年度埼玉県学力・学習状況調査(小6・中3)			14	火
15	水		人事評価当初申告教育長面談 (8:45 教育委員会室)				15	水

令和6年

5月行事予定表

日	曜日	庶務課	学務課	指導課	学校保健課	市立高等学校	日	曜日
16	木				歯と口の健康ポスター、標語コンクール審査会 (14:30 第一本庁舎602・603会議室)		16	木
17	金			5年次研修(小・中)開講式			17	金
18	土						18	土
19	日						19	日
20	月		水上自然教室最初隊(附属中) 人事評価当初申告教育長面談 (8:30 教育委員会室)	学校訪問(小谷場中) 学力向上訪問(中居小・里小)			20	月
21	火		人事評価当初申告教育長面談 (8:45 教育委員会室)				21	火
22	水		人事評価当初申告教育長面談 (8:45 教育委員会室)	研究委嘱校・学校ファーム推進校 委嘱状等交付式(13:00 教育研究所) 学力・徳力・体力向上、ライフスキルかわぐち推進委員任命書交付式(15:00 教育研究所)	川口市学校給食食品等選定委員会 (14:00 南平学校給食センター会議室)		22	水
23	木		市立学校長会議 (10:00 青木会館)	教科用図書調査員任命書交付式 (15:00 教育研究所)			23	木
24	金		人事評価当初申告教育長面談 (8:45 教育委員会室)	特別支援学級設置校連絡協議会 (15:00 教育研究所) 不登校対策協議会(15:00 青木会館)			24	金
25	土						25	土
26	日						26	日
27	月		人事評価当初申告教育長面談 (8:30 教育委員会室)	学校訪問(八幡木中) 学力向上訪問(十二月田中・青木中)			27	月
28	火			学校訪問(幸並中) 学力向上訪問(慈林小・安行中)			28	火
29	水			課題研究員・教育研究生任命書交付式 (15:00 教育研究所)		全日制遠足	29	水
30	木		月例校長協議会 (10:00 教育研究所)	学力向上訪問(木曾呂小・戸塚中)			30	木
31	金						31	金

３月市議会定例会の概要について

川 口 市 教 育 委 員 会

令和 6 年 3 月市議会定例会 一般質問質疑応答概要	
(教育総務課)	
< 質問概要 > 石橋 俊伸 議員 (公明) 3 教育について (6) 小学校体育館への空調機設置について ア 導入費用について イ 更新費用について ウ 緊急防災・減災事業債を活用した際の負担額について (要望) 中学校に設置した際は 1 校あたり約 6, 2 0 0 万円かかったことから、	< 答弁概要 > (教育総務部長) A 小学校 5 2 校への導入費用については、積算していないが、令和 2 年から 4 年にかけて中学校 2 6 校の体育館に空調機を設置した際は、総額約 1 6 億円で、1 校あたりの平均額は約 6, 2 0 0 万円であった。 現在では、資材の高騰などによって一般的に工事費が上昇している状況である。 (教育総務部長) A 空調設備の更新にあたっては、受変電設備や室内機などの設備の劣化状況にもよるが、設備の全部を更新する場合には、導入した際と同程度の費用を要するものと見込んでいる。 (教育総務部長) A 緊急防災・減災事業債は、設備の新規導入時にのみ活用できるものであるが、充当率が 1 0 0 パーセントで、そのうち 7 0 パーセントが交付税算入されるため、負担額はかかった費用の 3 0 パーセントになるものである。

小学校５２校に設置する場合は総額約３２億２，４００万円かかる。 緊急防災・減災事業債を活用した際、負担額はかかる費用の３０パーセントになることから、約１０億円を捻出して、設置していただきたい。 藤田 みつぐ 議員（青嵐） ２ 市財政について (2) 決算統計で見た教育費の現状について ・市の所見は 碓 康雄 議員（新風） ６ 防災のまちづくりについて (3) 避難所について ウ 避難者の健康を損なわない環境整備について (ア) 体育館への空調機設置に対する国庫補助について (イ) 小学校の体育館への空調機の設置について	(教育総務部長) A 本市の教育費の現状については、限られた財源の中で、学校教育や社会教育等の充実を図るため、必要な規模の予算措置を講じているものと認識している。 今後についても、本市の教育行政を推進していくために必要な予算の確保に引き続き努めていきたいと考えている。 (教育総務部長) A 学校体育館への空調機設置の際に活用できる国庫補助としては、文部科学省の学校施設環境改善交付金がある。 この交付金は、一定の補助単価に体育館の延べ床面積を乗じて得た補助対象経費の２分の１が補助額となるものである。 (教育総務部長) A 学校施設環境改善交付金の補助単価は、実工事単価の４割程度であり、補助額は実際
--	---

(要望) 長期の避難生活になっても避難者の健康を害さないよう、避難者の生活空間である小学校の体育館への空調設備の導入を、検討していただきたい。 7 公共施設のマネジメントについて (1) 小中学校の適正配置について ウ 校舎の耐用年数について エ 建替えをするために必要な予算額について	の設置費用の2割程度となること、さらに補助の要件として、体育館の屋根や壁などの断熱性確保のための改修工事が必要とされていることから、財源の確保は依然として大きな課題となっている。 こうしたことから、現時点において整備の計画はないが、引き続き補助制度の更なる充実など、国の動向について注視していきたいと考えている。 (教育総務部長) A 令和3年度に策定した「川口市学校施設長寿命化計画」において、建築後10年以上の建物については、屋上防水や外壁塗装などの計画的な部位改修を行い、目標使用年数を65年としている。 また、建築後10年未満の建物については、計画的な部位改修を行うとともに、40年経過時には屋上防水や外壁塗装のほか電気設備や給排水管の改修などの長寿命化改修を行うことで、目標使用年数を80年としている。 (教育総務部長) A 校舎の建替えにあたっては、新校舎の建設のほか、既存校舎の解体やグラウンドの整
---	---

(要望) 改築した校舎をすぐに統合するということがないよう、児童生徒の減少や適正配置を踏まえ、改修計画の策定をしていただきたい。 後藤 留美 議員（公明）	備なども行う必要があり、また児童生徒数によって校舎の規模も違うことから、一律に積算することは難しいものと考えている。 こうしたことから、建替え時に行う実施設計において、必要な予算額を把握していきたいと考えている。
3 教育について (1) 小中学校の窓への遮光フィルムの設置について (要望) 気象庁の予報では、4月頃から暑くなる可能性があるとのことから、早急に設置に向けて検討していただきたい。 榊原 秀忠 議員（自民） 1 市内小中学校における諸問題について (4) トイレの改修状況と今後の取り組みについて	(教育総務部長) A 窓ガラスの遮光フィルムについては、空調負荷の低減や光熱費の節約に効果があるものと捉えている。 今後、設置に要する経費や設置手法等について検討していきたいと考えている。 (教育総務部長) A 小・中学校のトイレ改修については、現在、トイレの全面改修工事に合わせ洋式化及

(要望) トイレ環境は、児童生徒の健康面や心理面に影響することから、早めに改修を行っていただきたい。 荻野 梓 議員（自民） 3 「川口市障害のあるなしに関わらず共に学び成長する子ども条例」の初年度の状況と来年度に向けて (1) 令和5年度の取り組みと課題について イ 教育分野（ハード面） (2) 令和6年度の予算と取り組みについて イ 教育分野（ハード面）	び乾式化を進めているほか、学校からの要望を踏まえ、洋式トイレへの部分改修を行っているところである。 今後についても、児童生徒が快適な学校生活を送れるよう、トイレ環境の向上を図っていきたいと考えている。 (教育総務部長) A 学校施設における令和5年度の取り組みとしては、小学校2校、中学校5校に多目的トイレを設置した。 これにより、小・中学校、高等学校80校における多目的トイレの設置率は、70パーセントとなったところである。 (教育総務部長) A 令和6年度については、小学校1校、中学校2校に多目的トイレを設置する予定である。 今後も、トイレの全面改修等に合わせて、多目的トイレの設置に努めていきたいと考えている。
--	---

江袋 正敬 議員（公明） 8 教育について (3) 学校施設の老朽化対策について	（教育総務部長） A 学校施設においては、3年ごとに建物等の点検を実施しており、その結果や学校からの報告等により、老朽化対策として屋上防水や外壁塗装などの大規模改修を行うとともに、学校要望を踏まえ修繕等を適宜行っているところである。 今後についても、中長期的な整備方針を示した「川口市学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的に改修等を行いながら施設の長寿命化を図り、児童生徒が安全安心な学校生活を送ることができるよう施設の維持管理に努めていきたいと考えている。
松本 英利 議員（自民） 1 災害対策について (3) 避難所となる小中学校の耐震化と空調機の設置状況について	（教育総務部長） A 小・中学校の校舎及び体育館の耐震化率については、100パーセントである。 また、空調機については、児童生徒が使用する普通教室、特別教室及び中学校26校の体育館に設置しているところである。

令和6年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (生涯学習課)	
<質問概要> 後藤 留美 議員（公明） 2 子育て支援について (5) 子ども食堂を公民館で実施することについて 金子 幸弘 議員（共産） 7 鳩ヶ谷地域の諸課題について (3) 南鳩ヶ谷公民館の料理実習室に早急にエアコン設置を	<答弁概要> (教育総務部長) A 公民館については、社会教育に関する事業を行うことを主たる目的として設置されており、料理実習室においては、子ども料理教室やお菓子づくり教室などの事業を開催して、地域の子どもたちに参加していただいているところである。 子ども食堂など、不特定多数の子どもたちに対して継続的に食事を提供する活動に、施設を提供することについては、食材料の衛生管理や安全性、アレルギーへの対応など、様々な課題が考えられることから、他の自治体の実施状況等について調査研究していきたいと考えている。 (教育総務部長) A 公民館に空調機を新たに設置することについては、整備費用や設置方法等の課題があることから、建替えや施設改修工事等の機会を捉え、計画的に整備しているところである。 南鳩ヶ谷公民館の料理実習室に空調機を設置することについても、施設全体の空調設備等の更新時期や、料理実習室の利用状況を踏まえ、検討していきたいと考えている。

荻野 梓 議員（自民） 9 市が保有する土地・建物の有効活用について (3) 南平公民館・南平文化会館について ・建替えについて	（教育総務部長） A 南平公民館及び南平文化会館については、それぞれ昭和54年に一体的に建築され、これまで計画的に改修を行うとともに、必要な修繕等を適宜実施し、施設の維持管理に努めているところである。 今後、両施設については、「川口市公共施設等総合管理計画」に基づき、建替えを含めた適切な手法について、総合的な観点から検討していきたいと考えている。
--	---

令和6年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (中央図書館)	
<質問概要> 後藤 留美 議員（公明） 9 地域問題について (5) 新郷図書館へのカフェの併設について (要望) 地域の方が集まれる居心地のいい空間のため、館内の配置を検討して、カフェを併設していただきたい。	<答弁概要> (教育総務部長) A 新郷図書館については、令和4年度において、約5万3,000人の皆様に利用いただき、館内には書架のほか、資料室や学習席及び閲覧席などを配置し、サービス提供の充実に努めているところである。 こうした中、図書館内に新たな施設を配置するためには、現状の利用スペースを縮小する必要があり、本来の図書館サービスの低下につながることも想定されることから、館内にカフェを併設することについては、難しいものと考えているところである。

令和6年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (科学館)	
<質問概要> 江袋 正敬 議員（公明） 9 プラネタリウムの夜間投影について	<答弁概要> (教育総務部長) A 科学館のプラネタリウムは、対象を小学校高学年程度とし、子どもから大人まで興味・関心を高められる番組構成としているところである。 プラネタリウムの夜間投影の実施については、集客や人件費等の課題もあるが、今後のSKIPシティ全体の整備状況によっては、新規来館者の獲得の可能性も考えられることから、まずは、先行実施している他施設の運営状況や来館者のニーズの把握に努めていきたいと考えている。

令和6年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要		(スポーツ課)
<質問概要> 石橋 俊伸 議員（公明） 5 市民生活について (3) 荒川河川敷設置のフットサルコート床の修繕について ・フットサル場コート床が傷んでいる部分があるので修繕してほしい 杉本 佳代 議員（自民） 8 （仮称）神根総合運動公園の整備について (1) 運動公園のエリア拡張について ・北中学校の場所を運動公園としてエリア拡張できないか	<答弁概要> （教育総務部長） A 河原町フットサル場のコートについては、当施設の状況を把握しながら、適宜必要な修繕を行い、施設の維持管理に努めているところである。 今後も、スポーツ施設の修繕については、利用者の皆様に安全に利用いただけるよう、各施設の状況に応じて安全面や緊急性等を勘案し、計画的に実施していきたいと考えている。 （教育総務部長） A （仮称）神根総合運動公園の整備において、北中学校の移転も含めた運動公園区域を拡張することについては、代替となる学校用地の確保などが大きな課題となっているところである。 こうした中、現在は、運動公園区域内の未買収地の確保に慎重を期して事務手続きを進めているところである。 今後も、周辺の土地を含めた運動公園のさらなる区域の拡張を視野に入れ、情報収集等に努めるとともに、関係部局と連携して引き続き調査していきたいと考えている。	

(2) 北中学校の統合も視野に入れた移転について ・今後の少子化の事情も含めて、統合も視野に入れて移転も考えてほしい	(教育総務部長) A 議員指摘の将来的な人口減少に伴う少子化が見込まれる中、学校の在り方や、これに関連した「学校施設長寿命化計画」の実行については、本市においても教育行政の新たな課題と捉えているところである。 こうしたことから、今後の市における将来的な児童生徒数の推移を見極めながら、市全体における学校の在り方等を総合的見地から検討を進めていく中で、北中学校の在り方についても、課題としていきたいと考えている。
---	--

令和6年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要	
(庶務課)	
<質問概要> 石橋 俊伸 議員（公明） 3 教育について (1) G I G Aスクール端末の活用について イ 外国人保護者へ学校行事等の連絡が翻訳されて届く機能の充実について (3) 中学校体育館の空調設備を料金徴収して利用団体に使用させることについて	<答弁概要> (学校教育部長) A 学校からの連絡事項を外国人保護者にわかりやすく伝えることは、児童生徒が円滑に学校生活を送る上で、重要であると認識している。学校においては、翻訳機を活用するなど、外国人保護者に寄り添った対応を行っているところである。 G I G Aスクール端末を活用した翻訳機能については、さまざまなツールがあることから、その効果やコスト面、教職員の負担軽減と合わせて、調査研究していきたいと考えている。 (学校教育部長) A 中学校体育館における空調設備の使用については、授業や部活動等の学校教育活動と、近隣住民への避難所開設時に限定しているところである。 社会教育団体等の利用時における、空調設備の使用は当初より想定していないことから、各体育館の空調方式ごとの使用料金の違いや、料金徴収方法を含めた利用管理体制をはじめ、多くの課題がある。 今後については、社会情勢や部活動の地域移行、さらには他自治体の状況等を参考に、関係部局と調整しながら、引き続き調査研究をしていく。

藤田 みつぐ 議員（青嵐） 4 新型コロナウイルス禍における自治体運営の振り返りについて (5) 学校教育について	（学校教育部長） A コロナ禍における学校運営については、手洗い、マスク着用の徹底をはじめ、給食時の黙食、部活動の制限など様々な感染対策を実施してきた。また、G I G Aスクール構想による端末整備により、休校時等でもオンライン学習が可能となっている。 今後、コロナ禍における取り組みを整理し、新たな感染症が発生した際にも児童生徒の学びを止めない学校運営を行えるよう、備えていきたいと考えている。
碓 康雄 議員（新風） 6 防災のまちづくりについて (3) 避難所について オ 避難所となる体育館でのW i - F i について (ア) G I G Aスクール構想で導入したシステムの活用について	（学校教育部長） A 小・中学校では、国のG I G Aスクール構想に基づき、一般教室にネットワーク及びW i - F i の整備をしており、多くの学校の体育館にもG I G Aスクール用のW i - F i を整備している。 しかしながら、G I G Aスクール用として整備したW i - F i を災害時用として開放するには、学校の情報を保護するためのセキュリティ対策が必要となることから、現時点においては、避難所での利用は難しいものと考えている。

令和6年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要	
(学務課)	
<質問概要> 宇田川 好秀 議員（自民） 10 川口市立高等学校の附属中学校と定時制について (1) 附属中学校の募集人数を増やすことについて (2) 今後の定時制の在り方について ・不登校経験者の進路先という役割も勘案した上で	<答弁概要> (教育長) A 附属中学校は、毎年、市内のほぼ全域から多くの受検があり、市民の皆様の期待や関心の高さが伺える。 附属中学校に対する市民のニーズに適切に対応することは責務であると考えている。募集人数を増やすことについては以前より検討していたので、施設面等の条件が整い次第、募集増の可否について判断していく。 今後も引き続き附属中学校が、小学生が憧れ、市民から愛される中高一貫校として、本市の教育を牽引していくとともに、教育の分野においても「さらなる選ばれるまち川口」の魅力の一つを担えるよう鋭意努めていく。 (教育長) A 市立の高等学校を設置する意義は、県立学校を補完して市民の皆様の教育に対する様々なニーズや期待に応えることであると考えている。 夜間定時制については、時代とともに正社員として働く生徒が少なくなっており、勤労学生の学びの場という役割を終えていると捉えている。重ねて、ここ数年、近隣の県立高等学校定時制においては受入れに余裕があることから、川口市立高等学校の定時制については、募集を停止することも含めて検討を進めていく。

碓 康雄 議員（新風） 7 公共施設のマネジメントについて (1) 小中学校の適正配置について ア 今後の児童・生徒数の見込みについて ・現在と今後の見込み数について教えてほしい イ 小中学校適正規模適正配置基本方針について	今後は、議員指摘の不登校経験者の進路先という役割も含め、近隣の高等学校定時制の充足率や、中学校の不登校生徒の進路状況など、様々な視点を含め、広く関係者の意見を伺う機会を設けるなどして、定時制の在り方について検討していく。 （学校教育部長） A 令和5年5月1日現在、川口市立小学校に通学する児童数は28,958人、川口市立中学校に通学する生徒数は、学齢外である芝西中学校陽春分校の生徒を除くと13,801人である。 また、本市の住民基本台帳の年齢別人口によると、令和5年の1歳児が小学校へ入学する令和11年度は、児童数が26,000人程度、中学校へ入学する令和17年度は、生徒数が12,000人程度となる見込みである。 （学校教育部長） A 本市の小中学校適正規模適正配置基本方針における、小中学校の適正規模については、特別支援学級等を除き、1校あたり12学級から24学級としている。 また、学校の統廃合を検討する基準については、全児童生徒数が100人程度を下回った場合、もしくは小学校では全ての学年が単学級になった場合、中学校では全学級数が4学級以下になった場合等としている。
--	--

オ 今後の方針について ・子どもが減少する中での学校適正規模・適正配置についての考えを教えてください 青山 聖子 議員（自民） 2 児童生徒の学校生活について (1) 在留特別許可の特例措置に係わる児童生徒の就学状況 ア 該当すると思われる児童生徒の把握 ・特例措置に該当すると思われる国籍別児童生徒数とその把握方法	（学校教育部長） A 今後、本市の児童生徒数の減少が予測されるなか、学校の教育環境を維持、向上させるためには、学校規模の適正化が不可欠であると認識している。 そのため、現在、将来的な学校の適正規模・適正配置について教育局内で検討を進めており、今後は、大学や専門機関、保護者、市民等も加えた組織を立ち上げるなどして、学校の適正な規模を維持するために必要な学校数について、学校施設の更新時期との関連を図りながら検討を進めていく予定である。 （学校教育部長） A 改正出入国管理及び難民認定法成立後の令和5年8月より、市内小中学校に在籍する住民登録のない外国籍児童生徒が、新たに住民登録された数については、令和6年2月末日時点で71名いる。 国籍別の人数としては、トルコ国籍64名、中国籍5名、ネパール・フィリピン国籍各1名である。それに加えて、これまで在籍のなかったトルコ国籍1名が新たに住民登録された。 この特例措置に該当すると思われる人数については、住民基本台帳の登録情報と学籍の登録情報を突合させて把握したものである。
---	---

(3) 放課後児童クラブ室内のW i - F i 環境の整備 荻野 梓 議員（自民） 5 放課後児童クラブについて (1) 昼食提供について ・試験運用実施後の検証や見つかった課題及び今後について	（学校教育部長） A 原則、学校敷地内において運営している本市放課後児童クラブでは、G I G Aスクール端末の取扱いについて、国の所管省庁の違いのほか、端末の補償や使用想定範囲等、複数の課題が生じている状況である。 こうした中、本市においては、端末を使用する際には電波の届く学校の教室を借用するなど、可能な限り、環境を整えているところである。 今後も、引き続き学校に働きかけていくとともに、関係各課とも連携し、課題の解決に努めていく。 （学校教育部長） A 冬休みに行った弁当提供の試験運用については、実施後、各放課後児童クラブ室の支援員を介して、保護者やクラブ室からの意見や感想を、各委託事業者から徴したところである。 それによると、保護者からは、概ねご好評いただいているほか、クラブ室においても大きな混乱は無かった一方、クラブ室側の意見として、配送時の受け取り方法や夏場に向けた弁当の保管方法などの課題を確認した。 こうした検証を踏まえ、今後の春休み及び夏休みに向けては、期間中、毎日安定的に提供する本格実施に向け、鋭意準備を進めていく。
---	--

(2) 学務課への係の新設について ・経緯と狙いについて	(学校教育部長) A 放課後児童健全育成事業については、平成27年度に対象児童が従来の小学3年生までから6年生まで拡大され、その頃から、本市においても利用希望者数が増加傾向となり、現在も継続している。 また、保護者の就労形態も変化し、ニーズも多様化する中、これまで、担当職員を増加し、プレハブ建設等をはじめとしたクラブ室の環境改善や弁当提供の開始等、事業の質の向上を図ってきた。 係の新設は、こうした取り組みの継続と、新たに発生する課題に対し、より機動的に対応するとともに、職員の負担軽減を図ることを目的としているものである。
10 大貫海浜学園と水上少年自然の家の今後について ・令和4年度以降の検討状況や今後について	(学校教育部長) A 本市校外教育については、令和4年12月に、教育局内において校外教育の今後を検討する会議体を立ち上げ、活動内容や施設の維持費も含め、現状と課題を共有した。 その後、気候や社会情勢の変化等に合わせた今後の実施方法や施設の所有の有無も含め、幅広く検討を重ね、通算で6回の会議を開催したところである。 今後については、今年度中に教育局内において方向性を取りまとめ、教育委員会に報告し、次年度からは、実施方法について具体的な検討を進めていく。

江袋 正敬 議員（公明） 1 災害への備え等について (4) 子どものケアなどについて イ 教育再開への流れについて	（学校教育部長） A 教育委員会としては、災害発生後、速やかに教育活動を再開するため、学校施設の被害状況を細かく情報収集し、応急修理が可能な場合については補修するなど、必要な施設設備を確保していく。 また、状況によって校舎の使用が困難となった場合には、最寄りの学校や他の公共施設を使用できるようにするなど、あらゆる状況を想定しながら、被災した子どもたちの学校生活をいち早く取り戻せるよう努めていく。
小山 ちほ 議員（れいわ） 5 市立小中学校における障害者会計年度任用職員について	（学校教育部長） A 障害者会計年度任用職員の配置については、学校で働き方改革を推進する上で効果的な方策の一つであると認識している。 しかしながら、本市独自で小中学校に障害者会計年度任用職員の任用制度を設けることは、財源の確保等に課題があることから、難しいものと考えている。

令和6年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要		(指導課)
<質問概要> 宇田川 好秀 議員（自民） 11 子どもたちの学力の向上について (1) 埼玉県学力・学習状況調査の結果について ・東京都内も含めた学力水準の把握と、今後の更なる学力向上に向けた取り組みについて	<答弁概要> (教育長) A 埼玉県学力・学習状況調査の結果については、各学校において1年間の子どもの伸びの状況を丁寧に分析して授業改善に活用しており、その積み重ねが市全体の学力向上につながっているものと捉えている。 今後は、全国学力・学習状況調査の結果を都内等の学力水準と比較するなど多面的に分析し、本市の学力状況の的確な把握に努めていきたいと考えている。 また、子ども一人ひとりが学期ごとなど、短いサイクルで学力の伸びを実感でき、年間を通して段階的に学力をステップアップさせることが学力の定着に効果があると考え、新たな学力向上策を検討している。 具体的には、現在、GIGAスクール端末を活用して、学習内容の定着度を学期ごとに確認できる本市独自の学力状況調査を、令和6年度から試験的に導入する準備を進めているほか、小学校高学年における「中学校並みの完全教科担任制」の実現に向けて、研究委嘱校を核に学校と教育委員会が一体となって学力向上策を推進していく。 (教育長) A 議員指摘の入試倍率については、大学進学実績に対する大きな期待に応えきれていなかったことが、低下の要因の一つであると	
(2) 川口市立高等学校の充実について		

石橋 俊伸 議員（公明） 3 教育について (1) G I G Aスクール端末の活用について ア 「悩み相談SOS」について	分析している。 開校時に策定した川口市立高等学校将来構想においては、国公立大学合格者数を段階的に向上させ、開校から10年目には附属中学校からの内進生も含め100名以上とすることを指標としており、中間期の指標である50名については令和3年度に達成している。令和4年度は進学実績が伸び悩んだ面もあるが、1日7時間・週35単位の授業やスーパーサイエンスハイスクールの取り組み、進学に向けた土曜講習、令和3年度の入学選抜からの学校選択問題導入等、進学校づくりを着実に進めている。 今後は、これまでの取り組みを検証し、開校11年目以降の次期将来構想の策定に向け、更に高い指標を設定し、市民の期待に応える「さらなる選ばれるまち」に相応しい県下ナンバーワンの進学校づくりに鋭意努力していく。 （学校教育部長） A 児童生徒の心的心声を見逃さずに受け止めるために、一人一台所持しているG I G Aスクール端末を活用していくことは、有効な手立てであると認識している。 現在、児童生徒にとって身近な教職員が心的心声を早期に発見し支援することができるよう、G I G Aスクール端末を活用した心の健康観察を作成し、協力校で試行しているところである。 今後も、試行した結果を基により良い質問
--	---

(2) 教育現場での I C T 活用を推進するために産官学が連携することについて	項目や実施方法等を検討し、児童生徒にとって相談しやすい環境づくりに努めていく。 (教育長) A 本年度、川口市立高校と附属中学校では、一般社団法人C o R E F が文部科学省から採択を受けた「先端技術及び教育データ活用に関する実証事業」に協力校として参加した。最新の授業記録機器で蓄積したデータを基に、生徒の発言や教師の発問の質を分析することなどにより、若手教員育成の研究を進めている。また、経済産業省の「探究的な学び支援補助金 2 0 2 3」に市内小学校 7 校が採択され、民間による教育サービス、いわゆる E d - t e c h を試験導入し、プログラミング学習等を実施した。 今後も機会を捉え、民間企業等と連携した効果的な I C T 活用が図られるよう努めていく。
碓 康雄 議員（新風） 9 教育について (2) 部活動の地域移行について ア 取り組み状況について ・地域移行の現状について イ 地域移行の課題と今後の取り組み	(学校教育部長) A 部活動の地域移行については、令和 4 年度より、教育委員会主催の推進協議会を開催し、移行へ向けた協議を重ねている。 また、市内の学校や地域における取り組みとしては、現在、部活動と地域クラブとの連携や近隣校との合同部活動、部活動指導員による単独指導、県の実証事業として行われている、教員による地域クラブ活動等がある。 (学校教育部長) A 今後、地域移行を推進するにあたって

みについて 杉本 佳代 議員（自民） 9 外国人児童生徒教育について ・文部科学省「帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業」を、どのように把握しているのか。 後藤 留美 議員（公明） 9 地域問題について (4) スクールガード・リーダー等へのレインコートの配布について 榊原 秀忠 議員（自民） 1 市内小中学校における諸問題につ	は、受け皿となる団体や指導者、活動場所の確保等が課題となることから、その解決に向け引き続き推進協議会において協議を進めていく。 （学校教育部長） A 増加している外国人児童生徒に適切な教育の機会を提供することは、本市の喫緊の課題であり、よりきめ細かな支援体制を整える必要があると認識している。 現在、教育委員会としては、支援事業に必要な関係他部局やNPO法人、ボランティア団体等、多様な関係者との連携について、検討を進めているところである。引き続き、組織横断的な体制整備を進め、外国人児童生徒教育の充実を図っていく。 （学校教育部長） A スクールガード・リーダーをはじめとした、地域の方々が、天候にかかわらず、毎日児童の登下校見守り活動を行っていることは、安全の確保に向けた重要な取り組みであると認識している。 レインコートを、市として一律に配布することについては、関係部局と連携して、必要性等について研究していく。
--	--

について所見を聞きたい	よる影響で、水泳授業が計画通りに実施できない状況にあることも認識している。 議員提案の、スポーツセンターを利用することについては、スポーツセンターでの実施可能時数の問題や、一般利用者への影響、また、移動に伴う費用面での負担など、様々な課題があると考えている。 このことから、当面は各学校にて既存のプールを利用して指導していくことを基本に、将来的な水泳指導のより良い在り方について、関係各課と連携して調査研究を進めていく。
2 県立肢体不自由特別支援学校の設置について	(教育長) A 現在も引き続き、肢体不自由特別支援学校設置の早期実現に向け県と協議を進めている。 協議の中で、旧芝園中学校については、施設面での課題があり、既存校舎を肢体不自由特別支援学校として活用することが難しいこと、また、解体して校舎を新設する場合には多額の費用を要することから、旧芝園中学校における肢体不自由特別支援学校の設置に関する協議が進展する見込みが立たない状況にある。 今後は旧芝園中学校以外の、新たな候補地を見つけ県に提案する等、可能な限り早期に肢体不自由特別支援学校が設置できるよう、県に強く働きかけていく。
青山 聖子 議員（自民） 1 災害時における子供や乳幼児への対応について (1) より具体化した防災教育を	(学校教育部長)

ア 登下校時に被災した場合を想定した各家庭への啓発	Ａ 現在、各学校においては、登下校時の被災に備え、通学路の危険箇所を知ることや、落下物から頭を守る等の自らの命を守る行動がとれるよう指導を行っている。登下校時の被災については、児童生徒一人ひとりの判断が重要であり、議員指摘のとおり、避難場所や家族との集合場所の確認など、各家庭での日常的な確認が必要不可欠である。 このことから、保護者会や引き渡し訓練等の機会を捉え、登下校時に被災した場合の対応について児童生徒と保護者が話し合う機会を持てるよう、市立学校長会議等を通して、各学校へ働きかけていく。 (学校教育部長)
イ 避難訓練の在り方	Ａ 自然災害は、いつどこで起こるか分からないことから、あらゆる場所や場面を想定した避難訓練は大変重要であると認識している。 現在、大きな地震の後に多くの余震が発生する場面設定や負傷者への対応を必要とする訓練など、これまでの避難訓練を見直し、起こり得る様々な状況を想定したより実践的な訓練を行っている学校もある。 今後については、その様な先進的な避難訓練の取り組みを教職員研修等で周知するなど、地域や各学校の実情に合わせた、より実践的な訓練が行われるよう指導していく。
２ 児童生徒の学校生活について (2) 日本語教育の初期指導の拠点拡充	(教育長) Ａ 最も多くの外国人住民数を有する自治体の１つである本市において、外国人児童生徒に対する日本語指導を充実させることは喫緊の課題である。 中でも、日本での生活の第一歩である日本語の初期指導を着実に行うことは、外国人児

ついて ア 教育分野（ソフト面）	（学校教育部長） A 教育分野においては、特別支援教育支援員等の配置、教員の専門性向上に係る研修、関係部局との連携による相談支援体制の構築、通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習の実施等に積極的に取り組んできた。また、特別支援教育支援員等の増員や、医療的ケア児に対する看護師の配置を新たに実施している。 今後は、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に対応することができる、特別支援教育支援員等の資質向上や人材確保を課題としている。
(2) 令和6年度の予算と取り組みについて ア 教育分野（ソフト面）	（学校教育部長） A 令和6年度の予算については、医療的ケア児のための看護師の配置や特別支援学級等補助員を増員するための予算確保に努めてきた。 取り組みとしては、特別支援教育支援員等の募集について、市のホームページや広報かわぐち、更にハローワーク等も活用しながら幅広く周知をしていくことで、確実な人材確保に取り組んでいく。また、人材派遣会社を活用して、速やかに医療的ケア児に対応するための看護師を配置できるよう準備を進めている。 今後も、一人ひとりの教育的ニーズに対応する支援体制の充実を図っていく。
6 「第4期がん対策推進基本計画」に照らし合わせたがん患者支援について (3) がん教育について ア 子どもへのがん教育	（学校教育部長） A がん教育については、学習指導要領の内

・学校における取り組みについて 江袋 正敬 議員（公明） 8 教育について (1) 部活動の地域移行について ・今後の部活動の地域移行のために事業団等を設立することについて (2) メタバースを活用した居場所づくりについて	容に即し、中学校第2学年の保健分野において、「がんについての正しい理解」、「がんの予防」、「早期発見・早期治療」の3点を柱として学習している。 また、埼玉県は、「効果的ながん教育の推進」を目的に「埼玉県がん教育総合支援事業」を行っており、指導者研修会の開催や外部講師派遣を行っている。 今後も、本事業の積極的な活用を図るとともに、生徒の「がん」に関する学習がより深まるよう努めていく。 （学校教育部長） A 部活動の地域移行を進めるにあたって、市内全体を統括し、運営する組織として、事業団等を設立することも、その手段の一つであると認識している。 今後、他の自治体の成果や課題を踏まえ、関係各課と連携を図りながら、事業団等の設立についても市の設置する部活動地域移行推進協議会の検討課題の一つとしていく。 （学校教育部長） A 仮想空間を利用したメタバースによる居場所づくりについては、成果をあげている自治体もあることは認識している。 一方で、不登校児童生徒が仮想空間から現実社会へ移行していくことの困難さや運営面などについて課題があることから、引き続き他自治体の取り組み等を注視するとともに、情報収集するなど調査研究していく。
---	---

(要望) 不登校児童生徒の多様な学びやつながりに、是非ともつなげていただきたい。また、不登校児童生徒のためにできるだけ時間をかけず、調査研究を進めて欲しい。 小山 ちほ 議員 (れいわ) 1 こども家庭センターについて (1) 現状の情報共有について イ 市立小中学校について (2) こども家庭センター移行後の情報共有について イ 市立小中学校について 3 不登校の児童・生徒のための居場所づくりについて (1) 学校教育における支援について ・教育委員会が実施している不登校支援事業の内容について	(学校教育部長) A 児童生徒のよりよい支援のため、関係部局と小中学校との連携は重要であると捉えている。現在、関係部局と小中学校の間では、必要に応じ、保護者の承諾を得たうえで、会議等を通じて情報の共有を行っている。 (学校教育部長) A こども家庭センター移行後についても、これまでと同様に、保護者の承諾を得たうえで、必要に応じて情報共有を行う予定である。 (学校教育部長) A 不登校児童生徒の支援については、各学校において、担任や相談員等による家庭訪問、さわやか相談室や校内教育支援センター「ほっとルーム」を活用した支援や地域の教育力を活かした居場所づくりを行い、不登校児童生徒の社会的自立に向けて支援を行っている。 また、教育研究所では、電話・来室相談を始め、適応指導教室の運営、訪問相談員やス
---	---

4 各中学校における教育課程編成の工夫による部活動の活動時間について ・学校によって部活動の活動時間が異なることによる子どもたちへの影響について 6 川口特別支援学校について (1) センターの機能の利用実績について (2) 支援籍学習について ・支援籍学習の活動内容の充実について	クールソーシャルワーカーの派遣などの支援を行っている。 今後も、地域や民間の力も借りながら、多様なニーズに応えられる居場所づくりに努めていく。 (学校教育部長) A 中学校の教育課程については、校長の編成権のもと、生徒の放課後活動の充実と教員の働き方改革を両立させる観点から、現在、実情に合わせた段階的な検討が進められている。 それに伴い、ここ数年は部活動の活動時間に学校間で多少の差が生じることも考えられるが、短時間であっても生徒の心身の成長につながる効果的な指導や活動内容の充実を図るよう、学校訪問等を通じて働きかけていく。 (学校教育部長) A 川口特別支援学校のセンター的機能の活用については、令和5年度2月末までの実績として、小中学校39校で巡回相談を140回実施し、巡回相談・教育相談を合わせて延べ254名が活用している。 (学校教育部長) A 支援籍学習は、障害のない児童生徒及び障害のある児童生徒にとって、インクルーシブ教育の観点からも重要であると捉えている。 支援籍学習の実施については、特別支援学校と支援籍実施校の両校の児童生徒の交流を深めるため、研修会等を通じて好事例を紹介していく。
---	---

(3) 過密化の解消に向けて	(学校教育部長) A 川口特別支援学校の過密化解消は、本市の児童生徒にとって重要な課題であると認識している。 過密化解消については、川口特別支援学校を所管している県教育委員会に強く働きかけていく。
-----------------------	---

令和 6 年 3 月市議会定例会 一般質問質疑応答概要	
(学校保健課)	
< 質問概要 > 宇田川 好秀 議員 (自民) 1 2 学校給食費の保護者負担について ・ 保護者負担の軽減策について	< 答弁概要 > (市長) A 学校給食費については、これまで消費税率改定を除いて、実質的に平成 22 年以来となる増額改定を令和 5 年 4 月にしたが、急激な物価高により、市民生活へ深刻な影響を与えていることから、私は、改定部分を公費負担とし、保護者負担が増えないよう積極的に取り組んできた。 しかしながら、令和 5 年は令和 4 年を上回る食品の値上げがあり、学校給食の食材購入費用の不足が見込まれたため、本年 1 月から 3 月まで、公費による追加の支援を決定したところである。 今後も物価高騰は断続的に続き、子育て世帯への影響も、まだまだ大きいことが想定されるので、私は、限られた財源の中で、子育て世帯支援のさらなる充実を図るため、学校給食費の段階的な保護者負担をお願いする一方で、令和 6 年 10 月診療分から子ども医療費の対象年齢を 18 歳まで拡充する判断を行った。 また、議員同様に、私のところにも、子育て世帯の方等から、保護者負担の軽減を求める声も頂いているので、子ども医療費支給年齢を拡充する 4 月から 9 月までの準備期間、給食費の保護者負担値上げ分を公費負担とする必要があると改めて再考し、担当部局に軽減策を講じるよう指示したところであり、国からの支援がない限り、令和 6 年 10 月以降は保護者負担をお願いする予定としたと

(要望) 限られた財源の中で、バランスの取れた子育て支援策を検討してほしい。 石橋 俊伸 議員（公明） 3 教育について (5) 学校給食について ア 給食費の保護者負担の軽減について ・保護者負担の増加を10月に延期するべきではないか	ころである。 今後も社会情勢を注視しながら、川口の未来を担う子どものために、安全安心で栄養バランスの取れた給食を提供するなど、更なる子育てしやすいまちの実現に向けて、鋭意取り組んでいく考えである。 (市長) A 本市の給食費は、消費税率改定を除いて、実質的に平成22年以来となる増額改定を令和5年4月にしたが、あらゆる分野での急激な物価高により、市民生活への影響が大きいことから、私は、改定部分を公費負担とし、保護者負担が増えないよう取り組んできた。 しかしながら、令和5年は令和4年を上回る食品の値上げがあり、学校給食の食材購入費用の不足が見込まれたため、再度、本年1月から3月まで、市費による追加の支援を決定したところである。 議員指摘のとおり、私は、子育て世帯への支援策として、令和6年10月診療分から、子ども医療費支給年齢を拡充する判断をしたが、物価高騰は今後とも断続的に続き、市民生活への影響もまだまだ大きいことが想定される。このような状況の中、子ども医療費支給年齢拡充の準備期間となる4月から9月までの間、給食費の保護者負担値上げ分
---	--

イ こども達に喜ばれる献立の工夫について	について公費負担とする必要があると再考して、担当部局に再々度、軽減策を講じるよう指示したところであり、国からの支援がない限り、10月以降は保護者負担をお願いする予定としたところである。 今後も、社会情勢を注視しながらスピード感を持ち、さらなる子育てしやすいまちの実現に向けて、鋭意取り組んでいく考えである。 (学校教育部長) A 学校給食を通じて子どもたちの「食」への関心を高めることは、食に関する知識と食を選択する力を習得し、生きる力を身につける重要なものである。 議員指摘のメニューコンクールのほか、地元のシェフの協力による給食の実施や、川口にちなんだ献立の取り入れ、さらには市内産の野菜や加工食品の活用なども行っているところである。今後も引き続き、子どもたちの「食」への関心を高め、子どもたちに喜ばれる献立の工夫に努めていく。
ウ 窒息事故を防ぐ取り組みについて	(学校教育部長) A 学校給食における食品による窒息事故については、文部科学省の「食に関する指導の手引」において、未然防止のポイントや発生時対応の留意点が示されており、順守することで事故が起こらないように取り組んでいる。 福岡県での事故が発生したことを受け、改めて学校長あてに通知を発出し、食べ物によく噛んで食べる、早食いは危険であるなど、学校給食喫食時の窒息事故に対して注意喚起したところである。

碓 康雄 議員（新風） 9 教育について (1) 給食について ・令和5年改定分も含めて公費負担とすべきではないか （再質問） 9（1）について、令和5年値上げ分の保護者への転嫁は、6ヵ月間先送りするということによいか。 また、半年間、公費負担の期間を延ばすことで、保護者の負担が軽減されるのは、総額でいくらになるか。それに伴う予算措置はどうするのか。	（学校教育部長） A 令和6年度の給食費保護者負担分については、川口市学校給食運営審議会からの答申などを踏まえ、保護者にとって急激な負担増とならないよう決定したところである。 しかしながら、物価高騰の影響はまだまだ大きいことが想定されることから、今後、関係部局と協議のうえ、令和6年9月までは保護者負担値上げ分の公費負担を進める予定である。 なお、国からの交付金が来ない限り、10月以降は令和5年改定分を保護者負担とする予定である。 （学校教育部長） A 令和6年4月から9月までの間、保護者負担値上げ分の公費負担を進める予定である。その場合の公費負担の増加額は約1億3,000万円である。また、予算措置については、今後学校給食費歳入の減額補正を行い、対応する予定である。
杉本 佳代 議員（自民） 7 学校給食について (1) 学校給食センターの整備について ・地元への説明を含めた新たな学校給食センターの整備スケジュールについて	（市長） A 私は、学校給食の充実を図るうえで、第一に安全で安心な給食を途切れることなく提供していくことが重要であると考えている。こうした思いから、建設から40年以上が経過し、老朽化が進む学校給食センターの建て替えに必要な用地を早急に確保すべく、昨年12月の市議会に関連予算を提出し、承

(2) 地域産物の今後の活用について (要望) 地域産物については、昨年はショウガ入りウインナーを提供したが、市内産のショウガの入手が困難だという話も聞いている。他の野菜、例えば人参を入れても美味しいと思うので	認いただいたところである。 新たな学校給食センターの整備については、現在、用地取得に向けて、地権者との協議に必要な、測量調査や物件補償調査等に着手したところである。また、令和6年度については、用地購入費及び物件補償料のほか、地質調査や設計に係る関連予算を今議会に提出したところである。 まずは令和6年度中の用地取得と併せて地質調査や設計を進め、可能な限り、令和10年度中の運用開始を目指していく。 今後、整備を進めるにあたっては、議員指摘の点を踏まえ、適宜適切に地元への説明を行いながら、早期に整備できるよう努めていきたいと考えている。 (学校教育部長) A 地域産物を学校給食の食材として活用することは、子どもたちが地域の生産者を知ることにつながり、食べ物を大切にする心を育むことができるものである。 令和6年度の新たな取り組みとしては、川口産のじゃがいもや里芋をコロッケに加工し、全ての小中学校で提供する予定である。 また、川口産の野菜や果物なども、新たな加工食品として活用することについて、関係業者と検討しているところである。 今後も引き続き、地域産物の活用に努めていきたいと考えている。
--	--

ひ工夫してほしい。 後藤 留美 議員（公明） 3 教育について (2) 自校給食調理室へのエアコンの設置について (要望) 給食調理室内は暑いため、早期の実現を再度強く要望する。 金子 幸弘 議員（共産） 4 市独自の物価高騰対策の実施を (2) 学校給食費の保護者負担増の計画をやめること	(学校教育部長) A 自校給食調理室の暑さ対策については、これまでに空調機が設置されていない調理室すべてにスポットクーラーを設置したほか、今年度から電動ファン付の空調服を配布するなど、適宜、対策を講じてきたところである。 自校給食調理室の空調機設置については、学校全体の電気系統に大きく影響し、大規模な電気工事を伴うなど技術的な課題があることから、学校の大規模改修時など学校施設全体の計画や調理員の意見を参考にしながら、慎重に検討を進めていきたいと考えている。 (市長) A 本市の給食費は、令和5年4月に増額改定したが、あらゆる分野での急激な物価高により、市民生活への影響が大きいことから、私は、改定部分を公費負担とすることで、保護者の負担が増えないよう取り組んできた。 しかしながら、令和5年は令和4年を上回る食品の値上げがあり、学校給食の食材購入費用の不足が見込まれたため、本年1月から
--	--

	3月まで、市費による追加の支援を決定したところである。 議員指摘のとおり、令和6年4月からは再度価格を改定し、令和5年から令和6年の改定分は市が負担することとしたところであるが、物価高騰は市民生活への影響がまだまだ大きいことが想定される。 私は、子育て世帯への支援として、令和6年10月診療分から子ども医療費支給年齢を拡充する判断をした。しかし、それまでの間は保護者負担が増すことから、4月から9月までの間は、給食費の保護者負担値上げ分を公費負担とする必要があると改めて再考し、担当部局に軽減策を講じるよう指示したところであり、国からの支援がない限り、10月以降は保護者負担をお願いする予定としたところである。 今後も、さらなる子育てしやすいまちの実現に向けて、鋭意取り組んでいく考えである。
--	--

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

教育総務部

質	疑	応	答
議案第1号 令和5年度川口市一般会計補正予算(第7号)			
第1条第1表 歳入歳出予算補正の内 △ 歳出の部 第10款教育費			
△ 歳入の部 第15款使用料及び手数料第1項使用料第9目			
第16款国庫支出金第2項国庫補助金第8目、第10目、第11目			
第17款県支出金第2項県補助金第8目 第23款市債第1項市債第9目			
第2条第2表 継続費補正の内 1 変更			
第10款教育費第2項小学校費 小学校施設整備事業(並木小学校プール建設工事)			
第10款教育費第3項中学校費 中学校施設整備事業(仲町中学校プール建設工事)			
中学校夜間学級新校舎建設事業			
第10款教育費第6項社会教育費 公民館施設整備事業(領家公民館解体工事)			
第3条第3表 繰越明許費補正の内			
1 追加 第10款教育費第3項中学校費 中学校施設整備費			
第10款教育費第6項社会教育費 公民館施設整備費			
2 変更 第10款教育費第8項体育費 神根運動場等整備事業			
第4条第4表 債務負担行為補正の内 1 追加 劇団公演鑑賞バス運行業務			
大貫海浜学園バス運行業務 水上少年自然の家バス運行業務			
第5条第5表 地方債補正の内 1 変更 学校施設整備事業 社会教育施設整備事業			
社会教育施設建設事業 文化財保護事業 体育施設整備事業			
< 質 疑 >			
なし。			
< 討 論 >			
なし。			
< 採 決 >			
起立者全員にて可決。			

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

学校教育部

質	疑	応	答
議案第1号 令和5年度川口市一般会計補正予算（第7号）			
第1条第1表 歳入歳出予算補正の内 △ 歳出の部 第10款教育費			
△ 歳入の部 第15款使用料及び手数料第1項使用料第9目			
第16款国庫支出金第2項国庫補助金第8目、第10目、第11目			
第17款県支出金第2項県補助金第8目 第23款市債第1項市債第9目			
第2条第2表 継続費補正の内 1 変更			
第10款教育費第2項小学校費 小学校施設整備事業（並木小学校プール建設工事）			
第10款教育費第3項中学校費 中学校施設整備事業（仲町中学校プール建設工事）			
中学校夜間学級新校舎建設事業			
第10款教育費第6項社会教育費 公民館施設整備事業（領家公民館解体工事）			
第3条第3表 繰越明許費補正の内			
1 追加 第10款教育費第3項中学校費 中学校施設整備費			
第10款教育費第6項社会教育費 公民館施設整備費			
2 変更 第10款教育費第8項体育費 神根運動場等整備事業			
第4条第4表 債務負担行為補正の内 1 追加 劇団公演鑑賞バス運行業務			
大貫海浜学園バス運行業務 水上少年自然の家バス運行業務			
第5条第5表 地方債補正の内 1 変更 学校施設整備事業 社会教育施設整備事業			
社会教育施設建設事業 文化財保護事業 体育施設整備事業			
< 質 疑 >			
(碓 康雄 委員)		(指導課長)	
第4表、債務負担行為補正のうち、劇団公演鑑賞バス運行業務について、劇団公演鑑賞の内容は。		市内小学5年生全員を対象に、劇団四季の公演を鑑賞させるものである。	

質 疑	応 答
(碓 康雄 委員) 延べ参加人数は。 < 討 論 > なし。 < 採 決 > 起立者全員にて可決。	(指導課長) 令和5年度実績で4, 8 6 8人である。

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

教育総務部 教育総務課

質 疑	応 答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業	
< 質 疑 > なし。 < 討 論 > なし。 < 採 決 > 起立者多数にて可決。	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

教育総務部 生涯学習課

質	疑	応	答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業			
< 質 疑 > なし。 < 討 論 > なし。 < 採 決 > 起立者多数にて可決。			

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

教育総務部 文化財課

質 疑	応 答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業	
< 質 疑 > (菅野 静華 委員) 文化財センター、郷土資料館、歴史自然資料館の入場者数の推移を教えて欲しい。	(文化財課長) 文化財センターの入場者数は、令和3年度は1,493人、令和4年度は1,200人、令和5年度は1月末現在で1,016人。郷土資料館の入場者数は、令和3年度は4,627人、令和

質 疑	応 答
(稲川 和成 委員) 2月8日に開催された未来創造・教育力向上特別委員会においても話題に出したが、文化財保護費の赤山城跡保存整備事業について、「赤山城跡」という名称は、歴史的には城ではなく陣屋であったため、誤解を招くと思われる。名称を変更することはできないのか。 (稲川 和成 委員) 赤山城跡の名称の変更について、難しい事情は	4年度は3,467人、令和5年度は1月末現在で4,715人。歴史自然資料館の入場者数は、令和3年度は34,347人、令和4年度は65,363人、令和5年度は1月末現在で31,964人となっている。 (文化財課長) 赤山陣屋跡は、元々、大正11年に埼玉県によって史蹟「赤山城跡」として指定されたが、その後昭和36年に埼玉県が指定の見直しを行う中で、旧跡に格下げとなった経緯がある。埼玉県としては、旧跡の名称変更はできず、名称変更した場合、一度指定を解除し、再度指定を目指さなくてはならないということであった。しかし、再度指定を目指すとなると、赤山陣屋跡の地権者全ての合意を取る必要があり、現実的に難しいこと、また、旧跡指定の利点としては、地域活性化事業債の活用が図れるため、現状では旧跡の指定解除は考えていない。 ただし、歴史的には城ではなく陣屋であることは確かであるため、誤解を招かないよう、周知を図っていく。

質 疑	応 答
理解したが、今後も埼玉県議会議員を通じて働きかけていきたいと思っている。その際は、文化財課にも協力して欲しい。(要望) < 討 論 > なし。 < 採 決 > 起立者多数にて可決。	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

教育総務部 中央図書館

質	疑	応	答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業			
< 質 疑 > なし。 < 討 論 > なし。 < 採 決 > 起立者多数にて可決。			

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

教育総務部 科学館

質	疑	応	答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業			
< 質 疑 > なし。 < 討 論 > なし。 < 採 決 > 起立者多数にて可決。			

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

教育総務部 スポーツ課

質	疑	応	答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業			
< 質 疑 > (牛嶋 宏一 委員) 体育総務費のオリンピック・パラリンピック強化指定選手激励金交付事業について、内容と予算額の内訳を教えてください。		(スポーツ課長) 日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会及びそれらの加盟団体の強化指定や、埼玉県「スポーツ科学を活用したトップアスリート輩出・支援事業『彩の国プラチナアスリート』」	

質 疑	応 答
< 討 論 > なし。 < 採 決 > 起立者多数にて可決。	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

学校教育部 庶務課

質	疑	応	答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業			
< 質 疑 > (松本 英利 委員) 学校配当予算について、令和4年度及び5年度は学校ICT環境の変化に伴う見直しから減額されていたが、令和6年度の1校当たりの平均配当額は令和5年度と比べてどうなったか、またその		(庶務課長) 1校当たりの平均配当額について小学校費では、令和5年度408万2,704円に対し、令和6年度は、438万3,095円、30万391円の増、陽春分校及び附属中学校を除く中学校費で	

質 疑	応 答
理由について教えて欲しい。	は、令和5年度438万904円に対し、令和6年度は、478万1,845円、40万941円の増となっている。増額とした主な理由については、昨今の物価高騰に対応するため、消耗品費及び備品購入費を増額したことによるものである。
(板橋 博美 委員) 学校配当予算の児童生徒一人当たりの額の推移を教えて欲しい。	(庶務課長) 小学校費では、令和5年度7,331円に対し、令和6年度は8,065円、734円の増、中学校費では、令和5年度8,399円に対し、令和6年度は8,963円、564円の増となっている。
(牛嶋 宏一 委員) 小学校費及び中学校費の学校管理費の備品購入費に図書購入費があり、1校当たり5万5,000円であるが、他に図書に関わる予算があるか、あったら金額も教えて欲しい。	(庶務課長) 小学校費、中学校費ともに需用費の消耗品費に計上しており、金額は小学校費で1校当たり35万円、中学校費で50万円となっている。
(牛嶋 宏一 委員) 図書購入費の執行率について教えて欲しい。	(庶務課長) 令和4年度の執行率は、小学校費で71.88%、中学校費で69.12%であった。

質 疑	応 答
< 討 論 > (松本 英利 委員) 学校配当予算の増額について、物価高騰による影響は直接的に児童生徒の利用する物品にも及ぶことから、教育水準を維持・向上させていくために、また、各学校が今まで以上に自立した特色ある学校運営を図るために必要な措置であり、評価する。 < 採 決 > 起立者多数にて可決。	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

学校教育部 学務課

質 疑	応 答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業	
< 質 疑 > (菅野 静華 委員) 少年自然の家費にかかわり、運行業務等委託料の内容について教えて欲しい。	(学務課長) 市内中学校27校の校外教育水上少年自然の家の実施のためのバス運行業務である。

質 疑	応 答
(菅野 静華 委員) 業者の選定はどのように実施しているのか。	(学務課長) 指名は、本市に業者登録している中から選定している。令和6年度分は、先日の5年度分の補正予算にて債務負担行為を設定し、少しでも早くバスを確保するため、3月中に入札を実施するものである。
(菅野 静華 委員) 業者を選定する基準はあるのか。	(学務課長) 業者登録がされている中から選定している。
< 討 論 > (松本 英利 委員) 放課後児童対策費において、夏休み等の長期休業中に、利用する児童のうち希望者に対し、有料で昼食用の弁当提供を実施するなど、子育て世代の声に耳を傾け、支援の充実が図られていることを高く評価する。	
< 採 決 > 起立者多数にて可決。	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

学校教育部 指導課

質 疑	応 答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業	
< 質 疑 > (松本 英利 委員) 教育指導費の目の説明、学力向上支援事業について、埼玉県ホームページで公表されている令和5年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ると、本市の子どもたちの学力が向上しているこ	(指導課長) 学力向上支援事業における取り組みの一つ、「小学校低学年基礎学力定着度調査」は、小学校低学年における学力の状況を年度当初に把握するとともに、指導方法の工夫を行い、国語・算数

質 疑	応 答
とがわかるが、学力向上支援事業のどのような取り組みが成果につながっているのか。 (松本 英利 委員) 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業について、新入学用品費の支給単価を引き上げるとのことだが、その詳細は。また、その他の支給単価はどうなっているか。 (板橋 博美 委員) 学力向上支援事業について、令和5年度の実施内容は。また、全国学力・学習状況調査は令和6年度も実施予定なのか。	における基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図ることができる。 低学年から学力の状況を把握し、丁寧に指導を行うことが、子どもたちの学力向上につながっているものと認識している。 (指導課長) 新入学用品費の支給単価を、国の要保護児童生徒援助費補助金における予算単価、いわゆる「国の基準」に合わせ引き上げるものである。 具体的には、小学校は40,600円から54,060円に13,460円引き上げ、中学校は47,400円から63,000円に15,600円引き上げる。 その他の支給単価については、学用品費、通学用品費、校外活動費の額を令和5年度からそれぞれ国の基準に合わせて引き上げている。 (指導課長) 令和5年度の実施内容について、1つ目は、小学校低学年基礎学力定着度調査である。市内小学校2・3年生を対象に、基礎的な学力の定着度を測るものである。 2つ目は、川口国語チャレンジである。小学校全学年と中学校1年生を対象に、知識を基にした

質 疑	応 答
(牛嶋 宏一 委員) 学校図書の購入については、誰が決定しているのか。 (菅野 静華 委員) 教育研究所費の目の説明、日本語指導支援員活用事業について、実施内容を詳しく教えて欲しい。	思考力を問うものである。 3つ目は、社会科プレゼンコンテストである。小学校3年生から中学校3年生を対象に、I C T機器を活用し、社会的な問題について調べ、まとめる技能、発表する技能の向上を図るものである。 4つ目は、理科オリンピックである。小学校5年生・6年生、中学校2年生・3年生でチームを編成し、理科に関わる科学的な考え方や知識を問う問題をクイズ形式で競うものである。 全国学力・学習状況調査については、令和6年4月18日に実施予定である。 (指導課長) 小中学校については、学校図書館司書及び司書教諭が立てた購入計画に基づき、学校長が決定している。 (指導課長) 1つ目は、日本語指導教室である。教育研究所にて年間7期にわたり、小学校1年生から中学校3年生の初来日の児童生徒を対象に、日本語の初期指導を行っている。 2つ目は、日本語指導支援員サポート派遣である。小学校15校、中学校10校、合計25校に

質 疑	応 答
(菅野 静華 委員) 日本語が話せず、支援が必要な児童生徒はどのくらいいるのか。 (菅野 静華 委員) 不登校児童生徒支援事業について、実施内容を詳しく教えて欲しい。	日本語指導支援員を4人派遣し、日本語指導が必要な児童生徒のサポートを行っている。 3つ目として、外国人児童生徒支援員を4人、市内5校に配置し、学習や学校生活適応の補助が必要な児童生徒のサポートを行っている。 (指導課長) 日本語指導が必要な児童生徒数は、令和5年5月1日現在で、小学校1,079人、中学校232人である。 (指導課長) 1つ目は、不登校の児童生徒を対象とした適応指導教室である。令和5年度は小学校9人、中学校16人が通室している。うち、令和5年度に新設した朝日教室への通室人数は小学校4人、中学校8人である。 2つ目は、保護者とともに不登校を考える会の開催である。令和5年度は3回開催し、1回目は31人、2回目は39人、3回目は75人、合計145人が参加した。 3つ目は、訪問相談員による訪問相談の実施である。相談員は4人配置しており、令和5年12月末現在で157回、小学校2人、中学校8人に対して訪問相談を実施している。

質 疑	応 答
(菅野 静華 委員) 教科書改訂に伴い、教師用教科書、指導書等を購入するとの説明があったが、教科書はどれくらいの頻度で、誰が、どのような基準において採択しているのか。 (稲川 和成 委員) 予算概要の不登校児童生徒支援事業について、「学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の設置に向けた検討を行う」とあるが、具体的にどのような検討を行うのか。	4つ目は、ほっとルーム支援員の配置である。 校内教育支援センター「ほっとルーム」を拠点として不登校児童生徒の支援を行うため、令和6年度から新規で7人を配置予定である。 5つ目は、学びの多様化学校の設置準備である。主に、京都府、宮城県などの先進都市視察のための旅費を予算計上している。 (指導課長) 原則として4年に1度、教育委員会が行っている。 (学校教育部長) 教科書採択の基準については、県が定めているものがあるが、本市においては、調査員による調査結果と各学校による調査結果を踏まえ、教育委員会が採択を行っている。 (指導課長) 現時点では、不登校児童生徒支援協議会を立ち上げ、大学教授やNPO法人、フリースクールの代表者などを招いて、学びの多様化学校を本市に設置した場合に必要な教育課程・カリキュラムについて検討を行っているところである。

質 疑	応 答
(稲川 和成 委員) 教育研究所費の目の説明、日本語指導支援員活用事業について、本市では日本語指導が必要な児童生徒が小学校で1, 079人、中学校で232人いるとのことであった。それに対し、2, 366万2, 000円という予算額はあまりに少額で、足りていないのではないのではないかと思うが、指導課としてどう考えているか。 (稲川 和成 委員) 本市は外国人住民の数が全国でもトップレベルである。多文化共生を進めるのであれば、小学校の頃から日本語をしっかりと学んでもらうことが重要であり、日本語指導担当教員の配置などについては国の基準もあるかと思うが、川口独自の基準を設けることも必要なのではないか。 少ない予算の中で一生懸命やっていることはわかるが、気持ちの面だけでなく、予算配分についても策を考えるべきであり、今後は提案的な質問もしていきたい。その際は満額回答が得られるよう要望する。(要望)	(指導課長) 本市の実状を考えると、今後、より一層の予算の拡充を図らなければ、きめ細やかな対応は難しいものと考えている。

質 疑	応 答
< 討 論 > (板橋 博美 委員) 学力向上支援事業にかかわり、小学校低学年基礎学力定着度調査や、国・県の学力・学習状況調査は、子どもたちを競争にさらしており、学力の向上につながっていない。 本来、学力テストではなく、少人数学級や教員の自主的な授業により児童生徒一人ひとりへの支援を手厚くし、学力の底上げを進めるべきである。 (松本 英利 委員) 学力向上支援事業における小学校低学年基礎学力定着度調査などの学力調査は、学力の定着度を把握することにより、市の行った教育の効果を測るものである。学習における児童生徒のつまずきや課題を早い時期に把握することにより、高学年以降における学力向上や、本市におけるよりよい教育につながるものと言えるので、今後も推進して欲しい。 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業における新入学用品費の支給単価について、本市の支給額は国の要保護児童生徒援助費補助金の予算単価、国の基準を下回っており、差が年々広がっていたと聞いている。小中学校入学時におけるま	

質 疑	応 答
とまった出費は、昨今の長引く物価高騰も相まって、各家庭にとって大きな負担になっているとの声が市民から寄せられていたところ、支給単価の見直しを行い、適正な水準となったことは、重要なことであるとする。 (牛嶋 宏一 委員) 学力向上支援事業にかかわり、小学校低学年基礎学力定着度調査は、国語・算数のつまずきに早期に対応しているとのことから、必要な調査であるとする。また、川口国語チャレンジ、社会科プレゼンコンテスト、理科オリンピックについても、児童生徒一人ひとりの思考力、判断力、表現力の育成に寄与し、学力向上を図る観点から必要とする。 < 採 決 > 起立者多数にて可決。	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

学校教育部 学校保健課

質 疑	応 答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業	
< 質 疑 > (松本 英利 委員) 給食業務委託料について、学校給食調理を委託に切り替えた場合のメリットは何か。	(学校保健課長) 1食あたりのコストで比較すると、経費削減に効果があると考えます。

質 疑	応 答
(板橋 博美 委員) 賄材料費について、学校給食費の改定により増額とのことだが、改定による増加額について詳細な説明をお願いしたい。	(学校保健課長) 小学校分は1食単価273円から302円へ29円の増額、中学校分は1食あたり324円から357円へ33円の増額である。
(板橋 博美 委員) 令和6年度学校給食費の保護者負担増加額について、1食あたり及び年間の増加額はそれぞれどのようになるのか。	(学校保健課長) 小学生は1食あたり35円、年間で約6,300円の増加、中学生は1食あたり45円、年間で約8,100円の増加となる。
(板橋 博美 委員) 給食業務委託料に関わって、令和6年度の自校調理校のうち直営校と委託校それぞれの数と、直営校の調理員数について、また、委託費が約5,000万円増加した理由について教えて欲しい。	(学校保健課長) 小学校は自校調理校26校中、直営が10校、委託が16校であり、中学校は自校調理校の3校すべてが委託である。直営校10校の調理員数は予算上46人である。委託費増加の内容としては、給食調理委託について、直営校から委託校に1校移行するための予算額が約2,200万円、そのほか給食配膳委託や栄養業務委託、米飯食器洗浄委託に係る人件費や物価高騰に伴い全体的に委託料が増加したものである。
(碓 康雄 委員) 学校給食費の改定にあたっては消費者物価指数を把握する必要があると思うが、近年の消費者物価指数の推移を教えて欲しい。	(学校保健課長) 令和4年8月時点の消費者物価指数を1とすると、令和5年8月は1.082であり、それを一つの指標として令和6年度給食費の価格を決

質 疑	応 答
(碓 康雄 委員) 令和5年の給食費改定分を、令和6年10月から保護者に負担を転嫁せずに市の負担とした場合、市の負担額はどのくらい増えるのか。	定した。直近の数字では、令和4年8月を1とすると、令和6年1月は1.096である。令和5年8月に対し、若干伸びているところである。
(碓 康雄 委員) 令和5年8月を1とした場合の、令和6年1月の消費者物価指数はどれくらいか。	(学校保健課長) 令和6年10月から令和7年3月までについても保護者に負担を転嫁しない場合は、市の公費負担の追加が約1億6,000万円と想定している。
(碓 康雄 委員) 令和5年8月を1とした場合、令和6年1月は1.013である。	(学校保健課長) 令和5年8月を1とした場合、令和6年1月は1.013である。
< 討 論 > (板橋 博美 委員) 学校給食費の保護者負担については、本年4月から9月までは保護者負担を軽減することが明らかにされたものの、10月からの保護者負担の引き上げが前提となっていること、また、自校給食調理の民間委託については、食育を実践してきた直営調理員が技術や知識を継承して、継続的に安心・安全で豊かな給食を提供する役割を担えなくなることから反対する。	

質 疑	応 答
(松本 英利 委員) 自治体単独で無償化を実施しているところがあることも承知しているが、本市で無償化を実施する場合概算で24億円の財源が必要となる。市が単独でこのような多額の費用を捻出し続けることは市にとって大きな負担にもなることから、我々からも地方の声として国や県に対して意見を伝えていきたいと考えている。 また、給食調理の委託に関しては、民間企業のノウハウが活かされるとともにコストの削減が期待でき、財政の適正化に繋がると考えられることから賛成する。 (碓 康雄 委員) 学校給食費を公費負担していることは、保護者負担の軽減が理由であり、改定分の一部を保護者負担とすることは、高止まりとなっている現在の消費者物価指数から考えても理由が認められないため反対する。 (牛嶋 宏一 委員) 学校給食費の保護者負担については、急激な保護者負担の増加は免れたものと評価できること、また、給食業務の委託については、コスト削減の面から評価できることから賛成する。	

質 疑	応 答
< 採 決 > 起立者多数にて可決。	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和6年 3月市議会定例会)

学校教育部 川口市立高等学校

質 疑	応 答
議案第18号 令和6年度川口市一般会計予算 第1条第1表 歳入歳出予算の内 △ 歳出の部 第10款 教育費 △ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第3目 第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目 第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目 第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目 第23款 市債 第1項 市債 第8目 第2条第2表 継続費の内 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 第3条第3表 債務負担行為の内 放課後児童クラブ業務（令和7年度分） 奨学資金利子補給金（令和6年度融資分） 奨学資金融資損失補償（令和6年度融資分） 小学校改築事業建設工事費 公民館施設改修事業改修工事費 根岸公民館改築工事に伴う家屋調査業務 新学校給食センター整備に伴う基本設計及び実施設計業務 第4条第4表 地方債の内 学校施設等整備事業 幼稚園施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業	
< 質 疑 > (牛嶋 宏一 委員) 高等学校総務費の備品購入費以外で図書購入費の予算はあるのか。	(川口市立高等学校事務長) 需用費の消耗品費でも計上している。

質 疑	応 答
(牛嶋 宏一 委員) 消耗品費の中の図書購入予算額を教えてください。	(川口市立高等学校事務長) 図書購入費１５０万円、図書館用新聞代２２万円を計上している。
(牛嶋 宏一 委員) 購入図書の選定は誰がしているのか。	(川口市立高等学校事務長) 高校には学校図書館司書が配置されており、購入図書の選定は全て司書が行っている。
(牛嶋 宏一 委員) 令和４年度図書購入予算の執行率を教えてください。	(川口市立高等学校事務長) ほぼ１００％の執行率である。
< 討 論 > なし。	
< 採 決 > 起立者多数にて可決。	

教育長報告（３）

教育財産（建物）の解体について

１ 解体施設の概要

施設名称	領家公民館
所在地（建物の表示）	川口市領家３－１ ３－１ ５

２ 解体工事完了年月日

令和６年３月２６日

教育長報告（４）

川口市公民館運営審議会委員の解嘱について

公民館名	氏 名	委嘱年月日	条例第３条該当名	解嘱年月日
神根公民館	鈴木 恵子	令和４年７月１日	家庭教育の向上に資する活動を行う者	令和６年３月１０日

教育長報告（５）

川口市スポーツ推進委員の解嘱について

地区名	氏 名	委嘱年月日	解嘱年月日
鳩ヶ谷公民館地区	鈴木 将人	平成 27 年 4 月 1 日	令和 6 年 3 月 31 日
鳩ヶ谷公民館地区	成瀬 大輝	令和 3 年 4 月 1 日	令和 6 年 3 月 31 日
戸塚公民館地区	堀口 治	平成 27 年 4 月 1 日	令和 6 年 3 月 31 日

教育長報告（6）

川口市スポーツ推進審議会委員の解嘱について

氏 名	役職及び経歴	委嘱年月日	解嘱年月日
松田 隆幸	川口市学校体育協会会長 (岸川中学校校長)	令和5年7月23日	令和6年3月31日

教育長報告（８）

令和６年度特色ある学校づくり推進校のテーマ及び学校支援員について

１ 趣旨

子どもたちに「確かな学力」、「豊かな心」、「健康や体力」の向上を図るために、川口市教育改革プログラムに基づき、学校教育活動の活性化を進める特色ある学校づくり推進校（地域や学校の特徴を活かして、学校が独自のテーマを設定する）に対し、教育委員会がアシスタント・ティーチャー（学校支援員）を配置し、教育改革の推進に資する。

２ 採用予定人数

幼稚園	４名	（再任	３名	新任	１名）	
小学校	５２名	（再任	５１名	新任	１名）	
中学校	２３名	（再任	１６名	新任	４名	不足 ３名）※２校兼務者 ６名

３ 配置予定

全園・全校に１名ずつ配置

※幼稚園は２名配置

※配慮を要する生徒が多いため、芝西中陽春分校は２名配置

４ 勤務条件

幼・小：原則週４日 １日あたり４時間 年間１４０日以内

中：原則週２日 １日あたり４時間 年間 ７０日以内

５ 業務内容

（１）小・中学校及び幼稚園における各教科等の指導の補助

（２）その他、学校教育（保育）活動全般にわたる支援 等

６ テーマ及び採用者

別紙のとおり

７ 任期

令和６年４月１５日から令和７年３月３１日まで

（幼稚園は、令和６年４月８日から）

令和6年度 特色ある学校づくり推進校のテーマ及び学校支援員

学校名	テーマ	採用者
本町小	ことばを大切に こころを形に いのち輝く本町小学校～音楽科の授業を通して～	石鍋 園美
幸町小	体・徳・知の調和がとれ、家庭・地域と一体となって児童を育む幸町小学校	程吉 一彦
仲町小	「一人一人の学ぶ力を高める日本語指導の充実」 ○自ら進んで日本語でコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ○異なる文化を乗り越えて相互に理解しようとする児童の育成 ○生活言語能力、学習言語能力を身に付ける児童の育成	張 栩平
上青木小	学習規律を徹底し、きめ細かな学習指導により算数科の基礎・基本の習熟を図る。	澤野 登模美
元郷小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	中松 典子
飯塚小	日本語補充指導を必要とする外国籍児童の算数・国語を中心とした学力向上	長倉 恭子
芝小	できる・わかる・伸びる喜びが味わえる授業づくり ・課題解決に向け、自ら考え自分にあった学習を選択できる児童の育成 ・伝えあえる児童の育成	石井 直子
新郷小	・一人一人のよさを伸ばす学級経営を目指す「一人一人に居場所のある学級づくり」 ・学級が安定すれば学力向上につながる。 ・児童が安心できる居場所をつくることで不登校支援や不登校未然防止につなげる。	遠藤 寛子
神根小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	松田 裕之
青木北小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	石田 尚美
領家小	・自ら学びを発動させ、共に学び合う児童の育成 ・算数科の基礎学力向上～めあてへの到達度を高める学習指導の充実～	島根 綾香
舟戸小	舟戸小の環境を生かし、児童が他者とのかかわりを大切にしながら主体的に学び合う理科教育を目指して	木村 友昭
十二月田小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	野原 美季穂
飯仲小	話し合いや活動を通して自己肯定感を高め、学校生活を自らよりよく創造できる児童の育成	木村 紗苗
並木小	「知・徳・体の調和のとれた心豊かなたくましい児童の育成」 ～主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～	奈良 美帆
安行小	課題を見つけ、気づき、広げることができる児童の育成	菊次 哲也
原町小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	橋本 京子
前川小	考え、学び合い、創造し、学びを深める児童の育成 ～教科横断的な学びを生かした、各教科での学力向上のための基礎的基本的な学習の徹底～	木下 佳世子
戸塚小	主体的に学び、共に高めあう児童の育成	清水 由紀
青木中央小	自ら考え進んで行動する児童の育成～Well-beingをめざす非認知能力の育成を通して～	池田 聡子
元郷南小	一人一人の感性を育む音楽科教育の推進	藤田 広美
芝西小	・運動に親しみ、運動の楽しさを味わい続ける児童の育成 ～児童が運動の特性を味わい、進んで運動に取り組む体育授業の実践～ ・一人一人の児童の居場所づくり	安富 奈津子
芝南小	児童の多様なニーズに対応し、基礎基本の定着を図り、学ぶ意欲を育む学校	中村 豊彦
神根東小	・自分の考えをもち聴き合いながら学ぶ児童を育成 ・国語・算数における低位層の学力向上 ・体力向上	氏原 五百子
朝日東小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	武本 慶子
芝富士小	「学びに夢中になれる授業の実現」	佐々木 幸枝

前川東小	豊かな心を育み、自他の良さを認め互いに高め合える学校づくりの推進	木下 今日子
柳崎小	いきいき学び合う子の育成～個別最適な学びと協働的な学びの視点から～	堀田 綾子
芝樋ノ爪小	確かな学力を育成する「主体的・対話的で深い学び」の実現と創造	富澤 香奈恵
新郷南小	自律的に自己の能力開発に取り組む児童の育成 ～100%の努力ができる児童の育成～	大井 洋子
上青木南小	ユニバーサルデザインを基盤にした教育の充実 ～すべての児童の学力向上と学ぶ意欲の向上に向けて～	梅野 公孝
根岸小	児童の学び合いを深める授業の探究 ～学びの共同体の実践～	阿部 真紀子
芝中央小	・ 補足的な学習を取り入れた学力の定着（特に算数） ・ 特別な支援を必要とする児童個々に応じた指導の充実	矢島 希美
新郷東小	自ら考え進んで行動する子の育成	斉藤 恵美子
朝日西小	共に学び合い、生き生きと主体的に学習する児童の育成 ～楽しく基礎基本を身に付け、「できる!」「わかる!」をもとに自分で考える算数を目指す～	山平 久美子
慈林小	・ 主体的・対話的で深い学びの推進及び「令和の日本型学校教育」の実現 ・ 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	宮園 良江
差間小	自ら学ぶ児童の育成～自分の力を高めるために、自分で学習を考える児童～	右近 純子
東本郷小	粘り強く学習に取り組み、確かな学力を身に付け、生き生きと学ぶ子の育成	岡本 久美子
東領家小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	小林 朝江
安行東小	自尊感情を育む学級経営の工夫	東理 友味
在家小	共に学び合い、確かな学力を身に付ける児童の育成	吉澤 美恵子
戸塚東小	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫改善 ～GIGAスクール端末の効果的な活用による授業づくり～	佐藤 美樹
戸塚北小	自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる児童の育成	小林 佑衣
木曽呂小	主体的・対話的で深い学びの創造～児童も教師も家庭・地域も共に学び成長する学校～	平岡 美砂子
戸塚綾瀬小	・ 「確かな学力」のための国語科における基礎基本の定着 ・ 一人一人のよさを伸ばす国語科指導の充実 ・ ～自ら表現力を高めることができる児童の育成～	佐藤 翠
戸塚南小	夢を持ち、いきいきとすくすく伸びる心豊かな児童の育成～ゆめ いき スクール～ 「確かな学力のための算数科における基礎基本の定着」	小田島 典子
鳩ヶ谷小	算数科・国語科を中心とした児童の基礎学力定着を目指して	古澤 悠里
中居小	一人一人が生き生きと学びに向かう児童の育成 ～児童一人一人を確実に伸ばす学習指導の充実～	山内 素子
辻小	豊かな心と確かな学力をもつ児童の育成 友達と関わり合いながら、進んで学習に取り組む児童の育成	長島 朋世
里小	徳「豊かな人間性」、知「確かな学力」、体「健康・体力」の調和がとれた 「生きる力」「生き抜く力」のあるたくましい児童の育成	松本 明日香
桜町小	地域で育ち、学びを楽しむ児童生徒の育成 ～小中学校9年間のゴールを見据えた鳩ヶ谷中学校区の取組～	金子 夕子
南鳩ヶ谷小	・ あいさつ 笑顔 意欲 あふれる南っ子 の育成 ・ 自分の思いや願いを豊かに表現し、つくりだす喜びを感じられる児童の育成 ・ 「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	石川 裕理
東中	「確かな学力」のための数学科における基礎基本の定着への取り出し指導	樋口 一①
西中	地域に根差した国際理解教育の推進（言語活動を通した多文化共生の推進）	小峰 順子①

南中	数学科における、誰一人取り残さない、 一人一人の学力を確実に身につけさせる基礎基本の定着	樋口 一②
北中	「探求と協同の学びの創造」～健やかな心身の発達を目指した健康教育の推進～	近藤 卓子
青木中	基礎的・基本的な学力定着を通した積極的な生徒指導の充実	小林 歩美
芝中	個別最適な学びを実現するための学習支援の充実	山内 澄子
元郷中	授業改善で生徒の学力向上「待つ姿勢と諦めない指導」 「数学」を中心に添え、教科横断的な観点から、他教科との学びの深め合い。	恩田 政活①
上青木中	「確かな学力」のための数学科における基礎基本の定着	山際 元子
幸並中	日本語を母語としない生徒の学びを支える日本語指導の充実	菊池 玲子①
十二月田中	誰もがわかる・できる授業 生徒の目線で教え、考える授業の実践 ～「確かな学力」に繋げる基礎基本の定着～	竹内 さおり
仲町中	日本語指導・日本語支援の充実～多文化共生を実現する学校づくり～	菊池 玲子②
安行中	主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の充実	
芝東中	学力向上と不登校生徒の解消を目指して	竹之下 保雄
芝西中	・ICTを活用した「楽しい、わかる、もっと知りたい」授業 ・生徒を取り残さない指導の工夫	山本 由紀
芝西中 陽春分校	学びなおし、外国籍の生徒への学習支援と日本語指導の充実	伊藤 淳子 山野 安英
岸川中	数学科における協働的な学びと多様な生徒への個別最適な指導の充実	今堀 健次①
榛松中	主体的・対話的に学びあう生徒の育成 ～「気づく」「考える」「深める」学習活動の展開を通して～	恩田 政活②
小谷場中	生徒一人一人の主体性を伸ばす教育の実践～アクティブ・ラーニングを基礎として～	原田 淳
神根中	「確かな学力」の育成のための数学科における基礎基本の定着～個別指導による学力の向上～	瀬尾 ミチ①
領家中	一人一人の学びの機会を保障する日本語指導の充実	
戸塚中	・個に応じた学習の充実とほっとルームにおける学習支援 ・「確かな学力」のための数学科における基礎基本の定着	瀬尾 ミチ②
在家中	生徒一人一人に寄り添った学力向上のための支援	高橋 利夫
安行東中	新しい学力観にたった英語指導の充実（多様な学びへの支援の充実）	山下 いづみ
戸塚西中	・誰一人取り残さないための学習環境の整備。多様性に対応できる環境づくりを目指して ・日本語指導の充実。 ・特性をもった生徒への支援。	伊藤 亜美
鳩ヶ谷中	多様な生徒に多様な学びの場を提供するとともに、基礎学力の確かな定着を図る。	小峰 順子②
八幡木中	個別最適な学びの実践～誰一人取り残さない学びの構築～	伊藤 久男
里中	通常学級における特別な配慮を要する生徒への支援の拡大と充実	
高等学校附属中	よき学習者を育む授業づくりの推進～生徒自らが深い学びを創る思考力・表現力の向上～	今堀 健次②
舟戸幼稚園	学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進 ～多様な他者とのかかわりの中で主体的に学ぶ子供の育成～	武藤 麻莉 西川 充恵
南平幼稚園	幼稚園教育に関する研究 友達と過ごす楽しさを味わい、友達との関わりを深める（協同性）	平出 美香 窪田 裕子

教育長報告（９）

学級編制の特例に係る取扱いについて

１ 基準外配当を受けて、特例の学級編制を行う学校（中学校１校）

中学校第１学年【３８名編制】

N o	学校番号	学校名	生徒数	実編制学級数	標準学級数
１	中２７	川口市立高等学校 附属中学校	８０	３	２

２ 基準外配当を受けて、標準の学級編制を行う（特例の学級編制を行わない）学校 （中学校４校）

（１）東中学校

- ア 該当学年 第１学年
- イ 生徒数 ２３２名
- ウ 学級数 ７学級編制をせず、標準編制による６学級編制とする。
- エ 理由 加配された教員を活用して、少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図るため。

（２）南中学校

- ア 該当学年 第１学年
- イ 生徒数 １９４名
- ウ 学級数 ６学級編制をせず、標準編制による５学級編制とする。
- エ 理由 加配された教員を活用して、少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図るため。

（３）安行中学校

- ア 該当学年 第１学年
- イ 生徒数 ２３５名
- ウ 学級数 ７学級編制をせず、標準編制による６学級編制とする。
- エ 理由 加配された教員を活用して、少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図るため。

（４）戸塚西中学校

- ア 該当学年 第１学年
- イ 生徒数 ２７１名
- ウ 学級数 ８学級編制をせず、標準編制による７学級編制とする。
- エ 理由 加配された教員を活用して、少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図るため。

3 指導方法の工夫改善に伴う加配教員を活用し、特例の学級編制を行う学校
(小学校2校)

小学校第6学年【35名編制】

N o	学校番号	学校名	児童数	実編制学級数	標準学級数
1	小9	神根小学校	37	2	1
2	小13	十二月田小学校	144	5	4

令和5年度

学校自己評価のまとめについて

令和5年度学校評価のまとめ(達成度)

【小学校】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	38	51	2	0	91
教育課程	28	65	0	0	93
開かれた学校づくり	40	43	0	0	83
教職員の資質向上	34	64	1	0	99
施設・設備等の管理	52	34	1	0	87

【小学校】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	41.8	56	2.2	0	100
教育課程	30.1	69.9	0	0	100
開かれた学校づくり	48.2	51.8	0	0	100
教職員の資質向上	34.3	64.7	1	0	100
施設・設備等の管理	59.8	39.1	1.1	0	100

基準

A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	変化の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

【中学校】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	23	35	5	0	63
教育課程	18	35	5	0	58
開かれた学校づくり	24	32	2	0	58
教職員の資質向上	26	33	0	0	59
施設・設備等の管理	31	20	2	0	53

【中学校】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	36.5	55.6	7.9	0	100
教育課程	31	60.4	8.6	0	100
開かれた学校づくり	41.4	55.2	3.4	0	100
教職員の資質向上	44.1	55.9	0	0	100
施設・設備等の管理	58.5	37.7	3.8	0	100

【高等学校】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	2	1	0	0	3
教育課程	0	3	0	0	3
開かれた学校づくり	3	1	0	0	4
教職員の資質向上	2	2	0	0	4
施設・設備等の管理	2	2	0	0	4

【高等学校】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	66.7	33.3	0	0	100
教育課程	0	100	0	0	100
開かれた学校づくり	75	25	0	0	100
教職員の資質向上	50	50	0	0	100
施設・設備等の管理	50	50	0	0	100

【幼稚園】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	1	3	0	0	4
教育課程	1	3	0	0	4
開かれた学校づくり	4	1	0	0	5
教職員の資質向上	4	2	0	0	6
施設・設備等の管理	5	0	0	0	5

【幼稚園】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	25	75	0	0	100
教育課程	25	75	0	0	100
開かれた学校づくり	80	20	0	0	100
教職員の資質向上	66.7	33.3	0	0	100
施設・設備等の管理	100	0	0	0	100

【幼稚園・小学校・中学校・高等学校】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	63	90	7	0	160
教育課程	47	105	5	0	157
開かれた学校づくり	70	77	2	0	149
教職員の資質向上	66	100	1	0	167
施設・設備等の管理	90	56	3	0	149

【幼稚園・小学校・中学校・高等学校】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	39.4	56.3	4.4	0	100.1
教育課程	29.9	66.9	3.2	0	100
開かれた学校づくり	47	51.4	1.3	0	99.7
教職員の資質向上	39.5	59.9	0.6	0	100
施設・設備等の管理	60.4	37.6	2	0	100

※参考(令和4年度)

	A	B	C	D	計
組織運営	44.3	55.7	0	0	100
教育課程	38.6	56.6	4.8	0	100
開かれた学校づくり	56	43.2	0.8	0	100
教職員の資質向上	38.2	61.8	0	0	100
施設・設備等の管理	63.7	34.8	1.5	0	100

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
本町小	組織運営	○ポストコロナの多様化する諸課題を解決するために、教職員一人一人が輝く、持続可能な学校組織づくりをする。	○教職員の得意分野を生かしながら、教職員一人一人がアイデアを出せるようになった。 ○活動・目的を明確化したことによって、細かい見通しをもてるようになった。 ○日々の教材研究や研修を通して、効率的な活用を共有し、一人一人のICT活用能力が高まった。	B	・教職員一人一人がアイデアを出せるようになったことは評価できる。さらなるボトムアップに努めていただきたい。 ・教科担任制は、多くの教員と関わりがもてるだけでなく、教員の専門性の向上と授業の効率化につながるので継続していただきたい。	
		□教育相談の充実を図り、「不登校支援率100%」「いじめ未解消ゼロ」を継続する。	□教科担任制を実施したことにより、一人の児童に対し、多くの教員が関わることで、児童の変化に気付くことができた。	B		・「不登校支援率100%」「いじめ未解消ゼロ」を今後も継続してほしい。
	教育課程	○ポストコロナの生活様式を踏まえた「令和の日本型教育」に取り組む。	○教育効果を考えながら、活動方法を検討し、実践することができた。 ○全学年でICT活用力は市内で上位である。 ○児童の学習状況を把握し、様々な考えが共存できる環境づくりができた。	B	・タブレット端末を活用することで、一人の児童も取り残さないようお願いしたい。 ・ICTを活用するために教職員へ負担がかからないようお願いしたい。 ・休み時間に校庭でたくさんの児童が遊んでいるのがとてもよかった。	
	開かれた学校づくり	○開校150周年事業をとおして、多様な人材の効果的な連携を回復し「信頼される学校」「地域とともにある学校」をつくる。	○開校150周年事業実行委員会では、式典等に向けて、協働的に運営することができた。 ○理解を得ながらポストコロナの教育活動が実施できた。 ○双方向コミュニケーションの充実が図れた。	A	・開校150周年への取組は非常に素晴らしかった。 ・ボランティアの活用も保護者だけでなく、地域の方々にも声をかけてみてはどうか。 ・学校ホームページを見るように心がけたい。	
教職員の資質向上		○「授業で勝負」を合言葉に、経験年数に応じた挑戦的・実践的・主体的な研修を行う。	○授業改善の視点を共通理解しながら、授業に臨むことができた。 ○一人一授業の取組により、授業改善が図れた。 ○他校の研究や取組を見る機会が増えた。	B	・特になし	
		□教育公務員としての使命感と情熱をもち、教職員の不祥事0件を継続する。	□倫理確立委員会を計画的に開き、教職員全体で教育公務員としての自覚を高めることができ、不祥事0件を達成することができた。	A		・教員の不祥事防止に今後も努力していただきたい。
		◇子供たちに寄り添うための働き方改革を行う。	◇学期始めや学期末に学年学級事務等に充てる時間を増やすことができたことにより、児童一人一人の実態を把握し、思いや願いに寄り添うことができた。	B		・超過勤務の軽減に今後も努力していただきたい。 ・先生方の負担が少なくなり、余裕ができるのはよいことだと思うが、業務がすべて終わるのか心配である。
施設・設備等の管理		○危機管理を自分事化し、施設・諸表簿・金銭の事故ゼロの学校にする。	○文書収受を複数でチェックしたことで、適切な管理・対応ができた。 ○危機管理マニュアルを共有し、安全第一の授業や学校生活が展開されている。 ○集金回数を減らすことで負担軽減を図った。	A	・安全対策も良く対応されていると思う。 ・学校で現金を扱うことの煩雑さやトラブル防止のために、集金システム等を検討してはどうか。 ・防災訓練をしてほしい。	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
幸町小	組織運営	○若手教員を着実に伸ばすとともに、各校務分掌を通してリーダーシップを発揮させながら中堅教員を育成することで、全教職員が同じ方向を向き、全教職員が一枚岩となる「チーム幸町」をつくる。	○改善点を踏まえて管理職より関係する校務分掌主任に基本的な方針を示し、次年度の学校行事の計画を立案させた。 ○管理職の考えを主幹教諭を通して積極的に教職員に伝え、共通理解、共通行動を徹底できた。	B	・特になし ・ ・
	教育課程	○日々の授業実践や朝の活動、家庭学習等を充実させることを通して、着実に学力を身に付けさせ、より一層の学力向上を達成する。	○全教職員で各学力調査等の結果・分析を行い、具体的な手立てを講じた。 ○一定数の学力低位層児童がいる状況であるが、全体的に学力が高い。	B	・特になし
	開かれた学校づくり	○学習支援・環境整備・安全・安心の見守りにおいて学校応援団の活動を充実させ、地域の教育力を積極的に導入することで、より一層充実した教育活動を実現する。	○学習支援における学校応援団を積極的に導入することができた。 ○各学年でブログを更新し、教育活動を積極的に情報発信することができた。 ○図書ボランティア等との連携により、学校図書館の環境が更に整備された。	B	・地域として子供たちに地域の行事等に積極的に参加してほしい。また、教職員も参加してほしい。 ・ ・
	教職員の資質向上	○日常的なコミュニケーションを密にして風通しの良い職場づくりを実現させ、倫理確立に係る研修を充実させることを通して事故を起こさない、起こさせない学校をつくり、学校事故0を達成する。 □各学力調査結果を踏まえ、見通しと振り返りのある授業実践や朝の活動等において計画的・継続的な取組を充実させる。 ◇「凡事徹底」を軸に共通理解・共通行動を徹底するとともに、児童・保護者との信頼関係を構築し、教職員が積極的に児童に寄り添い、お互いのよさを認め合う学級づくりを実現させる。	○教頭中心に短時間の倫理確立研修を実施し、更に当事者意識を高めていった。 ○管理職と教職員、教職員同士のコミュニケーションの充実を図り、風通しの良い職場づくりを実現させることができた。 ○学校事故0を達成することができた。 □各学力調査等の分析、課題の共有をすることができた。 □管理職による教室訪問を実施し、必要に応じてフィードバックを行った。 ◇自然な朝の挨拶ができるようになった◇全体的に落ち着いており、子供たち一人一人が安心して学校生活を送っていた ◇各学級担任が、児童のよさについて保護者への積極的に情報発信していた。	A B B	・特になし ・特になし ・子供たちが自然と朝のあいさつができるようになってきた。
	施設・設備等の管理	○常に安心・安全な生活環境をつくるとともに、学びにつながる教室掲示及び校舎内掲示を充実させ、豊かな学習環境をつくる。	○図工作品の掲示板の設置や2階教室の床修繕等、校舎内の環境が整備された。 ○毎月の安全点検を着実に実施し、安心・安全な生活環境をつくることができた。	B	・特になし

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
仲町小	組織運営	○ポストコロナの教育活動について、目的に向かう効果的な手段について吟味し、目指す学校像の具現化に向けてチームとして最大限の成果をあげる組織運営を行う。 □各主任のリーダーシップのもと、P D C Aサイクルにより、効果的な教育活動の実現を目指す組織とする。	○職員数の不足により多忙を極める中、教職員のキャリア段階に応じ、目的に向かうための手段を考え、学校運営に積極的に取り組む教職員の姿が見られた。 □目的の実現に向けた教育活動の充実に向けて、各主任が意識を高めながらリーダーシップを発揮するとともに組織で協力し合い、学校運営を進めることができた。	B B	・教職員の欠員が生じている中、工夫しながら学校運営に取り組んでいただいている。新年度は、教職員の欠員が生じないようにしてほしい。欠員が生じた際は、教育委員会に働きかけていきたい。 ・知人で日本語指導などに協力したい方はいるが、ボランティアでは協力を得にくい。教育委員会に情報提供し、正式な任用につなげられればと思う。
		教育課程	○児童一人一人に分かる喜びを味わわせることができるよう、教育課程の見直し及び授業の質的改善に取り組み、資質・能力の育成により学力の向上を図る。 □ I C Tを積極的に活用し、児童が学ぶ楽しさを味わえる授業を実践するとともに一人一人の学力の伸びに繋げる。	○校内研修の工夫を図ったことにより、教師一人一人が資質・能力の育成に向けて課題をもち、日々の授業や学校行事等の教育活動に取り組むことができた。 □ I C Tの効果的な活用について、その実践を互いに学び合う研修を工夫したことで、昨年度以上に効果的な活用を進めることができた。	A B
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動を積極的に公開するとともに、保護者・地域との連携により学校の教育力を向上され、地域に愛され育つ学校を目指す。 □仲町小学校の歴史を振り返り、本校と地域の伝統や歴史、文化を子供たちが学び、愛校心をはぐくみ、今後のさらなる成長や学校の発展を願う機会とする。	○行事や授業の学校公開や各種便り、連絡アプリ（コドモン）の活用等により、情報発信に努めた。学校ＨＰについては、個人情報の懸念や業務の多忙化により、活用に課題が残った。 □実行委員会の全面協力、P T Aとの連携、教育活動の工夫等により、児童や保護者、地域で愛校心を高め、地域としての学校を引き継ぐ記念事業の実施となった。	B B	・特になし ・特になし ・学校行事等でアンケートを活用し、保護者・地域の声を学校運営に生かしたい。
		教職員の資質向上	○児童一人一人との信頼関係を構築し、安心して通える学校づくりに組織的に取り組む教職員の育成を推進する。 □授業力の向上に向けて、主体的・組織的に取り組む教職員の育成を図る。	○多様な児童一人一人について教職員が共通理解を図り、関係機関と連携を行いつつ、よりよい指導・支援に繋げるよう努めた。 □児童の資質・能力の育成に向けた校内研修を工夫したことで、教職員一人一人が課題をもつとともに、互いに学び合いながら資質を向上させた。	B A
	施設・設備等の管理	○緑化・環境美化・環境整備を進め、潤いのある学校を実現させる。 □安全に教育活動を実施することを第一に、施設・設備を定期的・日常的に点検し、管理する。	○日常的な清掃活動、授業や委員会活動に伴う緑化活動、P T Aによる環境整備活動等により、潤いのある教育環境となっている。 □校舎の老朽化が進む中ではあるが、教職員や保護者による定期的・臨時的な安全点検により、施設・設備の事故を防ぐことができている。	B A	・特になし ・改築工事に際し、児童の安全面の確保等に向けて、手伝えることがあれば、P T Aとしても協力をしていきたい。 ・

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標		年 度 評 価		
		重点目標		重点目標の達成状況		達成度
上青木小	組織運営	○校長の学校経営方針に基づきながら、教職員の学校経営参画を高める組織的、機動的な組織運営を構築させる。【教職員学校評価9割以上】 □不登校児童を解消する。【新規不登校児童ゼロ】		○月ごとの学校経営計画をすべての月で配布・周知することはできた。（教職員充実度93.0%） ○人事評価に係る面談で校長の学校経営方針に沿った各教職員の進捗状況を確認したり助言することはできた。 □新規不登校児童数6名 □「温かい、心の通う学級経営の推進」を各担任のボトムアップの下実施し、担任と児童一人一人との信頼関係を築くことはできた。	A B	・教員の未配置についてはきちんと配置してもらうように教育委員会に言ってほしい。 ・人事異動についてはできる限り長く務めさせて教員を確保しておくことができるように教育委員会に話をしてほしい。 ・教員が足りないにもかかわらず先生方は子供たちのためによくやってくれていると思う。 ・
	教育課程	○ポストコロナの時代に見合った授業時数の確保・学習内容の確実な定着を図ることを両立させる。【学校評価・保護者満足度9割以上】 □ICT（GIGAタブレット端末）を活用した学力向上を実践する。【児童の「できた」「わかった」を実感する満足度9割以上】		○新型コロナと「学びの保証」の両立について保護者満足度81.1% ○教科担任制を導入して学習の質の確保に努めた。 □児童の「できた」「わかった」を実感する満足度83.8% □タブレット端末の活用に関する研修会を10月以降に数回実施した。	B B	・学力向上にはもっと努力してほしい。 ・体力が低いことは課題と思うので体力向上にらも力を入れてほしい。 ・タブレット端末をよく使いこなしいいる先生方が多いことに感謝している。 ・
	開かれた学校づくり	○「学校」「家庭」「地域」との連携・協働を進め、「応援がいのある学校」をつくる。【保護者満足度9割以上】 □学校運営協議会を計画的に開催して、協議内容を充実させる。【学校運営協議会委員満足度9割以上】		○「応援がいのある学校」保護者満足度76.9% ○HP週1回以上の更新を行うことができた。 □新型コロナ対応を始めとした学校課題について、委員の方々から意見をいただき、学校経営に生かすことができた。	A A	・スクールガードや登下校見守り隊の方々には下校時間変更の連絡を確実にしてほしい。 ・保護者が学校にもっと協力すべきだ。 ・1年間の会議開催に感謝している。 ・
	教職員の資質向上	○全ての教員が1単位時間の授業の充実を図るため昨年度末に策定した『上青木小授業スタンダード』の周知、定着させる。【教職員学校評価8割以上】 □サービスの厳正を図り、教職員事故防止を徹底させる。【教職員事故ゼロ】 ◇教職員一人一人のよさを生かすためにも、働き方改革を推進させる。【教職員満足度9割以上】		○主要教科を中心に昨年度末に策定した『上青木小授業スタンダード』の定着に各学年主任が尽力した。 ○今年度は、主要教科以外にも『上青木小授業スタンダード』の策定を進めることができた。 □教職員事故ゼロ達成 □学校事故に関する研修会を8回（3月末現在）実施し、意識の向上を図った。 △教務改善スタンダードに上げた対応策については、2/3は実施した。 △教職員は74%の満足度（ローコスト・ハイパフォーマンスの働き方）である。	A B B	・タブレット端末をよく使いこなしいいるが、学力向上のために更なる研究と指導に検討をお願いしたい。 ・特になし ・特になし
	施設・設備等の管理	○会計事務の適正な執行・管理を実施する。【会計事故ゼロ】 □ポストコロナに対応した衛生管理を確実に実施する。【学校クラスター発生ゼロ】 ◇安心・安全を保障した教育活動を展開するための環境維持を確実に行う。【施設・設備事故ゼロ】		○会計事故ゼロ達成 ○未納家庭も昨年度より減少した。 □新型コロナ学校クラスターゼロ達成 □感染対策を十分に行ってきたが、家庭内感染は未だ主な感染ルートである。 △施設・設備事故ゼロ達成 △管理職の毎日の校内巡回と毎月の学校安全点検は実施した。	A A A	・特になし ・特になし ・老朽化がひどい。教育委員会にもっと積極的に働きかけてほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
元郷小	組織運営	○学校課題に対する共通理解・共通指導に基づく組織的対応を実現する。 □本校校訓「至誠」の具現化を実現する。	○学校の課題解決に向け、各分掌主任を中心とした組織的対応を実現することができた。引き続き、課題解決に向け取り組みでいく。 □各学年主任等のモデルリーダーを中心に「至誠」を意識した対応が見られ成果を出す場面もあったが、職員へのさらなる意識づけが必要である。	B B	・授業で分からないところが、そのままになっている児童が心配である。ぜひ学級経営の充実をさらに図ってほしい。 ・子供の実態を把握し、わがクラスの理解度を上げる指導を行ってほしい。
		教育課程	○U D（ユニバーサルデザイン）の視点に基づく授業改善を推進することで、どの児童にとってもわかりやすい授業を実現する。 □地域素材を生かした授業や行事を推進することで、児童の学習意欲を高める。	○教室訪問を実施し、教育課程の確認、見届けを実施した。児童の学習状況を把握し、授業改善につなげてきた □1 5 0周年記念式典に向け、全学年でそれにちなんだ学習を実施できた。地域の方の協力を得ながら、ともに授業づくりを行うことができた。	B A
	開かれた学校づくり	○正確で迅速な情報提供を行うことで、学校・家庭・地域の連携体制を確立する。 □学校運営協議会と連携し、1 5 0周年行事を推進・実施することで、地域に根差した学校づくりを実現する。	○校外学習をはじめとした情報伝達的手段として、保護者緊急メールを活用できた。H Pの充実には至らなかった。 □学校運営協議会を年間4回実施できた。また地域・保護者の協力のもと、1 5 0周年記念式典をはじめとした周年行事を実施することができた。	B A	・「ともに育てる」意識が必要である ・持久走は、大会として順位をつけることが必要ではないか。外周を走る形に戻せないか ・お互いの感謝を伝えられる学校と地域でありたい。
	教職員の資質向上	○学校課題研究を基盤とした個々の教員の指導力向上を実現する。 □心身ともに健康で、高い倫理観を備えた教職員集団の形成を実現する。	○教員同士のつながりの中で日常的に相談やミニ研修を行う姿が見られた。 □全教職員対象のメンタルヘルスカウンセラーとの面談を実施した。今年度、長期病気休暇を取得した教職員1名、退職者2名であった。	B B	・教師の力量の向上は必要。働き方改革は、教師が楽をすることではなく、子供と向き合う時間を作るためにあることを押さえてほしい。 ・教材や学習内容の理解のための時間、子供と向き合う時間の確保が必要。
	施設・設備等の管理	○教職員の「変化に気づく」危機管理意識を向上させる。 □教育環境の整備・充実のため、計画的・効果的に予算を執行する。	○コロナの扱いは5類となったがコロナ、インフルエンザ等の感染状況に応じ、集会等の活動の際に必要なに応じてマスクの着用を呼びかけた。 □校内巡視の際に修繕必要個所の早期発見・即時対応を実現できた。今年度、瑕疵による事故は発生していない。	B B	・引き続き、児童の安全面を考慮し、適切に修繕をお願いしたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
飯塚小	組織運営	○教職員の研修参画意欲の向上	○教職員の研修参画意欲は、概ね向上した。 ・低、中、高学年ブロックごと分かれて、研究仮説や手立てを熱心に話し合っていた。研究授業に向けた指導案検討会や、他のクラスでの事前授業の実施などが、研修意欲の向上に結び付いた。	A	・創意工夫のある授業が多く、先生方の熱意に感心している。6年生の絵画作品のレベルが高いことに驚いた。昔よりも絵画の上手な子供が増えていると感じた。 ・子ども同士の学び合いが進んでいる
	教育課程	○進んで運動する児童 85％以上 （前年度79.8％）	○進んで運動する児童の割合は、80.5％であり、目標を達成できなかった。 ・体育朝会や業間運動（持久走・縄跳び）は、計画通り実施できた。持久走大会では、粘り強く走る姿からたくましさを感じた。 ・年間を通した保健と食育指導により、早寝早起き朝ごはんの定着率が81.9％に向上した。	B	・持久走大会や運動会では、一生懸命に取り組む児童の姿が印象に残っている。 ・早寝、早起き、朝ごはんの定着率向上のために、保護者との連携を強化してほしい。
	開かれた学校づくり	○家庭や地域への積極的な情報提供 □西中との連携強化	○学校評価「積極的な情報提供」では、学校評価項目の中で1番高い数値となる97.4％を得た。 ・ホームページ定期更新目標「年間300回」を達成した。 □小中合同避難訓練を初めて開催。職場体験では、西中生を14名受け入れた。3月には、小中連絡会を実施予定。昨年度より、連携が進んだ。	A A	・今後も、学校ホームページや学級通信等で、地域や保護者に学校の様子を積極的に伝えて欲しい。 ・来年度は、町会での「子ども祭りや地区の運動会」などを、コロナ以前の取組に近づけ、地域を活性化させたいと考えている。 ・
	教職員の資質向上	○学校評価項目で「学習内容が理解できる授業」98％以上	○学校評価「学習内容が理解できる授業」では、95.4％にとどまった。 ・3年生から6年生において、計画通り教科担任制が実施できた。 ・放課後の時間の確保により、学年内での教材研究の時間が増えた。	A	・同じ内容の算数の授業を参観したが、先生によって、指導の仕方が違うことを感じた。教職員の指導力のばらつきを解消することが課題だと思った。 ・教科担任制の学年をさらに拡大できるよう、工夫してほしい。
	施設・設備等の管理	○安心・安全を第1とした施設・設備等の管理 □学校評価項目で「子どもの安全・健康面への配慮」98％以上	○施設、設備の瑕疵事故ゼロを達成した。 ・職員室の空調修繕や照明灯のLED化を実施した。 □子どもの安全・健康面への配慮は、95.4％であり、目標を達成できなかった。 ・飯塚ギャラリーや学年の掲示板等を定期的にリニューアルした	A A	・「来年度は、プールの改修工事が予定されているが、プールは学校に必要なのか？」という意見が上がった。その意見に対し、他の委員から、プールの水は、消火、防災時に必要であるから、プールは必要であるという話になった。 ・老朽化した施設を安全面に配慮し、管理していることに感謝している ・

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝小	組織運営	○教職員の長所を融合し、より高い学校運営参画意識と相互協働体制の強化する。 □校内支援委員会を活性化させ、配慮の必要な児童(不登校を含む)への適切な支援を実施する	○相互の協働意識の高い集団である。ストレスチェックにおいても、管理職・同僚の支援については前年度より向上している。 □校内支援委員会が機能し始めてきた。不登校の児童対応も先生方のあたたかな指導によるものが大きい。	A B	・「チーム芝小」として管理職を中心によくまとまっていることが伝わる。校内の雰囲気が明るくなった。 ・保護者の評価が前期を上回れたのも連携強化の表れである。次年度も継続してほしい。 ・支援の必要な児童への対応を引き続きお願いしたい。学校や先生方だけで解決できる問題ではない場合は地域や自治体へ頼ってほしい。
	教育課程	○教育課程の適正な実施と学力・規律ある態度・体力を相互に関連させながら、質の向上を図る学習指導を徹底する。 □積極的な生徒指導を推進する。	○指導力向上については永遠のテーマであるが、学習に向かう姿勢は全学年とも向上している。 □児童会の活動が活発になり、積極的な生徒指導体制が構築されつつある。	B A	・授業展開が工夫されていることがわかる。I C Tの積極的な活用と思考、判断力が求められるためのベースづくりをお願いしたい。 ・家庭学習の習慣化の評価が下がっている傾向があるため、保護者へのアプローチする機会を増やしたい。 ・児童自らが、考え動く力を養うことは、学力向上以上に大切である。今後も継続してほしい。
	開かれた学校づくり	○開校150周年、アフターコロナを含めた地域との連携の強化を再構築する	○学校運営協議会のご意見を学校経営に反映させることができた。 1 5 0 周年式典を機会にPTAや地域との連携に努めた。	A	・コロナを経て、新しい地域との関わり方になるが、地域との連携は必要不可欠である。 ・1 5 0 周年記念式典は素晴らしかった。 ・緑化ボランティアも高齢化している。継続のための連携をお願いしたい。
	教職員の資質向上	○教職員とのコミュニケーションを円滑にし、職責や使命感を高めるとともに、キャリア段階に応じた指導育成を実施する □魅力ある学校づくりのため、積極的な働き方改革を推進する。	○不祥事防止については、対話を重ね総合に支えあう体制を確立させる。 校長室だよりの発行は現時点で1 6 号である継続して行う。 □意識した取り組みができるようになっている。 特定の職員の超過については、仕事の見通しを意識させたい。	A B	・授業の進め方のスキルが向上している。個を大切にしながら資質向上に努めてほしい。教科担任制は先生方にとっても良い試みではないか。実現できる環境が整うと良い。 ・保護者の考えはそれぞれなので正解はひとつではない。時にはすべてを受け入れる必要はない。 ・先生方には無理せずに児童のために取り組んでほしい。
	施設・設備等の管理	○安全・安心で円滑な教育活動が展開できる、心のある教育環境を実現する	○古くてもきれいな校舎である。地域の皆様にもご協力いただいて潤いのある教育環境である。	A	・校舎の老朽化については、建て替えも含めて連携してほしい。 ・細かな点まで丁寧に対応してくださっています。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
新郷小	組織運営	○校務分掌組織改編後の教職員の働き方を見届け、県の目標を達成できるようにする。	○校内分掌組織は軌道に乗ってきた。業務改善に対する教職員の共通理解はできているが、人手不足により在校時間は前年度より減らすことができなかった。	B	・先生方は本当によくやっている。教員のやることが多い中、よくやっていることをみんなが理解したほうが良い。 ・教員も自分の育ってきた範囲でものを考えると腹の立つこともある。自分の考えを広げていくことも必要。
	教育課程	○「わくわくする授業」で確かな学力と体力を向上させる。	○GIGA端末の活用が進んだ。不登校支援としてオンライン授業、別室登校も行ってきた。体育以外の研修も工夫し指導力向上につなげてきた。	B	・教員と児童の意思疎通がしっかりしており、関係性が日頃から上手いっていることがわかった。 ・児童が集中して授業を受けていて良い。
	開かれた学校づくり	○学校から保護者地域への情報伝達をタイムリーに行い、コミュニティースクールとして地域に開かれた学校を目指す。	○コロナが明け、保護者・地域の方々が来校される機会が増えたことで、学校への理解が一層深まった。1 5 0 周年事業もよい機会となった。	B	・父親の行事参加率が高くて良い。今後、親氏の会などのような形で上手く取り込めると良い。 ・PTAについては、立場ごとに様々な思いがあることもわかる。
	教職員の資質向上	○体力課題解決研究発表に向けた教職員の指導力の向上と不祥事防止への確実な取り組み実施	○体力課題解決研究発表により本校の体育授業の形が確立した。児童の体力向上も一定の成果が見られた。倫理確立委員会はさらなる工夫が必要である。	B	・教員と児童の関係性が日頃からうまくいっていることがわかったので、教職員を褒めなくてはいけない。
	施設・設備等の管理	○整えられた美しさを感じられる環境整備と学校施設による事故ゼロ	○環境整備は長期目標を立て、計画的に予算運用をしていく必要がある。校舎の老朽化については関係各課に引き続き要望していく。	C	・トイレ改修や児童の清掃のおかげで、非常に綺麗になっていた。 ・災害時に体育館は避難所になることもあり、雨漏りは直すべき。 ・災害はいつ来るかわからない。要望は必要。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
神根小	組織運営	○生徒指導・教育相談の充実 □学びの共同体の学習内容を推進し、学力向上に繋げる。	○いじめ事案早期対応はできた。生徒指導部会を毎月確実に実施した。問題行動の共有や対応策等について話し合うことができた。 □年間を通して一人一授業を達成することができた。協議会では授業について深く研修することができた。先進校の視察が不十分だった。他地域へ派遣できなかった。	B C	・いじめの対応は、継続して行ってほしい。 ・いじめを見逃さない感性の鋭い職員を育成してほしい。 ・子供の特徴を捉え注視していつて欲しい。 ・「学びの共同体」の成果は上がっているのか？ ・学力向上の成果を上げている先生の取り組みを出してほしい。 ・YOUTUBEに神根小が出ている件は神根小だけの問題ではないと思う。市レベルの問題であると思う。今後このような問題は多くなると思う。川口市として対応した方が良いのではないか。（多数）
	教育課程	○神根地区の学校と連携して「学びの共同体」の推進をする。 □ICT端末の積極的な活用□デジタル教科・算数・英語での活用をする。	○大学の教授を指導者に迎え3回実施することができた。全員の授業を参観し指導をしていただいた。 □ミライシード等は、校内に浸透させることができた。「Kahoot」等の新しい取り組みも始まった。	B B	・広く情報を得て職員の意欲を喚起していく必要があるのではないか。 ・教員によって差がでないようにして欲しい。 ・子供の基礎基本を高めることも大切であると思う。
	開かれた学校づくり	○150周年記念式典の成功、各行事の円滑な実施をする。 □交通安全についての取組	○月1回、開校150周年式典実行員会を実施することができた。開校150周年式典は10月に無事挙行することができた。 □交通安全教室を2回実施した。学期始めには登校状況の確認を全職員で実施した。校区内に「一時停止」の表示を2カ所設置することができた。	B B	特になし ・子供だけでなく教職員もじこを起こさないようにすることが大切である。
	教職員の資質向上	○年間超過勤務時間360時間以下6割540時間以下4割 □教育公務員としての自覚ある行動を取れるようにする。	○年間超過勤務時間 360時間以下 16名 66.6% 360～540時間以下4名16.7% 540時間以上 4名16.7% □倫理確立研修会は月1回実施することができた。校長室だよりでは関連事項の記事を3回発行した。教頭は、注意喚起のための資料を20回発行した。	B C	・教材作りの外部委託をする等して働き改革を進められるようにはできないか。 ・職員が良く挨拶してくれるので嬉しい。
	施設・設備等の管理	○施設事故0	○施設事故0毎日校舎内外の巡視をし適切に改善させた。樹木の伐採を年3回実施した。PTAと協力グリーン活動を年2回実施した。	A	・悪臭などの衛生面については迅速に対応してもらいたい。 ・外部からの指導者を入れ教育活動を充実させてもらいたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
青木北小	組織運営	○職員の働き方改革を更に進め、量的な負担感を解消する。 □不登校児童の家庭への外部機関連携100%を達成する。	○一人一主任により、量的なばらつきは解消されてきた。 □全ての不登校児童家庭と連絡は取れているが、外部機関との連携ができていないケースは少ない。	A B	・教職員アンケートの週時程や日課についての項目のポイントが下がっているのは、教員不足が要因なのではないか。
	教育課程	○家庭学習の在り方を全校で統一して取り組む。	○G I G A端末を活用した家庭学習が学年によっては効果的な取組になってきた。	B	・教職員アンケートの「主体的・対話的で深い学びを踏まえた問題解決的な学習が行われている」という項目のポイントが上がっていて良い。 ・
	開かれた学校づくり	○P T Aや学校応援団の協力をいただき、教員と保護者・地域が協働して児童の学習活動を応援する。	○PTA執行部との協議の時間を持つことができた。	B	・通学班編成の基準が全く分からない。地域に教員が出てきて、実態に即した編成ができると良い。 ・外国の児童に対して給食の多様化に、今後どう対応していくのか。 ・学校給食で文化の違いを教えていくことも検討してはいいかがか。
	教職員の資質向上	○どの教員もU Dの視点を大切にしたい指導を行うことができるようになる。	○UDの視点を意識した教育相談や生徒指導を行えるようになった	A	・特別支援学級と通常学級との交流が積極的になされていて良い。
	施設・設備等の管理	○整理整頓された教室環境、職員室環境を作る。	○担当者を中心に整理整頓を進めることができた。	B	・図書室の机や椅子の買い替えなどの整備は行えているのか。本は新しく購入できているのか。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
領家小	組織運営	○職員一人一人の持ち味を生かして経営参画意識を高め、目指す学校像の実現に向け機動的かつ組織的な学校経営を推進する。	○①昨年までのコロナウィルス感染症対応が減り、様々な教育活動が問題なく進められる中で、ICTの推進、本校の課題等、校長としては残念ながら教職員へ提供することが少なかった。学校評価等については保護者から成果と課題について様々な意見が寄せられた。 ②教頭、教務主任が中心となり、各教員が自己の能力を活かし授業・環境の改善に取り組めた。本年度異動者が多い中、初任者教員を含め、若手教員も自己の特長を活かした授業を進めただけでなく、ベテラン教員がそれぞれの持ち味を活かして研修等を進めることができた。	B	・PDCAサイクルを常に回すことが大切である。風通しのよい環境づくり、信頼関係の構築を期待する。 ・ポストコロナの転換期において苦労したことと思う。 ・教員は何かあればすぐ対応しており連携がとれている印象を受ける。 ・異動により教員の多くが変わったが、レベルダウンせず行事の実施や授業の指導している。 ・教職員の異動が多いのはデメリットが多い
	教育課程	○主体的・対話的で深い学びへの授業転換による授業改善とともに、GIGAスクール構想の実現に向けて、知・徳・体の調和のとれた教育活動の推進を図る。 ○道徳教育の推進と積極的な生徒指導の確立する。 ○運動を楽しみながら体力を高める指導の工夫を図る。	○①教職員が一丸となり、研究教科の社会科を中心に、互いに声を掛け合って学習の進捗を話し合ったり、生活指導について確認し合ったりし、予定していた教育課程を進めることができた。また家庭学習の習慣化へ向け、保護者と確認し合うなどして、学習の定着に努めた。 ②本校の研究教科である体育科について、低学年を中心に学習を進めることができた。また体育的行事では運動会、持久走大会等安全に留意し、滞りなく行うことができた。しかし児童の体力が停滞している現状があり、十分に高めることができていない。 ③各学級の児童に対して、教職員が温かく活動を見守ることににより、全校児童が落ち着いて学校生活を送ることができた。しかし挨拶については、できなくなったと保護者、地域の声を聴くなど、課題が残った。	B	・教員は、熱心に授業をしてくれている。 ・どの学級も同等に学力向上されることを期待する。 ・生徒指導について、常に細かい気遣いの上で指導していることに感謝する。 ・タブレットの修理に時間を要することがあり、授業を受ける児童への対応が心配される。
	開かれた学校づくり	○「地域・保護者に信頼される学校」をめざし、保護者、地域との連携を一層強化する。	○①学校運営協議会を年3回開催することができた。委員の方々より様々なご意見をいただいた。すぐにできることは進めたが、まだ達成できていないものもある。トライアングル、地区ソフトボール大会等、今できることを考え、進めたことを行うことができた。 ②本年度は授業参観、学校行事等、問題なく公開できた。併せて修学旅行、大貫海浜学園、校外学習もコロナ以前に戻りつつある。 ③教頭が中心となって、重要案件について保護者メールを活用することができた。 ④個人面談や相談については各教員が時間や内容を工夫し、適宜行った。	B	・登下校の挨拶については、地域としても協力していく。 ・学校は地域に対して常に感謝し、行動していると感じる。 ・・保護者、教師、地域のトライアングルの連携を強化することがいじめの低減につながる。 ・携帯電話を利用した欠席連絡、学校からの連絡システムは大変助かる。 ・学校と地域の連携がコロナ以前にもどるとよい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	教職員の資 質向上	○GIGAスクール構想の実現に向けた研修を重ね、「何ができるか」を常に考え、指導に活かしていく。 ○これまでの本校の指導をベースに、キャリア段階に応じた指導力向上を図る。また初任者・若手教員が気兼ねなく授業をみる、きくことができる機会を整える。 ○働き方改革の趣旨を踏まえ職員の心身の健康を最優先に考えながら活力ある風通しのよい職場づくりを推進する。（教職員事故：ゼロ）	○①各教員の授業は定期的に参観することができた。児童に話しかけることは少なかったが、児童の感想を直接聞くことができた。 ②本年度は社会科を中心に研修を進めることができた。研究授業の講評等を活かし、各教員が学級にて、それぞれの課題に向けた取組を行った。 ③今年度も養護教諭を中心に児童だけでなく、教職員の健康管理についても気を配って進めた。各教員が健康管理を確実に行ったため、昨年度と同様の教育活動が進められている。また教頭・教務主任が教職員に声をかけ、安心して出勤できる環境づくりがつけられている。 ④教職員と相談できる環境がつけられたことで、課題等の共有を図ることができた。 ⑤教頭、教務が中心となり、積極的にワークライフバランスを推進したことにより、大きな事故等なく、在校時間もこれまでより短縮できた。	B	・教員の年次に応じたスキルアップ、モラル向上を期待する。 ・タブレットを活用した授業を工夫されており大変よい。 ・働き方改革により教員の負担が軽減されるとよい。 ・若手を育てるには、OJTが大切である。 ・学校全体が同じ方向のベクトルを共有することで、組織の向上が図られ、学力向上につながる。 ・学力向上のためにも教員の資質向上を願う
	施設・設備等 の管理	○「安全・安心」に視点をおいた安全管理の徹底（学校評価安全・美化8割） ○校務支援システムの活用と効率的な予算執行及び適切な文書管理	○①教頭、教務主任、養護教諭、事務職員、担任等が各分掌に関わる事務管理や危険箇所等の把握について適切に行った為、大きな事故無く運営がなされた。 ②月1回の定期点検だけでなく、各教職員が自己の教室等を常に見回り、大きな事故なく進めることができた。 ③理科室薬品簿、家庭科室、図工室等の点検により、安全に学習が進められた。 ④ P C 支援員等のはたらきにより、校務支援システムの運用が効果的に進められた。	B	・児童の視点に立った問題把握、解決を期待する。 ・学校内は常にきれいに維持されており子供たちへよい影響を与えている。 ・建物の老朽化がみられる。学校の統廃合を見据え、検討する必要がある。 ・安全点検、定期点検の継続により安全な教育環境の維持を願う。 ・学校の環境整備に地域の業者やボランティアの協力を得てはどうか、

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
舟戸小	組織運営	○「すべての子供の学びを保障する」という目標を共通認識し、すべての教育活動をその目標実現のために機能させる。	○学校の教育活動全般について満足している(保護者94%) 目指す学校像の実現に向けて全職員が組織的に取り組んでいる(教職員90.4%)	B	・小学校も学級担任制から学年担任制・教科担任制への移行は必要である。学級間の指導格差をなくしたり、子供の教育相談的な対応面でもメリットがある。
	教育課程	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、一人残さず子供の学ぶ権利を保障する。	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行っている(教職員90.5%)	B	・子供全員に充実した学力の保証をするのはとても難しい課題である。子供同士を競わせることも社会に出てから生きる力を児童に身に付けるためには必要なことではないか。 ・子供は素直であるが、もっと活発な態度がましい。昔遊びなどは主体的によくやっている。
	開かれた学校づくり	○「目指す学校像」実現に向けて、学校・保護者・地域の絆を深める。	○ＨＰをほぼ毎日更新することで、1日平均閲覧数が150名近くに増加した。「学校は家庭や地域と連携しながら教育活動の充実に努めている」(保護者88.8%)	B	・主任児童委員・民生委員との連絡協議会が経過確認の上で、もう1回できるとよい。 ・学校応援団の活性化を行い、地域人材の活用を推進できるとよい。 ・地域の行事（運動会など）への参加を学校からも積極的に行ってほしい。
	教職員の資質向上	○時間外在校等時間、月45時間・年360時間超ゼロを目指すことで、教職員が子供と向き合う時間を確保するとともに、教育力の向上を図る。	○時間外勤務時間の減少は促進されたが、教職員の負担感には減っていない。月平均30.1時間(1月末現在) 「昨年よりも、勤務の負担感は減っている」(教員57.2%)	B	・教職員の負担軽減には学校内の対応だけでなくアウトソーシングが必要である。 ・時間外在校時間の目標時間だけが注目されているが、各業務の効率化（こうしたらこれだけ削減できた）の方法にもっと視点を当てるほうが良いのではないか。
	施設・設備等の管理	○子供たちが安心して学校生活を送ることのできる居場所となる学校環境をつくる。	○保護者の施設設備に対する満足度は高く、事故もゼロである。キャラクターによる潤いのある学校環境づくりもできた。	A	・エンペイを導入したことは良い。 ・地震対策の避難訓練を充実させたい

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
十二月田小	組織運営	○学校教育目標や目指す学校像、重点目標の具現化に向け、共通理解・共通指導を基本とした組織対応により、全教職員の学校運営参画意識の向上を実現する。 □教職員の成功体験を増やし、仕事における自己実現を達成する	○日々の授業や様々な学校行事を通して、学校教育目標や目指す学校像等の具現化に向け、組織的な対応を積み重ね、教職員の学校運営参画意識を向上させることができた。 □教職員の誠意ある取り組みは、称賛をし、職業人としての自己実現を図ることができた。	B B	・教職員の「一人一分掌」を行うことで、「みんなで考える」という組織運営ができている。 ・分掌によって内容に差が生じている。今後は、継続をして担当したり、ローテーションをして担当を変えたりして、差を埋めていくようにする。 ・教職員が児童に生き生きと接していることを感じている。教職員間のコミュニケーションも引き続き大切にしてほしい ・意見がすべて一致するはずはなく、反対意見もしっかりと受け止めるようにする
	教育課程	○「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を推進し、学力を向上させる □家庭との連携を密にし、自主学習・家庭学習をより充実させ、主体的に学べる児童を育成する。	○1単位時間の教室訪問を2回実施した。訪問後、授業評価に係るフィードバックを実施し、PDCAサイクルの確立を実現できた。 □全学級で、自主学習・家庭学習に取り組ませることができた。ノート1冊終了ごとに、到達証を配付した。ミライシードにおいても3万点到達ごとに到達証を配付し、意欲の継続に力を尽くした。	B B	・スマホを使うことで調べることや漢字を書くことに影響があるのではないかな。 ・子供が小学校在学中に、同じように自主学習に取り組んでいた。絵日記を書く等、低学年の取組が高学年で生きたことがあった。低学年からの継続が大切だと思う。 ・中学校でも自主学習に取り組んでいる。中学校では、書き方等にこだわり過ぎず、時間に見合った内容が大切。
	開かれた学校づくり	○文書やHP、保護者緊急情報メール等を活用し、正確迅速な情報提供により、学校教育への理解から学校・家庭・地域の連携体制を確立する。 □学校運営協議会等、家庭や地域の意見反映により、地域に根差した学校づくりを実現する。	○保護者への連絡事項や近隣の不審者情報等を、保護者緊急情報メールを活用して、積極的に周知することができた。 □学校運営協議会委員の皆様や保護者の学校評価を含めた声は、真摯に受け止め、改善につなげることができた。	A B	・児童の見守りを強化してほしい。安全のための意識をさらに高めてほしい。 ・不審者対応訓練の実施はよいこと。 ・マンションの自転車置き場など死角になる場所での気を付け方や、声を出すという指導を行う。 ・自分事として、とらえられるようにする必要がある。
	教職員の資質向上	○教職員の日々の授業と学校課題研究との有機的連携により、個々の教職員の指導力向上を実現する。 □教職員1人1人が、使命と誇りをもち、教職員事故を根絶するとともに、心身の健康の保持増進を実現する。	○委嘱研究の1年目を終え、研究推進体制を確立できた。年3回の教室訪問後のフィードバック資料に16項目の評価と具体的な姿、記述評価欄を設け、全教職員に還元できた。 □残念ながら病休者を出してしまったが、体調が戻り復帰できた点は、よかった。	B B	・持久走大会での教職員、PTAが安全のためによく動いていた。 ・コロナによる体力低下が気になる。 ・スポ少の駅伝大会等、地域での体力向上をさせるための取り組みにも協力をしたいが、責任の所在等、リスクを考えるとなかなか実施できないのが現状。
	施設・設備等の管理	○日々、定期・臨時の施設・設備の安全点検を確実に実施し、安心・安全な環境を維持継続し、学校の瑕疵による事故を根絶する。 □教育環境の整備・充実のため、計画的・効果的に予算を執行する。	○養護教諭の尽力により、クラスターの発生や誤食によるアレルギー事故ゼロを実現できた。いのち1の日等を設け、自分の命は自分で守る意識を高めることができた。 □修繕必要箇所の早期発見・即時対応、必要な予算執行を実施できた。今年度、瑕疵による事故は発生していない。	A A	・体育館の照明が一つ切れているので、修繕をお願いしたい。 ・1年生側の校舎の耐震工事は大丈夫か。（耐震工事は実施済。） プールの事故など安全重視のための工事を進めたほうがよい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
飯仲小学校	組織運営	○主任層・各組織が円滑に稼働するよう適宜調整を行いながら、学校職員・保護者アンケートの満足度をともに90％以上とする。合わせて、次年度に向けより効率的な組織を研究する。 □働き方改革を進め、職員の超過在校時間年間360時間以内を達成する。 ◇不登校児童への組織的な支援を進め、全対象児童について、川口市の示す支援段階の向上を実現する。	○職員アンケート 96.7％達成 保護者アンケート 99.4％達成 職員は学校組織の中で、十分に意欲を持ち、楽しく働けていることが分かった。 □年間在校超過合計 全職員360時間以内を達成 効率化することにより在校超過を大幅に軽減できている。 ◇対象児童の支援段階の向上は、マイナスにはなっていないが、現状維持傾向が強かった。今後も個々の児童に合った支援を伸ばしていきたい。	A A B	・評価は妥当である。 ・評価は妥当である。 ・評価は妥当である。	
		教育課程	○学力向上を推進し、全学年全単元で実施する単元テスト85点以上の児童を80％以上を達成する。 □学校研究として行う特別活動と運動させ、中学年以上の学級の学級会実施年間5回以上を達成する。 ◇いじめに対する積極的な干渉を継続し、解消率（経過観察中を含む）を100％とする。	○国語・算数を集計すると 国語 75.1％ 算数 71.9％ であり、目標であった80％を達成できなかった。 □各学級年間5回以上の実施達成 ◇いじめ解消率は100％であった。（経過観察のものも含む） 今後も確実な見届けを継続していきたい。	B A A	・德育と体育が目標に入っていないので、それらを入れて考えてほしい。 ・新体力テストの状況はどうなのか。 ・今後一層タブレットを活用して学習を進めていくことの方針を教えてください。 ・評価は妥当である。 ・いじめの解消が100％とあるが、そんなことはあり得ないのではないかと。経過観察とは何か。
			開かれた学校づくり	○学校運営協議会と運動した地域に根差した学校経営を行い、保護者満足度90％以上を達成する。	○学校運営協議会実施9回 保護者満足度95.9％達成 情報発信に関する満足度 98.0％達成	A
	教職員の資質向上	○学校課題研究として特活を取り上げ、児童の徳力向上に取り組み、指導者を招聘しての研修を年間4回以上、職員アンケートでの満足度80％以上を実現する。 □ワークライフバランスを図り、倫理確立研修等を通して、教職員事故ゼロを継続する。	○研究・研修に関する職員アンケート 83.3％達成 引き続き教育力向上のための努力を行ってほしい。 □教職員事故ゼロを継続中	A A	・評価妥当である。 ・地区で委嘱を受けているようだが、どの程度進捗したか知りたい。 ・仲町小では、中国語の保護者説明会を行っていると聞く。そういうものを取り入れるとよい。 ・評価は妥当である。	
		施設・設備等の管理	○安全安心な学校づくりを進め、学校瑕疵による事故ゼロ、保護者満足度90％以上を実現する。	○瑕疵による重大事故ゼロを達成 保護者満足度 96.7％達成	A	・評価は妥当である。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
並木小	組織運営	○3部会を基盤とした組織活動の活性化 □部会ごとの目標の明確化	○部会長を中心に組織活動が実践できた。 □効果検証には課題が残った。	A C	・組織を活性化させ、若手教員を皆で育てる活動を引き続き期待する。 ・効果検証をぜひ実施してほしい。
	教育課程	○学力・体力・徳力の向上 □10月後の教育活動の精査	○体力の課題解決が図られた。 □教育活動の精選が図られた。	B B	・学力・体力の向上に今後も取り組んでほしい。 ・行事の運営に革新的な試みがされていた。 ・外国籍児童の授業の進め方に期待する。
	開かれた学校づくり	○10月後の活動の再構築 □中学校との連携強化 ◇保護者の思いに寄り添う	○計画通り実施できた。 □課題の共有は図られた。 ◇面談等、適切に行えた。	A B B	・町会としても学校運営に協力していく。 ・学校に遠い地域との連携強化を期待する。 ・個人面談の積極的な活用は効果的である。
	教職員の資質向上	○ミドルリーダーの育成 □倫理確立委員会の実施 ◇働き方改革の推進	○行事を通して育成できた。 □適切に行えた。 ◇意識化がさらに進んだ。	B B A	・相互の授業参観で資質向上を図ってほしい。 ・勤務の効率化だけに目を向けるだけでなく、 ・情報共有を大切にしてほしい。
	施設・設備等の管理	○管理体制の強化 □施設事故の未然防止	○新たな管理体制を構築した。 □施設事故0を達成した。	B B	・日頃の安全管理を引き続き実行してほしい。 ・古くても手入れされている学校に期待する。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
安行小	組織運営	○子供のよさを認め、伸ばすことで自己肯定感の高い児童を育成する。 □不登校傾向を事前に把握し、不登校解消プロジェクトを立ち上げ、早期に対応し、解消を目指す。 ◇学校、家庭、地域の三者が一体となって安行小を誇りに思える学校にする。	○児童一人一人のニーズに応じて対応することができた。学校評価教職員の「よさを認めた学級経営7ポイント向上で99%、保護者アンケート94%達成） □くすのきルームの活用が各学年に浸透し有効的であった。長期欠席の解消率を上げることに繋がった。 ◇周年行事に向け、学習現場を地域に広げることができた。新田の開発は特に、地域との連携を深めることができた。	A B A	・様々な取組を実施している。 ・教育の原点は心豊かでたくましい児童の育成である。このことについて、学校、家庭、地域が三位一体となって努力していくべき。 ・不登校児童対応教室に通う児童にとって安心できる環境づくりを進めてほしい。 ・周年行事が計画的に実施できた。 ・重点目標がおおむね達成しているということは大変よい。 ・新田の開発については、貴重な体験であったと思う。
		○子供たちの声で進む学習、振り返りのある学習、繰り返しの学習を通して学力を向上させる。	○タブレットを活用した学習スタイルは整ってきた。（学校評価保護者アンケート教育課程89%達成）	B	・タブレットはよく活用できていると思う。 ・授業場面ではタブレットを活用することはよいと思うが、家庭学習になると、鉛筆をしっかりと持ち、筆圧や持ち方の基本を身につけるべきだと感じる。 ・タブレットの不備を早めに解消してほしい
		開かれた学校づくり	○150周年事業を、根幹として、家庭、地域に信頼される学校をつくる。	○今年度1年間は開校 1 5 0 周年を中心に教育活動を推進し、新たな取組も充実できた。	B
	教職員の資質向上	○チーム安行小として互いに尊敬あい協力できる人材を育成する。 □教職員事故防止への自分事化と互いに気づかう暖かな職場環境をつくり、教職員事故「 0 」を達成する。 ◇自身の働き方への意識を高めるとともに実効性のある業務改善を推進する。	○授業スタンダードを確立し学びのある授業を展開し児童にとってわかる授業を進めることができた。県や市の平均点と近値してきた。 □日々のヒヤリハットを共有し互いに関心を寄せる職員集団を育成できた。倫理確立委員会では、一人一人が自分を振り返ることができた。 ◇月の在勤時間 8 0 超は「 0 」である。通知表、年度初め終わりの特別日課の編成により負担感を軽減することができた。	B A B	・よくできていると思う。 ・立派な児童を育成するには教育する教師自身が真の実行力をつけることである。（感化教育、人間性豊かな教員） ・教員が児童の見本になってほしい。 ・教職員不足の対策がしっかりとれている。 ・家庭への協力が難しい時代、教職員のメンタル面でも健康であってほしい。
施設・設備等の管理		○施設設備の適切な管理を行い、複数の目で安全安心な教育環境をつくる。	○老朽化は進んでいるが、日々の清掃活動を充実させ、修繕予算を計画的に執行できた。（学校評価保護者施設設備昨年比+ 2 ポイント）	B	・もっと予算が配分されしっかりと校舎になるとよい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
原町小	組織運営	○「主体的・対話的で深い学び」の授業を推進することを共通認識し、すべての教育活動で意識した授業を行う。	○教職員は「主体的・対話的で深い学び」の授業を推進している。 【学校評価（教員）「主体的・対話的で深い学びの学習を重視している」A+B100%】 □全学級において、話の聞き方や発表の仕方を学び、相手の意見を認められるよう指導を続けている。	A	・原町小学校の職員は児童が学習目標が達成できるように、一生懸命取り組んでいると思う。外国籍の児童についても日本語指導を中心に、個に応じた対応をとっており、すべての児童が学びができる場を作っている。
		□相手の意見を尊重する児童を育成する。		B	・話を聞くことは何においても重要。相手を尊重し、話を聞く姿勢ができれば「いじめ」問題解決にもつながるだろう。
		◇仲間と協力し合い、多様な見方を出し合いながら、自分たちで解決方法を作り出す力を身に付けさせる。	◇ペアやグループでの対話活動を多く入れ、児童に対話の良さを味わわせている。【学校評価（教員）「指導方法や指導体制の工夫・改善に努めている」A+B100%】	A	・行事等でも児童の様子を見て、「みんなでやること」を学ぶことが大切と思う。普段からペア、グループそして学級で力を合わせて答えを出し、何かを作り上げる力をこれからも伸ばしてほしい。
	教育課程	○個別学習と協働学習を通して、児童のコミュニケーション力を高め、一人も残さずに学ぶ権利を保障する。	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識して個と集団で学びが高まった。【学校評価（教員）「学び合いによる授業改善を中心とした研究を進めている」95.2%】 □授業の目当てを示し、何を学ぶのかを児童に理解させている。【学校評価（教員）「基礎的・基本的な内容の指導を徹底している」95.2%】	B	・外国籍児童で日本語がわからない児童に対する指導が大変だと思う。これからますます増加することなので、日本語指導の教諭を増やし対応できるように、市教委と連携してほしい。
		□各教科等での基礎基本を確実に身に付けさせる。		B	・学習は学校だけでなく、家庭で行うことが身につけば生涯にわたって学び続ける人となる。最近では家庭での学びがすべて学校に任されていることが多い。 ・発達障害等、多様な児童がいるのは、今の職員だけでは大変。地域として見守り等協力できる場所は声をかけてほしい。
	開かれた学校づくり	○「目指す学校像」実現に向けて、学校・保護者・地域の絆を深め、同じ方向性をもって指導や支援を行う。	○ＨＰや学校だよりでの発信を行い、保護者・地域の方々に理解と協力を頂いている。【学校評価（教員）「学校だよりやホームページ等で情報提供している」100%】	B	・スクールガードの活動など、原町小学区の地域や保護者は学校とよく連携をとっていると思う。これからも地域の力を活用できるように、学校から要望を伝えてほしい。 ・先生の人手不足が良く伝わっている。地域としてもできることをしたい。特に「学校応援団」を利用してほしい
	教職員の資質向上	○時間外在校等時間、月４５時間・年３６０時間超ゼロを実現する。 □勤務時間を少なくしながら、これまで以上の質の高い教育を实践できる教職員を育成する。	○業務改善に向けた話し合いを行い、少しずつ勤務時間の見直しが進んでいるが、年間３６０時間を超えている職員が６割を超えている。 □情報連絡、申請等授業、その他の業務でＩＣＴを積極的に取り入れている。【学校評価（教員）「コンピューター等の整備と活用」に目を向けている」90%】	B B	・原町小の中でも、教員の人手不足があり、授業や行事において様々な工夫で乗り切っているところがある。児童がなりた職業として「先生」が外れている現状を考えると、もう少しゆとりが出てくると違うと思う。 ・ＩＣＴ導入としてGIGAPCをよく使員こなしている。今後も積極的にG I G A P C の積極的な活用を続けていき、活用能力を高めてほしい。
	施設・設備等の管理	○子供たちが安心して学校生活を送ることのできる居場所を学校につくり、さらに設備を有効に活用できる環境をつくる。	全職員で施設の安全と学習環境を常に守っていた。 【学校評価（保護者）「学習する環境がいつも整っている」A+B合計92%】	A	・それなりに歴史のある校舎だけに、修繕も苦労しているだろう。これまで大きなけがもなく過ごせているので、引き続き、市と協力して安全な環境を維持してほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
前川小	組織運営	○会議のスリム化を行うためにオンラインの活用や短時間での会議意識した会議運営の工夫を引き続き行う。	○会議は対面とオンラインを併用して行った。会議のスリム化やペーパーレスを教職員にも実践的にいき、会議時間を減少させていくようにした。	B	・会議のスリム化やオンラインなど、今まで新しかったことが当たり前に行えていることがよいと思う。
	教育課程	○年間指導計画を見直し、デジタル・シティズンシップ教育をはじめ、児童一人一人が I C T のよき使い手となるための効果的な活用方法を適宜組み込んでいくように計画をする。	○年度当初からのICTの積極的活用により学級閉鎖時もオンライン授業を進めることができた。	B	・防災についてのプレゼンテーションを行っていたのがよかった。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会・P T A 執行部との定例会議・地域防犯報告会への参加等で学校と保護者・地域の双方向の情報伝達や情報の交流を積極的に行う。	○学校HPを活用した教育活動への理解を進めることができた。地域との連携については総合的な学習の時間での活用を積極的に行うことができた。	A	・今年度、生活科の昔遊びの支援を再開できた。今後も懇談会時の児童の見守りやミシンの手伝いなど様々な形で支援をしていきたい。 ・防災教育や町探検などの地域の学習が多くあった。今後も協力していく。
	教職員の資質向上	○主幹教諭が計画し、若手研修会（校内ステップアップ研修）を定期的に実施し、講義形式や双方が学び合う場を確保していく。	○授業デザインシートを活用した校内ステップアップ研修は若手教員が自主的な研修の場として指導力向上を行っていくことができた。	A	・防災に関する子どもたちからのプレゼンテーションが素晴らしかった。しっかりと指導されていると思った。 ・メンタル不調になる教職員が多くいると報道されている。先生が不調にならないように研修などをするとういと思う。 ・
	施設・設備等の管理	○地域等と連携した防災計画を立て、避難訓練（ショート訓練も含める）を実施する。	○4年生の総合的な学習の時間で「防災教育」を取り扱った。地域と連携した防災教育の推進を進めた。	A	・マンホールトイレの設置訓練を地域と一緒に行ったのはよかった。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚小	組織運営	○全教職員による児童の自己有用感と耐性の育成	○情報共有のもと、共通認識・行動での指導を展開し、目標は概ね達成。「学校が楽しい児童」は児童・保護者共に90％以上を達成。不登校改善への個別課題は残る。	B	・児童アンケート「困ったときに相談できる」の結果を生かした仕組みづくりを。 ・学年力をつかむために、児童アンケートは学年別集計を取り入れてはどうか。 ・教員の力を束に、子供たちの笑顔を作ってほしい。
	教育課程	○児童の学びに向かう力の育成と学びの定着	○読書の取組みは浸透、読書量は増加。校内研修、全教員の授業公開を通し、対話的学びと振り返りの活動は概ね定着。より質の向上と学習内容の定着を図る必要がある。	B	・戸塚小の学びのスタンダードづくりを。 ・I C Tを活用しながらも、教師と子供の言葉のキャッチボールや文字を通して学ぶ取り組み（読むこと・書くこと・読書すること）を大切に。
	開かれた学校づくり	○教育活動の見える化と「チーム戸塚小」による150周年の学校づくり	○教育活動の発信、PTAとの連携による周年の取組・広報を継続実施。情報発信にかかる保護者評価89％。学校応援団を学習支援・環境整備に活用。登録者数増加。	B	・保護者の学校への興味関心は高い。学校・保護者・地域の働きかけが分かり、子供の姿に現れる。 ・学校の意図、教職員が発したことが「伝わったか」「伝えられたか」を大事に。
	教職員の資質向上	○一人で悩まない、事故を生まない職場づくり □磨き高め合う教職員集団づくり	○諸課題への複数対応を徹底。学年・管理職等で対策を講じ解決へ。当事者意識を高める教職員主体の事故防止研修を実施。風通しの良い職場が実現。事故ゼロ達成。 □全教職員の授業公開と教職員が講師を担う研修を実施。聞き合い、相談し学び合う教職員の姿がある。	A B	・教職員のモチベーションの維持を。健康に留意してほしい。 ・教職員の板書が丁寧である。同じ学習内容でも、教員により表現の違いがある。子供に伝わること伝えられたかが勝負である。
		施設・設備等の管理	○安全・安心、機能的で潤いのある学習環境作り	○安全点検を通し危険箇所を把握、修繕対応を迅速に完了。植物配置・掲示更新の継続、教室扉のガラスを透明ガラスへ交換。環境整備にかかる保護者評価は87％。	B

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
青木中央小	組織運営	〇〇職員一人一人の持ち味を活かし経営参画意識を高め、機動的かつ組織的な学校経営の推進 (学校評価：経営参画意識 9割) □ ◇	〇①②校務分掌や週時程、教育課程について全職員の意見や想いを基に7月にリスタートができた。(参画意識98%) ③バーコード化は、児童・職員・保護者・地域の力を結集しチーム青木中央小で実現。（保護者・地域135名）コードモン導入は、学校運営協議会・PTAの協力を得て円滑な導入ができた。 ④ポストコロナをふまえ学校・保護者・地域協力のもと児童にとって価値ある学校行事を実施できた。 □ ◇	A	・学校経営方針が明確に示されており、各種行事や日頃の授業を全教職員が一体となり情熱をもって教育活動を推進している。 ・学校は、コロナによって支障が出た部分を早く元に戻す努力をしている。運動会や音楽会等、コロナ前と同様に学校行事を実施でき安心している。 ・「誰一人取り残さない」「子供たちのために」との学校長の強い言葉にとっても共感し応援したいと感じた。 ・今後も学校経営方針の共有と教職員一人一人の持ち味を発揮できる風通しのよい組織で、相互理解のもと、ワンチームとして活動していた ・コードモンの導入は有益であった。今後、どのような教育的効果を示すか見届けたい。
	教育課程	〇授業改善を行い、知・徳・体の調和のとれた教育活動の推進 □発達支援的生徒指導を行う。（支援率100%）	〇①定着しつつある一方、学級差・学年差が大きいため指導を継続する。 ②ようやく学力向上プランが整った。指導課の協力を得て精査している。 ③④4・5・6年生向けにPPTを作成し結果分析から各自が取り組む内容を明確にした。④継続する。 ⑤体育的行事の継続的实施による肺機能の強化。体育授業の運動量差。（81.4%達成） □①青木っ子が自ら学級をよりよくしていこうとする意識が高まりつつある。 ②児童相談所、子育て相談課、警察、市教委、教育研究所、医療、るるをはじめとする専門機関と積極的に連携した。大規模CCも開催できた。	B B	・知・徳・体のバランスの取れた教育活動が実践されており大変素晴らしい。 ・学力も大切だが、幅広い視野で子供たちを伸ばしていくことを期待する。 ・学力向上に向け自主的に学習に取り組む姿勢や家庭学習の充実、あいさつ、発表等への努力を進めてほしい。 ・コロナ禍で低下した体力が上昇し安堵している。今後も体力向上に向けた取組を望む。 ・授業参観で指導の工夫や児童の反応、教室の掲示等で熱意が感じられた。能登半島震災義援金募金の児童の自発的行動にも感銘した。 ・タブレットの活用と読書活動の充実とは相反しないか疑問を感じている。 ・ほっとルームの拡充を図りたい。
	開かれた学校づくり	〇「地域・保護者と共にある学校づくり」をめざし、保護者・地域との連携を強化する。 (学校評価：相談しやすい 9割)	〇①保護者や地域の皆様のご協力で地域の教育力を児童の成長に活かすことができた。 ②コードモンを活用しDX化が一層進んだ。校外学習では積極的にHPを活用して児童のよさを発信した。HPのアップについては見届けは欠かせない。 ③学校運営協議会の趣旨や規則の内容を十分ご理解いただき、学校経営方針の承認に基づく協力をいただいている。働き方改革やコードモン導入に係る「決める会議」へ転換できた。	A	・昔遊びのシルバートチャーや各町会での下校時の見守り等で地域とつながっている。毎月の学校よりも充実した内容である。 ・学校側の努力が保護者・地域の連携を生んでいる。新しい考えのPTAと地域の方々とのコミュニケーションがこれからの課題である。 ・学校応援団の働きがはっきり見えないことは課題である。 ・学校運営協議会一員として、地域の町会等と学校を結び付ける努力をしていきたい。 ・学校から町会側への協力等も考えていただきたい。 ・学校やPTAに変わって地域ができることを精査し、さらには協働も視野に入れつつ模索していく。 ・コードモンのメリットを活かし有効に活用されることを期待。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	教職員の資質向上	○キャリア段階に応じた指導力向上・初任者：学級経営力・2～5年：集団指導力・中堅～ベテラン：人材育成力 □Well-Beingな働き方改革の推進と職員の心身の健康と活力ある風通しのよい職場づくり (教職員事故根絶：ゼロ)	○①②③PDCAサイクルを活かした授業改善が進んだ。道徳のみならず非認知能力を育むことが日常化し児童への意識づけとギミックの工夫が進んだ。学び合う雰囲気醸成されつつある。 □①②③登校指導の改善、コドモンの導入、元気に休んで元気に働くようキャンペーンの実施、トイレの改修工事、ほっとルームの設置、GIGA端末保存庫の設置等々チーム青木中央小で進めることができた。 ③教職員の事故防止は、当事者意識で防止することができた。一方でヒヤリハットした事案が発生したことも否めない。	B B	若い教職員が多く学校全体に活気がある一方、保護者の考え方との相違などで懸念されることがあり、教職員の人間力向上を期待する。 ・教員不足や長時間労働、働き方改革は社会全体の問題であり、課題もあると思うが、目標に向かって取り組んでいると推察される。 PDCAで進めながら今後も地域の子供たちの教育に邁進されることを期待する。 ・教職員と子供たちのwell-beingなつながり、取組をますます進めていくことを期待する。 ・授業を参観し、教育指導の創意工夫と教職員のチームワークを感じた。 ・教職員の業務内容で教職以外の事があまりにも多い。
	施設・設備等の管理	○「安全・安心」に視点をおいた安全管理の徹底（学校評価安全・美化9割） □効率的な予算執行及び適切な文書管理	○①②東日本大震災を教訓にすべく、毎月11日を中央小安全の日に設定。安全点検やミニ指導を実施できた。夏には、全職員で廊下にポリッシャーをかけワックスを塗ったり、ランチルームを活用できるようにした。 □①学年会計に保護者の協力を得て、監査を導入することができた。説明責任を果たせる会計になってきた。 ②文書主任を中心に廃棄が進んだ。事務職と効果的な予算執行について精査した。文書保存に係るファイル管理は、一層進める。	B B	・管理棟は老朽化しているが、新校舎同様清潔に保たれており、職員の努力を感じる。 ・毎月11日を青木中央小安全の日に設定し、定期的に安全点検や防災訓練を実施することは大変重要である。取組を継続し、学校が地域で一番安全な場所であることを望む。 ・PTA会費の管理について、よい方法があれば、教頭が管理している現行の方法から変えていってよい。 ・整理整頓はされているが、定期的な整理と物品の点検は必要である。 ・不要な物の整理、廃棄を行いながら、子供たちの物を大切にすることを養ってほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
元郷南小	組織運営	○各種主任のリーダーシップを発揮させ、学校組織を確立する。	○体制は整っているが、尺度の統一が必要である。 □確実な報告、連絡相談が実施され、的確な指導・助言を実施した。 △教職員から上がった意見は、積極的に学校運営へと取り入れた。	B	・日常会話で身近な出来事から話せる環境であって欲しい。 ・ ・元郷南は教職員に人数も多いですし体制の統一はとても大変だと思います。校長先生のリーダーシップ、そして学年主任の先生方の方針が大切に思われる。 ・新しいことにチャレンジする1年だったのではないかと感じる。児童、職員、保護者、地域の皆が楽しくなるような皆で作る学校作りができると良いと思う。
	教育課程	○知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進し、学力を向上させる。 □ △	○GIGA端末の活用は進みつつある。 □本校の学力は高い水準で維持しているが、学習規律確立の面では課題が残る。 △基礎・基本の徹底を図る指導を実施したが、個人差が大きい。	B	・知育、体育も必要だが、徳育に力を入れて欲しい。 ・個人差の大きい学力をどのようにつけていくか？先生方の努力がよく分かる。勉強が苦手な子、書き取りが苦手な子等々タブレット等でクリア出来ることに期待す。 ・子どもの様子を見ていると端末操作もかなり慣れてきたと感じます。今後も端末を効果的に利用いただければと思います。
	開かれた学校づくり	○保護者、地域から一層信頼される学校を創る。 □ △	○動画の定期配信を実施し、毎回、9割以上の視聴を得ている。 □学校運営協議会委員から頂いた意見は、積極的に取り入れた。 △学校だより等を利用し、学校の魅力発信に努めた。※保護者評価肯定回答93%	A	・地域行事の参画や地域の方との交流の場を少しでも多く次年度につなげてほしい。 ・コロナもだいぶ落ちついてきたので親が学校へ来る機会も多くなってきたと思う。保護者会だけでなく普段から担任と親のコミュニケーションがとれると良いと思う。 ・コロナもあり地域とのふれ合い行事がなかなか開催できない部分もあるが、何か新しい形での会が開催出来ればとも感じます。
	教職員の資質向上	○各種研修会への参加を奨励し、先進的な取組に触れ、資質・能力を向上させる。 □業務改善と意識改革の両輪で働き方改革を強く進める。 △	○人から見られる授業研究を実施した。 □校内の死角検索や更衣室トイレの点検等を取り入れた研修を実施した。 △教職員の声を生かした業務改善を実施した。	B	・研究発表会では多くの方々が来校されるなかで児童と共に様々な挑戦に挑み笑顔ある授業が発表できたと思う。教員の皆さんもさらなる向上心に繋がったのではないかと感じる。児童も良い経験の授業であったと思う。 ・保護者からのアンケートに目を通すと担任の指導の差に不満がありそうである。学年主任がリーダーとなり宿題の量の統一、指導の進め方等、学年のチームワークが大切だと思う。 ・難しいことかもしれないが職員数に余裕があれば職員の心にも余裕が持て業務改善につながるのではと思った。
	施設・設備等の管理	○教職員の危機管理意識を高め、保護者と連携した安全点検を実施する。 □予算運用を適正に行うとともに、諸表簿、会計事務の適正な管理を行う。 △	○修繕が必要な箇所は即時に修繕を実施した。 □予算運用へ積極的関わり、図工関係備品の充実を図った。 △子供の作品の定期展示を実施した。	A	・子供たちの作品展示はなかなか興味深く良かったと思う。継続していただきたい。 ・ ・新校舎になり10年以上が経過し修繕を必要とされる場所もある。安心・安全性の高い施設運営を実施し、自らできる清掃の徹底で維持管理をお願いする。 ・

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝西小	組織運営	○校長・教頭・教務主任・主任を中心とした組織的・機動的な教職員体制の構築	○校長だよりや職員集会等を通して方針を周知し、都度対応。欠員が生じる中、カバーし合って学校運営を行った。（職員自己評価9割）	A	・全般的によくやっている。 ・職員が共通理解のもと組織としてまとまって学校を運営し対応していたと思う。 ・教員の確保をしっかりとお願いしたい。欠員が出てしまい、なかなか担任が決まらなかった。
		□全教職員の学校運営参画意識の醸成	□職員の意見を集約し、業務改善を行っている。（年3回委員会実施）	B	・概ね評価できる。
		◇経験5年までの若手の育成と3年後校となるミドルリーダーの育成	◇若手教員が率先して研究授業を行うなど指導力を付けている。中堅職員は、積極的に学校運営にかかわった。	B	・人材育成、特に若手教員の育成はとても重要である。
	教育課程	○ポストコロナを見据えた教育計画の精選・修正	○コロナ禍での実践を生かした教育効果を上げる学校行事と教育計画を実施した。	A	・学校やPTAの努力もあり、学校行事、学校の役割や在り方を見直してきた。適切に必要な対応である。変えることは大変かつ勇気が必要だが、説明して実行することで受け入れてもらえる。
		□学力学習状況調査において、本校の学力の伸びが県平均の伸びを上回る。	□調査の分析と家庭への文書配布による啓発、3年生以上での学年内一部教科担任制を実施。GIGA端末の活用は、利用頻度が高まった。（学力の伸び：県平均以上）	B	・教職員評価から、ICT、タブレットの推進がこれから伸ばしていける部分かと思われる。若手教員が先頭に立って推進できるような仕組みを作れるとよいのではないか。・コロナ明けGIGA端末の活用が減少しないように取り組んでもらいたい。
		◇新体力テストでA～Cの児童を県平均（78.4％）以上にする。	◇年3回の授業研究会や体力向上委員会と軸とした取組を実施した結果、県や市の平均を上回り、A+B+Cの児童が80.9％を達成できた。	A	・学力調査や体力テストが平均を上回っているのは、取り組みが実ったものと思う。すぐに上がるものではないと思うので来年度につなげてほしい。
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動の積極的な情報発信定期的な情報発信	○HPを充実させ、児童の活動の様子が伝わるように努めた。（保護者評価9割以上）	A	・毎月の学校だよりやHPの更新頻度など学校の状況がより分かりやすくなっている。・かつて課題だったHPの充実は素晴らしい。・今後活用するスクリーンも使い子供の様子を情報発信していただきたい。
□地域との連携活動の推進と学校応援団の活動の充実		□地域町会の行事再開やPTA組織の見直しに伴い、連携を図れるように活動した。学校応援団の活動も昨年度より増加している。	A	・町会としても、協力していく。さらに連携を図っていきたい。 ・保護者とう連携するか、家庭教育あつての学校教育である。保護者の意識が高まってくるとよい。	
◇地域の中学校との連携活動の充実		◇小谷場中との教職員合同研修会、芝西中学生徒による挨拶運動を実施した。	B	・さらに交流を進めていけたらと考える。2校の中学校区合同での連携も考えていきたい。	
	教職員の資質向上	○キャリアに応じた教師の資質向上とチームワーク力による、継承と実践力の向上 □自己の時間と健康の管理意識を高めさせる。	○年次研修や年2回の管理職授業訪問を実施した。指導助言を行い、指導力の向上につながった。 □欠員が生じる体制の中、カバーし合って学校運営を行った。（教職員自己評価9割）	A B	・同じ学年でも授業の進み具合、宿題の量などが違うと子供たちから聞いた。差が出ないように改善してほしい。 ・人員が足りない中で教職員の評価が高いのは、教職員同士の意思疎通ができていないからではないか。
		◇学級経営や生徒指導、保護者対応などの職員研修を実施	◇日常の管理職による教室訪問や教職員からの報告等を通して、学習指導や生徒指導の様子を把握し、適時助言した。	B	・縦構造にならず横連携でチームワークよく、カバーし合っている体制が整っている証拠 ・概ね評価できる。
	施設・設備等の管理	○計画的・日常的な安全点検の実施と即時対応、計画的な修繕計画の立案 【学校事故0】 □危機管理マニュアルの修正と教職員への周知徹底	○児童は黙働清掃を行っている。緊急性を鑑み優先順位をつけながらプールなどの修繕を行った。（学校事故0） □マニュアルと会計業務を改善した。集金業務電子決済を導入。情報機器の活用増加に伴い、教職員の情報セキュリティの見直しを行った。	B A	・安全にかかわる部分は修繕が急がれる。見極めが重要である。 ・子供たちに必要な修繕は市に要望し早期対応を。 ・地域としても働きかけていく。 ・災害発生時、実際にたどうするか。水や物資の保管場所をわかりやすく整理整頓しておくことが必要。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝南小	組織運営	○職員一人一人のモチを十二分に生かした学校経営を行う。 ・学校評価（教職員）の該当項目A+Bで100% □児童一人一人に寄り添った学校経営を行う。 ・不登校児童数・欠席日数3割減 ・いじめ解消率100% ・むし歯治療率60%	学校評価（教職員）97% ①②年度当初・中間・最終面談で全職員の目標・進捗状況・成果と課題を確認。③職員の意見を聞き調整しながら学校運営を行った。 不登校3名186日→8名549日 ◇いじめ解消率100% ◇むし歯治療率46.8%→67.7% ①②連携は密に行っているが不登校増加。③治療率は増加したが、まだ低い。	B B	・別室登校の児童はいるか→常時別室で過ごす児童はゼロ。通常学級の児童が支援学級で過ごす、短時間保健室で過ごす、別室からオンラインで授業に参加する、ということはある。個々の児童の状況に応じて対応している。
	教育課程	○教職員の授業力・学級経営力の向上を通して、児童の学力・体力を向上させる。 ・県学テ 国算ともに4・6年県平均、5年県平均+3点 ・体力テスト A+B+Cで77%以上 □ポストコロナ時代の教育活動を推進する。	小4国算県平均未満、小5国+4.4、算+1.7、小6県平均以上 ◆体力テA+B+C73.2% ①②③④成果は出せなかったが、取組はどれも有意義だったと考える。 ④他校の情報も参考に、職員と検討を重ねながら1つ1つ丁寧に進めてきた。	B B	・特になし
	開かれた学校づくり	○学校と家庭・地域が一体となって子供を育成する環境を実現する。 ・学校評価（保護者）の該当項目A+Bで95%以上 ・学習ボランティア年間150名（読み聞かせ・図書整理を除く）	学校評価（保護者）82.7% ◇ボランティア・外部講師238名 ①HPのUP回数はだいぶ増えた。②③PTAボランティア制はスムーズに移行できた。協力多数。	B	・地域人材の活用：クルド料理の出張講座が可能→家庭科や総合（異文化理解）で取り入れることを検討する。
	教職員の資質向上	○職員一人一人の危機管理意識を高め、事故ゼロを維持する。 ・職員事故ゼロ □「芝南小業務改善スタンダード」を推進し、職員にとって働きやすい環境をつくる。 ・時間外勤務80時間超の職員ゼロ ・時間外平均在校時間22時間以下	○教職員事故ゼロ ①事故防止研修は全員で実施。②規律と居心地の良さが同居した職員室になっていると感じる。 □80時間超ゼロ ◆時間外平均22:17（12月末現在） ①②エンペイ・コードモンは大変スムーズに運用できている。プレミアムフライデーは取得者が少なかった。	B B	・特になし
	施設・設備等の管理	○計画的な修繕の実施と安全な教育環境の維持に努める。 ・施設事故ゼロ ・校内の不要品ゼロ □適切な予算運用と会計事務の実現を図る。 ・会計事故ゼロ ・未納ゼロ	○施設事故ゼロ ◇校内断捨離完了 ①トイレ老朽化への苦情多数。②年度未完了予定。ことばの教室も増設。③児童のボランティアと共に草取り・断捨離実施。 □会計事故ゼロ ◇教材費・給食費は年度末までに完納 ①予算執行・監査は計画通り実施。②事務・担任・校長が協力して未納ゼロに向けて督促中。	A A	・体育館開放団体の一員として利用しているが、トイレで赤茶色の水が出ることもある。何とかならないか→配管・トイレの古さについては児童・保護者からも苦情が多数出ている。引き続き市に強く要望していく。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
神根東小	組織運営	○経営方針に基づいた教育活動のため参画意識をもち、校務分掌組織を充実させる。 □温かい心の通う学級経営をする。	○教員に大小は問わずに一人一改革を奨励し意識させ、学校運営に対する参画意識を高めることができた。 □教職員が丁寧に対応し、温かい学級づくりをしている。課題の発見、解決や個に応じた対応が速やかに行われている。不登校の児童への丁寧な対応は引き続き必要である。登校渋りから好転傾向になり、徐々に教室に入れるようになってきた児童もいる。	A B	・一人一改革の取組は良い。 ・一改革の内容を教師間で公開しても良いのではないか。→やりたいことが広がる。 ・削減することも改革と捉えて良い。減らしていくことも大事である。 ・一人一人に寄り添い、丁寧な対応をしているのは良い。
	教育課程	○授業時数の確保と学習内容の確実な定着、学びの共同体の推進を図る。 □家庭学習を有効活用した確かな学力の定着と向上を図る。 △ I C T（GIGAスクール構想）を活用した授業、学びの共同体の実践による学力向上を図る。	○授業時数は確保の見込み。質的管理においても聞き合い・認め合う授業の実践、ICT活用や情報共有等を工夫し概ね良好であった。 ○学力、体力ともに昨年度以上の結果が出た。 □タブレット端末に関する内容を含む「家庭学習の手引き」を配布した。また、年度当初の懇談会にて担任より説明もした。 △タブレット端末活用もしながら「学びの共同体」の実践ができた。	A B A	・先生方がいい授業をしている。 ・学力が上がっている。 ・子ども達に力がついたことを知らせると良い。＜発信＞ ・いろいろな体験をさせた方が良い。
	開かれた学校づくり	○情報発信と評価・改善を確実にに行い、「保護者から信頼され、地域とともに歩む学校づくり」を推進する。 □保護者、地域の学校応援団等の有効な活用を進める。	○委員の皆様には学校運営協議会に関する情報を配布し、学校経営に理解を得ることができた。学力向上や避難所開設、学校PR、いじめ対応等については親身にご意見をいただいた。 ○毎週1回の学級通信を発行した。HPも改善しているが、更なる内容検討、更新頻度の向上が必要である。 □登下校の見守り、安全面での学習支援（田んぼ、ミシン、地域での学習）を保護者にはしていただいた。学校応援団としては、読み語り、書初め指導、福祉の指導等で入っていたいた。	B B	・保護者からの様々なご意見等に対しても、学校がしていることや学校の状況を背景的に発信していった方が良い。 ・地域の方の活用は大変意義がある。子どもが伸びる。 ・学校応援団の活用はどんどん積極的に行うと良い。 ・交通安全、外国人労働者への対応、不審者対応、児童の下校の仕方を注意したい。
	教職員の資質向上	○学校課題研究の取組をととして、教職員の指導力を向上させる。（学びの共同体） □サービスの厳正を図り、教職員事故防止の徹底を行う。	○「学びの共同体」の授業を積極的に展開した。各教員がテーマを決め、研究授業も年3回実施した。外部指導者も招聘し、成果や課題が明らかになってきた。 □倫理確立委員会主催の研修会は年間16回実施でき、教育公務員としての自覚を促すことができた。また、新聞記事等も活用し、日常から指導してきた。	B A	・子どもが生き生きのびのびしていて良い。 ・教職員のチームワークは良さそうである。 ・負担の「見える化」をしたら良いのではないかな。 ・
	施設・設備等の管理	○健康に係る衛生管理と、安全管理を確実に進める。 □教育効果を高める備品の購入、修理修繕を行う。	○安全点検の実施と毎日の管理職の校内巡回により、要修理箇所の速やかな対応が図れた。 ○感染症等に対応した衛生管理、指導と教科指導の共通理解・共通指導ができた。 □教育効果に関わる備品購入や校舎等の老朽化に対応した修繕を計画的に実施できた。 （新しい遊具購入、網戸の設置、枯れた樹木の伐採、放送設備の修繕等）	A A	・安全面の心配については、行政への協力を仰ぐ。教育委員会と高いレベルで検討を。 ・学校がしていることや対応について、保護者への啓発をしていった方が良い。積極的なアピールを。 ・不審者対応を考えれば、熊用スプレー等も学校に準備しておいても良いのではないかな。 ・今後は、外国籍の児童（家庭）への対応も考えていく必要がある。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価		学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況		
朝日東小	組織運営	○人材育成を基盤とした分掌等役割分担の徹底と、意欲喚起による教職員の経営参画意識の醸成に加え、経営方針をP D C Aサイクルに反映させて推進する活力ある学校経営の確立	○P D C Aサイクルを活用した学校経営ができたことで、教員一人一人が見通しを持って様々な教育活動に取り組むことができた。 ○企画委員会を活用することで、主任が責任を持って業務を完遂する等リーダー育成に繋がった。 ○学校行事の復活が教員一人一人にヤル気と責任感を育み、その教員の成長に繋がった。	B	・経営参画意識の高揚を図るための、企画委員会や教科部会等ミドルリーダーが力量を発揮できる場面を創り出したことは良かった。 ・教員によっては意識・意欲に差が見られることも事実。意識の低い教員をどう育てるかが、今後の課題。
	教育課程	○主体的・対話的で深い学びを軸とした授業実践 □教科担任制導入とGIGA端末稼働率向上、朝東っ子スタンダード活用による学力の向上 ◇積極的な生徒指導の充実と教育相談体制の確立	○& □教科担任制や専科教員による、各教科指導の充実、「分かった」「楽しい」「得意になった」という児童の声の増加、複数の目で見る問題行動の未然防止、悩み等のS O Sの早期発見 □朝東っ子スタンダードの活用とGIGA端末の稼働率向上 ◇生徒指導・教育相談、就学相談やインクルーシブ教育、日本語指導や地域連携の充実・機能向上	A A A	・教科担任制による指導で、子どもたちの学習に対する主体性が高められていた。 ・教科担任制や専科教員による指導体制は素晴らしい。複数の目で観察するメリットを実感したからこそ、次年度以降も、一層の充実を図ってほしい。 ・道德の重要性を改めて感じた。文化の違う外国籍児童へも指導の徹底を。
	開かれた学校づくり	○「学校で学び 家庭でしつけ 地域で育む 朝東っ子」実現を目指した繋がり復活等、保護者・地域との連携の一層の強化 □保幼小中の連携教育の推進 ◇	○懸案事項だった学校応援団の再構築が図られ、組織が整備された。 ○学校だよりやHPをはじめ、新規開設の視察日等様々な手段により、本校の教育活動を広く広報できた。 □当協議会が定着し、関係機関にも常時ご協力いただけたことで、該当児童・該当家庭の情報が共有され、漏れの無い支援に繋がった。 ◇	A A	・学校応援団が再構築されて良かった。 ・地域資源のより一層の活用を。依頼があれば、我々はいつでも協力する。 ・保幼小中・民生委員との連携は大切。横の繋がりをより一層深めた方がよい。
	教職員の資質向上	○常に学び続ける教師を目指し、教育公務員としての幅を広げ、自覚と力量を高めることで教師力の一層の向上 □組織として機動力を向上させるチームワークづくり	○今年度は様々な教育活動の復活により、教員一人一人が多くの業務を経験し、力量向上が図れた □一方、元々病気や課題を抱えた教員への対応や支援方法には、かなりの課題が生じた。組織での取組や、関係諸機関との連携の必要性を痛感した一年だった。	B B	・先生方の表情が明るく、良い雰囲気だったので、子どもたちも嬉しそうだった。教員不足とともに、若手等も増えている中、人材育成は急務。 ・課題があると分かっているにも関わらず配置されるという事実が信じられない。
	施設・設備等の管理	○「安全・安心」に視点をいた安全管理の徹底 □継続した修繕、効率的な予算執行	○報告或いは発見次第、可能な限り修繕を行った。また、毎日一回は校内を巡視し、施設の状態の確認、早期発見と迅速な改善に努めた □& □直しきれない大規模修繕や素人では判別できない危険箇所は、どう安全を担保していくか今後の課題	B B	・働き方改革を踏まえたうえで、従来の教員が担ってきた学校文化の継承を。 ・修繕件数が増加傾向にあることを踏まえると、本格的に校舎の建て替えを要望している段階にあると考える。 ・予算執行は、引き続き事故ゼロでお願いしたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝富士小	組織運営	○目指す学校像に向かって児童のやる気を育て、教職員の意欲を高め、家庭の教育力を向上させる。 □児童の可能性を最大限伸ばす効果的指導の組織的展開を実現する。	○一人一授業を行い、多数の教員で見合うことで、研究協議の質を高めるとともに授業の質を高めることができた結果、授業力を向上させることができた。 □それぞれのプロジェクトチームで「かしこくなるプロジェクト」「びよんぴよんタイム」「芝虹っ子」等の実践が児童のGRITを伸ばす原動力となった。	A A	・全体としてよく取り組んでいると感じる。 ・本取組はとても良い活動であると感じる。今後とも継続していただきたい。
		○本校の実態に即した学習計画を模索しながら思考力を育てる授業力を育成する。 □行事計画の見直しとモジュール学習、教科担任制の実施と検証を行う。	○授業観察から児童の実態を把握し、教員の授業力向上を支援することができた。 □効果検証は学年主任会等で実施したが、なかなか十分な時間をとることができず、具体的検証までたどりつけなかった。	A B	・学級担任以外にも支援員等を有効に活用し、一人一人の児童に目の行き届く教育が実施されていると感じる。 ・教科担任制の成果については、わかりしだい教えていただきたい。
	開かれた学校づくり	○地域に根差したよりよい学校の在り方について、学校運営協議会等での活発な意見交流を行う。	○HPの更新回数を増やして情報発信を行った。地域との交流が復活し、児童に地域の一員である自覚を感じさせることができた。	B	・昨年度よりは、HPの更新頻度が上がったので見る機会が増えた。
	教職員の資質向上	○校内研修を充実させ、教職員が主体的に授業改善に臨めるよう環境を整える □委嘱研究発表に向け、『チーム芝富士』として、一丸となって、児童のやり抜く力と学力の向上に取り組む。 ◇	○「ハッとする導入」から始まる授業展開を意識し、児童が主体的に学習に参加し、自ら課題を解決することのできる授業を実践した。 □研究発表会の成功、教職員の授業力改善に結び付けることができた。	A A	・授業参観の中で、授業の展開が工夫されている様子が見られる。子供が生き生きと参加している。先生方がよく努力されている。。 ・特になし
		施設・設備等の管理	○学校応援団を中心として緑化の推進と潤いのある学校づくりを行う。 □地域防災と関連させ、施設・設備の安全確認を行う。 ◇適正な予算執行とともに、会計事故を0とする。	○学校応援団の協力のおかげで環境が整い、児童の自然への関心と収穫の喜びを感じさせることができたのはすばらしい収穫であった。 □警察に來校いただき、不審者対応の訓練を実施した。安全管理をしっかりと行えるよう、実践訓練ができた。 ◇相互点検の実施により、会計事故0。	B B B

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
前川東小	組織運営	○各主任のリーダーシップ発揮により、校務組織を活性化させるとともに、分掌間連携を推進する。 □「一人で背負わない」分掌組織の構築と、関係機関との連携体制を構築し、業務の偏りを平準化する。	○管理職への報告・連絡・相談・確認の連絡体制を確立し運営委員会、各会議を中心に行い、運動会や音楽会、開校記念集会等の全校行事を円滑に行うことができた。持久走大会などの精選など、新たな形での教育活動を確立できた。 □「一人で背負わない」生徒指導・教育相談組織的体制を構築し、複数対応を徹底することができた。 □本校独自の関係機関早見表を作成、活用し不登校児童支援率100%を達成した。	A A	・先生方の雰囲気は明るい。組織が生きている証拠である。 ・生徒指導、教育相談体制が全教職員で実現できて良い。 ・今年度の報連相の実現は大変であったと考えるが頑張っていた。 ・管理職の適切な指導・助言が素晴らしかった。 ・いじめについての対応では、加害者側の児童に対するカウンセリングを含め、新たな視点からの解決も模索していただきたい。 ・「一人で背負わない」指導、複数対応が一番大切であり、素晴らしい。 ・小学校での適切な対応が中学校での良い方向につながると思う。 ・専門的な取組を含め、全体でバランスよく対応されている状況が伝わってくる。
	教育課程	○学校研究を軸としながら全教育活動において、児童の非認知能力を育成する。 □各種学力・学習状況調査のデータ分析を生かして授業改善を行う。	○研究推進委員会を中心に、一人一授業や講師を招聘した授業研究、ICTを活用した授業の展開等により、非認知能力育成を重点とした授業改善を実行できた。 □県学力・学習状況調査のデータ分析により、個別最適な支援の仕方を共有、実施することができた。	A B	・外国籍児童に対しての日本語指導、生活支援の充実が今後も必要と考えます。地域でも支援ができればと考える。先生方は頑張っている。 ・外国籍児童の対応については、難しい面を様々な工夫で対応しているので頭がさがる。 ・児童を中心に置いた施策の実施を従来にも増してお願います。 ・地域から見ると、教育課程はわかりづらい部分がある。 ・授業のコマ数削減に向かっていることが分かり、今後の動向に注目する。 ・教育の内容が高度化し、GIGAの導入や外国語など量的にも増えている中、小学校でも教科担任制の導入が必須であると感じる。 ・教育課程の充実、学校にとって中心となるもので、大きな視点をもって小さな積み重ねの努力をしていることが前川東の良さと感じる。
	開かれた学校づくり	○家庭や地域に積極的に情報を発信し、学校の課題を共有しながら「安心・安全」な学校づくりを実現する。 □保護者、地域、外部機関等の教育力を持続可能な形で取り入れ、「本物に触れる」教育活動を確立する。	○学校運営協議会を生かして、アフターコロナの学校運営に反映することができた。運動会では、地域・保護者を主に、熱中症予防としてテント20張を児童席に設置するなど連携を図ることができた。また、避難所開設会議で非常変災の対策が整った。 □「昔遊び教室」「市内巡り」「ベーゴマ体験教室」「尺八体験」等、学校応援団の活用、講師の招聘により、多様かつ継続可能な実施方法で「本物に触れる」教育活動を確立できた。	B B	・保護者の方が先生とお話している姿をよく見かける。距離の近さを感じる。 ・町会でテントを張る協力などを得るのはよい取組である。 ・避難所開設時の防災用具の実際の使い方を知る機会が必要。 ・学校応援団の活用において、各町会長にあてた感謝の手紙に町会長になりたいとあり、感謝の気持ちと次年度も学校応援団として頑張っていく気概を得た。 ・学校ホームページのトップ等、改善が必要である。目的の手紙になかなかとり着けない。 ・生活様式に変化が生じている状況下で、何を残し、何を新しい形で取り入れ全体を整えていくについて、学校としての工夫が見られる。 ・「相談しやすい体制」の保護者評価76%には、保護者の認識と関心の差を感じる。 ・相談しやすいように工夫が必要である。 ・「昔遊び教室」等の開催は児童にとって興味があることと思う。 ・特別支援学級の設置はインクルーシブ教育への前向きな取組として評価できる。
教職員の資質向上		○互いのよさを吸収しあい、指導力を高め合える教職員集団を形成する。 □児童、保護者、地域に信頼される、高い倫理観をもつ教職員集団を形成する。	○非認知能力育成を重点とした授業改善を実行することができた。「楽しく分かりやすい授業の実践」の学校アンケートに対して、90%を達成した。 □時節に応じた事例研修や研修プログラムの実践を行い、教職員事故0を達成することができた。	A A	・今後も子供たちを第一にお願いしたい。 ・心の余裕のためにも、時間的余裕を確保するための対策を優先すべきと考える。 ・働き方改革での「バカンス休暇」はとても良い事と思う。 ・仕事量と使える時間とのバランスが難しいと感じるが、子供たちのため、先生たち自身のために良い働き方が生み出されることを願う。 ・教職員事故0を継続してほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	施設・設備等の管理	○高い危機管理に基づいた安全な学校づくりを実現する。 □優先順位を見極めた予算運用と予算執行状況の定期的な確認を実施する。	○不審者の侵入に備え、渡り廊下に防護柵を設置するなど設備を整えたり、児童に対する不審者対応策のビデオ作成・視聴を行い訓練したりして、近年の事件・事故に備えることができた。 □予算執行について複数で確認し、計画に基づいた執行を適切に行うことで、会計事故 0 を達成することができた。	B A	・防護柵の設置がよかった。 ・門扉閉鎖等対策が着実に行われている。 ・災害時の防災拠点として、地域と災害訓練をしていきたい。 ・AED設置の周知と使い方講習の実施の必要がある。 ・安全に配慮された維持管理が行われていると感じる。保護者にも学校の姿勢や取組はしっかりと伝わり信頼関係に繋がっていると感じる。 ・学校周りの清掃等が見事である。 ・校務員の努力によって校内だけでなく、学校周りも大変きれいに整備されていて感謝である。 ・災害時の拠点として常にチェックが必要である。 ・子供 1 1 0 番について、確認や見直しが必要な部分がある。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
柳崎小	組織運営	○ポストコロナのもと、組織力を生かした学校経営、運営に努め「めざす学校像」を実現する。 □教職員の学校運営に参画する意識を高め、「めざす学校像」を実現する。	○コロナ禍前とコロナ禍で学んだことを融合しながら学校経営にあたることができた。また、行事についても見直しを図りながら計画・運営ができた。 □全教職員が、学校目標の実現のために、本校の課題を共通理解し、共通行動を行い、教育活動にあたることができた。	A A	・行事実施の苦労もあったかと思うが、見直す機会にもなったと感じた。 ・学校が一枚岩となっている。 ・運動会が大変すばらしかった。 ・校長の学校経営方針のもと、教職員がしっかりと教育活動しているのがよくわかった。
		教育課程	○子供たちが分かったできたといった実感ができるような授業を構築していく。 <		

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝樋ノ爪小	組織運営	○学校課題に対する共通理解・共通指導に基づく組織的対応を実現する。 □本校校訓「至誠」の具現化を実現する。	○全教職員の共通理解に基づく組織的対応を実現できたが、課題解決にまでは至っていないのが現状である。 □変容は見られたが、対応に校訓「至誠」は反映されているとは言えない状況である。さらに教職員の意識改革を推進していく。	B B	・学力向上・生徒指導の充実の成果に期待する。 ・小規模校の特性を生かし、一人一人の学力向上に踏み込んでほしい。 ・目指す学校像の具現化に向け、行動規範を明確にしている点が素晴らしい。 ・児童の自尊感情を高める学校を実現してほしいと切に願う。 ・ゆっくりではあるが、確実に反映されているように感じる。 ・充実度を高めることが至誠の実現につながると思う。更なる意識改革を願う。
	教育課程	○GIGAスクール構想による授業へのICT活用を推進するとともに、児童の学力向上に資する取組を充実させる。 □「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を推進する。	○1日3回以上の教室訪問を実施し、教育課程の確認、見届けを実施した。学校課題研究との連鎖は現状では道半ばである。 □学期ごとに1単位時間の教室訪問を実施した。フィードバックにより、授業改善に係るPDCAサイクルの確立を実現できた。	B B	・徐々にではあるが、教室訪問の成果を感じる。 ・1日3回以上の教室訪問は児童にとっても教員にとっても有益である。見守りを継続してほしい。 ・外国籍の児童が増えている。芝樋ノ爪小が異文化共生のモデル校となしてほしい。 ・PDCAサイクルを活用し、継続した取組をお願いしたい。A評価でよいのではないか。 ・学習面のみならず、児童の生活面においても指導をお願いしたい。 ・現状で満足せず、レベルアップを目指した意識の高まりや浸透ができるとさらによくなる。
	開かれた学校づくり	○正確で迅速な情報提供を行うことで、学校・家庭・地域の連携体制を確立する。 □学校運営協議会のさらなる充実により、「地域とともに歩む学校づくり」「地域に根差した学校づくり」を実現する。	○HPを日々更新できた。不審者情報や校外学習時等、保護者緊急メールを活用できたか、工夫改善を要する。 □学校運営協議会を年間4回実施できた。地域に根差した学校づくりへの一助となった。	B B	・芝樋ノ爪小のHP更新は素晴らしい。日々の更新を継続してほしい。 ・連携体制の確立は、HP、メールを含め最大限にやっていただいている。 ・地域に開かれた親しみあふれる学校である。 ・学校運営協議会での意見がすぐに反映されておりうれしく思った。 ・学校・家庭・地域の密接な連携をお願いしたい。 ・今後、地域の参加できる学校行事が増やせるとさらによい。
	教職員の資質向上	○学校課題研究を基盤とした個々の教員の指導力向上を実現する。 □心身ともに健康で、高い倫理観を備えた教職員集団の形成を実現する。	○手立ては講じたが組織の活性化や教師相互の主体的な学び、全教職員の共通理解に関して課題が残った。 □全教職員を対象とした川口市メンタルヘルスカウンセラーとの面談を実施できたが、1名が長期病気休暇を取得後退職した。	B B	・今後も個々の指導力の向上を実現してほしい。 ・教員の指導力向上は、学校課題の解決に直結する重要項目であると認識している。 ・指導力向上も大切だが、まずは児童が楽しく通える環境づくりをお願いしたい。 ・川口市メンタルヘルスカウンセラーを活用したことは素晴らしい。 ・児童のためにも心身ともに健康な教職員の育成は欠かせない。 ・引き続き、無理なく教職員の健康管理の把握をお願いしたい。
	施設・設備等の管理	○教職員の「変化に気づく」危機管理意識を向上させる。 □教育環境の整備・充実のため、計画的・効果的に予算を執行する。	○換気を要とした感染症予防を実施し、油断や慢心のない組織としての危機管理意識を高めることができた。 □1日3回以上の校内巡視により、修繕必要箇所の即時対応を実現できた。瑕疵による事故ゼロを実現できた。	B A	・児童のためにも、地域住民のためにも、教職員の危機管理意識は継続して高める必要がある。 ・悪臭のある教室棟トイレの改修工事を検討し、実施してほしい。 ・引き続き、感染症対策をお願いしたい。 ・老朽化は仕方ない。引き続き危険箇所の早期発見により、事故を未然に防いでほしい。 ・学校施設による事故ゼロの徹底をお願いしたい。 ・素晴らしい取組である。継続してほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
新郷南小	組織運営	○教職員自己評価「全ての項目」において、A + B 評価 1 0 0 %を実現する。	○①企画会議において、学年主任を中心に「自分たちの手によりよい学校をつくる」という意識が根付き、ボトムアップ型の組織ができてつある。 ②ベテラン、ミドル層の教職員が若手教職員を適切に指導しながら見守り、若手教職員は生き生きと仕事に取り組める環境で、学校運営への参画意識が醸成された。 （教職員自己評価 A + B 11項目中9項目で100%達成）	B	・ボトムアップによる組織づくりはメリットが多いと思うが、多くの相反する意見を調整したり、スピード感がなくなったりすることがあると思うので、バランスよく組織運営を行えるとよい。 ・若い教職員が増えている中で、組織の中核となるミドルリーダーを育成することは簡単ではないが、組織の中でしっかり育成してほしい。
	教育課程	○学校関係者評価「確かな学力の定着」の項目において、A + B 評価 9 0 %以上を実現させる。	○①全教員が、それぞれのテーマを持ち、主体的に授業を公開し、互いに切磋琢磨することで、授業改善を進めることができた。また、児童の学力を着実に伸ばすことができた。（県学調結果参照） ②教科担任制により、教員一人ひとりの得意や専門性を十分に活かし、より深い教材研究を行うことで、児童の学びを深めることができた。 （学校関係者評価 A + B 94.3%）	A	・教科担任制の効果として、教職員が様々な観点から子供たちと接したり、評価したりできることがある。その結果、子供は、自分のよいところを理解してもらえる機会が増え、困ったときに相談しやすい環境である ・保護者の視点からも、教科担任制で教職員の得意を活かし、学年内で統一した指導が徹底されることで、学力の定着という部分においても安心感がある。
	開かれた学校づくり	○学校関係者評価「相談・情報発信」（開かれた学校づくり）の項目において、A + B 評価 1 0 0 %を実現する。	○①運動会や音楽会などの学校行事や P T A と連携したしんニャンまつりについて、新しい形（時間・時期・回数・内容など）を模索しながら実施することができた ②学校応援団組織を再編制し、保護者、地域の30名の協力を得て、活動を軌道に乗せることができた。 （学校関係者評価 A + B ） （行事99.5% 相談88.6% 情報発信93.9%）	B	・保護者が教員に相談するためには、学校の教職員の顔と名前が一致していることが必要である。P T A の広報誌は引き続き保護者に配付をお願いしたい。 ・保護者同士の横の繋がりが弱くなっているので、学校がハブとなり、一緒に活動することで横の繋がりを広げていけるとよい。
	教職員の資質向上	○在校等時間において、前年度比 1 0 %以上縮減を実現する。	○①教職員と常に相談しながら、学期始めや学期末の授業時数の削減など、積極的に負担軽減策を実行し、労働環境を整えることができた。 ②勤務時間やアニバーサリー休暇（計画年休）等に見える化し、毎学期取り組むことで、一人ひとりの働き方改革に対する意識を高めることができた。 （在校等時間前年度比－10.5%）	A	・目標に向かって具体的な手立てを立てて取り組んでいることがわかる。働き方改革を行うことで、本来の教員の業務である授業や子供たちと生き生きと接することに専念し、教職員も子供たちも笑顔になれるように続けてほしい

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	施設・設備等の管理	○施設修繕の実施を100%行う。また、教職員からの購入希望備品を各教科80%以上実現する。	○①施設修繕の優先順位を決め、児童用トイレの様式化を3か所、安全面強化のため、職員玄関のインターホンを設置することができた。 ②集金業務を電子化したことで、担任の負担を大幅に減少させ、授業準備の時間を充実させることができた。エンペイの保護者満足度は、98.2%の肯定的な意見をいただき、概ね理解を得られたと捉えている。	A	・外トイレの扉や放送設備の音響不備、校内の照明の明るさ不足など、学校に足を運んだ際に気になることがあるので、子供たちの安全、安心のため、今後も引き続き環境整備に力を入れてほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
上青木南小	組織運営	○ポストコロナにおける創意工夫のある教育活動を組織的に作り上げていく。 □◇不登校・不登校傾向児童の個々の状況に応じた策を講じ、不登校数を減少させる。	○運動会や音楽会等、主任の積極的な改善案のもとポストコロナを意識した方法で実施した。 □不登校児童の状況に変化なし。昨年度不登校傾向の児童は登校改善できた。	A B	・運動会、音楽会等、ポストコロナを意識した学校運営がしっかりできていた。行事を通して子供たちの生き生きとした姿が見られた。 ○引き続き、感染拡大に備えた対策を。 ・不登校対策は個別のケースによって違うが引き続き取り組みを。 ◇不登校の原因は家庭等学校以外にも多いと思われるが、こまめなアプローチを継続してほしい。 ◇不登校は個人差はあれ改善傾向が見られよかった。 ・「保護者の相談に適切に対応し信頼を得ている」が高い数値だったので期待している。
	教育課程	○各学校課題の解決のため、創意工夫ある教育課程を展開していく。特に、学力向上のための授業の充実を図る。	○アウトプットと協働的な学びを重点として創意工夫した授業展開を図った。 ○全学級において、G I G A 端末の活用を取り入れた授業を実施し継続している。 ○体力向上については、各取組を継続。	A	・GIGA端末の活用がスムーズに進んでいる。 ○創意工夫ある授業、興味を引き出す授業等、楽しい学びができています。 ・学力向上」に関する研究発表の様子を紹介していただき指導方法の工夫がよく分かった。大人もアウトプットが必要と感じた。 ○自己評価の結果も踏まえて、更なる工夫を期待する。 ・学校教育は学力・体力の数値だけで測れるものではないが、県や市の平均を下回る状況ではない。引き続き創意工夫により改善を。 ○時代に応じた取組から子供達から教わることも多い。
	開かれた学校づくり	○児童及び教職員の姿を、保護者、地域に積極的に発信し、信頼され、誇れる学校づくりを推進する。 □学校応援団の活用等、保護者や地域と連携した教育活動を実践していく。	○学校運営協議会は新たに給食試食会及び研究主任からの説明を取り入れた。 ○連絡アプリ「コドモン」を9月から導入し情報発信で効果を上げた。 □各学年で保護者の学習支援を取り入れ、安全確保や学習の充実を図れた	A B	・地域の人達にとって、南小が地域の「誇れる学校」であり続けてほしい。そのための充実を。 ○連絡アプリ「コドモン」が学校・児童（家庭）のコミュニケーションにどう活用されていくか楽しみである。 ・コロナ後、保護者・地域と一緒に学校活動に取り組み、学校運営側からも教育の公開が実践されている。 ○◇いろいろな情報をわかりやすく知ることができた。できる限り協力できればと思っている。 ○◇学校・保護者・地域（町会）の役割を明確にし情報共有を。子供たちに影響を与えるための取組を行いたい。 ・普段の学校や子供たちの様子が見られ、保護者の学習支援等学校応援団はよい
	教職員の資質向上	○それぞれの経験年数に応じて個々の教職員の力を高める。 ○組織的に指導力を高める。 □働き方改革の推進及び教育公務員としての誇りと使命感をもった教職員を育成する。	○研究発表をはじめ示範授業、年次研修等の機会を生かし指導力を向上させた。 □日課表の改善や教科担任制等を行い在校等時間を縮減できた。しかし、一部の教員の負担軽減には至らず。	A B	・研究発表をはじめ、指導力向上のための努力が素晴らしい。 ○教職員の意識や能力の向上なしには児童の教育の向上も図れない。これまで同様、教職員の資質向上に努めてほしい。 ○身近な地域活動にもっと参加して外の情報も受け参考してほしい。 ○全体で足並みをそろえるものもあるが、南小独特の個性や特徴を伸ばしてほしい。 ・働き方改革は、個人によっても全く異なる。それぞれの先生の自己改革を期待する。小さな工夫の積み重ねを。
	施設・設備等の管理	○老朽化による危険箇所を早期発見し、安全対策を徹底していく。 □学校安全及び感染防止対策・健康維持増進等、計画的・効果的な予算運用を行う。	○管理職や関係主任、事務職等と連携を密にし、施設事故ゼロを継続した。 □計画的に予算を執行した。また、安全や健康配慮に対する整備を積極的に行った。	A A	児童の安全確保のための日々の安全点検に感謝する。今後も施設事故ゼロを。 ○安心安全を何より優先してほしい。 ○校内の廊下・壁等に、子供たちの未来が見えるような言葉や画があり心を温かくしている。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標		重点目標の達成状況	
根岸小	組織運営	○明確な目標設定と共通理解を図り、共通行動、協働体制を強化する。 □効率的な会議の運営を行っていく。 ◇教職員の負担を軽減する。	○各分掌において役割分担や部内検討が進み、組織的運営が図れたが、部によって活動の差が大きかった。 □企画委員会前に資料を配付し学年等で事前に意見を集約することで、教職員の声を生かした協議が行え、職員会議の時間短縮につながった。 ◇全学年での教科担任制の実施により、一部教科での教材研究・授業準備の負担が減らせた。学校行事は、過程を含む全体的な負担の軽減までには至らなかった。	B B B	・風通しの良い職場を作り、経験の浅い先生のフォローをきめ細かくできる体制を目指してほしい。 ・改善までにはどの職種も時間がかかと思うが、少しずつでも改善できるよう頑張してほしい。 ・各学校の校風や児童の気質等が違うのは、組織のあり様に要因がある。「見せたい、なりたい」形をどれだけ共有できたか、その姿が年々各個たるものになり、学校児童の雰囲気がどんどん良くなっているように見受けられるのは、先生方の共通理解の賜物だと考える。
		教育課程	○学習意欲を高め、知・徳・体をバランスよくはぐむ教育課程を工夫・改善する。 □ねらいと評価を明確にした授業の工夫・改善を行う。 ◇落ち着いた学習環境を整えるため、教員の学級経営力・生徒指導力を向上させる。	○「学びの共同体」の理念を取り入れた授業実践により、児童が主体的・意欲的に学習に取り組む姿勢が育ちつつある。 □授業研究会や一人一授業等を通して授業のねらいや方向性が明確になり、日々の授業につながった。 ◇全体的に、児童が落ち着いて学習に臨む姿が見られた。学習規律や生徒指導においては、共通理解が十分ではなかった。	A B B
	開かれた学校づくり	○家庭・地域との連携を深め、日常の学習や行事等において家庭・地域の教育力を指導計画に位置付け、学校教育活動に一層生かしていく。 □学校のよさや取組等を学校ホームページ等を活用し効果的に発信するとともに、家庭・地域の声を教育活動に生かす。	○米作り、読み聞かせ等様々な学習活動において、学校応援団と連携した活動ができ、第4及び第5町会の秋まつりでは金管クラブが演奏を行い地域行事に貢献した。 □授業参観及び学校公開では、保護者の負担を減らし、児童の活動を集中して参観できるよう形態を工夫した。PTAふれあいまつりでは、教職員が積極的に運営に参加し協力した。	A A	・学校を取り巻く環境を生かし、子供たちの健全成長のために、地域の資源（ヒト、モノ、カネ）をどんどん活用してほしい。 ・五感に訴える非日常的体験や自然体験等は努めて提供しなければ得られにくいものになっている中、想根会等と連携してその場が確保できているように思う。それに対する家庭の興味がどれだけあるかも継続していけるための鍵になる。 ・運動会での案内がわからなかった。受付がなく、来賓・敬老席まで迷ってしまった。受付を設置してほしい。
		教職員の資質向上	○人事評価制度を有効活用し、それぞれの能力や適性に応じた指導助言を行いながら、授業力及び人間味あふれる教職員を育成する。 □教職員の倫理意識の維持とより一層の高揚を図り、根岸小における「教職員事故ゼロ」を継続する。	○児童の思考力や表現力を高める授業が多く見られるようになった。一人一人の授業力向上につながっている。 □研修等において、小グループでの協議や標語の作成等を通して意見交流を図りながら、教職員一人一人の意識が高まるよう工夫した。	B B
施設・設備等の管理		○複数の目での確認・見届け体制により、事故防止を周知徹底させる。 □管理職による定期的な点検、優先順位を考慮した修繕対応を適切に実施する。 ◇設備・備品の整理・管理の徹底と有効活用へ向けた工夫・改善を行う。	○毎月の安全点検を確実にを行い、即時対応した。学校だけで対応できないものについては関係機関と連携し、整備することができた。（危険樹木の伐採等） □計画的に予算運用が行え、施設・設備の改善が図れた。 △学校敷地内に田畑を開墾した。児童が日常的に栽培に関わることができ、また、管理もしやすく有効に活用ができた。	A A B	・豊かな自然環境の中で子供たちがいろいろと経験し、将来の生き方、職業に向かっていけるように「場」を作り、学習に結び付けてほしい。 ・老朽化した設備や個所をリストアップし保護者側に開示することによって、自発的にそれぞれの専門分野のスキルを持つ保護者がその修繕について手をあげる、いわば労働力による寄付のようなことは考えられないだろうかと思った。 ・

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝中央小	組織運営	○学年によって指導に差が生じないように、共通理解・共通行動を取る。 □一人ひとりの教職員が前向きになるような雰囲気を醸成する。	○学校全体に関わることは、学年によって指導の差が生じないように努めた。ただし、徹底できないこともあった。 □教職員は前向きに取り組んでいた。児童や保護者の対応では、迅速に丁寧で、誠実に寄り添っていた。	B A	・地域やＳＲＣなどが関わる事案に対し、教職員全員の共通理解、共通認識の共有に努めてほしいと感じます。 ・児童、保護者に寄り添う姿勢はものすごく大変なことです。先生方の日常的な創意、努力に感謝しています。
	教育課程	○本校の喫緊の課題である「学力向上」の取組を強化する。 □「わかった」「できた」「使えた」と児童が実感する体験（成功体験）を積み重ねる。	○朝の活動やモジュールを有効に活用し、言語事項における知識・技能、数と計算に重点を置き、チームティーチングや習熟度別学習を行って、成果が出てきた。 □見通しと振り返りを大切にした授業を展開し、児童の成功体験を積み上げてきた。	A B	・県の学力学習状況調査の結果から、学力が向上していることが分かります。今後も先生と児童の信頼関係を築き、自信をもって子供たちの成功体験を積み上げてほしいです。 ・少しずつ体験活動を充実させてほしいです。 ・小学校の外国語（活動）と中学校の英語の系統性をしっかり立ててほしい。 ・ＩＣＴを活用してペーパーレス化を進めてほしい
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動に対する理解を得る取組を強化する。 □保護者や地域の方々の考えを学校の教育活動に生かす。	○ポストコロナにおける授業参観、運動会、音楽会を実施し、教育活動の成果を見ていただいた。 ・ホームページは、最低限の情報の発信に努めた □懇談会、学校運営協議会、地区民協の児童福祉部会を通して、意見を聴取した。	B B	・ポストコロナの中、出来る限り学校行事等を行おうという姿勢にはとても感謝し、改めて子供たちの成長には行事は大切だと感じました。 ・学校だよりやホームページを活用して、図書の紹介や基本的生活習慣の大切さを啓発してほしい。 ・
	教職員の資質向上	○職員の使命を自覚し、教師力の向上を図る。 □主体的・対話的で深い学びとなる指導法を探究する。	○県教育委員会の指定事業や市教育委員会の学力向上の委嘱を受け、本校なりの学力向上のための指導法や支援について研鑽を深めた。 □対面での対話やICTを活用した対話など、いろいろな授業で実践して本校としての学びを構築した。	B B	・チームティーチングや少人数指導を効果的に活用して、児童の学力向上に努めていただき感謝します。 ・ＩＣＴの導入、オンライン授業などありがとうございます。長期欠席児童に対してオンライン授業を積極的に保護者に勧めていただければ、学びの保障につながると思います。
	施設・設備等の管理	○修理・修繕箇所や危険箇所の有無に対する危機管理意識を高める。 □ポストコロナを踏まえた衛生環境を整える。	○修理・修繕箇所の早期発見に努め、児童の安心・安全を確保することができた。 □パーテーションを撤去し、換気や手洗いの励行を徹底することができた。	A A	・予算等の制限の中で、精一杯努力されていることを感じます。ＳＲＣとしてできることは、お手伝いしたいと考えます。 ・トイレの悪臭が大分なくなったと思います。今後も今の環境を維持してください。 ・学校外周の柵のペンキ塗りをおやじの会とＳＲＣと教職員で計画的に実施したいと思います。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
新郷東小	組織運営	○職員一人一人のよさを 活かし経営参画意識を高 め、機動的かつ組織的な 学校経営を推進する。	○年度当初に示した具体的戦略を明確に示し共通理解したことで学校経営への参画意識は高まった。 ○常に連携を取り合い、情報を共有したことで、課題に対する早期対応を図ることができた。 ○アフターコロナの視点で、元に戻すのではなく、新しい形で諸行事を実施。今後も前例踏襲ではなく、実態にあった形へ変更していく。	B	・職員の雰囲気が明るく感じられる。 ・コロナ後の行事を実行する工夫が大変良かったと思う ・校長を中心とした学校運営が行き届いていると思う ・教職員の異動が3、4年と長くなれば児童との信頼関係がよくなり学力も向上するのでは。是非教育委員会に諮ってもらいたい。 ・良好なコミュニケーションや風通しの良い組織運営は大変重要である。その上で新たな取組や意見を汲み、職員の経営参画意識、やりがいの向上、職員の負担軽減に努め、目指すべき学校像に向けて、職員全員の思いを共有共感できる組織運営を期待する
	教育課程	○知・徳・体のバランスのとれた教育活動を推進する。	○面談時にも全職員に達成状況を確認し、共通指導への意識は高まった。 ○家庭学習は自ら見届け、励まし、学習の定着、内容の充実が図れた。この取組が更に定着するよう、家庭への啓発を継続する。 ○自己を振り返るスマイルノートは児童の心の成長への一助につながった。 ○体力数値82.7%。前年度を下回る。引き続き外遊びの奨励、授業の充実を図る。 ○積極的な活用は継続できている。	B	・学力・体力で個人差が大きいのは、家庭環境が影響している、根深い課題。 ・児童が伸び伸びと様々な教育活動に励んでいる姿が多くみられた。 不登校の児童に対する取組も少しずつ実を結んできていると感じる。 ・タブレットを活用した授業も多く、使いこなしている児童の姿に驚いた ・校長自ら児童のノートにコメントを記入されていると聞き、子供たちの一生の思い出になり、宝物である、継続してほしい。
	開かれた学校づくり	○「地域・保護者と共にある 学校づくり」をめざし、保護者・地域との連携を強化する。	○読み聞かせや見守り活動、学習ボランティア、さらには文化庁事業等、地域や外部機関との連携の充実が図れた。 ○コドモン活用の拡大、HPでのブログ更新による情報をタイムリーに発信（伝えている評価:95.2%） ○エンペイの導入等、教育活動についての理解・協力を得られた。 ○各関係機関と積極的な連携・充実が図れた。（相談に適切に対応:97.4%）	A	・今まで築いてきた開かれた学校づくりは大変良いと思う。PTA活動にも多くの保護者が関わることを期待する。 ・学校応援団の協力は本当にありがたいが、協力してくれる方がいつも同じな気がする。 ・地域・学校・保護者と共に、新郷東小がより良い学校になるよう応援 ・引き続きHPを活用した情報発信に努め、保護者・地域等との連携を図り、児童が楽しく誇れる学校づくりのさらなる向上を期待する。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	教職員の資 質向上	○学び合う機会を大切にし、キャリア段階に応じた指導力を向上させる。 □働き方改革や業務の在り方を意識し、心身の健康を考えながら風通しのよい職場づくりを推進する。	○大学教授、市教委担当指導主事、他校と合同研修会も実施。非認知能力育成の取組を継続。キャリア段階や特性に応じた指導の充実が図れた。 □先を見通した仕事、時間に関する意識は高まっている。定期的に実施している研修の効果もあり、事故防止に対する意識は高まった。働き方改革は、職員の意見を聞きながら今後も進めていく。	B B	・多様化する時代背景や働き方改革が求められる中、家庭への対応などの苦労も推察する。そうした中で教職員の心身の充実は大変重要。職員間の連携を図り、勤務時間の縮減、充実したワークライフバランスの推進に期待する ・職員一人一人が児童を大事にしている光景が数多くみられた。定時退勤ウィークやノー会議ウィークなどで在校時間を減らすとしても、家に帰って仕事していたら先生方の負担は変わらないと思う。保護者対応も昔と比べて多くなり大変だと思うが、心身共に大事にしてほしい。 先生方の団結力を感じる。
	施設・設備等 の管理	○児童目線で「安全・安心」に視点をおいた安全管理の徹底をする。	○網戸の設置、プールろ過機、スプリンクラー、トイレ水漏れ等修繕完了。 ○予告なしや多様な場面を想定した避難訓練を実施。自分の身を守る意識は高まっている。 ○安全点検の着実で定期的な実施を継続していく。	A	・施設の老朽化が問題。災害時の避難所の役割のある学校。一つ一つ問題のある所から解決してほしい。 ・安全面(防犯対策・老朽化)にも取り組みが進んでいる。 ・引き続き学校安全優良校として安心・安全な学校づくりに取り組んでほしいと思う ・小学校での避難訓練はの成果は、卒業し中学生になっても続いている。防犯対策にも取り組んでいるため、自分の身は自分で守る意識は毎年高まっていると思う。 ・児童・教職員・保護者など、日々多くの時間を過ごす学校施設において、安全で安心な施設であることは重要。必要な修繕や拡充は関係部局へ要望をお願いしたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
朝日西小	組織運営	○校長・教頭・主幹教諭・主任を中心とした組織的・機動的な教職員体制の構築 □全教職員の学校運営参画意識の醸成	○主任等からの起案をもとに管理職、主幹教諭等で連携しつつ、1分掌1改善をほぼ達成できた。（教職員評価：組織運営に関する項目A+B97%） □ふりカエル会議が働き方改革を意識したボトムアップ型の会議となるよう改善しつつある。（年3回実施）	A A	・校内での先生方の雰囲気はとても良い。やりがいを感じることや働きやすさが出てくることで心に余裕ができています。小さな学校ならではの働きやすさを活かし新しい変化を入れて楽しく働きやすい学校になると良い。 ・大きな組織の学校ではなく少人数の教職員のため、一見まとまりやすく見えるが、多方面の意見が出ていく面もあるかもしれない。ベテラン教員は、これまでの経験をいかしてほしい。 ・教職員一人一人の意識の向上が見られているので継続的な活動をお願いしたい。
	教育課程	○児童の発達段階や実態を考慮した適切な教育課程の編成・実施と評価・改善 □児童の学力向上	○学習指導要領の内容を着実に実施できている。特に外国語（活動）を好きと回答した児童は県学力調査では県平均よりも大幅に上回った。 □少人数指導や補習教室を通して個別指導を充実させることで。基礎基本の徹底を図った。（県学力調査の伸び：県平均以上）	B B	・朝西タイムの話は子供たちから聞いている。その時必要なことを柔軟に取り入れていくのはとても良い。支援員が補佐に入って教えるのはわかりやすくてよいと聞いている。 ・埼玉県学力・学習状況調査に満足している。子供が何が苦手か知ることができ、子供と今後どうしていこうか話することができている。 ・より良い学習方法を考え、さらに個別の学力向上への熱意が感じられる。
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動の積極的な情報発信 □学校・家庭・地域の連携した取組	○児童の様子が伝わるように学校行事やHP等で発信した。（保護者評価：情報発信 A+B 91%） □学校応援ボランティア登録者はわずかながら増加した。地域との連携については、主に管理職が地域活動に参加した。	B B	・学校ＨＰには学校の様子が細目にアップされておりコメント付きで楽しく読んでいる。普段の何気ない様子もあるとよい。行事のあり方や保護者の参加方法などコロナ禍での経験を踏まえて新しい方法を着手させる時期だと感じる。 ・学校応援ボランティアの種類や具体的な内容、申込方法などを保護者はもちろん、地域への配信への工夫を行ってはどうか。回覧板に入れたり保護者会、町会の集まりで説明・アピールするなどわかりやすく募集するのはどうか。 ・働き方改革で先生方も大変だろうが、地域活動に参加していただきたい。
	教職員の資質向上	○校内研修の課題を精選し、実践的な研修を実施 □学級経営や生徒指導、保護者対応などの職員研修を実施	○管理職授業訪問において一人一授業を実施。また指導者を招聘しての算数科授業研究会を年2回実施し実践的な指導方略を学び合った。 □日常の管理職による教室訪問等を通して学習指導や生徒指導の様子を把握し、適時助言した。	B A	・授業用意がある中での研究や研修は時間を取られて大変かと思う。特に生徒指導や保護者対応は先生だけでは手が足りない気がするので、新たな人材が入ると良い。 ・管理職の教室巡回は、子供たちや職員の変化を見逃さない効果があると思う。観られている緊張感を持つことで職員の意識向上にも繋がる。保護者対応の研修を行うと共に一人で抱え込まなくても大丈夫な環境づくりに期待する。 ・算数科は基礎基本が大事。反復練習で徹底的に教え、出来た児童は褒めること。
	施設・設備等の管理	○計画的・日常的な安全点検の実施と即時対応、計画的な修繕計画の立案【学校事故0】 □危機管理マニュアルの修正と教職員への周知徹底	○学校事故0を達成。日常の点検に加え、外部による学校設備点検を実施することで安全性を高めることができた。 □校内への不審者乱入を想定した避難訓練を行い対応マニュアルの改善を進めている。「シェイクアウト訓練」への参加を機会に避難マニュアルも修正した。	A B	・安全点検はよくされている。教室も含め整理整頓され気持ちの良い環境づくりをしている。洋式トイレの数を増やした方が良い。低学年で和式トイレで失敗したと聞いたことがあるし、災害時の避難場所にもなることを考慮したい。 ・外壁の高さがたないため、不審者乱入が心配である。日頃から想定した対応マニュアルは進めていただきたい。 ・高い外塀は、学校からだけでなく、保護者や地域が一体となり声をあげて実現、設置できればよい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
慈林小	組織運営	○校内組織を活用し、O J Tによる人材育成に取り組む。 ○管理職のリーダーシップのもと、個々の状況に応じた不登校児童への支援の充実及びいじめに向かわない児童の育成を、組織的に具体的に進める。	○働き方改革の視点での業務整理が進んだ。繁忙期の教員の作業時間を確保するための日課の工夫も実現できた。 ・いじめの認知・解消確認は、全教員の共通理解のもと確実に行った。 ※令和5年度文部科学大臣表彰【学校安全の部】受賞	B	・日課の工夫等により、教職員の負担軽減につながっているようなので、今後も様々な取り組みを推進して、教育効果を高めてほしい。 ・時間外勤務を減らす中で教育効果を高めていくことは難しいが、教職員の意識改革をしていくことが大切である。 ・不登校児童や教室に入れない児童に対して、「はっとルーム」を開設することに大いに期待したい。
	教育課程	○令和の日本型学校教育（個別最適な学び・協働的な学び）の実現を目指し、指導計画及び指導体制、評価方法の工夫を図り、学力向上に資する具体的な取組を推進する。（年2回の通知表配付を効果に繋げる。）	○年度を2期に分けた教育課程の工夫により、指導と評価の一体化が進んだ。 ・昨年度より取り組んでいる4学年以上の算数習熟度別学習は、埼玉県学力・学習状況調査が向上するなど、効果を確認することができた。	B	・英語加配や教科充実加配等の担任外教員を効果的に活用していくことが大切である。 ・学力の2極化は、どの学校でも大きな課題の一つであり解消は難しいが、長期休暇や朝の学習時間を上手く活用しながら進めてほしい。 ・縦割り活動等を活用しながら、上学年が下学年に教える機会を創出して、主体的な学びにつなげてほしい。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会の活性化及び学校応援団の充実を図り、保護者・地域との協働による開かれた学校づくりを推し進める。	○学校応援団の協力による学習支援や安全見守りが定着・充実した。 ・P T Aボランティア制による学校支援（通学路点検、ストップマークの貼り替え、給食試食会等）が軌道に乗りつつある。	A	・PTAをボランティア制にしたが、保護者の間では概ね好評である。ただ協力する家庭に偏りがあるため、今後はより多くの方々に来ていただくことが課題である。 ・児童の登下校見守りについて、町会回覧板を活用して地域の方々に呼び掛けていただきたい。 ・学校が大きな改革をする際には、学校運営協議会委員に事前に知らせてほしい。
	教職員の資質向上	○「チーム慈林小」を合言葉に、組織の一員としての意識を向上させるとともに、教育公務員としての資質向上も図り、教職員事故ゼロを実現する。	○教員同士は信頼関係を構築し、互いに学び合う職場となっている。中堅・ベテラン教員のリーダーシップで、若手教員も見通しのある授業づくりが身に付き、本校の学力向上に繋がっている。 ・児童や保護者の想いに寄り添った対応を全校で心掛けている。	B	・現在は、教職員の年齢構成、男女比についてバランスがとれているようなので、次年度以降も市教委に働きかけてほしい。 教職員には、元気な状態で児童に接していただきたいので、管理職には日々先生方を観察しながら支えていってほしい。 ・
	施設・設備等の管理	○施設設備の安全管理に万全を期す。 ○教室棟壁面の防水加工工事（6月～10月）は、市教委と十分に連携して行う。	○教室等壁面及び屋上の防水加工工事、教室等壁面の塗装は市教委と連携し計画通り行えた。 ・安全確保のため「じりんこ丸」を囲う柵を設置した。「じりんこ丸」については、令和8年度の50周年記念事業で対応する計画である。	A	・じりんこ丸（学校設立時に建立された木製遊具）が老朽化しているため撤去したいが、設置主からの許諾が得られない。 ・学校運営協議会は、児童の安全のため、撤去することを支持する。ただ、設置者の想いを大切にしながら、市教委と連携して進めていくのが望ましい。撤去費用は町会で出してもよいと考えている。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
差間小	組織運営	○不登校児童と家庭に寄り添った支援を継続し、不登校児童をゼロにする。（R4は4名） ※児童の学校生活満足度 9 0 % 以上 □学力向上や生徒指導上の課題について、組織的に解決する。	○不登校児童への支援は100%継続した。不登校児童は年間 7 名の見込みである。 ※児童の学校生活満足度は、8 9 % であった。 □主幹教諭を中心とした学力調査の分析や改善に向けた手立て、校内の課題研究推進、生徒指導主任を中心とした組織的な対応等により、少しずつ成果が表れている。 ◇	B A	・以前に比べると保護者の評価が厳しくなっています。保護者の個人主義化に原因があると思われる、一部にモンスターペアレンツも出ております。学校としては、「できること」と「できないこと」を明確に示す必要もあると思います。 ・不登校児童についてはご苦労されていると思いますが、どうか最後まで手を離さずに見守っていただきたいと思います。唯一の大切なつながりです。 ・年間を通して良く出来ているように思いました。
		教育課程	○学校評価において、授業に対する満足度を 9 0 % 以上に する。 □学習アプリ「ミライシード」の「ドリルパーク」において、児童の正解数を市の平均以上に維持する。	○児童が、自分をよりよくするために学習や行動をし、思考力や判断力を伸ばすための支援は、各学年主任を中心に継続した。 □家庭での学習習慣や、自主学習の質・量はまだ不十分である。 ※学校評価における関連項目の達成度は 7 6 % であった。	B B
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会を年間 3 回実施し、「学力向上」「基本的な生活習慣」「家庭学習」などの学校課題について熟議を行う。	○学校運営協議会での協議内容は、回を重ねるごとに充実し、学力向上や基本的な生活習慣・学習習慣について地域や家庭と共に考えることができるようになった。 □	A	・学校運営協議会において、保護者目線の女性の意見がもっとあるといいです。 ・授業参観のように保護者がいると普段の日と違い子供たちは真面目に授業を受けているとのことで、教員の負担にならない程度に学校公開以外にも参観の場があればと思います。 ・学校運営協議会がよく機能している。
	教職員の資質向上	○全職員が成果をもって学年末のゴールを迎える。 ※メンタル休職者ゼロ □教育公務員としての自覚を高め、職員の服務規律を徹底し、教職員事故を絶対に起こさない。 ※教職員事故ゼロ ※体罰報告ゼロ	○協働体制や相談体制は維持継続できた。時間外在校時間月80時間以上の教員は年間延べ 1 名だった。 ※メンタル休職者 1 名 □倫理確立委員会や全体研修を通して、教職員の倫理感が高まったと捉えている。 ※教職員事故はゼロだったが、体罰報告は 1 件あった。	B B	・若手の先生が多いなと感じます。それだけに、お互い協力し切磋琢磨しながら成長されることを願っております。 ・いつの時代も教員の一番の達成感は、我が子の学力や人間力の向上以上に、保護者からの感謝やねぎらいの言葉です。このことに気づいていない保護者が多いので、特に管理職は今まで以上に具体的に保護者に担任の目に見えない努力を伝えることが必要だと思います。 ・悪いことをしたら叱るのは当たり前で、叱れない環境に問題あり。体罰の線引きをしてもいいと思う。
	施設・設備等の管理	○点検や確認を確実にに行い修繕を進める。 □カーブの手前である校庭南側の門から登下校できるようにしたい。 △美化・緑化活動を充実させる。児童に栽培や収穫の体験をさせる。耕作できる面積を増やしたい。	○ブランコは撤去した。校庭のスピーカーの支柱が腐食している。体育倉庫やプール管理施設等の屋根・外壁の修繕に予算が回らない。 □実現には至っていない。 △地域の方の協力により、学校ファームは有効に活用され、児童の体験活動は充実している。	B B A	・もっと教育に予算を取ってもらって設備等を充実させてもらいたい。緊急性の高い箇所や古くなった用具等はは早急に修繕してほしい。 ・学校の維持管理は大変お金がかかるため、保護者と地域住民の協力が必要です。学校だよりなどで発信し、地域の協力を呼びかけることも必要です。依頼があれば、町会でも会議の議題に取り上げたいと思います。 ・令和橋が完成して交通量が増加しました。それに伴って、児童の重大事故が心配されるので、通門の改修工事はすぐに行うべきです。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
東本郷小	組織運営	○学校教育目標や目指す学校像の実現に向け、主任のリーダーシップのもと学年経営、校務分掌における教育活動の活性化を図るとともに、教職員個々のよさを発揮できる組織環境を整え、継続的な運営体制を構築する。	○自己評価から教職員の組織運営への理解と参画意識の高さを感じた。また、管理職と主任等とのコミュニケーションを通して、学校の課題を共有し、改善に向けた教育活動の計画立案実践に結びついている。	A	・教職員・保護者の学校評価から学校教育目標を意識した学校運営ができています。 ・管理職や主任のリーダーシップの成果が学校の安定感、安心感につながり、子供の活動の自信や活性化に影響を与えている。 ・危機管理対応等の学校運営マニュアルを早々に整えて、職員が入れ替わっても適切に動けるよう努めてほしい。
	教育課程	○児童や学校の実態に即した教育課程の編成に向け、実施状況を評価・改善することで教育活動の質の向上を図るとともに、社会に開かれた教育課程の編成を実現する。	○良好な人間関係づくりの視点で学級経営や課題研究を進め、児童の学力向上につなげてきた。 ○持久走大会など体育的活動の実践が増えている。	B	・人間関係づくりを重視した教育活動ができています。 ・読書活動や地域活動を通して、小学生として身に着けたい基礎知識や技術・技能を精選し、定着を図ってほしい。 ・体力向上では、小さな働きから始めて成果を出してほしい。
	開かれた学校づくり	○学校を積極的に公開し、保護者・地域との連携・協働と学校運営協議会の運営充実により、学校の教育力を向上させ、信頼される学校を実現する。	○学校HPを通して積極的に教育活動を情報発信してきた。学校応援団活動は、1 2 月末現在、8 種類の活動に対して延べ3 6 名の登録がある。安全見守りの活動がほぼ毎日行われていることから、活動実績は1 0 0 回を超えている。また、学校運営協議会は5 回開催を予定している。	A	・コミュニティースクールとしての形が整えられた今年度は5 回の会合がもたれ、学校の様子も見えるようになってきた。更に一層の情報提供をお願いしたい。 ・学校応援団の活動実績から、学校と家庭・地域との共通理解が図られていると感じる。
	教職員の資質向上	○教職員のチームワークを生かし、互いに切磋琢磨しながら学び合い、高め合える教職員集団を実現する。 □教職員の服務規律の確立と健康の保持増進を目指し、教職員が元気で活力ある学校を実現する。	○年間1 回以上の授業公開・参観を行い、助言を言える関係ができています。また、他校の研修会への参加を一人1 回実現し、各々が学ぶ機会を確保、実現できた。 □経験の浅い教員に対して学校全体で支えていこうとする雰囲気が出ています。教職員がコミュニケーションを大切にし、相談しやすい環境ができています	B A	・今後一層の職員相互の温かい人的交流や切磋琢磨により、指導力向上が進むことを期待したい。 ・経験豊かな職員、数年勤続可能な職員がより多く配置されるよう市教委に働きかけてほしい。 ・魅力ある活動のできる吹奏楽クラブに復興できるよう指導ができる職員の配置を期待したい。 ・学校全体で支えていこうとする雰囲気が良い。 ・管理職には、職員への適時・適切な声掛け等により資質向上を図ってほしい。
	施設・設備等の管理	○校舎内外の美化と安全で潤いのある環境づくりを推進し、課題に即した予算運用を行う。【整備目標：黒板修繕・トイレ清掃・体育館雨漏修繕（継続）、PCルーム改修（新規）、体育館照明LED化（準備）】	○緊急性の高い施設・設備の修繕を中心に予算執行を行った。	B	・安全面を一番に考えて修繕してほしい。 ・体育館については照明のみならず、エアコン設置について働きかけ実現してほしい。 ・外トイレは学校に不可欠なものとして設置をしてほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
東領家小	組織運営	○小規模校のよさを生かした組織運営 □デジタル化による働き方改革の推進	○会議のスリム化、日課表を変更することで、情報共有しながら、コンパクトな組織運営ができた。 □デジタル連絡帳、フォーム調査の活用により、作業効率が高まった。校務支援システムを活用した報告・連絡・相談体制も確立してきた。	A A	・学校に求められることが多い中、先生方の熱心な働きに頭が下がる。保護者・地域の理解を得ながら働き方改革を進めていってほしい。 ・デジタル化により、働き方改革が進められていることに安心している。
	教育課程	○全学年部分的教科担任制による質の高い授業実践と授業時数の確保 □年間を見通した各種学校行事の内容の見直し	○教科担任制実施により、教育課程を適切に管理しながら、安定した学級経営が実践できた。 □ 1 学期中に集中して感染症対策を講じながら校外学習を実施できた。	A B	・教科担任制導入など、学力向上に向け工夫している。学力向上の一つの手立てとして読書活動の推進を進めてもらいたい。 ・学校行事の開催時期について、暑さ対策などを考慮し見直しが進められている。
	開かれた学校づくり	○デジタル化を活用した積極的な情報公開 □授業や行事における効果的な連携教育活動の推進	○ＨＰを活用しながら各種たよりのデジタル化を進めた。 □元郷小・中学校と新規交流を実施、図書館とも読書週間で全学年で連携できた。	A A	・学校だよりやＨＰ等の情報は学校と保護者・地域との繋がりに役立っていた。 ・コロナ禍で止まってしまった学校間連携や地域連携をさらに進めてもらいたい。
	教職員の資質向上	○校内研修・部分的教科担任制による教師の指導力の向上とミドルリーダーの育成 □ＩＣＴ機器を活用した教育活動の推進	○面談を通し教職員一人一人の指導力を高めながら、計画通りに指導者を招聘した授業研究会を実施できた。 □教師・児童共にタブレット端末の使用率は向上している。オンライン授業も定着している。	A B	・激務の先生方が無理をせずに授業研究会を実施し指導力を向上していってほしい。 ・次世代を見据え、タブレット端末の効果的な活用を継続していってほしい。
	施設・設備等の管理	○施設・設備事故ゼロの実現と安心・安全な教育環境の維持 □不審者学校侵入防止対策の強化	○教育活動に支障がでることなく教育環境が維持できた。 □職員玄関を自動施錠型に変更し、不審者侵入対策を強化した。	A B	・子供たちが安心して教育活動が進められている。 ・コロナ前の教育活動が戻りつつある中、更なる教育環境の維持をお願いしたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
安行東小	組織運営	○学校経営の重点としている不登校児童への支援について教職員の共通理解と共通指導を徹底する。	○図書室や教育相談室、視聴覚室等を校内の使用状況に合わせて機動的に活用し、児童の集団適応への支援環境を確保した。	A	・教室が不足している状況で、場所を工夫して「ほっとルーム」を開設し、児童一人一人にきめ細やかな対応をした。 ・児童が自己肯定感をもてるよう、引き続き取り組んでほしい。 ・他市等を参考にICTの活用を進めてほしい。
	教育課程	○ポストコロナにおける学校行事等の教育活動の見直しを進める。	○儀式的行事をオンラインで実施したり、体育的行事の内容を見直したり、効果的教育活動を行った。全学年において学期末テストを実施する等、学力の向上を図った。	B	・学力の水準は、教師だけの責任ではない。自ら学ぶ意欲を育てることが課題である。 ・基礎学力の確実な定着を図る必要がある。
	開かれた学校づくり	○学校ＨＰの管理の適正化を図る。 □学校運営協議会の継続的に開催する。 ◇地域中学校との生徒指導連携を行う。	○情報主任を中心としてホームページを一新し、学年ごと・項目ごとにまとめる等、フォルダを整理した。	A	・学校公開で授業現場を参観し、教職員の熱心さがよく伝わった。
			□学校運営協議会を年間３回実施し、教育活動の様子を参観するとともに施設設備等の具体的な改善点に係る貴重なご意見をいただいた。	A	・学校と家庭、地域の連携はよくとれている。
			◇安行東中学校との生徒指導連携において、生徒指導担当教諭が来校し、高学年を中心に授業参観するとともに学習支援を行い、きめ細かな児童の実態把握を行った。	B	・小中連携し９年間を生かしたキャリア教育ができると“安行東”らしいのではないかな。
教職員の資質向上	○共通理解・共通指導のもと教職員の学習指導及び学級経営の指導力を向上させる。 □引き続き教職員の業務負担軽減を図る。	○年間を通して、校内研修において教職員が自己開示する方法で、主体的に取り組み、自尊感情を高める学級経営の実践を学び、資質向上を図った。 □主幹教諭を中心に、業務改善委員会を行い、通知表の改善や学期末の授業時数の削減を図り、負担軽減を行った。 ◇	B A	・学習指導要領等に基づく研修だけでなく、社会体験を通し、広い視野を持つ教師になってほしい。 ・教職員の負担軽減は急務である。	
施設・設備等の管理	○定期的・定点的な施設設備の整備と点検を継続する。 □教材費集金についてシステムの大きな変更。	○新校舎建設のため、業者と連携し確実に進めた。教室棟南側通路を整備し、児童の安全確保を行った。毎月の安全点検により修繕箇所を把握し改善した。 □金融機関を活用し、計画的に集金業務を丁寧にを行い、会計事故防止を進めた。	A B	・予算を踏まえ、施設設備の老朽化に伴う修繕については、今後も関係各所へ働きかけをしたい。特に、トイレについては、児童が利用を避けている様子がある。全面的な改修が望まれる。 ・地域を含めた集金システムの改善は、早急に進めてほしい。	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
在家小	組織運営	○組織の一員としての参画意識を高揚させ、共通理解・共通行動を徹底させる。	○職員に対して常に問題意識をもって業務改善にあたるよう、話題を継続して提供した。	A	・校長、教頭を先頭に、雰囲気の良い環境が整っている。 ・組織として目的と目標を共有し改善している。 ・職員間の温度差は、報告や相談などを通して心をひとつにして子供たちに向き合う時間を増す。
	教育課程	○1単位時間の授業を充実させられるよう、授業準備を丁寧に行う。	○「学びの共同体」の授業改善やICT機器の活用により、学習意欲や学力を高められた。	A	・タブレットの活用等で一人一人の学力向上に期待する。
		□家庭学習への取組について、保護者への協力を求める。	□長期休業期間の家庭学習について、取組内容や分量を精査し、子供のための学習となるように計画させた。	B	・家庭学習を習慣づけることの大切さを浸透させることが大事である。 ・保護者への継続的な働きかけが必要である。
	開かれた学校づくり	○コロナ後の学校生活を十分精査し、教育活動を充実させる。 □学校運営協議会を適切に運営する。	○学校生活の全てをコロナ前に安易に戻さぬよう、十分な効果を期待できる内容にした。 □時期に応じた話題を提供することができた。	A A	・コロナ後の変化に合わせ、創意工夫して取り組んでいる。 ・学校公開等の行事に参加する機会が増えた。 ・保護者のコミュニケーションのためにも参加型の行事があるとよい。
	教職員の資質向上	○キャリア段階に応じた研修や教職員相互の指導力向上研修を充実させる。 □勤務時間を意識しながら、効率的な業務遂行を実行する。 ◇	○指導力、実践力を向上させられるよう、適宜研修会を受講させた。 □教職員個々に働き方改革を意識し、勤務時間外の在校時間は漸次減少傾向となった。	A A	・職員の育成は、必要に応じ、継続して行うことが大切である。今後さらなる資質の向上が必要である。 ・働き方改革の業務改善がなされ、在校時間が減ったことは評価できる。 ・時間を意識して効率的に取り組むこと、「常に見られている」意識を持つことも大事である。
	施設・設備等の管理	○安全安心のため、修繕・修理を適宜実施し、施設・設備の維持・管理を徹底する。	○安全点検を適宜実施して、不具合箇所には早急に対応することができた。	A	・安全点検を適宜実施して不具合箇所及早急に対応していることは素晴らしい。 ・安心安全な学校生活が送れるよう適宜施設改修に取り組んで欲しい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
戸塚東小	組織運営	○効率的な校務組織の稼働	○教職員アンケート 「使命感を持ち、仕事をする事ができたか」100%達成 「校務は円滑にこなせたか」95%達成	A	・評価妥当である。	
		□不登校児童支援の充実	□教育相談日年間 1 0 回実施 就学相談や巡回教育相談に確実につなげることができた。しかし、不登校支援の継続はできているが、全ての解決には至っていない。	B		・評価妥当である。
		◇いじめの根絶と生徒指導の充実	◇認知したものについては、解消を目指し丁寧な見届けを行った結果、ほぼ解消しているが、まだ十分とは言えない。	B		・いじめの問題にも素早く組織で対応している。これからも期待したい。
	教育課程	○学力の向上	○全国学力・学習状況調査の結果は、県・国の平均とほぼ同じだった。埼玉県学力・学習状況調査は、2つの学年は県平均を超えたが、1つの学年は下回った。	B	・評価妥当である。	
		□徳育の充実	□道徳授業の実施率100%達成 生活アンケートは年間 3 回実施した。	B		・徳育の重点を更に明確にした方がよい。
◇体力の向上及び健康の保持増進		◇新体力テスト県平均96項目中52項目上回った。 歯科治療率82%	B	・遊びを中心とした体を動かす機会の減少やスマートフォンやタブレットの長時間使用が姿勢の悪化や視力の低下につながっているのではないかと。		
開かれた学校づくり	○保護者、地域との連携	○保護者定期配信メール（月に 2 回）の確実な実施 学校運営協議会は計画通り年間 3 回実施した。 ○保護者アンケート 教育活動98% 連携93%	B	・地域の委員として、まだまだ見えない部分がある。参加しやすい活動（ボランティア）を更に呼びかけるようにしたほうがよい。 ・自分の子ども、地域の子どもが通っている学校をサポートするのは当たり前のことだと思う。		
教職員の資質向上	○委嘱研究を活用した指導法の工夫改善	○指導者を招聘しての研究授業 2 回実施。研究発表会は計画通り実施した。タブレットを使った提案性の高い授業を実施できた。	B	・学力向上は永遠のテーマである。		
	□教育機関に勤務する公務員として高い意識と誇りをもった職員の育成	□体罰に関する重大事故 0 達成	A		・若い先生の育成も大切である。若いエネルギーが生かされるように期待したい。	
	◇職員のワークライフバランス	◇病気休職者 0 人 ・教職員アンケート 「働きやすい職場の実現」100%達成	A		・情報を事前に共有することで、対面での会議・打合せの時間の短縮などができるのではないかと。	
施設・設備等の管理	○安全性と適切な管理の徹底	○重大事故 0 達成 ・保護者アンケート 施設・設備95%達成	B	・評価妥当である。		

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚北小	組織運営	○部会や研修を活性化させることで、学校運営参画意識を高め、学校課題解決のための協働体制を確立する。	○部会や研修が活性化しており、若手の教員も含め、着実に力をつけている。協働体制の確立は、目標とするところまでは達成できている。	A	・教員不足のため、学級担任の配置に苦労している。主幹教諭が担任をしており、人材確保が課題である。教員の魅力を発信していけば良い。 ・教員相互の情報交換を活発に進めていくと良い。 ・少子化の時代であるが、本校はどの児童も活発であり、学校全体に活気があって良い。
	教育課程	○「書く力を高める言語活動の充実」を軸とした、授業実践と学力の向上 □「やりぬく力」の育成を通した目指す児童像の実現	○学習規律、授業規律の徹底が図られている。校内研修をはじめ、各教員がよく努力し、主体的対話的で深い学びの視点での授業改善も行えた。またタブレット端末の活用も推進された □校長室だよりで個々の教員の頑張りを賞賛できた。	A A	・タブレット端末の活用ができています。社会に出たときに役立つように工夫されている。 ・タブレットの活用も良いが、「見る・声を出す・書く」の活動も大切である。 ・児童に元気、勢いがある。自主性・創造性がある ・学校農園をもっと活用した方が良い。
		開かれた学校づくり	○学校運営協議会活用した、保護者・地域のつながり拠点としての学校づくりの実践 □積極的な広報活動と保護者・地域の理解推進	○毎朝の通学路巡回及び登校指導をはじめ、積極的に地域に出ることにより、多くの保護者地域と関わり、学校教育に協力いただける基盤づくりができた。 ○学校運営協議会では、学校の現状をご理解いただくともに諸課題についてのご意見も頂き、学校経営の課題改善に生かすことができた。 □学校だよりを通して校長の思いや考えをダイレクトに伝えるとともに、教頭・主幹教諭に指示し、積極的に学校メールやＨＰで教育活動の様子を伝えさせることにより、教育活動への理解が推進された。	A A
	教職員の資質向上	○教職員一人一人の特性を踏まえ、ライフステージに応じた計画的な人材育成による活力ある学校づくりの推進	○校長、教頭により毎日の教室訪問を実施しており、教職員の授業の様子や児童の学習の様子についてよく把握することができた。	B	・教員のメンタルケアを是非お願いしたい。 ・研修が重要である。 ・若い教員の育成は大変だと思うが、校長や教頭の指導だけでなく、大学や教員グループの研修など、個人的な研修も進められると良い。
	施設・設備等の管理	○安心・安全を最優先にした潤いのある教育環境づくり	○毎朝の通学路での登校指導、毎日2回以上の校内巡視の実施をはじめ、安心安全な教育環境づくりを徹底することができた。 ○安全主任に指示し、危機管理マニュアルを現在の実態に合ったものに改訂することができた。	A	・定期点検を遵守していくとよい。 ・避難所開設訓練が非常に重要で、体験できて良かった。 ・備品等適切に管理されている。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
木曽呂小	組織運営	○教職員の共通理解に基づいた共通行動・共通指導の徹底	○「学びの共同体」による学校改革について全教職員で研究を深めるとともに、「木曽呂小スタンダード」を適宜見直し、改善を加えた。	B	・教職員のつながりの強さを感じた。この状態を、ぜひ継続してほしい。	
		□教職員個々のライフステージに応じた資質・能力の向上	□人事評価制度に係る定期面談や日常の会話等を通して、教職員の意思統一と意欲向上に取り組んだ。	B		・教師の姿から、明るさや清々しさが感じられた。
	教育課程	○「学びの共同体」による学校改革に即した「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改革	○神根地区小・中学校における公開授業に教員を参加させたり、合同研修会を実施したりして、授業研究を深めた。	B	・学年の発達段階に応じた取組を確認できた。また、取組に向かう教員の一体感を感じた。	
		□PDCAサイクルに基づいた教育計画の編成・実施	□各学力調査結果の分析を行い、「学力向上プラン」を適宜見直しながら、P D C Aサイクルに基づく教育活動に取り組んだ。	B		・基礎・基本の定着は必須と感じる。家庭との連携や自学の取組等、改善の上、継続すべきである。
		◇GIGAスクール端末やICT機器を効果的に活用した授業の展開	◇GIGAスクール端末を効果的に活用するための研修を実施し、授業に取り入れた。	B		・GIGAスクール端末を効果的に活用していた。児童も扱いに慣れているようであり、時代の変化を感じた。
開かれた学校づくり	○教育活動の積極的な情報発信	○情報教育部を中心に、ホームページの更新頻度を上げることができた。	B	・「学びの共同体」による学校改革の取組内容を、さらに保護者に伝える工夫を模索してほしい。		
	□学校運営協議会の円滑な実施	□学校運営協議会でいただいた意見をもとに、児童の見守りを強化するための通知を配付することができた。	A		・「通学班の日」の通知を配付できたことが良かった。さらに、学校運営協議会の支援のもと、「地域に根ざした教育」が推進できると良い。	
	◇学校応援団や関係機関との連携及び積極的な活用	◇学校応援団とコロナ禍前に近い水準で連携し、学校応援団の活動を紹介する会を、団員の募集と兼ねながら実施することができた。	B		・「点」での活動とならないよう、長期的展望で取り組む必要がある。「地域に根ざす」ことの意味を、周知する必要もある。	
教職員の資質向上	○「学びの共同体」による学校改革に即した授業改革を推進するための研修の充実	○本校の児童が好きなペア・グループ学習を中心に据えた授業を展開し、学習に対する児童の意欲を向上させることができた。	B	・「ペア・グループ学習」の活用により、児童の学習意欲の向上が感じられ、個々の育ちを感じた。		
	□積極的な生徒指導を柱とした学級・学年経営の実施	□日常的な授業観察等により把握した児童や教員の実態に基づき、適宜指導・助言に取り組むことができた。	B		・個に応じた対応や、同じような意見を無下にしない対応も良い。	
	◇教育公務員として必要な資質・能力の向上・維持に必要な教職員一人一人の当事者意識の醸成	◇倫理確立委員会による研修を計画的かつ具体的な内容で実施し、不祥事根絶に向けた教職員の意識の醸成に取り組んだ。	B		・今後も、不祥事が起きることがないように研修等を継続し、徹底してほしい。	
施設・設備等の管理	○計画的（日常・定期・臨時）な安全点検の実施による、施設・設備の瑕疵の早期発見・早期改善	○計画的な安全点検を確実に実施し、施設・設備の瑕疵を早期発見し、早期改善に取り組んだ。	A	・掲示の仕方が良く、美しさを感じた。施設・設備も整然としている。		
	□個人情報に関わる校内規程等の随時見直し・改善及び遵守の徹底	□年度当初、個人情報に関わる校内規程等を全教職員で確認するとともに、適宜個人情報管理を取り上げた研修を実施することができた。	B		・今後も、個人情報管理を継続・徹底してほしい。	
	◇会計事故防止規定等の随時見直し・改善及び遵守の徹底	◇会計事故防止を取り上げた研修を実施するとともに、電子決済等による新たな集金方法を導入することができた。	A		・今後も、会計事故 0 を継続してほしい。	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚綾瀬小	組織運営	○「報告・連絡・相談・確認見届け」を合言葉にした組織づくりを実行し、児童の豊かな人間性を育むとともに、各教員の経験を生かし、チームで課題解決にあたり、教育活動を進める。 ○各学年・分掌等主任の学校運営への参画意識を高め、主任等として「自ら考え、責任感をもち積極的に」実践する。 □業務の効率化、スリム化を進める。	○毎月、生徒指導・特別支援委員会を開き、学校全体で対応できるように共通認識・共通理解ができる体制を維持した。 ○各部会での活動から全体での活動に広がる組織的な活動で実践できた。 □職員集会は掲示板を活用し会議の効率化が図れた。 □学年早帰りデーの設定や教職員の意識改革が進み、業務のメリハリが定着してきている。	B B A	・特になし ・特になし ・先生たちもゆとりをもって、子供たちに向き合ってもらいたい。 ・家に持ち帰って業務をしている先生がいたら意味がない。
		教育課程	○ポストコロナの状況に合った教育課程を編成し、時間の使い方や指導内容の順番を工夫して実施を進める。 □全教職員が、1 単位時間の指導過程の基本を身に付け、確かな指導力を育成する。	○週報作成で予定、確実な実施へとつながっている。 ○各行事もコロナ前に戻りつつあるが、内容の検討や準備時間の削減につなげてきた。 □計画的に全職員が公開授業を行い、授業力を向上させた。 □各調査の結果をもとに研修を実施し、課題を明確化でき	B B
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会制度を活用して、学校・地域課題について目標を共有し実践する。 □保護者の教育参加に向けた取組を進めるため、地域学校協働活動に参加しやすい体制を構築する。	○全学年、月 2 回以上のホームページの更新を実施し、教育活動を発信できた。 ○学校運営協議会において、学校課題の共有ができた。 □大掃除や親子活動などはアンケート機能を活用し、多くの保護者に参加していただいた。また、メールを活用し、的確な情報提供を行うことができた。	A A	・特になし ・朝の旗当番に出られない保護者が増えてきているように感じる。何か策を講じる必要があるのではないかと。
	教職員の資質向上	○学習指導・生徒指導の専門家としての教師力を目指し、それぞれのキャリアステージに応じた指導力の向上を図る。児童・保護者から信頼、尊敬される教師を育成する。 □GIGA端末を積極的に活用し、指導力向上につなげる。	○全学年、道徳の授業研究を行い、学校公開日を道徳の授業公開日として実施できた。 ○課題のある児童の情報を共有し、学年の枠を超えて指導することができた。 □各学級でミライシードを積極的に活用することができた。また、オクリンク等を活用することで授業を深めることができた。	A B	・特になし ・タブレットの活用は時代の流れに即していると思う。どんどん活用していつてもらいたい。
		施設・設備等の管理	○適正かつ計画的な予算執行を図り、有効活用に努め □より潤いのある安全な教育環境づくりを推進する。	○避難訓練の際は、全職員が計画時から当事者意識をもって取り組むことができた。 ○外水道の排水、投擲版の修繕等、数年来の課題を解決できた。 □毎月の安全点検での気づきを大切にし、校務員と連携して環境整備を行うことができた。 □花壇の整地を実施し、親子での花植イベントを実施することができた。	A A

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚南小	組織運営	○それぞれの校務分掌をしっかりと自覚し、組織の活性化を図り、全職員の学校運営参画意識の向上を目指す。	○・学校教育目標の具現化に向け、職員会議、各部会においても具体策を示すことで、意識的に取り組むことができた。 ・各組織でPDCAを確実に行之い、課題の明確化、共有化を図ることで、全職員の共通理解が高まった。	B	・学校全体が落ち着いていることはよいことである。挨拶もできるようになってきた。
	教育課程	○アフターコロナを見据えた、新教育課程に基づく、主体的対話的な深い学びの実現を図り、社会に開かれた教育課程を充実させ、知徳体の調和のとれた児童の育成を目指す。	○本年度は、川口市教育委員会の委嘱を受けた研究発表会を開催することができた。算数科において学びあいとICTの活用について実践を進めることができた。	B	・今後も、コロナ禍で学んだことを生かして、新しい時代に即したよりよい教育課程を進めて欲しい。
	開かれた学校づくり	○学校を中心として、関係機関、保護者、地域との連携をさらに広げ深めていく	○長年の課題であった運動会を戸塚スポーツセンターで開催できたことは、地域との連携で大きな成果であった。	A	・学校に来る機会も増えてくるので、できる限り保護者、地域に児童の活躍する様子を知らせて欲しい。
	教職員の資質向上	○ミドルリーダの育成・若手教員の育成を視点に置き、教育活動を進めていく。	○学校全体研修だけでなく、自主研修も積極的に企画し、学校全体が学ぶ雰囲気が高まったことは大きな成果であった。	B	・タブレット端末の活用等、昔と違った指導方法ではあるが、わかりやすい授業をおねがいしたい。
	施設・設備等の管理	○児童の安全を第一に考え、施設設備の有効な活用の工夫を図る。	○常に児童の目線で、全職員が日頃から安全点検を行うことができた。施設修繕についても、計画的に進めることができた。	B	・児童の安全を第一に、計画的に補修等を行っていただきたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
鳩ヶ谷小	組織運営	○児童及び保護者との信頼関係構築からニーズを把握し、家庭に寄り添った支援の実施する。	○保護者面談を実施し、児童及び保護者のニーズをもとに支援を行った。 ○定期的に各種相談日を設定することができた。	B	・不登校児童、傾向児童が増加しているとのことであるが、別室での学習に対応するなど支援体制が手厚くなっていると感じた。 ・今後、学校応援団等の活用も希望する。
	教育課程	○鳩ヶ谷小学校授業スタイルの確立を目指す。	○学年内交換授業を効果的に実施することができた。 ○一人一公開授業を実施し、教員がお互いの授業を見合い、考えを伝え合うことで授業改善につながった。	B	・学年内交換授業等の取り組みが評価できる。 ・児童が落ち着いて学習に取り組んでいることが伝わってくる。 ・今後も教師の指導力向上を目指して欲しい。
	開かれた学校づくり	○「チーム鳩ヶ谷小」の組織力向上を実現する。	○運営協議会の４回実施。 ○学校ＨＰの定期的な更新。 ○地域と連携した児童の安全確保の実施。	B	・ＨＰの更新がとても活発で評価できる。 ・運営協議会も定期開催することができた。
	教職員の資質向上	○教職員不祥事ゼロの学校づくりを実現する。	○教職員の事故はゼロであった。	B	・教職員不祥事ゼロの学校づくりに関して気概を感じることができた。 ・教職員がお互いに、「報告・連絡・相談」しやすい職場環境を構築して欲しい。
	施設・設備等の管理	○施設・設備等による児童事故ゼロを実現する。	○複数の眼による安全確認により児童の安全を確保することができた。 ○危険箇所については、即時修繕及び補修を行った。	B	・児童の安全核をを視点とした細やかな修繕等に好感が持てた。 ・体育館のエアコン設備の設置を強く望む。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
中居小	組織運営	○各校務分掌主任として「現状を捉え、何が課題か、課題に対して何ができるか、何をするか」を考えさせることを通して、リーダーシップを発揮させ、組織力をより一層構築する。 □見通しをもち、効率的な会議・部会運営を行い、次年度を見据えた校務分掌業務を推進し、時間外在校時間 8 0 時間未満(4・3月除く。)を達成する。	○感染状況や感染対策を踏まえ、各主任が課題を解決するために創意工夫ある学校行事を立案し、運営することができた。 ○報告・連絡・相談の徹底ができ、組織として様々な対応を行うことができた □見通しをもち、限られた時間内で効率的な会議・部会運営を行うことができた。 □管理職から、1 学期の通知表所見欄を記入しないなど具体的な業務改善策を講じて実施することができた。 □特定の教職員が時間外在校時間 8 0 時間未満を達成することができなかった	B B	・感染状況等を踏まえ、創意工夫してよりよい学校行事の運営ができています。 ・ICTのさらなる活用による負担軽減もあるのではないかな。先生方の働き方改善に向けて、更なる業務改善に取り組んでいただきたい。 ・行事を見させていただくと創意工夫されていて、教員が子供達を束ねていて信頼関係が感じられて良かった。良い組織運営ができていると思う。
	教育課程	○日々「わかる・できる・楽しい」授業を実践し、個に応じた指導を充実させるとともに、一定数いる低位層児童一人一人に対して学力向上を達成する。 □家庭や関係機関との連携をより一層密にし、登校しづり児童の解消及び不登校児童への支援率 1 0 0 %を達成する	○全教職員で各学力調査等の結果・分析を行い、具体的な手立てを講じて、「中居小確認テスト」を確実に実施することができた。 ○算数において一定数の低位層児童一人一人に対して学力向上をさせる。 □解消・改善した児童がいる反面、新たに不登校になる児童等がいる状況であった。 □特別支援学級設置校の利点を生かし、解消・改善を図ることができた。	B B	・中居小確認テストの実施が良い。 ○個に応じた指導や家庭学習の充実に期待する。 ○特別支援学級も抱え大人数の中、個に応じた指導を目指していることは大変すばらしい。 ○低学力の児童への指導にも目を向けている姿が嬉しい。 ・不登校児の保護者の声にもう少し耳を傾けてほしい。不登校の親の集まる場所を設け、先生と話し合う場を設定するの一つの手だと思う。 ○中居小らしさをどう作っていくか ・家庭でのテレビ・ゲーム・インターネットの使い方に関して約束を守れない児童が多いというのを解消していけば、学力向上につながると思う。家庭との連携を強める対応を考えてほしい。 ○児童へのアンケート「困ったことを先生や他の人に相談できている」でいいえが10%近くいる。改善を進めてほしい。
	開かれた学校づくり	○学校応援団の活動を充実させ、充実した教育活動を展開するとともに、学習環境を整備する。 □ 1 年間を通してホームページにて日々の教育活動や子供のよさ、伸び等を積極的に保護者や地域に情報発信する。	○図書ボランティアや学校図書館司書との連携により、学校図書館の環境が更に整備された。 ○学習支援における学校応援団の充実を図っていく。 □各学年においてブログを更新し、教育活動を積極的に情報発信することができた。	B B	・学校応援団との連携により、学習環境の整備を進めてほしい。 ・HPを通じて学校の情報や教育活動の様子が分かり良かった。更新を輪番にする等工夫して、もう少しリアルタイムに更新されるとよい。 ○紙の使用量削減を進める中、更なるHPの充実を求める ・図書館が充実しているので、開放していただきたい。 ○学校が情報を発信していることの認知拡大にPTAも協力していきたい。
	教職員の資質向上	○教職員一人一人の資質・能力・経験や個々の長所を生かしながら授業力や学級経営力を高め、人材を育成する。 □当事者意識を高め、教育公務員としての高い倫理観を醸成し、信頼される教職員を育成する。	○挨拶が活発になり、時間を守る意識が高まるなど、全体的に落ち着いており、子供たち一人一人が安心して学校生活を送っていた。 ○教職員個々の指導観の意識の差があり、「凡事徹底」の共通理解・共通行動を徹底することに課題がある。 □教頭中心に短時間の倫理確立研修や長期休業中に倫理確立全体研修会等を実施することができた。	B B	・資質向上に関する職員の意識が高く、努力がうかがえる。 ○互いの授業を気軽に見合えると良い。 ○凡事徹底を継続してほしい。 ○働き方改革の中、資質向上のための時間も確保しにくいと思うが、子供のために頑張ってもらいたい。 ・児童の挨拶には感心する。教員の挨拶が手本になっているのではないかな。 ・若い先生方が物事を表層で捉えず本質を考え、それを子供たちに問いかけられるようにしてほしい。理由を語れない方が多い印象を受ける。若手の先生が多い中だが、子供の成長、個人の学力を伸ばしてほしい。 ○児童アンケート「自分には良いところがあると思うか」でいいえが11.4%いる。そういう児童がはいと言えるような教育を目指してほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	施設・設備等の管理	○整理整頓と清掃を徹底するとともに、各学級必要最低限統一された教室掲示、学校全体で統一された教室環境及び教員各々の個性を生かした学びの足跡が見える教室環境の充実させる。 □日常的な校舎内・校庭等の見回り・点検を実施し、目に見える変化を生む迅速かつ適切な修繕を行い、安心・安全な生活環境をつくる。	○川口市教育委員会委嘱発表を機会に体育や校内研究に関わる掲示を充実させ、校舎内の環境が整備されてきた。 ○教室内・校舎内において、学力につながる掲示物を充実させる。 ○予算を効果的に執行し、施設設備を整備していく必要がある。 □複数の職員による日常的な校舎内・校庭等の見回り、点検等を徹底することができた。	B B	・整理整頓、清掃が徹底され、学力につながる掲示物を含め、校内の環境整備が進んできていると思う ・老朽化の進む校舎を維持していくのは本当に大変なこと。日常点検を通して、優先順位をつけて老朽箇所等の計画的な修繕が進められている。 ・避難場所に指定されている体育館を中心に、トイレの様式化改修を希望する。 ○PTAでも継続的に環境整備に協力したい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
辻小	組織運営	○目指す学校像の実現に向け、個々のよさを活かし組織の活性化につなげるとともに児童一人一人のよさを伸ばす学校をつくる	○コロナが5類に移行したことにより、様々な制限をしながら行っていた行事も運営委員会を中心とし、教職員の意見を活かしながら創意工夫し行うことができた。 ○不登校ゼロには至らなかったが保護者や関係諸機関と連携しながら支援を行うことができた。	B	・長先生を中心に現状を踏まえて各課題に対応していただきたいと思います。特に不登校児ゼロに対してなお一層の支援を期待します。
	教育課程	○学力の向上を目指すとともに、知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する。	○各学年とも連携を図りながら学級経営に取り組めた。保護者ともきめ細やかな対応を実践することで信頼関係の構築につながった。全体的に落ち着いた学校生活を送ることができた。 ○縦割り活動を昨年度より多く実施できたことにより異学年の交流が深まった。	B	・言葉遣いの悪い児童を見かけます。引き続き指導をお願いしたいです。 ・目標に向けての更なる研鑽を望みます。日々の努力に感謝いたします。
	開かれた学校づくり	○開校60周年を迎え保護者・地域との情報交換及び連携を強化することで信頼される学校づくりを行う。	○PTA執行部の方のご尽力により開校60周年を児童、保護者、地域の方々でお祝いすることができた。 ○地域防災訓練の取組に地域の方と協力し進められた。多くの方の参加があり関心の高さを実感できた。 ○HPでは、特に給食の献立紹介が保護者に好評であった。	A	・学校だよりは大変勉強になります。 ・各行事で60周年の記念イベントがありましたが、地域全体へのアピールがどの程度だったかは疑問ではあります。地域の中の学校防災の拠点としての学校という新たな場面も見られ今後も期待します。
	教職員の資質向上	○教職員の和を大切にし、教職員事故ゼロを目指すとともに教育公務員としての使命感と情熱をもって互いに高め合える教職員集団を育成する	○先輩教員から若手教員への公開授業や研修を行うことで指導技術の伝達を行うことができた。 ○研究テーマに即した一人一授業を行うことで個々の指導力の向上につながってきている。 ○積極的にコミュニケーションをとるよう心がけることができた。	B	・教職員の皆様も優れた素質や才能をお持ちだと思います。 ・若い先生型の利点を生かしつつ、先輩教員の先生方からの指導、研修の機会がさらに増えることを望みます。
	施設・設備等の管理	○児童の目線に立った安心・安全な視点で環境整備を行い、事故のない教育環境及び職場環境を整える。 □学校課題に沿った計画的で効率的な予算執行を行う。	○必要な修繕を実施することができた。特に正門の歩道で児童が転びやすかったところを修繕してもらうことで格段にけが減った □事務主査の尽力もあり、スムーズに銀行引き落としができています。また、業者への支払いも滞ることなく進められている。	A A	・安心・安全な場所等を引き続きよろしくお願いします。 ・達成度Aなので日頃の点検と迅速な修理の賜物であると思います。児童の安全・安心のたまに今後も引き続き対応していただきたいと思います。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
里小	組織運営	○校内分掌組織がP D C Aサイクルで積極的に取り組めるようにする	○教職員による内部評価「学 校教育目標の達成に向けて積極的に取り組んでいる」は100%だった。	A	・教職員に活気がある。諸行事でまとまっている。
	教育課程	○挨拶、無言清掃等、規律ある態度の指導を徹底する。 □学習規律を定着させ、良好な人間関係の中で落ち着いて授業を進められるようにする。	○保護者による学校評価「徳力の向上」9 3 %、「学力の向上」9 2 %、「体力の向上」9 2 %であった。 □全体的に落ち着いた雰囲気での授業が進められている。	A A	・登校時に大きな声であいさつする教員がいて児童により影響を与えている。
	開かれた学校づくり	○学校・学年の様子や連絡等をホームページやメールで発信していく。	○保護者による学校評価「学校は保護者・地域と連携・協力して教育活動を進めている」は9 1 %であった。 ○運動会や音楽会、学校公開等は、予定通りに実施・公開することができた。	A	・音楽会ではすばらしい児童の姿を見せてもらった。 ・学校行事や授業参観等の時に保護者の人数制限がないのがよい
	教職員の資質向上	○教育公務員として高い意識をもたせる。	○〇計画的に倫理確立委員会が実施できた。	A	・特になし
	施設・設備等の管理	○閉門を徹底し、不審者を侵入させないようにする。 □安全面や衛生面から優先順位をつけて施設・設備等を管理する。	○不審者、施設設備を原因とする事故は0 であった。 □安全点検は組織的に進めることができた。	A A	・特になし

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
桜町小学校	組織運営	○分掌業務を主任一人で遂行することのないよう、「チーム」で取り組んでいく。 □各教員が主となる立場で職務を遂行することにより学校運営参画意識を高める。	○業務の分担を計画に中に盛り込み、複数で対応することができた。年次休暇を全員が10日以上取得することができた。 □一人一主任の立場を自覚し、それぞれがリーダーという経験をして、学校運営へ参画することができた。	B A	・外部からは見えづらい領域だが、校内であった際の挨拶や笑顔などから、教職員のみなさんが健康で安心して、それぞれのチャレンジに集中できる環境なのだろうと察することができ、素敵だと思っていた。 ・学校運営への参画意識の醸成等、コミュニケーションアップにより好結果だった由、更に充実に励んでいただきたい。 ・年次休暇10日以上取得が達成状態となるほど先生方はハードだと感じた。
	教育課程	○仲間と協働して、自ら課題を見つけたり、課題を解決したり、新たな考えを生み出したりする力を育成していく。 □進んで運動する児童を育成する。	○T.T.を全学級で実施することができ、集団と個で学ぶ場を意図的、計画的に設定し教育課程を進められた。日課表変更、会議削減も、児童に向き合う時間の確保に効果的だった。 □体育授業の研究について7本の提案授業を積み上げ、「進んで運動する子」の育成に成果を上げた。健康教育についても児童委員会活動をはじめ日々の取組を積み重ねることができた。	B A	・今年度から始まった算数専科は、とてもよかったと思います。T.T.も、2人の先生に見ていただけるのは遅れがちな子にとってとてもありがたい。 ・学力の底上げのためのペア・グループでの学習でのレベルアップ継続。さらに、専科制、通知表の工夫、学校の働き方改革等に結び付けていただきたい。 ・各学年において、内容に創意工夫があり、児童が授業に集中できている。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会による学校経営・運営の推進と、PTA、学校応援団、自治会等との連携により、保護者、地域の教育力を学校に取り入れていく。	○保護者学校評価「教育活動を積極的に公開」93%と高い評価を得ることができた。学校運営協議会でも教育活動についてよい評価をいただいている。PTA主催教育講演会を鳩ヶ谷ブロック保護者向けに実施できた。	A	・日々HPにアップされる季節を感じる話や日常の学校の様子なども大好きだが、例えば体育の提案授業についての発信は、先生方がどのような思いで教育活動に取り組んでいるのかなど、日頃あまり見えないところが垣間見られてとても興味深い。 ・学校活動の状況がよく見えるので地域の協力機運も醸成されている。 ・次年度も学校や地域の方々と連携しながら、より有意義なPTA活動を進め、協力していきたいと改めて思った。
	教職員の資質向上	○授業づくりについて学び合う教職員集団を構築して、校内の教職員から学び、授業力を向上する。 □授業づくりについて学び合う教職員集団を構築して、校外の実践から学び、授業力を向上する。	○T.T.を全学級で実施でき、教材と児童の変容について教員同士の対話を通して学び合っていた。「少人数による短時間の聴き合い」が定着してきた。 □研究発表会も参集型が増えてきて、積極的に参加し授業の雰囲気や空気感も学ぶことができた。自分の授業に取り入れる姿を見ることもできた。	A B	・T.T.の授業、先生同士のコミュニケーションをとることは学校運営に関してもよいことだと思う。 ・外に学びに行ける機会が増えているのは、先生たちにとっても良いことだと思う。授業参観を見ても全員参加型のような授業で見ても面白いと感じた。 ・風通しのよい学校風土の中で、教職員各々の個性が十分発揮されているように見受けられる。
	施設・設備等の管理	○児童の安心・安全な学び舎として、施設・設備事故ゼロに向けて、計画的な修繕・整備を行う。 □会計事故ゼロを達成するとともに、確実に効率的な会計事務の流れを構築する。	○校舎内の照度、給食室の水質に関しては、すべて適切との評価を得ることができた。昇降口児童用水飲み場についても、改修することができた。 □用紙代を2学期から公費から支出することにして、保護者負担軽減を図った。	A A	・施設、プールの傾き、防災対策北門階段の状況から体育館までの通路等、市への働きかけについても協力して行いたい。給食室の水質、児童用水飲み場の改修等、順調に終了とのこと、安心である。 ・老朽校舎ではあるが、よく維持管理がなされている。また、地域の緊急避難場所として安全確保には、今後もさらなる留意をお願いしたい。 ・日々の丁寧な清掃活動などを通して、子供たちが「古いけれど私たちの学校！」という愛着・誇りのようなものをもっているように感じており、一保護者として感謝している。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
南鳩ヶ谷小	組織運営	○学校長の設定した目指す学校像の具現化を目指し、全教職員に学校経営参画意識を持たせる。 □ミドルリーダーの育成。学年主任を中心とした教職員に学校の中核的存在であることを自覚させる。若手教員へ見本を見せる等、学校の活性化を図る。 ◇校長・教頭・主幹教諭との連携	○前年度から在籍している教職員から、本校の良さと課題をピックアップし、本年度着任教員に説明を行った。方向性を確認し、目指す学校像の具現化に迫ることができた。 □学校全体で確認すべきことや生徒指導・保護者対応等、全教職員で情報を共有すべき内容を検討する場をもつことができた。 ◇毎日ではできなかったが、校長・教頭・主幹教諭の報連相を遅滞なく実行することができた。	A A A	・「運動会」や「こぼと祭」では、先生が生徒に一生懸命に指導していただいた成果が表現されていてとても素晴らしかったです。 ・来年度から支援学級新設や日課の変更登校時刻の変更等新しい取り組みあって大変だと思います。 ・限られた人員でお互いに協力し合い、学校の運営ができています。 ・若手教員の育成を軸とした学年主任中堅の教員とが連携していた。 ・教員のまとまり団結を感じた。 ・ミーティングは毎日でなくても、連携がとれていないなら、負担にならない範囲で良いと思う。 ・校長、教頭、主幹の並ぶ姿をよく見た。	
		教育課程	○タブレット端末の効果的な活用の仕方を職員全体で共有し、授業の中で積極的に活用する。 □児童が1日1回以上タブレット端末を使う場面を計画的に設定する。 ◇家庭学習の課題をタブレット端末で行い、送信するシステムを構築する。	○ICT支援員や本校教職員による効果的なタブレット端末の使い方の研修を実施。 どの教員も授業で使えることができる。 □授業以外での活用はそれほどできなかったが、全教職員が積極的に活用していた。 ◇2学期より、児童の負担を減らすため、毎日の持ち帰りは無しとした。	A B B	・DX化が進む中で、積極的にタブレット端末を使用し、児童が慣れていくことは良いと思います。 ・先生方は工夫しながらタブレットを活用して授業を行っている。 ・児童のタブレットの使い方が雑であった。 ・タブレット端末が単なる通信手段のツールにならないよう、今後も活用されることに期待します。 ・授業参観でタブレットを活用している様子を見た。上手に活用している。 ・課題にするには家庭によっては環境が整わないご家庭もあるのではと思った。 ・故障に対応する保険と予算が市費で賄われることを切望する。
		開かれた学校づくり	○学校応援団、学校ボランティアの再開。 □学校応援団との連携を図る。 ◇学校の取組みを発信し、保護者・地域からのサポート体制を構築する。	○学習ボランティア等の計画が立案・実施までできなかったが、図書・スクールガード等の活動を継続することができた。 □学校応援団会議が開催できなかったが、読み聞かせの会、おやじの会との活動・協力を得ることができた。 ◇給食以外の内容も積極的に更新することができた。 平均閲覧数（休日・長期休業日を除く）は、	B B B	・いろいろな行事などで学校応援団と協働することができていた。 ・学校応援団、PTAの活動も必須になり、見直しを図り、新たな組織づくりが必要。 ・子供たちのために何ができるのかを学校と地域が連携して考えていきたい。 ・来年度は感謝の気持ちを伝える場があってもいいのではと思います。 ・誰のための活動なのかを再度考え、コロナ明けの新しい持続可能な活動になってほしい。 ・ホームページは良く更新できていると思う。 ・今後も継続していくことを期待します。 ・ペーパーレス化し、負担軽減につなげる。
	教職員の資質向上	○ライスステージに応じた自己研修を計画させる。 □若手教員の育成を図る。 ◇課題研究「図画工作科」を通して、教員の指導力を向上させる。	○全教職員に本年度自身の目標と役割を確認させることができた。 □若手教員研修会は年度初めに2回開催。校長・教頭で教室訪問を行い、授業技術や学級経営のポイントの指導を行った。 ◇理論研修と実技研修を行い、教職員の指導技術を高めることができた。	B B A	・教職員のプライベートも大切なので限られた時間の中で人材育成をしていくことは大切だと思う。 ・研修等を教職員全体で共有し、自己の資質を高めてほしい。 ・ライフワークバランスを上手に保って教職員の資質向上ができれば良いと思います。 ・校内での若手教員研修の取組は素晴らしい。成果を期待します。 ・子供たちのために頑張っていたで感謝しております。 ・先生が生徒に被害を与える事件が報道されている。校長が教職員に指導を行っていただけると安心です。	
	施設・設備等の管理	○老朽箇所の修繕を進める。 □廃棄備品の確実な処理。 ◇確実な安全点検の実施	○トイレ、体育館、プール等の大規模修繕箇所を報告した。実際に現場を見てもらい検討してもらっている。 □理科室や各倉庫を点検し、廃棄・整理を行い、整備管理を進めることができた。 ◇見るだけでなく、触る・揺する、複数の目で確認することを行った。	B A A	・学校生活をしている中で危険な箇所があれば、優先順位を考えて修繕していただければと思います。 ・1箇所修繕すると他は数年後になる。町会長や市議会議員にも嘆願が必要。 ・修繕箇所は教育委員会にお願いしていくしかない。 ・整理整頓は安全面で必要不可欠。数年おきに計画的にやれるのが理想的。 ・PTA執行部からも気づいたことがあれば、その都度報告します。 ・児童の安心安全な学校生活のために継続してほしい。	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
東中	組織運営	○生徒・保護者・地域から信頼される教育活動を実践していく。 □教職員が意欲的に生徒と接することができる活気ある教育活動を実践していく。	○学校評価において、生徒・保護者からおおむね良い評価をいただいた。 □教職員が生徒へ対する意欲的な教育活動は実施したが、教職員の負担感軽減までは至らない部分があった。	B C	・特になし ・特になし
	教育課程	○「確かな学力を育む基礎基本の徹底」を実現する。 □教育相談体制を構築するとともに、休みがちな生徒への学習支援を実現する。	○研修等を定期的に実施し、わかりやすい授業を展開した。学校評価においてはおおむね良い評価であった。 □生徒に応じた学習支援を可能な限り実施した。GIGAパソコンの配布時期が遅くなったため、不十分な部分があった。	B C	・特になし ・特になし
	開かれた学校づくり	○保護者・地域へ迅速に情報共有できる体制を確立する。 □小学校、中学校のそれぞれの良さを共有し、新郷地区全体で子どもたちを育成していく。	○情報発信は必要に応じ、発信できた。 □授業研究会や授業参観、定期的な会議の実施により連携を行うことができた。	B B	・特になし ・特になし
	教職員の資質向上	○生徒が自分の進路実現のため、主体的に学びに向かうことができる授業体制を確立する。 □生徒・保護者・地域から信頼される教職員集団を形成する。	○教職員が授業力の向上のため、キャリアに応じた自己研鑽を行うとともに、教科部会等で指導法を検討した。 □教職員事故を起こさない意識は常に意識できていた。	B B	・特になし ・特になし
	施設・設備等の管理	○生徒がケガ等をする事のない、安全な教育環境を整備していく。 □学校生活のみならず、災害時の避難場所としての機能が十分発揮できる施設にしている。	○定期的な点検の実施により、計画定期的な修繕を行った。 □避難所開設マニュアルの見直しを行った。教育委員会とは、随時、連絡を取り合っている。	A B	・特になし ・特になし

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
西中	組織運営	○学校に行くことが楽しいと感じる生徒の割合、学校に行くことを楽しみにしていると感じている保護者の割合を95%以上にする。 □本校の喫緊の課題である不登校生徒の割合を2%未満にする。 ◇教職員が明るく元気に働ける職場を実現するために、年休の取得や在校時間への関心を高め、心や体の不調による休暇等及び教職員事故を0とする。	○今年度の目標に対する結果は生徒90.3%（昨年度94.3%）、保護者は94.7%（昨年度93.4%）であった。 □不登校生徒の割合は4%を超えた。 ◇昨年4月に、教職員による交通事故が発生した。また、2名の教員が、心身の不調による休職、病気休暇を取得した。	A C B	・教職員の働き方改革を進め、教職員にもゆとりをもって教職に当たって欲しい。 ・不登校対策は、外部の専門機関を積極的に活用して、教員の負担軽減に取り組んで欲しい。 ・教職員のワークライフバランスを活かせるよう働き方改革を進めて欲しい。
	教育課程	○学力向上の一環として、GIGA端末を効果的に活用した学習指導を実践する。 □生徒が学び合い、生徒を主体とした「協働的な学び」が実践できるようにする。	○GIGA端末やミライシードは、教科の特性や単元等のねらいにより、各教科担当の裁量により効果的な活用が進められている。 □生徒が主体となって課題を解決しようとする授業が見受けられるようになった。しかし、一斉授業型、講義型の授業が未だに見受けられる。	A B	・GIGA端末が有効に活用されている様子が伺える。 ・授業等、従来の方法にとらわれず、多くのアイデアを活かせる工夫を進めて欲しい。
	開かれた学校づくり	○学校と保護者、地域との距離を縮め、学校への理解を深め、本校が行う開かれた学校づくりに対する学校評価を95%以上にする。 □学校行事や学校公開週間など、保護者や地域に学校を積極的に見ていただき、学校は保護者や地域との連携を図っていると評価を95%以上にする。	○保護者の「学校は学校の様子を積極的に発信しているか」は、97.7%（昨年度93.4%）と目標を上回った。 □保護者の「家庭との連携を積極的に図っているか」では89.2%（昨年度88.6%）と目標を下回った。	A B	・ホームページの学校の概要や取り組み等、外部を意識した内容を意識することも必要と感じる。ペーパーレスを進めて欲しい。 ・学校は地域の意見を聞き、良好な関係にあると思う。
	教職員の資質向上	○学校評価の生徒、保護者アンケートの「授業はよくわかります」の項目について、「はい」と答える割合を95%以上にする。 □ライフステージに応じた研修への積極的な参加や外部からの指導者を受け入れ、若手教員のスキルアップを実践する。	○「わかりやすい授業」について、生徒は96.0%（昨年度94.0%）で、保護者は87.0%（昨年度85.0%）であった。 □すべての教科で指導主事を要請した授業を実施した。また、自ら学びたい内容の研修や他校の実践を積極的に参観する教員が増えた。	A A	・生徒と保護者の認識に差があるのは別にいいと思う。 ・参観以外の方法も模索して欲しい。
	施設・設備等の管理	○環境づくりは学習の場づくりとして、生徒が毎日生活する場を整え、生徒にとって安全で、安全して学校生活を送れるようにする。施設に関する学校事故ゼロを維持する。 □配当された予算により、計画的に修繕・修理を行い、教育環境を整える。	○学校施設に関する事故0を継続することができた。 □市教委や南部事務所訪問を契機に全体を見直した。	A A	・管理体制については、教員同志のチェック機能の強化が必要と感じる。 ・市教委に修繕費の増額をお願いしたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
南中	組織運営	○ミドルリーダーを機能させ、持続可能な組織を作る。 □臨機応変に対応できる組織を作る。	○学年ごとの特色を活かした取組ができた。 □主幹教諭を中心に意見をまとめ実施できた。	B B	・特になし ・特になし
	教育課程	○一つ一つの必要性を精査し、持続可能な教育課程への改善を行う。	○次年度に向けた日課表の大幅な改定を行った。	A	・行事等の活動が元に戻りつつあるので、先生や生徒の負担が大きいと思われます。
	開かれた学校づくり	○地域連携活動が持続可能なものとなるよう、見直しを行う。 □積極的な情報発信を行う。	○前年度踏襲ではなく、見直しと改善に取り組んだ。	B	・地域連携は土日が多いため、難しいのではないのでしょうか。
			□連絡ツールも導入することで、利便性の向上につながった。	A	・特になし
	教職員の資質向上	○校内研修を充実させ、教職員の指導力向上を図る。 □倫理確立委員会の更に充実させる。	○計画的に校内研修を実施することができた。	A	・特になし
			□新たに、若手教員発信の対話型研修を行った。	B	・特になし
施設・設備等の管理	○生徒も巻き込んだ、学校ぐるみの施設管理を行う。 □計画的な修繕を行う。	○確実に実施することができた。	A	・特になし	
		□計画的に、確実に実施することができた。	A	・特になし	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
北中	組織運営	○校務分掌の相互連携を充実させ 効果的組織機能の向上。 □学校改革による教職員の学校運営参画意識の向上。	○校務分掌の相互連携を充実が図られ実行力のある学校組織が構築された。 □「学びの共同体の構想と実践」の推進により教職員の学校経営への参画意識及び同僚性の醸成が図られた。	A	・教員がベクトルを合わせ、組織として教育課題の解決に取り組んでいる姿勢が良い。	
		◇学校評価の項目の継続的改善。	◇評価項目と実施方法の改善を行い、実態に即した学校評価が実施できた。	B	・「学びの共同体」での学校改革により、規律と潤いのある学校生活が構築され学校が活性化している。	
				A	・教職員の漸進的な負担軽減策を継続して、より生徒と一緒に活動する時間の確保に努めて欲しい。	
	教育課程	○「学びの共同体」の実践により探求と協同の学びを深め、生徒一人一人の学びの質を向上させる。 □「学びの共同体」の構成と実践を柱とした教育課程を推進し全ての生徒の学びを支援する。	○「学びの共同体」の構成と実践を柱とした学校改革が確実に推進された。 □「学びの共同体」の構成と実践を柱とした学校改革が確実に推進された。	A	・引き続き学校からの働きかけにより、家庭学習の必要性を家庭に訴えてほしい。	
				A	・「学びの共同体」による授業改善により、生徒が主体的に授業に臨んでいる姿勢を目にし、ここ数年での大きな変容に大変驚いている。	
		◇小中連携した教育課程の構築	◇中・長期なスパンでの継続可能な教育活動の初期段階が実施できた。	B	・継続して小中連携した探求と共同のある教育活動を推進し確実に学力向上等に繋げてほしい。 ・長年にわたる地域の課題に対し、「学びの共同体」による学校改革を実践されうれしく思うと同時に期待をしている。 ・教育指導計画の柔軟な対応により確実に教育活動が実施されている。	
開かれた学校づくり	○「学びの共同体」の構想と実践による学校改革を推進し、保護者や地域が改革に参加する学習参加の実践を推進する。 □「学びの共同体」の構想と実践を柱とした学校・家庭・地域の連携を強化する。	○「学びの共同体」を柱とした学校改革が推進され、保護者や地域が改革に参加するというビジョンを地域・保護者に周知できた。公開授業も予定通り実施することができた。周知から実践に適宜移行していくことが課題である。 □学びの共同体を柱に中学校ブロックを単位とした北中学校区の小学校と公開研究会を計画的に実施できた。さらに推進充実が課題。	B	・北中が中心となつての学びのイノベーションが神根地区に波及して地域と連携した教育活動が充実され、生徒の顔が見える学校づくりが成果を上げている。		
			B	・ホームページや学校の実態が伺える学校便り等、適宜情報発信がされ、学校の教育活動が適時わかりやすく知ることができた。		
教職員の資質向上	○学校研究主題を「学びの共同体の構想と実践」として、生徒がより「学びを深める」ための「創造性」「探求」「協同」を追求。 □教育公務員としての使命を自覚し、教育のプロとしての誇りを持って日々の教育活動に取り組ませ、教職員の資質の向上を実現する。（教職員事故ゼロ）	○「学びの共同体の構成と実践」を柱に生徒の学びを深めるための「創造性」「探求」「協同」をキーワードとした授業改善を着実に実践し指導力が向上した。 □教職員事故ゼロを目指した課題別研修を適宜適切に実施でき教育公務員としての意識が醸成された。	A	・実態に応じた生徒に寄り添う教育活動が随所にみられ、教職員相互の支援体制の充実が伺える。是非継続してほしい。		
			A	・自ら学びに向かう、生涯学習の礎となるような授業改善を推進して欲しい。		
施設・設備等の管理	○ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしい教育環境の整備を推進して安全管理を徹底する。 □学校施設を有効活用しての幅広い教育活動を実践する。	○中・長期的環境整備計画であった渡り廊下の耐震工事・昇降口の大規模修繕が無事終了し安全で優しい教育環境づくりが推進し効果的に施設活用した教育活動が実践された。 □新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた施設・設備の安全管理を徹底し生徒の安心安全な学校生活が推進された。 □施設・設備の安全管理を徹底し生徒の安心安全な学校生活が推進された。	A	・ユニバーサルデザインを意識した学校内外の改修や特別教室の整備など、生徒に優しい教育環境に発展している。		
			B	・生徒の作品を中心とした校内掲示及び図書館の整備は目を見張る充実ぶりである。 ・学校事故を起こさない施設・設備の安全管理の徹底が伺えた。継続充実を図ってほしい。		

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
青木中	組織運営	○チーム青木中として学校全体の組織的な対応	○学力向上策として、話し合い、学び合い活動等を全ての教員が積極的に取り入れ改善を図った。不登校生徒支援率100%に向けて誰一人取り残すことなく支援できた。	A	・不登校生徒支援率100%の基準について、本校は週1回の教育相談部会で欠席が多い生徒の対応を速やかに確認している。担任だけでなく、学校全体で状況を把握して対応している。 ・学力向上策として、全ての教科で授業中の話し合い、学び合い活動等を積極的に取り入れた。数学は昼休みの時間で生徒同士の学び合いにより、基礎的な計算技能を高めた。英語はデジタル教科書を活用し、5 ラウンドよりリスニングの力をつけた。 ・	
		□伝統の継承と発展	□運動会など伝統を継承しながら、時代に合った運営を進めた。教職員の教育力向上のため研修会等を実施し、指導力を高められた。	B		
	◇	◇				
	教育課程	○全ての生徒の学力向上	○本校生徒の学力のレベルは、埼玉県、川口市との比較で、3年生と2年生は上回り、1年生は県・市と同レベルという傾向がある。	A		・学力アップ教室は、川口市教育委員会主催で中3生徒対象。入試対策として基礎基本を中心に、テキストを基に行っている。青木中は12月から土曜午前に希望者を募り実施した。指導者は元教諭や教員を目指している大学生。
		□道徳の青木中	□本校は、規律ある態度において8割以上の生徒が達成している。時刻を守る、集団の場での態度は、本校生徒の9割を超える項目である。	A		
開かれた学校づくり	○コミュニティ・スクールによる学校課題（部活動地域移行を含む）への連携・協働	○部活動のスリム化に向けて、今年度より希望加入とした。朝練を中止し、コーラス部は人数減により次年度新入生の入部を停止する。	B	・コーラス部の新入生入部停止の現状について、3年生が引退後の部員数は7名。2月の大会参加のため、他校と合同チームで出場した。現部員が引退するまでは責任を持って指導していく。 ・本年度、市教委の指導により部活動の朝練習を中止した。放課後の活動を充実させている。土日の部活動について、青木中学校部活動方針に則り、休業日は3時間程度で、休養日を設けている。		
	□メールやHPを活用した情報発信の充実	□保護者、家庭、地域等との連携を図るために、学校HPやメールを活用し、開かれた学校づくりに取り組んだ。制服の見直しを継続して進めることができた。	A			
教職員の資質向上	○学び続ける青木中の教職員	○生徒の学び合いを積極的に取り入れるなど、授業力を高めている。授業参観や教科で指導者を招聘するなど授業改善に取り組んだ。	A	・本校の働き方改革は、現在（2/15）定時退勤ウィーク実施中であるが、11月に時間外在校等時間80時間を超えた教員がいたことから、まだ推進途中である。勤務期間の8時20分～16時50分に合わせて、次年度日課表を見直した。		
		□信頼・尊敬される教職員の育成	□管理職が率先して対話を基に明るい職場環境をつくり、全教職員が誇りをもって日々の指導に尽力した。		A	
		◇働き方改革の推進	◇先輩から若手への助言をもとに、健康第一に考えた勤務、時間を意識した勤務を進め、働き方の改善を進めている。		B	
施設・設備等の管理	○デジタルの青木中	○新校務支援システムを積極的に活用するなどデジタル化を進めた。	B	・本年度卒業アルバムの業者変更に伴い、個人購入に変更した。PTA会長の助言より、締切前に保護者へメール配信で再度通知をし、購入漏れがないようにした。業者と契約の段階で過去の購入実績を基に販売価格を設定している。		
		□施設事故ゼロに向けた施設・設備管理の徹底	□校内巡視をもとに、計画的に素早い修繕を徹底し、事故ゼロ。今後も教職員への危機管理意識の徹底を継続指導していく。		A	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝中	組織運営	○分掌ごとのP D C Aサイクルの確立 □不登校支援率1 0 0 %と不登校生徒数の割合5 %以内	○重点目標シートを活用した主任との年3回の面談等により、PDCAサイクルが浸透してきている。 □不登校支援率1 0 0 %達成。ステップルーム登校1 2 名。割合は減少傾向にあるが、まだ7 . 9 %（1 月 末）と高く課題を残した。	A B	・組織にとってPDCAサイクルの確立は必要である。引き続きお願いしたい。 ・不登校生徒の支援率100%は、細やかな対応の成果である。一方で教員の負担が多くなってしまいが心配である。働き方改革とのバランスを見ながら、SCや外部との連携を進めていくことも必要である。
		教育課程	○一人一台端末の活用推進	○通常学級担当教員の端末を活用した授業実施率1 0 0 %達成。端末の活用率は日常的に8 5 %と高くなった。端末を活用した校内授業研究会を実施。	A
	開かれた学校づくり	○防災拠点としての学校をつくるため地域との協働体制の構築 □生徒の共助の精神の育成	○防災に係る地域連携事業を通して、地域との協働体制を強化することができた。次年度に向け防災サミットを3月に実施予定。 □生徒アンケートから、防災に対する「知識」は大きく向上したが、防災に対する「意識」に大きな変化は見られなかった。 ◇	A B	・民生委員は独居高齢者を把握している。それぞれの立場で、できることを共有することも考えられる。 ・町会との連携も引き続きお願いしたい。 ・将来、学校で学んだことを地域で発揮してくれることを期待している。 ・防災に対する意識を高めるためには、アンケートを定期的 to 実施する必要がある。
		教職員の資質向上	○働き方改革の実現	○業務改善スタンダードが機能した一つの成果として、1 月 末時点での時間外在校時間300時間超え64.5%、360時間超え45.1%となった。（昨年度87.5%）	B
	施設・設備等の管理	○施設管理事故ゼロ	○施設管理事故ゼロを達成。修繕は計画通り実施済み。今年度発見した施設設備の不具合は対応済。桜の植え替えは市と連携して実施中。	A	・トイレが以前より良くなった。 ・桜の植え替えが始まったのは良かった。継続して計画的に進めてほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
元郷中	組織運営	○教職員一人ひとりの能力を発揮させ、チーム力の向上を図る。 □月45時間、年360時間以下の在校時間を旨ず。 ◇教育活動が円滑に流れるための組織の確立	○経験年数の浅い教員が多い中、フットワークの良さを生かした教育活動を推進することができた。 □在校時間が月80時間越えの教員の人数は減少しているものの、45時間以上が約30％となり数値目標は達成できなかった。 ◇教師の個の力を結集し学校運営を進めることは難しかった。今年度は学年ごとの力で概ね教育活動が推進できた。	B C B	・若い先生の利点でもあるフットワークの良さが感じられる。ポストコロナとなったことから、学校現場の見る機会を増やし、先生方のみえる化をしてほしい。 ・時代の流れに沿ってやるのhじゃ良いが、内部分裂を起こさないようにしてほしい。 ・特になし
	教育課程	○生徒のモチベーションをあげる授業の推進 □自発的に学ぶ力の向上 ◇学習形態の改善	○経験値の少ない教師による指導のため、モチベーションをあげての学力向上は十分な成果はでなかった。タブレットの使用率も低かったのが残念である □教師の指導法の研修する時間が取れず、目に見える指導力の改善まで至らなかったで、自発的に学ぶ生徒の育成については十分な達成はできなかった。 ◇生徒一人一人の学力を伸ばすための学習形態の工夫については、少しずつ増えてきた。継続により来年度以降の成果が期待できる。	B B B	・ベテランの先生の授業は、とても興味をもつことができ、生徒の生き生きとした活動が見られていた。 ・中学校の3年間だけでは難しいと感じる。やはり小中の連携と地域の力が必要である。 ・特になし
	開かれた学校づくり	○積極的な情報公開 □中学校区における、幼少中の連携活動の推進 ◇地域との連携、地域の人材を活用した幅広い教育活動の推進	○定期的なお便り等については、計画通りできたが、内容面や学校からの発信について、工夫が必要である。 □ポストコロナとなり、昨年度よりも幼小中の連携活動が増え、生徒の成長に影響を与えることができた。 ◇各学年において、計画通りに実施することができた。どの活動においても、普段の授業では得ることができない知識や技能を習得することができた。	B A A	・子どもたちの活躍をもっと工夫して発信してほしい。 ・PTAと先生方のコミュニケーションができる場がもっとほしい。 ・夢ワークでの生徒の活動に感動した。 ・コロナ禍で地域との距離が遠くなり、どの場面で学校を応援してよいのかわからなくなってしまった。
	教職員の資質向上	○教職員のキャリアに応じた資質の向上 □GIGAスクール構想の推進による指導力の向上 ◇限られた時間内で仕事を処理する技術を身に着ける	○経験年数に応じた研修を実施することで、資質の向上に繋げることができた。 □タブレットの使用頻度においては、教科や教師によって差が出てしまった。 ◇在校時間の管理から、時間外勤務の状況が改善されてきた。教師の意識も変わり、来年度は更なる成果が期待できる。	B B B	・特になし ・特になし ・特になし
	施設・設備等の管理	○学校における施設・設備事故ゼロの実現 □教育活動を止めない長期的な修繕計画の作成	○体育館の雨漏れや正門前の駐車場での水漏れはあったが、大きな事故もなく、教育環境の維持が保たれた。 □老朽化による修繕計画の見直し計画を作成したが、能登半島地震の被害状況を参考に、修繕計画の見直しが必要である。	A B	・特になし ・特になし

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
上青木中	組織運営	○本校の職員がお互いに良好なコミュニケーションを図りながら、個々の力を結び合わせ、力を発揮させる組織づくり	○提案資料に目的を明記することにより、ぶれることなく進めることができた。教職員が最後まで諦めずに指導に当たることができた。	A	・継続して取り組んで欲しい。 ・教育の目的を明確にし、達成感を持てれば素晴らしいと思う。
		□教職員が仕事の段取り力を身に付け、負担感を持つのではなく、メリハリのある職務遂行	□提案者については土日の勤務者も見られた。日常の業務を抱え、時間確保については、土日に回すしかないこともあり達成は難しかった。	B	・メリハリのある職場は大切であり、管理職が率先して行動して欲しい。 ・作業量を洗い出し、偏らないように。
		◇やりがいを感じる職場づくりを推進	◇学校がどのような方向を目指しているのかわからない、という意見もあり、十分満足した達成状況とはいえない。	B	・仕事量を減らすための根本的な職務見直しも必要だと思う。 ・全体ミーティング、1 on 1 ミーティングでビジョン、ミッションを明確にして欲しい。
	教育課程	○主体的で対話的な深い学びの授業づくり	○対話的な活動を取り入れている授業が多かった。タブレットを文具的に活用しながら、効果的に使用している様子があった。	B	・生徒から意見が出るよう指導して欲しい。
		□指導と評価の一体化を図る授業実践	□ねらいの提示は良く行われていたが、まとめが不十分な授業があり、時間配分にも課題が残った。	B	・I C T化で調べる力は上がっていると思うが、情報の見極めや理解し自分の言葉で表現する（深い学び）につながる授業をお願いしたい。
			◇教科会での授業研究については大変熱心であり、授業改善の熱意を感じた。情報交換も適時行いながら進められた。	A	・目的と達成感を明確にして指導することは良いことなので、続けて欲しい。 ・授業を振り返り生徒の理解度を確認する時間が持てれば、大変良いと思う。 ・研究を優先して、通常授業がおろそかにならないように。
開かれた学校づくり		○家庭、地域の教育力の活用	○学校行事への出席を頂いたり協議会前にアンケートを配布したりしながら、少しでもご意見の頂きやすい協議会を行うことができた。	A	・継続して欲しい。 ・学校運営協議会委員の立場としては、できるだけ学校行事に参加し、協力を努めたいと思う。
		□ポストコロナの新しい地域、P T A行事等の在り方について研究	□学校行事の公開は土日開催の希望が多かった。学校の「働き方改革」の推進とは相反してしまうことから、丁寧に伝えていかなければならない。	B	・土日以外での開催もやむを得ないと思う。 ・先生の働き方改革とP T Aの希望を両立させるのは難しいと思うが、P T Aに寄り添うことが協力を得られることにつながると思う。
		◇積極的な生徒のボランティア活動の実践	◇多くの町会から情報をいただいた。協力的であったことに感謝したい。生徒の実際の参加率をあげることに次年度は工夫をしていきたい。	C	・町会のイベントの積極的な参加をお願いしたい。公園清掃等のボランティア等 ・学校との連絡会も実施するとよい。 ・町会の高齢化に大きな不安を感じ、中学生の参加が「希望の光」だと思う。
教職員の資質向上		○真の生徒理解による、生徒指導、教育相談の推進	○研修アンケート結果から、成果を感じている。日々の指導に活かしている教職員も多く、生徒との対話が以前より多くなってきた。	A	・継続して欲しい。 ・ヤングケアラーや児童虐待などの先生方が気づく場面があると思うが、そのような時の対応についての研修を行って欲しい。
		□学年シフトではなく、個々の力を結び合わせ、力を発揮させる組織づくり	□事前に確認することにより各々が折り合いをつけて職務を進めることが増えた。組織づくりの面では次年度も継続して取り組んでいきたい。	B	・I C Tを「良かった授業（事例）」「生徒の対応についての成功例」などの共有利用できたいと思う。
		◇教職員不祥事防止	◇教職員事故もなく、教育公務員としての自覚と責任のある職務遂行ができた。	A	・コンプライアンス教育の実績を積む。 ・先生方もよいストレス発散法を見つけてほしい。
施設・設備等の管理		○学校事故防止の徹底	○学校事故防止の徹底はできている。今後もこの施設の現状である限りは、全教職員と対応を徹底していく。	A	・学校の修繕に関しては、市長にお願いしている。
		□全教職員による確認の実施	□点検の実施は遂行できた。その中で、教職員の意識改善については、日常の管理運営からはまだ不十分な点が見られるため、継続していく。	C	・日々の管理は大変だが、気づいたら後回しにしないことが大切。 ・点検のための点検にならないようにして欲しい。
			◇教頭と市教委の連携を密にし相談を重ねながら対応している。修繕に至らなかったものも見積もりを取り今後の見通しを立てている。	C	・ヒヤリハットを定期的に検証していくこと。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
幸並中	組織運営	○主任層、ミドルリーダーのさらなる資質向上 □不登校生徒への支援率100%の達成 ◇いじめ事案未解決0%の達成	○各主任を中心に各学年、分掌が適切に機能し、OJTを進めた。 □SR経営は安定し、外部機関とも連携できたが、不登校生徒支援率100%は達成できなかった。 ◇各学年、生徒指導委員会等が連携し、いじめ事案解決の見届けは順調である。積極的指導の特別な取組はできなかった。	B C A	・目指すべき教師像、リーダー像を明確に先生方に伝えてほしい。不登校については、個別の対応だけでなく、潜在的な原因等の分析をして、傾向を見出し、対処してほしい。 ・管理職の報告や保護者評価から問題発生時の先生たちの対応が良いと感じました。 ・生徒指導にはただただ頭が下がります。専門機関や支援員の協力がもっと必要と思われる。	
		教育課程	○実践的な校内研修の実施 □質問教室やサマースクールの充実 ◇県学調・全国学調の分析、活用	○都立高校から現役の先生を招聘し、実践的な授業力向上研修を実施できた。 □質問教室は教科ごとに開催し、サマースクールは個々の指導に活用できた。 ◇学力向上委員会を中心に各調査を分析し、課題を見出し、学力向上プランに反映した。	B B B	・教育課程が変化したら、その結果、教育の質が落ちていないことを検証してほしい。 ・次年度からの改革を先生、生徒、保護者等、皆で乗り越えてほしい。批判ではなく提案で。 ・大切だと思うことは、声の大きさに負けず自信をもってやってほしい。朝読書や清掃は時程に残してほしい。情操教育として大切である。
			開かれた学校づくり	○学校HPの積極的活用 □学校運営協議会を核とした地域とともにある学校づくりの推進 ◇70周年記念行事の成功	○学校行事や日常の教育活動、部活動報告等、100本以上の記事をアップし、HPを活用することができた。1日平均100以上のアクセスがある。 □学校運営協議会と学校課題について共有することができた。 ◇準備委員会や地域の多大なご尽力をいただき、式典、美術展等を通して生徒の歌唱や作品等を見ていただくことができた。	A B A
	教職員の資質向上	○教職員としての専門性、力量の向上 □授業力のさらなる向上 ◇教職員事故0の達成	○各学年、教科、分掌を通して、ベテラン・中堅教員が範を示し、若手の育成に繋げた。 □相互授業参観はできなかったが、指導主事を招聘しての若手教員授業研修は充実した。 ◇全体研修はできなかったが、管理職・事務職等による指導、注意喚起を適宜行った。	A B B	・先生方の仕事のなかには、職務外のものもあると感じている。教育委員会にも頑張ってもらいたい。グローバル化への対策が激務の一因では？ ・ベテラン教師が多いこの機会を活かして、若手教職員の育成に努めていただきたい。 ・相互授業参観の実現等、充実した研修の継続を望みます。研修は継続しかない。	
		施設・設備等の管理	○危機管理意識を高め、学校事故0の達成 □会計に関する複数のチェック機能の徹底 ◇ペーパーレス化の推進	○施設・設備の安全確保は適宜確認した。無施錠による発報案件1件。施錠について見直した。 □学年会計、部活動会計（吹奏楽部）にて保護者監査を実施予定。 ◇通信等について配信を活用し、十分ではないが印刷費を抑制した。	A A B	・事故0への取り組みをこれからも継続できるようお願いします。 ・潤沢な予算がない中ご苦労様です。会計事故0もお願いします。 ・災害拠点にもなる施設なので体育館の改修についても取り組んでほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
十二月田中	組織運営	○学びの時代(学校ver.3.0) に主体的に生きる生徒を育成する学校経営の推進と組織基盤の強化 □校務分掌主任による検証改善サイクルに関わる協議・意見交換 ◇学校運営協議会内における、学校組織に関わる協議・意見交換	○年3回経営方針を全職員に周知徹底した。学年主任を中心とした学年間の統制と課題解消に向けた協力体制を得た。 □年2回校務分掌アンケートを実施した。校務分掌の可視化した課題の解消に向けて主任を中心に取り組み、学校全体の運営力が高まった。 ◇年3回運営協議会を実施し、学校組織・運営に関わる意見交換を行った。周年行事に向けた協議・準備を推進できた。	A B A	・学校運営協議会中、校内参観の際、若手教職員が増えたことで活気のある授業が展開されていた。 ・十二月田中の先生方と意見交換ができる時間を頂きとても有意義でした。 ・本運営委員会では、引き続き学校と地域が情報や今起きている課題を共有し、子供たちのために協力していきたいです。	
		教育課程	○改・学校ICT化計画に基づくICTを有効活用した教育活動の展開 □「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善 ◇徳育による徳力の涵養	○研修主任等を中心に生徒主体の授業実践を目指し、機会がある毎にICT(オンライン等)を有効的に活用した授業を実践した。研修の検証までは至らなかった。 □アクションリサーチを活用して、若手教員の指導力向上に取り組めた。OJTや経験年数を考慮し、授業改善の視点による指導力向上研修を実施出来なかった。 ◇学年間の取組において差異があった。内容項目22を全て取り組むことが出来なかった。掲示物による啓発は実施出来た。	A B B	・若手職員の研修の実施等指導力向上の充実も大切ですが、校内での先生方同士のコミュニケーションが大切だと思います。 ・授業参観、教室訪問は、職員同士の気付きとなり改善につながると思うのでしっかりと実施して行ってほしい。 ・他校と比べて、タブレットを用いた授業が早くから始められていたので有効に授業に活用してほしい。
			開かれた学校づくり	○学校・家庭・地域との連携強化を図り、70周年記念事業を軸に地域に開かれ信頼される学校づくりに向けた取組の拡充	○教育活動をHP等で配信して家庭・地域との連携が一層強化出来た。(閲覧累計35000回超/更新100回超) □民生委員会(年7回)・町会長会議(年2回)を実施して、学校の実情を共有し忌憚の無い意見や詳細な情報を基に連携強化が出来た。 ◇バザーや部活動体験等の行事を通じて、地域や近隣小学校との交流を深めることが出来た。	A B A
	教職員の資質向上	○教職員の資質向上に向けた教職員人事評価制度の活用による人材育成の充実・強化	○適正な評価制度を周知徹底し、教員の指導力向上をねらいとした取組を実施することが出来た。 □自己評価シートの作成に向けた見通しを持った作成期間を周知徹底し、全職員対象の面談を年3回実施した。 ◇相互授業参観は軌道に乗せることが出来たが、キャリア段階に応じた相互情報交換を実施出来なかった。	B A B	・昔のように先輩教員から若手職員への知識・技能の伝承をうまく指導ができない状況があるのではないかと。 ・引き続き、継続的な研修を充実させていくための環境を整えるなど対策が必要だと思います。 ・校内研修、協議会等を確実に実施をして、指導技術などの向上を目指してほしい。	
				施設・設備等の管理	○学校内施設設備管理・公文書管理・会計事務における無事故に向けた体制整備の強化 ◇危機管理に備えた教職員の意識と体制整備の強化	○管理職による施設・設備点検と教職員による定期的な安全点検に取り組み、日常の教育活動の安全安心が保たれた。(施設関連事故0件) □教頭及び事務と共に見通しのある予算執行ができた。 ・会計監査と会計処理システムの構築により会計事故防止策を強化した。(会計関連事故0件) ◇効果的な避難訓練及び不審者訓練を実施することが出来た。 ・危機管理マニュアルの電子化活用研修を実施出来なかった。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
仲町中	組織運営	○全教職員で目指す学校像を共有し、「学力向上、外国籍生徒支援、不登校生徒支援」という学校重点課題の解決にあたる気持ちの醸成を図る。 □生徒指導、教育相談、特別支援、通級指導教室、日本語指導等、全ての教職員が一丸となって教育活動に参画する教職員集団をつくる。 ◇不登校等、様々な課題がある生徒について、関係機関との連携強化等をもとに、本人、家庭、学校、地域が協力して自己決定実現とそれぞれのニーズに応じた支援100%を実現する。	○学力向上について、県学調では一定の成果がみられた。「目指す学校像」について機を捉え、広く広報し、組織での課題解決にあたった。 □管理職もフットワークよく教職員と共に、様々な対応について取り組み、教職員に範を示し、対応スキルを習得させ、人材育成に努めた。 ◇生徒一人一人の課題を洗い出しながら、関係各課と情報交換や連携を密に行った。しかし、支援率100%には至らなかった。	B A B	・特になし ・特になし ・校長から依頼があった、不登校生徒の学習支援や日本語指導のボランティアについては、地域に働きかけてみたがこの時代無償では難しいこと、引き続き市教委へはたらきかけていくことが望ましいとご意見を頂戴した。	
		教育課程	○ポストコロナに対応した教育計画を、常にPDCAの視点で適切に見直す。 □本校の教育課題解決に向けた教育活動を実践する。	○毎日、子供たちや教室の様子を確認し、教職員と継続的に実態把握、情報共有、支援にあたった。 □ポストコロナ、新たな教育課程編成について、行事の在り方や授業時数について精査・検討を繰り返し行い、改善した。	B B	・特になし ・授業数確保は大変だが、全校集会等を計画的に行い、子供たちの心に訴える道徳的心情が育つような講話の機会をもってはどうか、というご意見を頂戴した。
		開かれた学校づくり	○地域の子供たちのために家庭・地域との連携体制の構築により、保護者・地域に愛され、地域と一体となった学校づくりを推進する。 □外国籍生徒の支援体制の構築と、地区小・中学校との連携を推進する。 ◇家庭・地域と一体化した取組を実施する。	○夏季研修や授業参観等、生徒指導、教育相談、引き取り訓練、日本語指導、教育課程編成等について常に情報共有し、協同的な活動ができた。 □学校HPを1日1回更新し、写真を活用しながら最新の情報提供を行った結果、子供たちはもちろん、保護者や地域の方々からメッセージが届いた。 ◇学校運営協議会、三者会議等、計画的に実施した。本校の教育活動や、学校経営についてご助言をいただいた。	B A B	・小・中連携は先生方だけでなく、保護者も必要である。情報が入らない外国籍生徒の保護者のために、これからもできることがあるので日本語の困難度等共有して欲しい、というご意見もいただいた。 ・学校HPは、写真がポイントであろう。限定ログインできるページもあってよいのではないか。というご意見をいただいた。 ・次年度は本校創立70周年の準備の年であるので、機を捉え、皆で検討していく。
	教職員の資質向上	○目指す学校像をキーワードとして、生徒・保護者・地域から信頼され、やりがいと誇りをもって仕事にあたる、一人一人の笑顔が輝く教職員育成を実現する。 □教職員不祥事根絶、職員事故ゼロを実現する。 ◇更なる業務改善の見直しを図る。	○日々、教職員とコミュニケーションをとりながら、丁寧に向き合い、気持ちを支えながら個々の力を発揮できる組織作りを行った。 □様々な機会に、最新の情報やなぜそのような事故が発生したか、自身の過去の経験等について話題にし、年間を通じて意識付けを行った。 ◇業務改善委員会にて、ボトムアップで検討する機会を設けた。（80時間超4月のみ1名 時間外勤務月平均約30h）	A B B	・特になし ・特になし ・教職員の確保や未配置問題をみると、今後も、部活動をはじめとする時程の変更や教職員の業務の確認は必要であろう。	
	施設・設備等の管理	○学校施設、設備の適切管理で事故ゼロとし、安心・安全な教育環境を維持する。 □特別教室を中心とした準備室の整備を行い、刃物等危険物の扱いや管理を徹底する。 ◇GIGA端末をはじめ、情報機器等の計画的な整備管理を行う。	○初めて外部指導者を招き、不審者対応避難訓練を実施した。震災時等、より実践的な避難訓練の在り方を見直し、改善点を見出した。 □特別教室の備品管理について、市教委に指導をいただきながら、適切な管理のための改善を行った。 ◇全職員で夏休み前に施設設備の安全確認、職員作業を行った。	A B B	・震災や非常災害など、日頃からの備えが重要である。子供たちだけでなく、地域も避難所開設の会議をその機会とし、今後も継続して行う。 ・特になし ・端末の破損対応、容量の不足が学習面に影響していると考え。今後も市教委に更なる働きかけをして欲しい。というご要望をいただいた。	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
安行中	組織運営	○学校教育目標の達成に向けて、目指す学校像の具現化に向けて教職員一人一人の指導力を育成する。 □教職員一人一人に責任をもって校務分掌を遂行させ、学校運営の参画意識を高める。	○学校運営への参画意識を持たせる、ミドルリーダーを育成するという両観点に向け、教職員一人一人に役割を与えることは偏りが生じ、厳しかった。 □管理職が率先して動くことで学校というチームを引っ張り目指す学校像の具現化を目指した。	B B	・校長を中心として教頭、主幹教諭、学年主任が心をつにして教職員一人一人の組織運営に対する意識のレベルアップのための努力をしていることが素晴らしい。 ・ミドルリーダーとしての役割を明確にすることで、来年度どのような変化があるか期待している。 ・各先生が責任を持ち取り組んでいるようでいいことである。様々な内容を責任を持つことは教員の向上となる。
		教育課程	○校内研修の充実を図り、さらに指導方法の工夫改善、授業力の向上を目指す。 □研究授業における指導助言を活かし、日頃から教員間で授業を見合うことで指導力向上のための授業改善を図る。	○計画的な研修により全教職員が研究推進校の授業を見学し、授業改善に取り組んだ。 □各教科ごとに積極的に教科会を持ち、授業改善に向けて取り組んだ。生徒の学力の向上には課題がある。	A B
	開かれた学校づくり	○目指す学校像やビジョンを明確にし、学校運営協議会を通して、地域と一体となって地域学校協働活動を進めていく。	○「地域とともにある学校」に向け、生徒が地域に出ていく機会を新たに作れなかった。また、学校便りの紙面の充実により学校の様子を家庭・地域に周知するように心がけた。通知については、コドモンの活用を推進した。	B	・本校の教育目標である「心豊かな生徒」を育成するには、学校・家庭・社会が三位一体となって取り組まなければならない。その成果を上げたのが本校の学校応援団である。この組織の充実のため、なお一層努力したい。 ・学校の情報を開示するだけではなく、地域も一緒に困りごと等を考えていかれるようになるとよい。 ・PTA広報誌も今年度で終わりになるため、学校のホームページをとおして多くの情報をお願いしたい。
	教職員の資質向上	○生徒が「わかる」「できる」喜びを味わえるような指導ができる教師としての資質向上を図る。 □保護者・地域から信頼される教職員を育成し、教職員の事故防止を徹底する。	○学校訪問、管理職による授業観察等とおして、教員の授業改善、指導力の向上を図った。 □職員会議、校内研修等で教職員事故防止に向けた研修を定期的に行い、教育公務員としての意識向上を図り、教職員事故を起こさせないことを徹底した。	B A	・教育の原点は「心豊かな生徒」自分中心ではなく、人の幸せのために尽くす人を育てることだと思う。教えることによって自ら学ぶ教員が生徒の見本になることだと思う。 ・若手の教員に向けての指導など、教員が頑張っている姿に感謝である。子供たちも教員同士の信頼関係がわかるので、さらに教員間の関係がよくなることに期待する。 ・様々なことに対して家庭に連絡を入れたり、子供を励ますような言葉をかけてくれたり、これからも子供たちを元気づけ、見守ってほしい。
	施設・設備等の管理	○年間行事計画、指導計画に基づき、実践的な安全指導の徹底を図る。 □生徒の危険回避能力の向上とともに、教職員の危機管理意識の向上を図る。	○職員会議、校内研修等で学校安全への教職員の危機管理意識が高まった。また、避難訓練等の工夫により生徒の安全意識も高まった。 □安全点検や校内巡視により必要な箇所に積極的な修繕を行い、安全管理の徹底と環境整備の充実を図ることができた。	A A	・施設の老朽化など心配な点が多くあるが、おやじの会の献身的な尽力により助けられている部分がある。 ・様々なことを想定しての避難訓練をしている。何が起きるかわからない昨今、これからも危機管理を意識して続けてほしい。以前テレビで学校安全について、少しの工夫で事故は防げるとのことだった。これからも工夫をお願いしたい。 ・新校舎と旧校舎の差を感じる。特別教室が暗くて設備の老朽化は改善が必要である。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標		年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
芝東中	組織運営	○適材適所の教職員配置(ミドルリーダーの育成) □不登校生徒支援 ◇働き方改革推進	○「校務分掌組織が効果的に機能していたか」教職員の100%がプラス評価。 □市教委はじめ、外部関係機関・相談員・SCと連携し、不登校生徒支援に努めた。 ◇県教委が目指す在校時間外勤務月 4 5 時間超えを大幅に減らすことができなかった。	B B C	・「学校が楽しい」の学校評価が保護者、生徒ともに昨年度より伸びているが、要因な何だと捉えているか。 ・不登校生徒を教室に入れることのみにとらわれないことが大切だと感じる。 ・日課表が変わることにより、在校生保護者だけでなく、地域の方々にも周知できるとよい。下校が早まるので。	
		教育課程	○よい授業、よい学びの実践による基礎学力の定着 □小中連携活かした学力向上 ◇	○計画的な相互授業参観はできなかったが、必要に応じてGIGAPCを効果的に活用を促すことができ、生徒達の関心意欲を高められた。 □校区内小学校と連携を図り、夏季休業中の合同研修やT2で小学校算数授業に行くことができた。	B B	「特になし」 ・小学校の英語と中学校の英語の接続、連携を今後もお願いしたい。
		開かれた学校づくり	○保護者・地域への積極的な情報発信 □学校運営協議会・学校応援団・PTAとの連携と充実 ◇学校・家庭・地域との連携を図った教育活動の推進	○4年ぶりの土曜授業公開では、多くの方にお越しいただいた。 □4年ぶりにコロナ前とは形式を変えて、PTAバザーを開催できた。 ◇町会行事（夏祭り・餅つき）に多くの生徒ボランティアが参加することができた。	B A A	・学校だよりの必要性。見る人見ない人というが、情報源として活かせないか。 ・PTAの在り方はどのように進んでいるのか。 ・町会ボランティアは、学校発信でやっているが、どのようにやっていくのがいいのか。
	教職員の資質向上	○服務規律の確立 □キャリアに応じた資質向上	○不祥事防止研修プログラムを計画的に実施できた。 □市教委の学校訪問や管理職による全教職員の教室訪問や面談等を通して、指導・助言できた。	A B	「特になし」 「特になし」	
		施設・設備等の管理	○計画的・組織的な安全点検実施（定期・日常・臨時） □計画的な施設改善の取組と迅速な修繕対応	○例年秋になると、落ち葉の苦情が相次ぎ、今年度も樹木剪定伐採の対応を市教委と連携して行った。 □プール移設工事の継続と多目的トイレの完成。	A A	「特になし」 「特になし」

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝西中	組織運営	○【芝西】学校力の向上と教職員の学校運営参画意識の高揚させる。（学校運営に積極的に参画できたが9 0 %以上） □【陽春】教職員が意欲的に働き、誰もが夢中になって学べる経営を行う。	○職員の学校評価「目指す学校像の達成に取り組めている」が9 5 %に、「教職員が積極的に学校運営に参画している」が1 0 0 %に達した。 □職員の学校評価「教職員は、働きやすく、やりがいをもっている。」が1 0 0 %に達した。	A A	・教職員の参画意識が高く、素晴らしい。 ・教職員の積極的な学校運営への参画、やりがい100%は素晴らしい。 ・積極的に学校運営に努めている。
	教育課程	○【芝西】生徒に達成感・充実感を感じさせ、もっと知りたい・主体的に学習に取り組む生徒を増やす授業改善。（もっと知りたい・主体的に学習に取り組めた生徒8 0 %以上） □【陽春】生徒のニーズに応じた教育課程を検討し、生徒が夢中になって活動する学校の実現。	○各学期の授業訪問では、夢中に取り組む授業改善に向け教員を指導したが、生徒の学校評価において取り組めたが8 0 %に達しなかった。 □生徒の状況に合わせ、特別な教育課程に基づき、工夫した教育活動の実施できた。	B B	・小中連携した「授業スタイル」の確立を実現するために、次年度合同研修を実施したい。 ・授業改善に向けての取組は、今後に生きてくると思います。 ・外国籍生徒の対応を含め、学力向上に努めていただきたい。
	開かれた学校づくり	○保護者・地域との活動や陽春分校との交流を通して、保護者・地域から信頼され、誇りに思われる学校にする。（学校評価において、学校の様子がわかる9 0 %以上）	○学校行事、H P、緊急メール、学校だより、学年だより、学級通信等を通して、学校の様子は十分に伝えることができた。しかし、学校の様子がわかる保護者が8 5 %だった。	B	・挨拶運動、相談員訪問など、小中連携の取組を活性化していきたい。 ・全職員がH P 更新に携わることは、地域交流の理解が深まり、良いと思います。 ・町会としても中学生に防災訓練にぜひ参加してもらいたい。
	教職員の資質向上	○生徒、保護者、地域から信頼される教職員に育成し、教職員事故0を達成する。 □「働き方改革」の推進・徹底（負担感が軽減した職員が9 0 %以上）	○教職員事故0を達成し、生徒、保護者、地域から信頼される教職員を育成できた。 □校長が積極的に保護者対応にかかわる等で推進に取り組めたは9 0 %を超えたが、負担感の軽減は9 0 %を超えなかった。	A B	・信頼関係により、事故0の取組が出来たのは、素晴らしいです。 ・負担感の軽減は、職員の感覚によることが大きく、難しいと思うが、引き続き取り組んでください。 ・高い倫理観をもって事故0を期待します。
	施設・設備等の管理	○適切な予算執行と会計事故ゼロ及び安全・安心を最優先とした施設・設備事故ゼロ。	○会計事故、施設・設備事故はゼロを達成し、安全・安心な学校づくりができた。 □芝西中では、3 学期実践に即した避難訓練を実施し、教職員の危機意識を高める。	A	・事故0は何より。日頃の点検・確認の成果だと思います。 ・実践的な避難訓練は、とても有効である。 ・更に事故0を徹底していただきたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
岸川中	組織運営	○記憶より記録で業務を遂行すべく、規約集の見直しを定期的に図る □ボトムアップスタイルの倫理確立委員会・ハラスメント委員会の研修の開催 ◇ J -Plan、生徒指導加配教員を活用した地域を巻き込んだ不登校対策の推進不登校生徒出現率9.0%以下	○規約の見直し(廃止・追記) が必要と思われる箇所を明らかにすることができた □教職員が主導する倫理確立委員会を計画的に開催することができた。 ◇小学校間で教員の相互の往来が日常となり、地域の協力も得られるようになった	B B B	・教職員の若年齢化は今後も続くと考えられる中での対策は難しいと思われる。従来の方針に捕らわれることなく、若手教員からの意見も含めた学校経営改革に向けて研修を進めてほしい。 ・規約や委員会の改善も必要かと思うが、まずは教員同士相互で共通理解できる方法があると思う。 ・
	教育課程	○研究テーマである個別最適な学びを小学校と共にICT環境の中で推進し、学力の向上を図る。 □ D X 戦略を立て、学力の伸びを校内BIG DATAを活用し分析、改善のPDCAサイクルに組み入れる ◇学力：平均点以下・下位層(SS50・45)の生徒の割合50・35%以下 体力(C+D+E)：2・3年男/女/学年) 50/43/45.9%・55/53/53.8%	○イヤホンマイクの全校生徒導入までには至らなかった。(需要がないことが明確になったが、タッチペンの需要があることが分かりその後の対応ができた) □分析シート作成には至らなかった ◇小学校との学力の連携までは到達できなかった。	C C C	・中学校に入学して学習に追いつけない生徒が出ないよう、小学校との連携は不可欠である。学力の低下が不登校生徒における要因の一つであり、学習内容が高度化していく現在小学校においても教科担任制を実現することが、中一ギャップの解消にもつながるのではないかと。 ・何が必要ではなく、まず授業自体が楽しくなければ、学力は上がらないと思う。 ・BigDATAの活用とあるが、それを管理するサーバーは学校内にあり、適切なウイルス対策等が講じられているのでしょうか。ハード面の整備をお願いしたい。
	開かれた学校づくり	○本校のH Pを広く小学校でも告知してもらい各種便りを読んで、保護者の中学校理解を深めてもらう。中でも、進路だよりを広報してもらう。 □小学校と連携した進路説明会等保護者向けの研修等を開催 ◇地域ボランティア活動の再開(年間7回)	○小学校とのバナーの相互貼り付け □不登校生徒向けの進路説明会の開催。小学校へ出向いての中学生になるための講義の開催(児童・保護者向けの2回) ◇地域学校協働事業としてのボランティア活動は、12月6日時点で7回実施済み	A A A	・小学校との連携は大切。引き続き不登校生徒の対応をお願いしたい。 ・不登校生徒の進路について高校以外にどのような選択があるのか。その選択肢を可視化する必要を感じる。 ・小学校との連携は大切。引き続き不登校生徒の対応をお願いしたい。 ・不登校生徒の進路について高校以外にどのような選択があるのか。その選択肢を可視化する必要を感じる。 ・学校応援団コーディネーターの交代において適材適所な人選ができた事は大きな安心である。
	教職員の資質向上	○授業改善研修会の充実策として、各教科の特性を生かした活用法報告会の開催 □分掌の配置換えを行い、これまでの担当分掌以外の経験を積むようにする。 ◇若手対象校内研修会の充実(年間5回以上)	○D Xデータの活用が当初の計画まで到達できなかった □分掌の振り分けはできた。偏りを確認する分掌会議が定期に開催することができなかった。 ◇3学期に先輩教諭が行う若手教員研修の計画を取り付けた。	A A A	・現状と課題を見極め、年度目標を達成されたことは素晴らしい。若手教員との世代間の違いで大変なことではあるが、横の連携の素晴らしさと管理職の指導力の賜物だと感じた。 ・生徒たちと接するのは、若手教員が一番多いのではないかと。その若手教員について研修会等で指導することも必要ではあるが、ある程度の自由さをもって育成することも必要ではないかと。 ・
	施設・設備等の管理	○プレハブの存在を明確化し、解体撤去等の計画を立てる。 □図書室の充実(蔵書と学習室機能の一体化) ◇安全点検100%と軽微な修繕を職員による営繕作業で解決する。	○西門設置に訪れた建築課にその存在を明らかにすることができた。 □西門設置に訪れた建築課にその存在を明らかにすることができた。 ◇安全点検を確実に実施することができた。	B B B	・プレハブについての対策は喫緊の課題であるのは言うまでもないが、教職員、来賓、給食配膳車両の出入り口は駐車場の東側から入れる門を設置することが安全対策として必要ではないか。 ・図書室の学習機能及び自習室機能は確かに求められる。ぜひ、実現してほしい。 ・経年劣化はしかたがない。先生方でできる事できない事があるので、地域の方にも協力を依頼してはどうか。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
榛松中	組織運営	○帰属意識を高めた相互協働体制を推進し、ボトムアップとトップダウンのバランスを図り組織力を高める。	○アンケート結果より72パーセントの教職員が主任を中心とした連携が図れたと回答している。 ○アンケート結果より95パーセントの教職員が共通理解を図れたと回答している。	B	・先生の入れ替わりが多く大変という話を聞くが、地域から見て、どの先生も大差なくしっかりとやってくれていると感じている。それらの先生が個性を発揮できるような学校組織にしてほしい。 ・現在の榛松中が落ち着いているのは、良好な人間観関係を作れているから、その環境を維持してほしい。 ・
	教育課程	○基礎的・基本的な力を身に付けさせるために、指導法の研究を進める。	○アンケート結果よりタブレットを積極的に活用した授業を展開した教員は67パーセントであった。 ○アンケート結果より81パーセントの教員が指導法の工夫に努めたと回答している。	B	・学力は財産であり、地域の学力向上のために尽力してもらいたい。
		□家庭学習の定着を図る。	□家庭学習の取り組みは実施しているが、徹底するまでには至らなかった。	B	・個人端末を有効活用し、生徒の学習効率を高めてもらいたい。 ・保護者からは中学校は小学校よりも宿題が少ないので、宿題を増やしてほしい声も聴かれるが、中学生の発達段階を考え、自主的に学習を進められる生徒を育成してほしい。
	開かれた学校づくり	○学校が地域社会の核となり、保護者や地域の教育力向上を促進した教育体制をつくる。	○今年度は体育祭、授業参観、合唱コンクール等人数を制限することなく実施することができた。 ○夏祭りの準備に生徒たちと一緒に参加することができた。	B	・コロナ禍から回復し様々な行事が戻ってきた中で、中学生には地域の一員としての期待がかかっている。 ・祭りなどの行事や避難訓練など、積極的に地域と協力関係を築いていてもらいたい。
	教職員の資質向上	○授業の質を高める研修・研究をととして、互いに教師力を高めあう。 □計画的、実践的な若手教員の指導育成を図る。	○相互授業参観を学期に1回実施した。また、若手教員を中心に指導者を招聘した研究授業を実施した。 □経験豊富なアシスタントティチャーが若手教員の指導者となり、計画的に指導にあたった。	A B	・先生方は頑張ってくれている。引き続き研修を行って向上を目指してほしい。
施設・設備等の管理	○生徒たちの有意義な教育活動を実現させるためにも、学校生活での安全を確実に保証する。	○毎月1回の定期的な安全点検を確実に実施し、故障箇所については迅速に修繕をした。	A	・引き続き子どもたちの安全を第一に施設・設備等の管理をしていただきたい。	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
小谷場中	組織運営	○分かりやすく充実した授業を行っている。学校評価90％→95％を達成する。 □不登校生徒の減少を実現する。 ◇	○学校評価では、95％以上を達成した。校内研修や教科会を計画的に実施することができた。 □生徒指導委員会を中心に不登校生徒の支援を組織的に行うことはできたが、不登校生徒の減少には至らなかった。 ◇	A B	・地域の若い卒業生を学力向上や不登校対策として活用したらよいのではないかと。 ・その若い人材を確保するのが難しい。地域でも協力していきたい。 ・来年度、朝読書をなくすかわりの活動をいれてほしい。
	教育課程	○コロナ対策で学んだことを生かし、新たなアフターコロナの行事等を精選する。 □授業についていけない生徒に対して支援体制を確立する。	○コロナ禍で学んだことを生かし、効果的に行事に取り組むことができた。 □継続して、相談室登校やステップ教室の活用については、課題が残った。	A B	・さつまいもの種まきと収穫を計画に入れてほしい。
	開かれた学校づくり	○保護者・地域から信頼される「地域とともにある学校」づくりを具現化する。	○ホームページ等を活用し、適宜情報発信することができた。行事については、今後もよりよいものを目指して検討していきたい。	B	・学校応援団等、昔は活用していた。コロナにより、人材確保がやはり難しい。
	教職員の資質向上	○「チーム学校として一人一人に寄り添う、個に応じた教育の実践」を実現する。（本校研修テーマ） □風通しのよい職場をつくり、教職員の負担感を軽減し、働き方改革を進める。	○計画的に校内研修を実施し、テーマ実現に取り組みことができた。小中連携も夏季休業を利用し、芝西小と充実した研修を実施することができた。 □病休者や中途退職者は出なかったが、教職員の負担軽減・意識改革がなかなか進まなかった。	A B	・小中連携は相談員との連携もでき、充実した。今後は、教科でも交流していきたい。 ・働き方改革を進めることも重要だが、子どもを置き去りにすることのないよう注意してほしい。
	施設・設備等の管理	○安全・安心な学校を目指し、施設・設備事故0を達成する。 □安全・安心な学校を目指し、会計の適正な執行及び会計事故0を達成する。	○施設・設備の事故0達成した。しかし、施設の老朽化も含めて、計画的に修繕に取り組む必要がある。 □会計事故0を達成した。	B A	・学校を使用している団体が、使用した後、しっかり整備してもらいたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
神根中	組織運営	○学校課題を明確に示し、教職員を学校運営にできる限り参画させて、教職員一人一人の成長を図るとともに学校全体の組織力を高める。 □校務分掌に責任を持ってやりとげる教職員を育成する。	○ポストコロナの中、コロナ前に単純に戻すことなく、必要なことを精選して実施できた学校行事など、教職員一丸となって取り組むことができた。 □校務分掌に責任を持たせ、企画提案や取組の推進にリーダーシップを発揮させていく。	A A	・特になし ・特になし
	教育課程	○行事の持つ教育効果を認識し、ポストコロナにおける生徒の心の醸成に繋がる行事をしっかりと実践する。	○2大行事である体育祭も合唱コンクールも必要に応じて精選した内容として工夫しながら学校全体で実施でき、生徒の心に残る行事になった。	A	・部活動の時間の短縮は、部活がやりたい生徒も多いので、先生がいなくても良いから練習場所（施設）の確保を望む。
	開かれた学校づくり	○校則の検討を地域・保護者とともに行う。 □「授業参観」から「授業参加」への転換を図る。	○具体的方策通り、実施できた。 □3学期に機会を設けることができた。少数であるが「授業参加」をしてくださった保護者がいた。	A B	・「校則検討委員会」の取組みが良かった。 ・特になし
	教職員の資質向上	○研修等の内容を実態に合わせて実施し、教員の授業力を時代に合わせたものに向上させる。	○佐藤学東大名誉教授を年2回招聘し、講演と授業観察をしていただき、授業改革を更に前進させることができた。	A	・本校のグループ学習が良い。知識の詰め込みではなく「考えさせる授業」が展開されていてとても良い。 ・いじめがない良い雰囲気がある。
	施設・設備等の管理	○計画的な予算執行を行い、安全対策を中心に管理を進めて行く。	○修繕発注の担当者の迅速な対応が一部できておらず、課題が残った。	B	・部活動の終了時刻が早くなった分、体育館等施設の貸し出しができるなら、生徒たちに貸し出してほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
領家中	組織運営	○「やりがい」や「充実感」を抱き学校運営に参画できたと感じる教職員の割合88%。	【達成状況】 ○ほぼ達成できた。 ・学校評価(教職員) 88%	A	・組織運営への各層に対するモチベーションと具体策のブレークダウン及び目標値達成へ向けたPDCAのサイクルが回っている。 ・人間関係には距離感がとても大事。こうした結果が出るということは、管理職と教職員のよりよい距離感が構築されていると感じる。教職員にとって校長と面談等で話ができるのは大変良い機会でもある。 ・来校し職員室へ行くと、いつも教職員の明るい雰囲気を感じられる。校舎もとてもきれいである。こうしたところからも高評価につながっていると感じる。
	教育課程	○生徒の「学びに向かう力」を引き出すために、新たな指導法を取り入れることができた教員の割合60%。	【達成状況】 ○ほぼ達成できた。 ・学校評価(教職員) 96%	A	・教育に対する社会的環境が大きく変化している中で、量的な消化を進めた場合の影響はどうなるのか、不安な面はある。 ・県学力・学習状況調査において、生徒の学力を大いに伸ばした教員が複数名いるとのことだが、そうした教員が転出してでも維持できる体制を構築することが大切。 ・過去との比較からも教員の授業力の向上、生徒の理解力の向上、双方感じられる。今後、底辺層への取組をより充実させていってほしい。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会を核とした地域学校協働活動の実現。 (新たな取組一つ以上)	【達成状況】 ○概ね達成できた。 ・新たな取組の実現には至らなかったが、学校運営協議会が円滑な学校運営の推進に大きく寄与した。	B	・学校現場から離れて久しく経てしまうと感覚も鈍る部分が多くなるので、現に、より近い方を委員に加えるなどするとよい。 ・教師と生徒が大きく前進する‘化学変化’を起こすとき、地域は変化を促進する開倍触媒の役割を果たせるかが課題と考える。 ・地域・学校それぞれの必要感に応じ、連携については双方向でできるとよい。
	教職員の資質向上	○教職員事故0の達成。	【達成状況】 ○ほぼ達成できた。 ・教職員事故0	A	・「教職員の資質向上」の視点で考えると、ピンからキリまでの生徒が在学する、公立の学校として、キリの生徒たちへの関わりの視点を尚一層充実させてほしい。「学校が楽しい」と感じられるように。 ・時代とともに教師に求められる事項が変化し本当に大変だと思うが、今後とも各層におけるモラルアップ・スキルアップを期待する。 ・「教職員の資質向上」とあわせ、地域資源を活用しながら、教職員の負担軽減も考えていけるとよい。
	施設・設備等の管理	○施設・設備等の事故0の達成。	【達成状況】 ○ほぼ達成できた。 ・施設・設備等の事故0	A	・施設・設備の老朽化に関しては我々どうすることもできないが、生徒の安全管理のための人的資源の活用には協力できる。声をかけていただければできる限りの協力はしたい。 ・他校における不具合事例等が横展開できる‘改善事例集’があるとすばらしい。 ・間もなく50年が経とうとしている校舎であるが、そのような経年を思わせない環境整備が整えられていると常日頃より感じている。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
戸塚中	組織運営	○教職員一人一人の職務能力の育成	○教職員の学校評価「学校教育目標実現に向けて取り組んだ」95%以上達成	A	・「特になし」	
		□リーダーの育成と組織力の向上	□委嘱研究本発表に向けて、校内を組織的に活動させることができた。	A		
		◇保護者・地域から学校への信頼の回復	◇保護者の学校評価「お子様に問題が起きた時、教員は適切に対応してくれる」94.4% ◇「職員は誠意を持って保護者に対応してくれる」97.2%	A		
	教育課程	○指導内容の系統性と内容の定着	○教職員学校評価「年間指導計画を見直し、授業の進度を把握しながら授業を実施することができた」97.5% □保護者の学校評価「教員は教え方を工夫している」92.3% ◇学習内容を定着させ、一人一人の学力の向上	A A A	・「特になし」	
		○学校運営協議会の定期的な開催	○学校運営協議会・地区防災会議を計画どおり開催できた。	B		・「特になし」
□学校運営協議会の活動内容の充実		□会議において意見をいただいている。学校評価などに協議会としての意見をいただいている。	B			
開かれた学校づくり	教職員の資質向上	◇学校の情報を保護者・地域への積極的提供	◇保護者学校評価「学校は生徒たちの様子をよく知らせてくれる」85.1% ◇教職員学校評価「学校公開や保護者会等に保護者が参加しやすい」95.24%	B	・民間企業のような宿泊の新人研修など、集中した研修はないのか。	
		○校内研修と自主研修の充実	○委嘱研究本発表と関連させた要請訪問の実施や校内研修を実施することが出来た。	A		・「特になし」
		□O J Tの充実	○4割以上の教員を年間を通した研修に参加させた。	B		
	施設・設備等の管理	◇ベテラン教職員の豊かな経験の伝達	□教職員学校評価「校務分掌は担当で情報を共有し、事務作業の工夫・改善に努めた」86.05% ◇教職員学校評価「学校の中に仕事について相談できる人はいますか」95.35%	A	・トイレ清掃について、200名程度参加可能なら、日本掃除の会に連絡する方法がある。相談して欲しい。 ・トイレの臭いについては、排水管の清掃で改善された事例があるので、検討してはどうか。	
		○計画的・随時の点検で修繕箇所の把握	○管理棟1F多機能トイレの改修工事完了した。 ○定期・随時の点検を実施し、事故が無かった。	B		・「特になし」
□G I G Aスクール構想に基づく授業実施に必要な機材の購入		□ギガPCの授業における積極的かつ効果的な活用に取り組めた。	B			

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
在家中	組織運営	○落ち着きと潤いのある学校づくりを進め、知・徳・体の調和と主体性をもった生徒を育成する。 □今ある学校の良さを伸ばし更に新しい輝きを生み出せるよう、「チーム在家」としての教育実践を推進する	○落ち着いた学校づくり、生徒育成を進めることができた。生徒に高い目標をもたせ、各学年の教師が丁寧に指導・支援することで生徒の主体性を伸ばすことができた。 □学校行事等を中心に全教師が協力し、生徒一人一人の力を伸ばした。各取組に継続性はあったが、新たな取組を設けることができなかった。	B B	・教師と生徒としてのけじめはつけつつ、互いのコミュニケーションはより多く築いてくれることを期待する。 ・登下校時など、騒ぐことなく道路に広がることもなく落ち着いた生徒たちが増えた。 ・校長が中心となり、このことが教職員、生徒たちにも良い影響を与えていると思う。 ・学校全体が落ち着いていると感じる。「チーム在家」の新たな取組に期待したい ・昨年より更に「チーム在家」としての意識の高さ、まとまりを感じる。生徒も落ち着いて授業を受けており、行事等では活気ある様子も見えてメリハリのある学校生活を送っているようである。
	教育課程	○地区内の小中学校と連携して、「学びの共同体」による学びに向かう力の育成と9年間の学びの連続性をもった学習体制を構築する。 □現代的諸課題を考慮した、社会に開かれた教育課程の実現を推進する。	○「学びの共同体」による生徒が主体的に学ぶための土台を築くことに努めた。教員が「学びの共同体」を意欲的に取り入れるための研修の機会等が不足した。 □地域のニーズに応える生徒の育成を目指し、生徒が地域で活躍する場を設けることができた	C B	・小中連携は素晴らしい取組みである。先生方に先導してもらい、地域との連携にも期待する。 ・授業時数、時間の見直しはとても良いことだと思う。1つ1つ（1時限ごと）の質を上げていくことは大変だと思うが、頑張って欲しい。 ・新しい取組みにどんどんチャレンジして欲しい。 ・昨年度からの継続で小学校との連携も深まり、基礎学力の向上につながっていくことに期待する。 ・「学びの共同体」を始めたと聞き、素晴らしい取組みだと感じた。本年度を土台として更にステップアップし、学力の向上、一人一人への考え方の理解、不登校解消につなげて欲しい。数年後の効果に期待したい。
	開かれた学校づくり	○保護者・地域の方々に生徒の様子を参観してもらう場を工夫し、学校への意見を積極的に取り入れ、教育活動に反映させる。 □学校のホームページを充実させ、各活動の教育的意図や生徒の活躍を発信することで、保護者・地域の教育活動への理解を図り、参画意識を高める。	○学校行事の公開や授業参観などを計画通りに行うことができ、保護者や地域の方に生徒の活躍本校の様子を知らせる機会を増やした。また、小学校と連携し、小中合同の取組を行った。 □学校ホームページや学校だより等を活用し、学校の現状を知らせたり諸活動に対する学校のねらい等を発信したりして在家中に対する理解を深めた。	B A	・生徒たちと地域の方が直接触れ合えるイベントがあると良い ・学校だよりがとても見やすくなり内容も充実していると感じている。 ・学校ホームページを見ると、学校での様子が日々情報発信されており、良いと思う。 ・学校だより、ホームページの情報発信が早く、見やすくなり内容も学校の様子がわかり、大変良いと思う。保護者・地域の方々にも在家中をより理解して頂いていると感じる。 ・昨年同様、行事、参観も積極的に行っていて、生徒の様子を見て頂く機会もあり、安心感につながっていると思う
	教職員の資質向上	○生徒一人一人の学びを保障するため、教員の指導力の向上と工夫ある授業実践を行う。 □常に生徒の未来を育てる者としての自覚と責任をもって指導にあたり、保護者・地域から信頼される教職員集団を形成する。	○「学びの共同体」を積極的に授業に取り入れようとする教員、ICTを巧みに活用する教員など全教員が各教科の特性を生かし授業改善に取り組んだ。 □生徒に寄り添い、生徒とのコミュニケーションを大切にしながら指導にあたり、生徒の自主性や自律心を育成した	B B	・いろいろな性格、環境に育ってきた子供がいると思うが、一人一人に寄り添って指導をする先生方に感謝している。 ・まずは教員一人一人が楽しんで学校に来られるようになることを期待する。 ・工夫ある授業のあり方等、研修を重ね、資質向上を目指し、保護者・地域からもより一 ・神根地区で取り組んでいる「学びの共同体」の認識・指導の向上に今後期待したいと思う。 ・体育祭で来校した際、先生方の活気と笑顔が大変印象的だった。生徒自身が主体的に学ぶ楽しさを身に付けていってくれるのではないかな。
	施設・設備等の管理	○施設管理に起因する事故が起きないよう、安全安心な教育環境の維持管理を徹底するとともに、生徒の心を豊かにするための環境整備を行う。 □防災教育を含め、生徒、教職員ともに日頃から危機管理意識を高くもち、災害時における適切な行動を身に付ける。	○教職員一人一人が生徒の安全安心を第一に考え、施設の不備や危険箇所を早期に発見することで事故のない学校生活にすることができた。また、各学年・各教職員の創意工夫ある掲示等で校内の環境を整えた。 □小中合同の災害時引取り訓練や不審者侵入を想定した避難訓練を新たに設け、学校全体の危機管理意識を高めた	A A	・校庭がきれいになり、次は校舎の方を新しくしたい。 ・部活動を質の高いものにすべく、道具や環境を整えていけると良い。 ・整理整頓がされ、校内は清掃が行き届いている。 ・公立学校では老朽化についての修繕は、次から次へとしていくことが困難と思われるが、そんな中でも不備や危険箇所を早期に発見し、修繕できる所は工夫して整えたりと、常に生徒の安全に対して目配りをしている点は素晴しく、これからも続けて頂きたい。 ・来年度の体育祭は6月開催予定とのことだが、午前中のみとはいえ暑さ対策は必要だと感じる。PTAに協力して頂き、手分けをして近隣にテントを貸して頂いてはどうか。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価		学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）		
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況			
安行東中	組織運営	○学校教育目標の達成に向けた方向性について共通理解を図り、教職員一人一人の学校運営への参画及び協働意識を高める。 □支援が必要な生徒の支援率 1 0 0 %、改善率を 5 0 % 以上とする。 ◇アフターコロナにおける安全安心な学校教育を継続するとともに、学びの保障とその充実を図る。	○学校評価アンケートをもとに年間を通じて学校経営方針等の共通理解を図りながら、学校運営に関わる課題解決に向けて一定の成果を得ることが出来た。 □生徒への支援率100%、不登校生徒の改善率54%。「ほっとルーム」を開設。SC等を精力的に活用し、生徒・保護者の支援を個別に進めることができた。 ◇感染症拡大防止や、アフターコロナの教育活動を検討・更新するとともに、全職員で共通理解を図りながら、協働的に教育活動の充実に努めた。	B B A	・組織運営においては成果が上がってきていると思う。全職員一体となって今後とも子供達の課題解決に向けて尚一層頑張ってください。 ・学校評価アンケート結果をもとに校則の見直し(検討)を行い、改善が感じられた。 ・ほっとルーム開設や保護者(家庭)への個別の支援等の取組を評価します。不登校の改善を組織で今後も頑張っていたきたい。ギリギリの学校生活を送っている生徒達にも目を向けて寄り添って頂けることを期待しています。 ・手探りの中でコロナ対策などを実施してきた。これまでの活動には多大なご苦労があった事と思う。アフターコロナのこれからの生徒の健全な成長への尽力をよろしくお願いします。	
	教育課程	○基礎学力の定着と学習意欲の向上をうながす授業改善の研究と実践を進める。 □生徒一人一人に応じた学びの充実にに向けた研究と実践を進める。 ◇系統的かつ具体的な小中連携の見通しを図る。	○生徒の計画表作成や、単元テストや大単元テストの結果から学習指導の見直しと改善を進め、学習意欲や学力向上に一定の成果を得ることが出来た。 □配慮を要する生徒や不登校生徒の多様な学びへの支援として「ほっとルーム」の活用、授業及び自学習でのGIGAスクール端末PCの活用を進めた。 ◇主に授業観察等による学習支援及び生徒指導に関わる部会への参加を通して学校種間の相互理解、短期的な課題解決に取り組むことは出来た。	B B B	・単元テストなどの学習方法、各自の計画表作成等、細やかな生徒への対応を昨年度に続いて評価します。学校側の工夫が見られ、今後の結果(長期)が楽しみです。単元テスト等の意味やメリットをもっと強調し、定着を望みます。 ・不登校生徒への支援策、素晴らしい取組だと思います。頑張ってください。 ・生徒は中学生までに自分の好きなことを見つけ、伸ばして行けるように支援をして欲しい。 ・小中連携した教育は小学生への刺激になるので期待しています。小学校及び中学校とも学力向上が望まれる中、努力が感じられる。1小1中と珍しい学校区の特性を活かした学校経営をよろしくお願いします。	
	開かれた学校づくり	○より効果的な情報発信となるように内容の充実を図る。 □より効果的な教育活動の検証ができる体制の確立と、見直し及び改善を図る。 ◇アフターコロナに応じたPTAや地域と連携した教育活動の実施を進める。	○教育活動の意図や生徒の様子等をより一層理解していただけるように、必要な情報及びその情報発信の方法等を見直し、改善を図った。 □学校評価アンケートを年度当初に提示、年間2回実施した。年度途中で結果をもとに分析、改善等に努めることが出来た。 ◇年間を通したPTAとの朝のあいさつ運動等の実施や職場体験の再開、地域と連携した美化活動を実施することが出来た。	B B B	・学校便りの作成は大変だと思いますが活動内容がわかりやすく良くてできていました。開かれた学校づくりには保護者は欠かせないものだと思いますので、HPやメールのより一層の活用を期待します。 ・学校と家庭との情報交換はいろいろなツールを使って良くやっていると思う。学校評価アンケートは最低でも年2回で実施し、継続すべき。また、難しいが保護者が学校と関わる機会と対話をより増やし、子供たちの意識を変化させられないかと思う。 ・今後とも地域との連携で教育の相乗効果を上げていきたい。町会又地域の問題をテーマにした授業、町会と生徒との懇話会は良かった。是非機会を作って欲しい。学びを活かす場として地域行事への参加にも期待する。(防災訓練等)	
	教職員の資質向上	○授業力向上のための学びあい・高めあいの充実を図る。 □心身ともに健康な教育集団を作るために、勤務時間外の在校時間のタイムマネジメント強化を図る。	○生徒の学び直しや見通しを持った学び等への支援体制の充実、単元テストの運用等を通じて各教科、全教職員で情報共有等を行い授業力向上に努めた。 □本校業務改善スタンダードの8つの改善策のうち、5つは実施・改善し、機能して一定の成果を得ることが出来た。年間2回メンタルヘルス研修を実施。	B B	・若い教員が多く、これからの成長に期待しています。先生同士の話し合いをもっと増やせると良い。 ・働き方改革により時間の配分・使い方が変わってくる。今後、考えていく必要がある。 ・先生方の働き方改革はもちろん、特に若い先生のメンタル面については充分なフォローが必要になっている。明るく元気に接して欲しい。 ・教員は労働者であるが「師」である事も少し考慮して仕事をしていただけるとありがたい。 ・	
施設・設備等の管理	○生徒の安全を最優先しながら、学校の実態に即した安全管理の維持・徹底を図る。 □UDに配慮した教育環境のより一層の整備・充実を図る。	○本年度も生徒の安全・安心を第一に考え、不断の見直しを図りながら教育環境の維持、組織的な安全管理と計画的な修繕を行うことが出来た。 □外部講師による校内研修を実施し、UDの視点を取り入れた授業改善とその充実を図った。	A B	・老朽化も進んでおり、生命の安全が第一です。優先順位を見極め、修繕をよろしくお願いします。 ・「ほっとルーム」の居室確保、教室整備を十分に進めることをお願いしたい。 ・UDに配慮した教育環境は大切なことなのでPTAも協力していきたいと思います。		

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚西中	組織運営	○生徒評価「わかりやすい授業をしている」R4 94%）、 「失敗や間違いを恐れず発言することができた」（R4 50%） の項目アップ □不登校生徒支援率を100% 学校とのつながりを意識し、生徒個々の実情に沿った支援を行う	○授業に関する評価93.2%、発言に関する評価53.1%であった。話し合い活動やタブレットを活用した授業展開の活用により、生徒自身で答えを導きだそうとする姿勢を育成することができた。 □・ステップルームを充実させ、不登校生徒への学力向上の一助として生徒の状況に応じた学習環境づくりを行った。またオンライン授業を推進し、生徒が授業に参加しやすい環境づくりを行った。 ・2学年において不登校生徒、保護者の意見交換会を実施することができた。	B A	・特になし
	教育課程	○教員のICT活用率の向上。 □協力して授業を進めるための意図的なグループ編成や授業づくりの構築	○教員全員がタブレットを活用した授業研究会を実施し、効果的な活用について検討を行った。 □話し合い活動を主とした授業を展開し、教え合い、学び合いの機会を増やすことにより、個々の活動が増え、主体的に学ぶ姿勢が育っている。	B B	・タブレット授業だけに力を入れるのではなく、実体験などもしっかりと取り入れた指導を行ってほしい。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会を核とした学校と地域が連携した活動の実現。 ○開校30周年に向け具体的な準備の開始。（3学期）	○ホームページ、連絡アプリ、すぐメール等を活用した情報発信の基盤を作ることができた。また生徒が地域の方々に防災、防犯等の問題提起をすることができた。 □学校運営協議委員会、PTAに協力を仰ぎ、来年度の準備に向けて計画を行う。	B C	・校則などの変更については、若い人たちの意見を取り入れるのもよい。例えば卒業生を招いて意見を聴くなどの機会を設けてほしい。
	教職員の資質向上	○わかりやすい評価のためのシラバス作成。 □校内授業研究会の実施	○保護者に対して分かりやすい評価を行うために、全教科において昨年度の評価方法を見直し、分かりやすい評価を示すシラバスの作成を行った。 □教育委員会の訪問授業や、相互授業参観など、客観的に自身の授業を分析する機会を設けた。また学校外の研修に参加することで授業方法の知識を拡げることができた。	A B	・図書館で管理する書籍を増やすなどして図書館利用の推進を図ってほしい。 ・生徒が今学習していることが将来どのように役に立つのか、自分の未来の職業を考えることができるような学習であってほしい。
	施設・設備等の管理	○安全な学校を目指し、事故が起こりやすい箇所の修繕の徹底。 □会計事故、金銭事故ゼロ	○教頭、委員会が中心となり、学校全体の安全整備を実施。瑕疵への迅速な対応、危険箇所の発見のための点検を行った。施設事故ゼロを達成した。またPTA協力のもと、竹林整備、行事前環境整備を行った。 □教頭、事務職員を中心とした会計委員会を発足。会計業務の見える化と適正な会計処理に関する知識の習得について職員の意識改革を行った。会計事故はゼロであった。また部活動における不明瞭な会計業務を縮小した。	A B	・学校施設開放について迅速に対応してほしい。地域のスポーツ振興につながっていくことにもなる。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
鳩ヶ谷中	組織運営	・教職員の当事者意識の醸成	○教務主任及び学年主任により構成される企画委員会をはじめ、各分掌の担当者からの新たな企画・提案をさせることができた。不易と流行をしっかりと見極めさせるとともに、トップダウンの指示伝達構造ではなく、ボトムアップ型の組織づくりをさらに強化していきたい。	A	・ボトムアップの際に意見が分かれる難しさがある。トップダウンの良さもあり。 ・取組は「優」が付けられる。
		・新たな形の体験活動の充実	□校長だよりや諸会議のあいさつなどの場面において、校長より「前年踏襲」の考えを捨てて、新たな取組を取り入れていくよう教職員の意識改革を図ることができた。昨年以上に実感の伴った体験活動を多く取り入れることができた。	A	・体験や実物にふれることは大切。具体的にどの教科でどう取り入れていくのか楽しみです。
		・不登校支援率 1 0 0 %	◇フリースクールの利点を生かした相談室経営を行い、多様な学びの場の提供を行うことができた。また、不登校生徒を抱える保護者対象の「はーとふるネットワーク会」を開催し、進路情報をはじめゲーム依存や睡眠等をテーマに懇談会を開催することができた。	B	・不登校支援率向上に向けて、それぞれの生徒に合った支援、相談できる場を提供してほしい。 ・相談員の方のきめ細かい対応がとても良い。また、不登校生徒の親同士の会があると相談しやすく情報交換ができ心強い。
	教育課程	・個別最適な学びと協働的な学び	○各教科において意図的に対話的な場面を設定し、他者と協働することを重視した授業を行うことができた。また、若手教員だけでなくベテラン教員のICTの活用も増えてきている。	B	・個別的な学び、グループごとの学びで全体では発表できない子もグループ内では発言。わからない子には互いに教えあうことにより学力向上になると思います。
		・学習者自身の P D C A	□各教科において、授業における「見通し」と「振り返り」を大切にし、その時間確保を行うことができた。そのことにより、生徒自身がその時間の学びや自身の変容に気づくことができた。	B	・ P D C A は良いことだと思います。良いスパイラルになってくれることを期待する。 ・定期的な振り返りが記憶の定着になるので、習慣づけはとても必要なこと。
		・実感の伴った理解	◇教科によっては難しく、実物よりもICTを活用した疑似体験となる場合も多いが、理科の実験や特別支援学級の焼き芋、餅つき体験など、実感の伴った学びの場面を作ることができた。	B	・家庭ではなかなかできない体験をしてもらえるのは、保護者としてとても嬉しい。 ・実体験は用意が大変では？向いている教科と向いていない教科を知りたいです。
開かれた学校づくり		・機能的な学校運営協議会	○学校運営協議会委員の皆様のご意見を学校経営に反映させるとともに、生徒と地域の協働的な活動を企画・実践することができた。特に、委員をパイプ役とした地域連携は他校に範を示す取り組みができています。	A	・合唱コンクールが素晴らしかった。 ・校区内の小学校との合同協議会の開催はいいアイデアだと思う。 ・地域との協働を期待します。
		・子どもの力を地域に還元	□地域の祭りや文化祭などのイベント参加は叶わなかったが、川口市総合防災訓練や地域合同防災訓練において、自治会の皆様と共に活動することで、地域とのつながりの重要性を認識させるとともに、防災・減災意識の向上に努めることができた。	B	・地域の防災リーダーとして若い中学生の力は頼りになり心強い。 ・学校は閉じられた世界になりがちなので、外に出ていくことは大変良い。 ・引き続き積極的な交流を期待したい。
		・H P の最大限の活用	◇学校HPをほぼ毎日更新し、最新の教育情報をはじめ本校の教育活動について適宜情報発信を行うことができた。HPへのアクセス回数も向上し、情報源の一つとしての地位を確立しつつある。	A	・毎日更新は大変だと思うが、更新されていれば毎日見るようになると思う。 ・取組は「優」が付けられる。
教職員の資質向上		・教職員事故、不祥事、ハラスメントゼロ	○埼玉県の不祥事防止プログラムを活用した校内研修、また短時間のミニ研修を行うとともに、週1回程度発行している「校長だより」を通じて、当たり前ではあるが教職員の不祥事、事故、ハラスメントゼロとすることができた。	A	・モラルの問題。常に管理・監督・指導が必要。 ・先生方仲良く楽しそうに過ごしているのを見れば、生徒も楽しく中学校生活を送れそう。生徒も巻き込んでほしい
		・人材育成	□年度当初に作成する「自己評価シート」とは別に「目標達成シート」を作成させ、そのシートの視点をもとに管理職による授業観察等を行うことができた。	B	・先生方の自己評価シートと目標達成シートはどれくらいの差異が出ており、それを管理職はどう評価するのか？
		・指導力、授業力の向上	◇法定研修については参集型のものが増え、該当教員は意欲的にその研修に参加することができた。自主的な研修については自己研鑽の重要性は理解しつつも積極的な申し出はなかった。	B	・授業の進め方等、生徒の意見を聞きとる→良い点だけに絞る→説明方法等のレベルアップ。 ・先生の忙しさは社会問題のもなっている中、自己研鑽の時間を作るのは大変そう。先輩から後輩への具体的なアドバイスで補うなど、時短に指導力の向上が図ればよい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	施設・設備等の管理	・豊かな情操の醸成 ・機能的な防災拠点としての学校づくり ・子どもたちの安全と安心づくり	○美術の作品、図書室の本紹介、特別支援学級の作品掲示など、生徒作品を積極的に展示するよう努めることができた。また、校長室目に大型モニターを設置し、生徒に向けたメッセージ等を発信した。 □学校施設の老朽化に伴う修繕に終われ、防災拠点としての整備は進んでいないが、今後は多目的トイレや各所のバリアフリー化に努める。 ◇教頭及び安全担当者を中心に、学校施設の安全点検等を通じて、破損個所の早期改修を行うことができた。今後は、体育館の改修工事などを教育委員会へ強く要望していく方向である。	B B A	・掲示物の多い学校は落ち着いてる学校だと私は思っている。是非、更なる工夫を。 ・保護者も掲示が楽しみとなり、授業参観や学校公開など来校の機会が増えそう。 ・災害時の拠点として施設、設備の面で市の予算もあるのですが、危険個所の修繕や改修が必要になってくると思います。特にトイレ問題。 ・バリアフリー化は具体的にどこを考えているか？ ・使い勝手の悪さや修理してほしい個所などを広く生徒たちの声を集めるのも一案。 ・不審者対策の検討。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
八幡木中	組織運営	○若手、ベテランそれぞれの良さを生かし、不易流行な組織を確立する。 □不登校生徒や、予備軍の生徒に対し、授業だけではなく、進路指導や相談等を個別最適な形で行う。	○自己評価シートに対する指導助言を行ったことにより、目標を達成した教職員が増えた。また、報連相の徹底により、諸問題をチームとして解決する意識ができた。 □不登校及び教室に入れない生徒への声掛けや居場所づくり。また家庭への丁寧な連絡を粘り強く行っている教職員が多く、支援率は高くなっている。	B B	・人との距離感について、現代にあったバランスを考える必要がある。 ・3～4年目の先生がリードしていくようになると良い。 ・年齢にかかわらず教職員が連携し、報連相を徹底する。 ・不登校保護者に対する取り組みが必要。 ・不登校生徒の居場所づくりは難しい。また、ICTによる学習保障も善し悪しだと思う。 ・近隣の有志も一緒に取り組みたい。
	教育課程	○生徒一人ひとりの力を把握し、その生徒に合った補習を行う。また、保護者との連携を密にし、個別最適な家庭学習や課題を提示する。 □ICTの効果的な活用方法を身につけ、授業力の向上につなげる。	○埼玉県学力学習状況調査をもとに、生徒一人一人の力を把握し、学習に結び付けることはできていたが、個別最適な学びにはまだ至っていない。 □ICTの効果的な活用を、担当教員が非常に力を入れて行ってくれたが、各自がICTを生かし切れているかという点、まだ、使用自体が目的になっている教科もある。	B B	・大変だとは思いますが、生徒一人一人と向き合い丁寧に指導する。 ・ICTを無理に活用しない方が良いことがあるかもしれない。 ・市や県が効果的な教科や活用すべき単元などを教師に示すべき（教師によって差が出ないためにも）
	開かれた学校づくり	○学校の様々な教育活動を基本的感染対策を行いながら、積極的に保護者や地域の方に参加していただく。 □Hpの積極的な更新を行い、保護者・地域に情報公開を促す。	○アフターコロナとして行事をHP等を使い広く広報できた。またHPの更新やメール配信も積極的に行うことができた。結果多くの保護者に来航いただくことができた。 □教職員へのHPのアップの仕方の周知や生徒会にHP担当を置くことはできたが、まだまだ実質的な活動はできていない。	A B	・HPを開放していくことは、保護者や地域との交流にもつながる。 ・図書室を生徒の居場所、出会いの場所にしてほしい ・先生方のチームワークや創意工夫の結果を感じました。
	教職員の資質向上	○教師として生徒を伸ばすことのできる力を身につける。また、教員以外の社会を学ばせ、社会人としての素養を身につけさせる。 □様々な経験をし、指導の幅を広げるためにも、ワークライフバランスを考慮し、視野を広げる時間を作る。	○人員の関係でお互いの授業を見合う機会は、非常に難しかった。若い職員が多いため、社会人としての素養を指導してきたが、常識のとらえ方に差異がある。 □事務的作業を行いやすいように時間を生み出してきたが、ポトムアップに浸らなかった。	B B	・統一性をもって向上していくと良い。 ・必要なスキル向上のため、自分を知るための研修等に参加すると良い。 ・効率重視の部分と突き詰める部分を慎重に判断する必要がある。 ・上から押し付けることなく、それぞれの個性を活かすことが職員のやる気につながる。
	施設・設備等の管理	○老朽化が激しい箇所、特にトイレの改修に見直しを付ける。	○校内巡視を行い、危険箇所、修繕が必要な箇所への対応は、教頭や事務所職員と連携を図りながら行えた。また、行政への働き掛けも適宜行った。	A	・トイレがきれいでない点と負の感情が発生する。1日も早い改修が必要。 ・調理室のエアコンがないため、衛生上・健康上大きく影響される。優先順位としてはかなり上だと考える。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
里中	組織運営	○不登校生徒を減少させるとともに、支援率を100%にする。（令和4年度不登校生徒数の割合4.6%）	○ステップルームを活用したり、家庭訪問を実施したりし、不登校生徒の支援を100%できたが、不登校生徒数の割合は4.6%から6.0%となった。	B	・ステップルームを利用することで、教室復帰につながっている例がいくつもあり、ステップルームの運用が効果的であると感じる。
	教育課程	○端末の更なる活用と効果的な活用を推進する。	○授業の内容等に応じて、各先生方が効果的に一人一台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現できた。	B	・GIGA端末の活用事例などを学校内で共有し、GIGA端末を効果的に活用してほしい。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会を核とした地域とともにある学校づくりを推進する。	○①学期が始まる前の美化活動や学習教室など地域の人材を生かした取組ができた。 ②本校独自の高校との交流を通して、生徒の進路選択や進路決定の一助となった。また、小学校でも挨拶運動や学習支援を生徒が行い、小中連携を実現できた。	B	・学校にとって、有益なことは地域として協力していきたい。
	教職員の資質向上	○生徒・保護者が一層相談しやすく、教職員の働き甲斐のある学校づくりを推進する。	○研修したことを踏まえ、組織的に生徒指導、教育相談にあたることができた。学校評価アンケートの保護者からの回答では、どの項目も80%を超えることができた。	B	・部活動で経験したことは、今後の人生において役立つものと考えているが、それぞれの種目の専門でない先生が顧問を行っていて大変だと思う。
	施設・設備等の管理	○危機管理意識を高め、安心安全な学校づくりを推進する。	○毎月の安全点検を確実に行ったことや大規模な外壁工事を行ったことにより、生徒にとって安心・安全な環境を保持することができた。また、川口市学校安全努力校を受賞することができた。	B	・川口市学校安全努力校の受賞など、学校が生徒の安全を考え、取り組んでいることがわかった。今後も生徒の安全を保障する取組を実践していただきたい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
附属中	組織運営	○当初計画を検証しながらPhase1(中1～中2) の教育計画の確実な実践とPhase2(中3～高1)の中学校段階の検証・改善を行う。 □中高一貫教育に対応する校内組織及び高校との連携体制をつくる。	○初めて3学年が揃った中学校において、当初準備で予定された教育活動を遂行することができた。 □高校教員による教科指導や各教科・校務分掌間での中高教員交流が少しずつ行われ、連携体制の整備が進められた。	B B	・SSHの展開について 高校理数科だけで進めていくのではなく、学校全体でSSHを共有していく必要があるのではないか。理数科の序業との一部連携等など中高指導の連携も充実ができるのではないかな。
	教育課程	○公立中高一貫教育の6年間の学びを通じて、生徒主体の質の高い学びを展開する。 □学校・家庭において学習環境やリソースを生かした、学びの自立を図る教育活動の充実を図る。	○中学校内容の深化・発展としての先取り学習を実現し、質量ともに充実した学びを実践することができた。 □校内施設の利用をはじめ、市内教育施設を存分に利用した体験活動や学校行事を展開することができた。	A A	・中高の教員間の連携は今後も重要だと考える。
	開かれた学校づくり	○リーディング校として特色ある教育実践の情報を発信・共有し市内全域の教育力向上に貢献する。 □広域にわたる保護者や関心の高い市民のニーズに答える情報発信を行う。	○学校説明会での生徒によるプレゼン活動や市内のイベントへの積極参加等を推進し、生徒の姿で本校教育をアピールした。 □HPの更新、市内小学校へのOB訪問を実現するなど積極的な情報発信ができた。	A A	・姿勢90周年式典等市のイベントにも多数関与していただいた。引き続き生徒の活躍ができる場を市長も期待している。 ・ホームページ作成担当者の負担軽減を工夫してみてはどうか。
	教職員の資質向上	○レベルの高い生徒同士の学び合いを中心とした学習リソースの活用を図った授業を展開する。 □川口市のリーディング教師として選ばれた者としての自覚と責任のもと、高いプロ意識をもつ。	○各学力調査や模試分析等で生徒の学力向上策の検討や改善について協議し、教師のスキルアップを図ることができた。 □生徒指導や不登校支援等で各生徒の個に応じた支援と保護者に対する丁寧且つ粘り強い対応でチームによる指導成果を挙げている。	B B	・研修の充実が必要である。 ・人事異動を活性化させて教職員の資質向上を図ってほしい。
	施設・設備等の管理	○特色ある教育活動を展開するための教室・場所、学校管理上に必要な執務場所や管理倉庫などの施設環境の拡充に努める。 □本校特有の課題に対して安心・安全の確保に努める。	○全学年が揃った中で授業を実施できる最低限の環境確保はできた。 □大きな学校事故もなく安心・安全な学校づくりを維持することができた。	A A	・タブレットの利活用についての教職員のレベルアップを期待している。事務に関しては、予算要求を図り市リーディング校としての充実を図ってほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
川口市立高	組織運営	○「進学校・SSH指定校として前進する」SSH事業を通じた理数科教育の充実を図りつつ、スポーツ科学コースの学力向上、特進クラスの特色化等を進める □政策アドバイザーと管理職が率先垂範し、各主任と目標の連鎖を進める。	○SSH事業を踏まえ、大学・研究機関と連携し、理数科の探究活動（カリキュラム開発）を充実させた。スポーツ科学コースでは実習、講演会等のコースの特色を出す教育活動を展開した。 □目標の連鎖に向け、定期的に政策アドバイザーや関係各主任と情報交換を行った。	B A	・負担もあるだろうが、SSHでの取組を理数科から普通科にも波及させてほしい。 ・いかに教科の中で連携をとって教科の中での還元ができれば、意識の変化や質の向上に繋がるかもしれない。 ・特になし	
		教育課程	○「SSH事業を展開し、国公立大学への進学に対応する教育課程を実施する」国公立大学の現役合格者50名以上を目指す。 □SSH事業と観点別評価を日々の授業や学力向上に活かす工夫を行う。	○学期末の授業確保、長期休業中の進学補講を実施し、国公立進学を目指す生徒を育成した。また、学力向上委員会、自習室運営委員会を中心に、土曜講習の充実、定期考査前の学習支援員の配置等、自学自習の環境を整備した。 □5月と10月に大学教授による観点別評価研修会を実施し、教科毎の学力向上を図った。	B B	・中高連携については教員間の連携が一番。保護者の期待も大きいと思う。 ・自主的な学びの意識が低いと高校では大変である。 ・生徒に課題をどの程度課すかという点が難しい問題。 ・特になし
	開かれた学校づくり	○「地域に根差した学校づくりと、中学生や関係者へ積極的に広報する」高校入試における志願倍率の維持を目指す。 □近隣の小中学校や塾との情報交換と連携を図る。 ◇学校生活の様子を「見える化」する。	○広報活動に力を入れ、チラシ・ポスターを近隣中学校に配布した。また、中学校訪問や学校説明会・見学会、ホームページの充実を図り、積極的な生徒募集を行った。 □中学校教員対象の研修会は実施しなかったが、中学校や塾等主催する説明会で情報交換、連携を図った。 ◇教育活動や学校行事、部活動等の情報を中心に、学校生活の様子を随時更新した。	A B A	・市政90周年式典では大きく寄与してもらった。市長の期待に応えてくれた。 ・市政に今後も参加を。 ・特になし ・ホームページの充実には実際には担当の負担もある。各種媒体を通じて保護者へいかに情報を伝えていくか、難しいが大事で理解をもらう大きな手段である。	
		教職員の資質向上	○「授業第一主義を学校全体で徹底する」指導方法の工夫・改善を推進する。 □探究的な学習を意識した授業実践を研究する。 ◇市独自の人材を活用し、AL、ICT等の各種研修を充実させる。	○6月と11月に授業研究週間を2週間実施し、互見授業を通して、各教科での授業改善を進めた。 □理数科に加え、普通科でも課題研究に取り組み、探究的な学習を推進した。また、理数科を中心とした大学、研究機関との連携事業を充実させた。 ◇政策アドバイザーの指導の下、計画的な初任者研修を実施した。	A B A	・教科、分掌内で連携を。組織的にやるのが大切だが難しい。 ・特になし ・人事応募制度で関心のある先生に興味をもってもらえるように。
			施設・設備等の管理	○「既存の施設設備を有効に活用するとともに、安心安全な学校生活を保障する」学校内外での生徒事故防止に取り組む。 □施設の共用と有効活用 ◇ICT環境を整備し、教育活動を充実させる。	○避難訓練等の防災教育を年2回実施。自転車通学者に対する登校指導を計画的に実施し、事故防止等の啓発を行った。 □定時制・附属中・事務室の調整会議を月1回実施し、施設利用の有効活用を図った。 ◇生徒用タブレット端末の導入と校務・指導用PCが更新され、授業での活用が進んだ。	B A B

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
定時制	組織運営	○「キャリア教育・進路指導を核に進路実現を支援する総合学科を構築する」 ①定時制総合学科の良さを発揮するカリキュラム、指導体制を進めていく。 ②業務の効率化を図るとともに働き方改革を実施する。	○①キャリア教育に係る外部講師による講演を計5回実施した。「進路の手引き」を活用したキャリア教育プログラムを着実に実施した。 ②ICTを活用しペーパーレス化を実施するなど職員の業務効率化を行った。保護者との連絡手段においてHPを活用したデジタル化を実施した。	A	・定時制生徒の現状を踏まえ、新しく体系化された「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を実施し、キャリア教育を推し進めください。 保護者の手元に保護者宛文書が届かない場合があり、デジタル化により情報共有が図られることはありがたい。さらに保護者との連携を行い、学校教育の質を向上させてください。 ・
	教育課程	○「新教育課程の円滑な実施を進める」 ③4年間を見通したキャリア教育を充実させ、進路決定者100%を目指す指導体制を構築する。 ④一人一人の生徒に即した学習支援体制の一層の充実を図る。	○③本校の現状を踏まえた新しい次年度以降の教育課程を編成するなど生徒の将来を見据えたカリキュラムマネジメントを行った。 ③進路決定者の割合は43名在籍中36名で、4年次生全体の84%である。(1/18現在) ④校外行事を例年以上に実施した。情操教育だけでなく公共マナー意識を啓発することができた。 ④今年度、無欠席の生徒が35名、全体の約19%である(1/18現在)。 ④日本語教室からJLPT N1に1名合格した。	B	・無欠席者数が多く、生徒にとって定時制は魅力あり、居心地よい場所であることが分かった。 引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。 ・外国籍、外国にルーツのある生徒への支援を市行政でも行っているため、今後も学校と連携した取り組みをさらに推し進めていく。 他の学校以上に多文化共生、多様性を学べる学校であり、素晴らしいと思う
	開かれた学校づくり	○「学校を核とした地域づくり」をめざす ⑤夜間中学等との具体的な連携を進める。 ⑥地域のニーズを把握するとともに様々な機会を活用し定時制の魅力を発信する。	○⑤⑥市産品フェア、地域清掃ボランティア、JICA地球ひろばなどと連携事業など実施した。 ⑥HPの更新回数は36回(昨年度12回)、新規にSNSを活用した情報発信をした。保護者用ページを設置し、保護者と情報共有・連携を図り、教育の質の向上を推し進めた。 ⑥学校説明会参加者数35組64名であった。説明会以外に8組学校見学・学校説明を行った。	A	・夜間定時制で外部連携が難しい状況であるが、外部連携をよく行っている。今後は受身的な体験活動だけではなく、生徒自ら主体的な体験活動があるとさらによい。 校内の附属中学校、全日制との連携事業も、今まで以上に続けてほしい。
	教職員の資質向上	○「授業第一主義」 ⑦校内研修を活性化させ教職員の授業力向上を図る。 ⑧校外研修へ積極的な参加を推奨する。	○⑦⑧今年度より公開授業週間を設け、ICTを活用した研究授業・公開授業を行うなど教員の学習指導力向上を図った。 ⑦⑧成績優秀者は1学期17名、2学期55名(昨年度1学期15名、2学期46名)であった。教科指導研究など職員の地道な研鑽による学びなおしの成果があがってきてい	B	・授業を視察させていただき、全日制に負けず劣らず、ICTを活用した授業に取り組んでいることが分かった。保護者として安心するとともに感謝している。ICTに係る教職員研修を継続して続け、さらにICTを活用した授業をお願いしたい。また校内だけの授業公開だけでなく保護者・外部対象の授業公開をぜひ実施してほしい。
	施設・設備等の管理	○「施設設備の効果的活用と安全配慮」 ⑨本校特有の課題に対して安心・安全を確保する。 ⑩GIGAスクール端末やネットワーク環境をはじめ、最新鋭の施設・設備を活かした教育活動を展開する。	○⑨防災訓練を2回実施した。 ⑨校内の防犯対策の見直し、自転車点検、登校指導を実施するなど安全指導を行った。 ⑩ICTに係る教員研修を2回実施した。	A	・⑨防災訓練、自転車通学の指導など十分に行っており、生徒の安全を第一に考えた指導を行っている。今後はさらに若者に係るお金のトラブルや闇バイトなど生徒が様々な犯罪に巻き込まれないように指導を継続してほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
舟戸幼	組織運営	○目指す幼稚園像及び幼児像の共有化	○週報等を通して見通しをもち、共通行動をすることができた。 ○週案や日案に幼児の実態や課題を記録し、個に応じた丁寧な保育を行うことができた。	A	・自由保育がすばらしい。教育環境や保育内容など、園児の活動の様子を積極的に広報活動をしてほしい。
		□ P D C A サイクルの推進	□指導計画の反省を運営の工夫や改善に生かすことができた。 □教職員の自己評価シートに反映し、工夫や改善をすることができた。	B	・問題が発生した際に教職員で情報の共有がされていない。保護者が担任へ相談した際は職員間で共有し、検討してほしい。また、保護者への連絡・報告は必ずしてほしい。どんな場面でも一貫した対応があると信頼できる。
	教育課程	○舟戸学園の連携教育と豊かな自然環境の特色を生かす保育の推進	○舟戸学園の連携教育を精選しながらも充実させることができた。 ○自然体験活動を計画的に実施することができた。 □舟戸小学校と連携を図り、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを作成し、幼小の滑らかな接続を図ることができた。	B B	・園庭が広く自然環境の良さに恵まれている。園庭で計画的に栽培活動を行ったり、虫捕りやメダカの飼育などの自然体験活動ができることが素晴らしい。一層推進してほしい。 ・ブログで園内の様子が分かるようになった点は良かった。ただ、舟戸幼稚園は保護者の出番が多くてたいへんだというイメージがまだ根深くある。保護者と園とのかかわりを紹介するページがあると良いと感じる。 ・小学生や中学生に遊んでもらえることはとてもよい取組である。
		□小学校との連携による幼小の滑らかな接続			
	開かれた学校づくり	○幼稚園の保育内容と幼児の姿の積極的な発信 □保護者・地域等からの情報の収集による連携の強化	○幼稚園だよりやHPで保育活動を保護者や地域に積極的に発信することができた。 □保育参観、保護者会、教育相談、個人面談等を計画通り実施することができた。 □保護者との連携とともに保育の質の向上に生かすことができた。	A A	・園だよりやホームページなどで園児の遊びの様子がよく分かる。。 ・舟戸幼稚園が3年保育になったことを知らない人がまだ多いので、発信が足りないと感じる。
教職員の資質向上	○研修の充実による指導力の向上 □市立幼稚園教育研究協議会の研究の充実 ◇造形教育の充実	○園内研修では、様々な事例研究や外部講師の講演を通して学び合い、指導力の向上を図ることができた。 □2園が実践事例研究等を通して学び合いを推進し、指導力の向上を図ることができた。 ◇機会を得て、日々の保育に生かすことができた。	A A B	・年間を通じて教員が学び合いながら資質を向上させ、保育の内容が一層充実するようにがんばってほしい。	
施設・設備等の管理	○安全管理の徹底 □安全管理の徹底	○日常の安全点検や毎月の定期点検、各行事の事前点検を徹底したことで、事故0を達成することができた。 □様々な事態を想定した避難訓練を計画的に実施することができた。 □教職員事故防止は具体的な事例で当事者意識をもてた。	A A	・避難訓練を計画的に行い、園児の安心安全につなげているところがよい。 ・設備の安全は守られていると思うが、園庭や遊具で遊ぶ際の見守りを強化するとよい。 ・遊びの場面で危険箇所の認識や職員の配置に死角や不備がないように確認してほしい。	

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
南平幼	組織運営	○豊かな表現力の育成に向け、友達との関わりを楽しみ、表現する喜びを味わわせる。 □信頼される幼稚園運営を確立し、情報発信を広く行い、園児数増加に繋げる。	○豊かな表現力の育成では、子供たちは、幼稚園の様々な場面で、心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かに表現していた。 □保護者情報アンケートでは、園だよりやホームページを見ているが95%、園の様子が伝わるにおいては100%であった。また教育委員会からの紹介により、トリコ川口で情報発信をした。	B B	・公立幼稚園の良さはやはり高い教育力であると思う。豊かな表現の多様性を引き出してよく保育している。・子供の意見や発想を取り入れながら、充実した活動ができている。・南平らしいその子のやりたい思いを形にできる所は本当に素晴らしい。・子供も親も自然体で安心して通える園である。・園で見られる子供たちの伸び伸びとした姿や笑顔は日々行われている保育の結果の現れである。 ・情報発信について私立幼稚園との対比も含めてH P等で継続する。・園児増加に向け私立幼稚園と比較して卓抜している所を情報発信する。園児数減少の懸念。仕事をしている保護者も増えているので時代に沿った情報発信。・他園のプレが始まる前から情報発信をする必要がある。・細やかに情報発信がされている。情報発信の場が増える事を期待しています。
	教育課程	○「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」1健康、2自立心、3協同性、4道徳性、5社会生活、6思考力、7自然、8数量文字、9言葉、10感性を意識した保育を行う。 □3年保育の指導計画の見直し。	○毎月の学級だより等で、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を示して、保護者にも伝えることができた。 □3年保育の5歳児、3年保育の4歳児の指導計画を作成をした。	A B	・少人数のために、一人一人の保育がいきとどき伸び伸びしている。・H Pからも伝わる。・しっかりと「幼児期の終わりまでで育ってほしい10の姿」にそって、子供たちに自発的に取り組ませる声かけなどが素晴らしい。・先生からの降園時の連絡から、充実した保育内容が伝わる。 ・3年保育はまだまだこれから望まれると思うので、事例や園児一人一人にカスタマイズして頑張ってもらいたい。・3年目となり定着・年少から年中へとスムーズに移行している。3年保育は、保護者にとってもよい。
	開かれた学校づくり	○保護者や地域の方々が、南平幼稚園の行事等への参加できるようにし、交流を深める。 □幼少中の連携を深め、幼稚園からスムーズな小学校への進学を目指す。	○幼稚園行事では、保護者の参加人数を増やす事ができ、サッカー教室やフルートコンサートも保護者の参加をできるようにした。プールの蓋開けや側溝清掃では、多くの保護者の方々に参加していただき、とても協力的である。 □3学期年長組の園児が小学校へ行く予定である。また、中学校の職業体験の夢わーくでは3校の中学生がきて、幼中の交流が図れた。 ◇特に年長組は、靴の履き替えや、ハンカチ、弁当の箸の使い方なども、小学校を意識した保育を進めていた。	A A B	・更なる幼小中の連携として良いところは同じでも良いが、どこか一つ新しいことに取り組みチャレンジしてほしい。 ・教育と習い事とは別であり、伝える事を継続してほしい。 ・保護者の参加が多くなるのは良いが、強制にならないよう気をつけたい。・保護者にも寄り添い園活動の支援についても話合っていることが何え、とても良い。 ・保護者が参加することで、園での教育活動の理解が深まり協力へと繋がる。 ・様々な年代の人が関わる温かな場所としての南平幼稚園であってほしい。・とても良い。・ポストコロナにより活動が再開され、園の姿が見られ良い。・小中との交流が再開され、園児だけでなく、小中学生にとっても充実し、子供たちも喜んでいて。・幼小中の連携は、お互い良い作用をもたらしているため、是非継続してほしい。 ・南平幼稚園を卒園した子が小学校入学後スムーズに学校生活を送っている。 ・我が子を見ていると、十分なアプローチがされていると感じる。
	教職員の資質向上	○市委嘱研究本発表では、音楽を手立てに表現したり友達と関わったりする保育を展開し、音楽の楽しさや美しさを感じる保育をする。 □舟戸幼稚園との市立研修をより充実させる。 ◇働き方改革では、教職員の日々の生活の質を豊かにすることで、子供たちの笑顔あふれる幼稚園を目指す。	○市教委委嘱の研究発表では、音楽を手立てに、表現に関わる経験を積み重ね、楽しさを充分味わうことができた。3学期の劇遊びにも音楽を取り入れたり、子供たちが大道具や衣装などイメージを広げて製作をしている。 □市立研では、夏期研修など2園で研修を深めることができた。 ◇「業務改善スタンダード」の周知だけでなく、教職員が自分事としてとらえられる研修を行った。	A A B	・音楽に関する園長の取組み、フルートコンサート等、情緒が楽しさの中で育まれ、日々の中に溶け込んでいて感謝したい。・良い・劇遊びの中でも、音楽や楽器を取り入れよく表現できていた。楽器で現す音によって、風景が浮かんできました。・音楽やものづくりから、学びに繋がっていく指導力がある。・日々の業務に加えての、研修や研究の積み重ねが素晴らしい保育へと繋がっている。 ・研修は大切である。・2園で、造形と音楽を研究し、情報交換できることは公立の強みである。・市立幼稚園が2園あることは大変大きな強みである。 ・働き方改革は、無理のないよう臨機応変に続けていく。・どの職場も働き方改革により、業務の見直しなどうまくいっていない部分もある。・風通しの良い環境で働けることを切に願います。・業務改善は積極的に行ってほしい。

令和5年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	施設・設備等の管理	○日々の巡視や毎月の安全点検において、迅速に対応する。 □危機管理意識を高くもち、毎月の避難訓練等、安全教育をしっかりと行う。 □危機管理意識を高くもち、毎月の避難訓練等、安全教育をしっかりと行う。	○計画的に靴箱の修繕などができ、備品や消耗品購入についての環境整備も行った。特に雨の日に園庭に毎回職員がゴザを出していたが、タイルを取り付けたことで、働き方改革にも繋がった。 □毎月地震、水害、竜巻、Jアラート等の避難訓練を行い、子供たちが怖がらずに命を守るよう計画的に行った。新たに今年度はシェークアウト訓練にも、保護者と一緒に参加した。また、今年度も川口市学校安全努力学校、交通功労団体表彰された。 □毎月地震、水害、竜巻、Jアラート等の避難訓練を行い、子供たちが怖がらずに命を守るよう計画的に行った。新たに今年度はシェークアウト訓練にも、保護者と一緒に参加した。また、今年度も川口市学校安全努力学校、交通功労団体表彰された。	A A A	・良い ・修繕することにより、時短にも繋がり職員にとっても良い環境になっている。 ・毎年少しずつ環境整備がされているのがわかる。 ・修繕が必要な箇所も多いが、計画的に進めてほしい。 ・毎月実施の避難訓練も是非継続していただきたい。・シェークアウト訓練という言葉を始めました。参加する機会があれば参加したい。先日他校で地震があったが、やはり訓練をしているので落ち着いて行動していて、心強く感じた。日頃の訓練に感謝します。 ・安全意識を、子供たちに怖がらせることなく、身につけるところがすばらしい。・非常時に命を守るという一番大切な事に対し、保護者の安心感へと繋がっています。 ・毎月実施の避難訓練も是非継続していただきたい。・シェークアウト訓練という言葉を始めました。参加する機会があれば参加したい。先日他校で地震があったが、やはり訓練をしているので落ち着いて行動していて、心強く感じた。日頃の訓練に感謝します。 ・安全意識を、子供たちに怖がらせることなく、身につけるところがすばらしい。・非常時に命を守るという一番大切な事に対し、保護者の安心感へと繋がっています。

教育長報告（１１）

川口市立小中学校在り方検討委員会の設置について

１ 概要

本市の人口は令和１７年（２０３５年）をピークに、その後減少傾向へ転じていくことが予測され、小中学校に在籍する児童生徒数は、総人口のピークに先駆けた減少が見込まれている。

令和５年度の本市児童生徒数は、小学校は約２９，０００人、中学校は約１４，０００人であったが、住民基本台帳の年齢別人口によると、すでに減少傾向が始まっている。

平成２８年４月に施行された改正学校教育法では、９年間の義務教育を一貫して行う義務教育学校の設置が可能となり、小中一貫教育の一層の推進が示された。小中一貫教育の導入は、少子化や学校の小規模化の対応だけでなく、小学校高学年の教科担任制の導入や多様な教員が児童生徒に関わる体制の確保など、今日的な学校課題への対応策の一つとして全国的にも広がりを見せている。

そのような状況の中、将来を見据え、本市学校教育の目指すべき姿である「一人ひとりが輝く、しなやかさとたくましさをそなえた人材を育てる川口の教育」のさらなる具現化を図るためには、長期的な計画に基づいた本市小中学校の在り方を検討し、学校施設の更新時期と連動した学校規模の適正化を進め、今後の教育環境の維持向上に努めていく必要がある。

以上のことから、川口市立小中学校在り方検討委員会を新たに設置するもの。

２ 委員構成

委員長 副教育長

委員 教育総務部長、学校教育部長

教育総務課長、庶務課長、学務課長、指導課長、学校保健課長、
学務課主幹、指導課主幹、指導課主幹兼教育研究所副所長

事務局 学務課 教育政策担当、学事係

３ 備考

委員会の開催日時及び回数については、別途決定の上実施する
(第１回開催日 令和６年４月２５日)

教育長報告（１２）

令和５年度川口市立高等学校卒業者の進路状況について (令和６年４月３日現在)

項 目	進 路 決 定 者 数			割合(%)	前年比
	男子	女子	計		
国公立大学	32	11	43	9.9	3.2
私立大学	156	160	316	72.8	2.8
文部科学省所管外大学校	0	2	2	0.5	0.5
短期大学（公立・私立）	1	2	3	0.7	-0.7
専門学校等	10	13	23	5.3	-5.7
就 職	12	10	22	5.1	2.4
進学・就職の準備等	18	7	25	5.7	-2.3
留学、海外の大学日本校	0	0	0	0.0	-0.2
その他	0	0	0	0.0	0.0
計（卒業者数）	229	205	434		
計（在籍数）	229	205	434		

※未定者は「進学・就職の準備等」に含む

※参考

令和４年度川口市立高校の進路状況（令和５年４月３日現在）

項 目	進 路 決 定 者 数			割合(%)
	男子	女子	計	
国公立大学	22	12	34	6.7
私立大学	170	188	358	70.0
文部科学省所管外大学校	0	0	0	0.0
短期大学（公立・私立）	0	7	7	1.4
専門学校等	15	41	56	11.0
就 職	4	10	14	2.7
進学・就職の準備等	28	13	41	8.0
留学、海外の大学日本校	1	0	1	0.2
その他	0	0	0	0.0
計（卒業者数）	240	271	511	
計（在籍者数）	240	272	512	

※内訳

川口市立高校(全日制)		令和5年度		
項 目	進 路 決 定 者 数			割合(%)
	男子	女子	計	
国公立大学	32	11	43	11.0
私立大学	152	159	311	79.3
文部科学省所管外大学校	0	2	2	0.5
短期大学（公立・私立）	0	1	1	0.3
専門学校等	5	9	14	3.6
就 職	2	0	2	0.5
進学・就職の準備等	17	2	19	4.8
留学、海外の大学日本校	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0.0
計（卒業者数）	208	184	392	
在 籍 者 数	208	184	392	

※未定者は「進学・就職の準備等」に含む

川口市立高校(定時制)		令和5年度		
項 目	進 路 決 定 者 数			割合(%)
	男子	女子	計	
国公立大学	0	0	0	0.0
私立大学	4	1	5	11.9
文部科学省所管外大学校	0	0	0	0.0
短期大学（公立・私立）	1	1	2	4.8
専門学校等	5	4	9	21.4
就 職	10	10	20	47.6
進学・就職の準備等	1	5	6	14.3
留学、海外の大学日本校	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0.0
計（卒業者数）	21	21	42	
在 籍 者 数	21	21	42	

※未定者は「進学・就職の準備等」に含む

教育長報告（１３）

令和 6 年度川口市立高等学校入学者選抜結果について

				令和 6 年度 合格発表 令和 6 年 3 月 1 日						令和 5 年度 合格発表 令和 5 年 3 月 3 日					
全日・定時	学科等	募集人員	性別	令和 6 年度						令和 5 年度					
				一般募集			市内中学校出身者			一般募集			市内中学校出身者		
				受検者	合格者	倍率	計	比率		受検者	合格者	倍率	計	比率	
				588	441			%		799	456			%	
全日制	普通	募集人員 R 6 2 8 4 R 5 2 8 0	男	171	141		72	51.1		234	132		60	45.5	
			女	187	144		53	36.8		307	149		62	41.6	
			計	358	285	1.26	125	43.9		541	281	1.93	122	43.4	
	スポーツ科学コース	募集人員 R 6 8 0 R 5 8 0	男	94	56		21	37.5		74	49		12	24.5	
			女	37	24		5	20.8		50	31		3	9.7	
			計	131	80	1.64	26	32.5		124	80	1.55	15	18.8	
	理数	募集人員 R 6 4 0 R 5 4 0	男	51	36		15	41.7		58	27		13	48.1	
			女	13	5		3	60.0		21	13		5	38.5	
			計	64	41	1.56	18	43.9		79	40	1.98	18	45.0	
定時制	総合	募集人員 R 6 6 0 R 5 6 0	男	8	8		7	87.5		19	19		18	94.7	
			女	27	27		22	81.5		36	36		31	86.1	
			計	35	35	1.00	29	82.9		55	55	1.00	49	89.1	

※最後の合格者を選抜する際、複数の生徒が同じ点数であるとき、同じ点数の受検者を全員合格とするため、普通科・理数科において、合格者数が募集人員を上回っている。

				令和 6 年度 検査・面接 令和 6 年 3 月 1 8 日、合格発表 令和 6 年 3 月 2 1 日						令和 5 年度 検査・面接 令和 5 年 3 月 1 7 日、合格発表 令和 5 年 3 月 2 2 日					
全日・定時	学科等	募集人員	性別	令和 6 年度						令和 5 年度					
				受検者		合格者	倍率	市内合格		受検者		合格者	倍率	市内合格	
					市内						市内				
定時制	総合	募集人員 60	男	8	7	7		6		1	1	1		1	
		一般合格 [35]	女	10	9	10		9		0	0	0		0	
		欠員募集 25	計	18	16	17	1.06	15		1	1	1	1.00	1	

				令和 6 年度 検査・面接 令和 6 年 4 月 4 日、合格発表 令和 6 年 4 月 5 日						令和 5 年度 なし					
全日・定時	学科等	募集人員	性別	令和 6 年度						令和 5 年度					
				受検者		合格者	倍率	市内合格		受検者		合格者	倍率	市内合格	
					市内						市内				
定時制	総合	募集人員 60	男	0	0	0		0							
		一般合格 + 欠員補充① [52]	女	1	0	1		0							
		欠員募集 8	計	1	0	1	1.00	0							

定時制最終合格者数及び比率

性別	令和 6 年度			令和 5 年度		
	最終合格者			最終合格者		
	総数	市内	比率	総数	市内	比率
男	15	13	86.7	20	19	95.0
女	38	31	81.6	36	31	86.1
計	53	44	83.0	56	50	89.3

教育長報告（14）

令和6年度川口市教育相談支援員について

1 趣旨

いじめ・不登校等児童生徒の心の問題の重要性に鑑み、児童生徒・保護者との相談等に応じるとともに、学校・家庭・地域社会との連携を図るため、川口市教育相談支援員を設置し、もって健全な児童生徒の育成を図る。

2 採用人数

すこやか相談員 27名

サポート相談員 27名

3 配置

全中学校にすこやか相談員1名、サポート相談員1名を配置

4 勤務条件

すこやか相談員：原則週5日 1日5時間 年間196日以内

サポート相談員：原則週5日 1日3時間 年間147日以内

5 業務内容

- (1) 相談室運営及びいじめや不登校の解消等のための相談・援助
- (2) 学校区の小学校において、いじめや不登校のための相談・援助
- (3) 児童生徒とのふれあいを通して、日常の悩みの相談
- (4) 民生委員、児童委員など地域の青少年育成関係者等との連携 等

6 採用者

別紙のとおり

7 任期

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

令和6年度 教育相談支援員配置一覧

番号	学校名	すこやか相談員	サポート相談員
1	東中	川田 博史	芦田 芳枝
2	西中	金子 厚子	児成 寿実江
3	南中	石黒 智子	松村 順子
4	北中	松苗 郁子	高際 みどり
5	青木中	佐々木 隆美	吉川 佳菜子
6	芝中	大谷津 和子	中村 真由美
7	元郷中	宮城 里奈	海宝 一恵
8	上青木中	石井 美栄	内野 未穂
9	幸並中	田北 眞美子	鈴木 則子
10	十二月田中	戸簾 暢宏	大竹 敦子
11	仲町中	小田長 幹夫	井上 多恵
12	安行中	間田 真未子	明畠 真由
13	芝東中	森元 秀樹	千野 恵里子
14	芝西中	若林 協子	近藤 玲子
15	岸川中	大野 幸子	加藤 暁子
16	榛松中	根岸 仁美	東宮 有希
17	小谷場中	村上 明子	田邊 真佐子
18	神根中	田邊 美香	森田 あけみ
19	領家中	昆野 廣次	川瀬 明子
20	戸塚中	弓削田 美幸	大貫 よしみ
21	在家中	石井 理恵	後藤 真穂子
22	安行東中	新村 誠	栃木 明子
23	戸塚西中	齋藤 綾子	三ツ橋 由香
24	鳩ヶ谷中	川島 道子	北畑 玲奈
25	八幡木中	松本 倫子	門馬 政明
26	里中	成田 弥寿子	ブレイクスリー 直子
27	附属中	丁野 薫	齋藤 佳乃

教育長報告（15）

令和6年度川口市特別支援教育支援員について

1 趣旨

幼稚園、小中学校において発達障害のある幼児児童生徒に対する学習活動などの支援や幼児児童生徒の健康面の把握及び安全面の確保など、特別な支援を要する幼児児童生徒に対して適切な教育の充実を図るため、特別支援教育支援員を配置する。

2 採用予定人数

85名 ※現在不足7名

3 配置予定

1名配置校 : 小学校33校 中学校9校
2名配置校（園）：幼稚園2園 小学校18校
3名配置校 : 小学校1校

4 勤務条件

原則週5日 1日あたり5時間 年間175日以内

5 業務内容

- （1）特別な支援を要する幼児児童生徒に対する学習活動などの支援
- （2）特別な支援を要する幼児児童生徒の健康面の把握及び安全面の確保 等

6 採用者

別紙のとおり

7 任期

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

令和6年度 特別支援教育支援員の配置校

番号	配置校	氏 名	番号	配置校	氏 名
1	本町小	米沢 暁子	40	新郷東小	八藤後 友子
2	本町小	星野 綾子	41	朝日西小	長門 成美
3	本町小	高橋 彩加	42	慈林小	樋口 玲子
4	幸町小	若山 みどり	43	差間小	田中 留美
5	幸町小	長野 真理	44	差間小	豊嶋 浩伸
6	仲町小	長谷川 泰久	45	東本郷小	前田 由紀子
7	上青木小	春原 眞理子	46	東領家小	松村 栄
8	元郷小	今泉 沙弥香	47	安行東小	信國 優子
9	飯塚小	千葉 由美子	48	安行東小	星川 恵
10	芝小	堀江 由紀	49	在家小	川畑 むつ子
11	新郷小	高森 利津子	50	戸塚東小	本間 光紀
12	神根小	小池 久美子	51	戸塚北小	清水 明枝
13	青木北小	石井 洋子	52	戸塚北小	佐藤 摩耶
14	領家小	植松 節子	53	木曽呂小	三浦 由貴
15	舟戸小	越智 美穂	54	木曽呂小	有馬 智子
16	十二月田小	杉原 温子	55	戸塚綾瀬小	鈴木 亜希子
17	十二月田小	植山 悦行	56	戸塚南小	伊賀 朋子
18	飯仲小	本多 久男	57	戸塚南小	照内 直子
19	並木小	増田 紀子	58	鳩ヶ谷小	梅田 要子
20	安行小	塩谷 貴子	59	中居小	渡邊 美佐枝
21	安行小	青木 千里	60	中居小	片岡 由香
22	原町小	富士原 正子	61	辻小	永田 真菜美
23	前川小	野邊田 淳子	62	里小	藤倉 恵子
24	戸塚小	柴崎 由紀江	63	里小	服部 香里
25	青木中央小	表 久美子	64	桜町小	佐藤 律子
26	青木中央小	飯田 明日香	65	南鳩ヶ谷小	伊藤 智章
27	元郷南小	岡野 和世	66	西中	伊藤 美穂
28	芝西小	古賀 正恵	67	南中	昆野 亮子
29	芝南小	樋口 史子	68	北中	上野 麻理
30	神根東小	中保 千恵	69	幸並中	早川 裕子
31	朝日東小	出羽 奈保子	70	十二月田中	荒木 ひとみ
32	芝富士小	中島 康裕	71	芝東中	林 優太
33	前川東小	渡邊 智佳子	72	芝西中	荒木 みどり
34	柳崎小	前野 雄吉	73	小谷場中	齋藤 健
35	芝樋ノ爪小	佐藤 玲子	74	神根中	上林 玲実子
36	新郷南小	石澤 雅子	75	舟戸幼	國分 紫津子
37	上青木南小	長谷川 はるみ	76	舟戸幼	神山 春美
38	根岸小	日根野 真	77	南平幼	高島 いづみ
39	芝中央小	加藤 由美子	78	南平幼	脇山 美穂

教育長報告（１６）

令和６年度川口市特別支援学級等補助員について

１ 趣旨

特別支援学級及び発達障害・情緒障害通級指導教室において、特別な支援を要する児童生徒に対して学習活動などの支援、児童生徒の健康面の把握及び安全面の確保など、適切な教育の充実に図るため、特別支援学級等補助員を配置する。

２ 採用予定人数

６８名 ※現在不足５名

３ 配置予定

特別支援学級設置校（小学校３８校・中学校１７校）及び小学校の発達障害・情緒障害通級指導教室（６校）に配置

１名配置校：小学校３１校 中学校１７校

２名配置校：小学校 ７校

発達障害・情緒障害通級指導教室：小学校６校

４ 勤務条件

原則週５日 １日あたり５時間 年間２００日以内

５ 業務内容

（１）特別支援学級等在籍児童生徒に対する学習活動などの支援

（２）特別支援学級等在籍児童生徒の健康面の把握及び安全面の確保 等

６ 採用者

別紙のとおり

７ 任期

令和６年４月１日から令和７年３月３１日まで

令和6年度 特別支援学級等補助員の配置校

番号	配置校	氏 名	番号	配置校	氏 名
1	幸町小	武居 利江	33	差間小	赤尾 尚
2	幸町小	森野 志津江	34	東本郷小	吉岡 せい子
3	上青木小	嵯峨 博美	35	安行東小	宮田 美奈子
4	上青木小	堀井 健二	36	戸塚東小	伊東 真由美
5	元郷小	工藤 千春	37	戸塚北小	豊田 敦子
6	芝小	和田 絢子	38	戸塚北小 (通級)	小杉 千絵
7	新郷小	トルオン 直子	39	木曽呂小	菊地 さと美
8	神根小	前野 昌美	40	木曽呂小	齋藤 博之
9	青木北小	松本 康裕	41	戸塚綾瀬小	櫻井 昌子
10	青木北小	田邊 隆子	42	中居小	伊林 由美子
11	青木北小 (通級)	中島 緑	43	中居小	鈴木 直美
12	領家小	平野 幸夫	44	里小	小宮 順子
13	飯仲小	片岡 由美子	45	里小	石井 修
14	並木小	山際 由美子	46	桜町小	小林 恭子
15	安行小	谷平 美穂	47	東中	佐川 富士夫
16	原町小	塩入 良江	48	青木中	今成 三千代
17	前川小	鈴木 瑠美	49	芝中	飯坂 透
18	戸塚小	亀山 晴代	50	元郷中	三上 秀樹
19	元郷南小	高木 俊宏	51	上青木中	齋藤 園枝
20	芝南小	山本 珠美	52	仲町中	岩井 素子
21	神根東小	石渡 悟	53	安行中	佐藤 智子
22	朝日東小	黛 淳子	54	岸川中	成田 聖子
23	芝富士小	臼倉 緒美	55	榛松中	池上 礼子
24	前川東小	高橋 直香	56	領家中	井上 信子
25	柳崎小	渡邊 聡子	57	戸塚中	星川 希
26	芝樋ノ爪小	高木 梨衣	58	在家中	大山 幸子
27	芝樋ノ爪小	福島 和美	59	安行東中	秋田 幸代
28	新郷南小	真庭 泰子	60	戸塚西中	菅原 美恵子
29	根岸小	菅野 絵美	61	八幡木中	佐藤 和子
30	新郷東小	綱川 明正	62	鳩ヶ谷中	二渡 麻喜
31	朝日西小	伊藤 みさえ	63	里中	河野 邦夫
32	慈林小	田井 祐美			

教育長報告（１７）

令和６年度川口市学校図書館司書について

１ 趣旨

児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成や豊かな人間性の醸成に鑑み、司書教諭と連携を図りながら学校図書館に関する活動を通して学校図書館教育の充実を図るため、学校図書館司書を配置する。

２ 採用人数

４０名

３ 配置

１人２校兼務	７６校
１人単独配置校	２校
合計	７８校

４ 勤務条件

原則週５日　１日あたり４時間　年間１７５日以内

５ 業務内容

- （１）学校図書館の環境整備
- （２）図書館資料の整理
- （３）読み聞かせ等、読書活動に関する行事や児童の活動に関する支援　等

６ 採用者

別紙のとおり

７ 任期

令和６年４月１日から令和７年３月３１日まで

令和6年度 学校図書館司書の配置校

番号	氏 名	配 置 校	
		3日間（月・水・金）	2日間（火・木）
1	浅香 裕子	差間小	芝南小
2	飯田 貴子	慈林小	榛松中
3	五十嵐 瑠美	飯塚小	舟戸小
4	一世 和代	芝樋ノ爪小	小谷場中
5	稲留 麻子	中居小	鳩ヶ谷中
6	海野 祐子	芝小	芝東中
7	大内 芳江	十二月田小	
8	岡部 さかえ	桜町小	神根中
9	熊井 朋美	安行東小	東本郷小
10	熊田 真智子	青木北小	南中
11	倉持 貴子	柳崎小	根岸小
12	小沼 和美	前川東小	青木中
13	小山 未来	原町小	仲町中
14	今 宏美	前川小	幸並中
15	佐藤 佳奈恵	幸町小	上青木小
16	佐藤 久美子	木曽呂小	北中
17	佐藤 伸子	新郷東小	東領家小
18	篠 里花	芝富士小	芝西中
19	須田 朋子	鳩ヶ谷小	里中
20	園部 さおり	並木小	上青木中
21	高田 信一郎	芝中央小	
22	高橋 香澄	戸塚南小	戸塚西中
23	辻谷 穂乃香	辻小	戸塚小
24	土屋 賢治	新郷南小	八幡木中
25	中宇禰 弘子	神根小	神根東小
26	中川 真由美	戸塚綾瀬小	在家中
27	中山 優子	新郷小	東中
28	夏目 章絵	南鳩ヶ谷小	安行中
29	南戸 綾	元郷小	朝日東小
30	西岡 裕子	戸塚東小	安行東中
31	馬場 千尋	在家小	岸川中
32	堀田 伊里子	元郷南小	十二月田中
33	前川 恭子	青木中央小	上青木南小
34	増田 知佳	飯仲小	元郷中
35	松澤 美月	安行小	領家中
36	松山 三華	仲町小	西中
37	水野 綾	里小	朝日西小
38	村田 美香	本町小	領家小
39	山下 良恵	芝西小	芝中
40	米倉 暁	戸塚北小	戸塚中

教育長報告（１８）

令和６年度川口市部活動指導員について

- 1 趣旨
教育に対する理解及び地域の専門的指導力を備えた指導者を顧問として配置することで、部活動の充実・活性化を図る。
指導員を配置することで、学校の教育力・組織力を効果的に高めるとともに、教職員の負担軽減を図る。
- 2 採用人数
２５名
- 3 配置
１５校（配置を希望した学校）
- 4 勤務条件
１月あたり２０時間以上３０時間以内、１０日以上２０日以内
平日：１日あたり２時間３０分以内
休日：１日あたり３時間３０分以内
- 5 業務内容
（１）部活動における技術指導、生活指導。準備、片付け。保護者との連絡。
（２）練習試合、大会等への引率・監督。
※学校顧問に代わり、単独での指導、引率が可能。
- 6 採用者
別紙のとおり
- 7 任期
令和６年４月９日から令和７年３月３１日まで

令和6年度 川口市部活動指導員一覧

No	学校名	部活動名	氏 名	再任・新任
1	西中学校	音楽部	近藤 美千代	再
2	西中学校	ダンス部	新井 亜矢子	再
3	北中学校	ソフトテニス部	牛田 繁	再
4	北中学校	ソフトボール部	近藤 卓子	再
5	北中学校	卓球部	森 孝	新
6	元郷中学校	バスケットボール部	樋口 一	再
7	幸並中学校	バレーボール部	大野 仁美	再
8	幸並中学校	卓球部	恩田 政活	再
9	十二月田中学校	剣道部	小谷 彰治	再
10	安行中学校	合唱部	三澤 明美	新
11	芝東中学校	吹奏楽部	笠村 勇樹	新
12	芝東中学校	水泳部	服部 こころ	新
13	芝西中学校	新体操部	大道 純	再
14	岸川中学校	剣道部	水本 吉昭	再
15	榛松中学校	水泳部	竹端 絵里奈	再
16	榛松中学校	ハンドボール部	大山 歩夢	新
17	小谷場中学校	ダンス部	久野 紗里	再
18	戸塚中学校	剣道部	河崎 勝之	再
19	在家中学校	吹奏楽部	吉田 有希	再
20	在家中学校	剣道部	林 晴彦	新
21	戸塚西中学校	バレーボール部	河合 孝信	再
22	戸塚西中学校	吹奏楽部	武内 信裕	新
23	戸塚西中学校	体操部	高井 麻衣	新
24	里中学校	陸上部	大橋 宏之	再
25	里中学校	野球部	村上 淳一	新

教育長報告（19）

英語教育について

1 国の動向

令和2年度 小学校新学習指導要領 全面实施

第5学年、第6学年における外国語科が開始となる

令和3年度 中学校新学習指導要領 全面实施

「英語を使って何ができるようになるか」の明確化

「即興で話す力」の育成が新設

授業は英語で行うことを基本とする

2 本市中学校における英語教育の取り組み

令和3年度より、次の（１）・（２）の手立てにより、本市中学校英語科教員の授業改善に向けた取り組みを開始している。目標は、「自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成」である。

（１）「５ラウンドシステム」教授法の導入

学習指導要領の全面实施（「即興で話す力の育成」・「授業は英語で行うことを基本とする」の新設）に伴い、令和3年度より「自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成」を目指し、教科書を効果的に活用する指導法である「５ラウンドシステム」を軸とした授業改善に全市立中学校で取り組んでいる。

ア 現在までのあゆみ

平成30年度 ５ラウンドシステム研究開始

令和元年度 ５ラウンドシステム検証開始（Ａ校１年 Ｂ校２年）

令和2年度 ５ラウンドシステム導入研修会

12～3月の全4回英語科教員悉皆

令和3年度 全校 第1学年 ５ラウンドシステム実施

令和4年度 全校 第1・2学年 ５ラウンドシステム実施

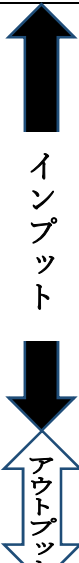
令和5年度～ 全校 全学年 ５ラウンドシステム実施

イ 「５ラウンドシステム」とは

教科書を効果的に活用する指導法で、教科書のストーリー（全単元がひと続きの物語）を年間で５巡（５ラウンド）繰り返し聞いたり、読んだりする学習方法で、ラウンドごとに学習の目標を変えながら、同じストーリーに繰り返し触れることを通して英語表現をインプットする。３学期の最終ラウンドでは、教科書のストーリーを自分の言葉で話したり、書いたりするアウトプットに挑戦させ、実際に英語を使いながら言語を習得する（例えば、毎晩親が子どもに絵本を読み聞かせる中で、子どもがその絵本のストーリーとともに言葉を習得していくような学びに近い）。

※本指導法は、横浜市立南高等学校附属中学校で開発され、現在、熊谷市、広島県など全国各地で高い成果を上げている。

＜5ラウンドシステムのねらいと主な活動内容＞

ラウンド		ねらい・指導内容	主な活動内容
1巡目		本文を聞くことによる 【音声中心の概要把握】	本文のストーリーを聞いて、ランダムに並んだ絵を内容順に並び替える。
2巡目		本文を聞くことによる 【音声と文字の一致】	本文のストーリーを聞いて、ランダムに並んだ文を内容順に並び替える。
3巡目		本文の内容を理解した上での【音読】	新出単語の意味・発音を確認し、本文を音読する。また、文法の学習をする。
4巡目		本文の穴あき音読シートによる【文の構造・語順感覚を養う音読】	動詞や前置詞等を空欄にした本文の穴あき音読シートを見ながら音読する。
5巡目		自分の言葉で本文のストーリーを伝える【リテリング】	絵を用いながら自分の言葉で本文のストーリーを話す「リテリング」を行い、その後、それらを書く。

(2)「GTEC研修事業」による授業改善の取組

(1)の実施に併せて、令和3年度より、教員の授業力向上を目的とした「GTEC研修事業」を開始した。

ア 「GTEC研修事業」とは

GTECは、生徒に対して、英語の「聞く」「読む」「話す」「書く」技能を測るスコア型4技能テストである。各技能の結果は得点で示され、生徒と学校それぞれに4技能の到達度を把握できる「スコアレポート」が配られる。さらに「スキルUPワーク」(冊子)とWEBコンテンツを活用し、受検前及び受検後に、自分の課題に合わせた技能ごとの学習に取り組むことができる。

教員に対しては、まず年度当初に、「事前研修会」を実施し、5ラウンドシステム指導法や授業改善の手立てについて研修を行う。次に、生徒の受検後に、4技能別のスコア結果を基に、学校、指導課、ベネッセコーポレーションの官民連携による三者面談を実施し、今後の授業改善を目的とした結果の分析を行い、教員の授業力向上を通して、生徒の学力向上につなげている。

イ 実施年度と実施学年

令和3年度	GTEC Junior	第1学年で実施
令和4・5年度	GTEC Core	第2学年で実施
令和6年度	GTEC Core	第2学年で実施予定

ウ 事業の流れ（令和5年度）

事前研修会 5月10日（水）2学年担当英語科教員

事前運用説明会 12月19日（火）オンライン

GTEC受検 1月22日（月）～24日（水）のいずれかの日の3時限分

結果の送付 3月11日（月）

事後三者面談 3月19日（火）21日（木）22日（金）のうち各校
30分間

エ 結果

令和3年度 第1学年

4技能全てにおいて市平均が全国平均を上回る。特に聞く技能が優れている。

令和4年度 第2学年（令和3年度と同じ生徒）

4技能全てにおいて市平均が全国平均を上回る。特に書く技能が優れている。

令和5年度 第2学年

聞く・話す技能において全国平均を上回る。特に話す技能が非常に優れている。

（3）その他、指導課による学校への支援について

ア 英語科教員対象の研修会の実施

「中学校5ラウンドシステム研修会」（ワークショップ型・授業参観型）年3回

「英語科第3学年担当教員研修会」（受検対策を含めた研修）4月1回

「英語科転入職員の5ラウンドシステム研修会」4月1回

「英語科Brush Upサロン」（オンライン型の質問会）各月3、4回程度

イ 資料・教材の作成と提供

川口市版『5ラウンドシステム指導書』の発行（Ver. 1～Ver. 4）

ラウンド2～ラウンド4で使用するワークシート（全学年全Unit）

議案第 37 号

川口市スポーツ推進委員を委嘱することについて

川口市スポーツ推進委員に次の者を委嘱するため、スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 32 条第 1 項及び川口市スポーツ推進委員に関する規則（昭和 38 年教育委員会規則第 1 号）第 3 条の規定により議決を求める。

記

1 委嘱をする者

地区名	氏 名	備考
幸栄公民館地区	齊田 裕嗣	特技 トランポリン

2 任期

令和 6 年 5 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで

令和 6 年 4 月 19 日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

神根運動場周辺整備事業について

1 事業概要

埼玉県の内50m水泳場整備計画に併せ、川口市立北スポーツセンター及び神根西公民館（以下「市施設」という。）を含む神根運動場周辺を一体的に整備することにより、多様な世代が集う健康に資する新たなスポーツ拠点とするため、令和4年度に神根運動場周辺整備基本計画を策定した。

これまでの検討及び県との協議を踏まえ、（仮称）神根総合運動公園の整備にあたり、公園、施設及びこれらに付帯する周辺道路、水路、雨水貯留施設の整備等に加え、市施設の建替えに伴う機能整理、法的整理等に関する基本設計を令和5年度に実施した。

2 基本設計概要

（1）はじめに

本事業は、スポーツ振興の拠点として市民から愛されてきた神根運動場周辺を、民有地を含む約16.3haを敷地面積とし、総合運動公園として整備するもの。

ア 概要（基本設計概要版・1ページ）

イ 整備予定地の概要（基本設計概要版・1ページ）

（2）公園基本設計

「スポーツ・健康」、「公園・緑地」、「まちづくり・防災」の3つの拠点として、整備コンセプトを設定し、「地域に活力を与える、地域のスポーツ・交流拠点」を基本方針とし、公園基本設計を行なった。

ア 整備コンセプト（基本設計概要版・2ページ）

イ 基本方針（基本設計概要版・2、3ページ）

ウ 各種設計方針の検討（基本設計概要版・4～9ページ）

（3）市施設概略設計

「運動・健康」、「文化・コミュニティ」、「景観」、「環境・エネルギー」、「安全・安心」を市施設の位置づけとし、神根周辺の特徴や個性を踏まえ、「『神根らしさ』でつながる ひと・まち・自然の交流拠点」を施設計画コンセプトとして、市施設の概略を検討した。

ア 建築計画（基本設計概要版・10、11ページ）

イ 構造計画（基本設計概要版・12ページ）

ウ 設備計画（基本設計概要版・13ページ）

（4）イメージ図

現時点でのイメージ図は、基本設計概要版・14、15ページのとおり。

（5）事業スケジュール（基本設計概要版・16ページ）

令和6年度に実施設計、令和7年度から整備工事を行い、令和9年7月の埼玉県屋内50m水泳場のオープンに合わせるため、県と調整を図りながら事業を進めていく。

(仮称) 神根総合運動公園整備基本設計

概要版

令和6年3月

川口市

目 次

1章 はじめに	1
1. 概要	1
2. 整備予定地の概要	1
2章 公園基本設計	2
1. 整備コンセプト	2
2. 基本方針	2
3. 各種設計方針の検討	4
(1) 造成計画	4
(2) 設備計画（雨水排水設備）	5
(3) 遊戯施設計画	6
(4) 植栽計画	8
3章 市施設概略設計	10
1. 建築計画	10
(1) 施設計画コンセプト	10
(2) 施設ゾーニング計画	11
2. 構造計画	12
3. 設備計画	13
4章 イメージ図	14
5章 事業スケジュール	16

※記載内容について、今後の設計の深度化により、変更の可能性があります。

（仮称）神根総合運動公園整備基本設計【概要版】

1章 はじめに

1. 概要

- ・ 埼玉県屋内50m水泳場（以下、「県プール施設」という。）整備計画に併せ、川口市立北スポーツセンター及び神根西公民館（以下、「市施設」という。）を含む神根運動場周辺を、一体的に整備することにより、多様な世代が集う健康に資する新たなスポーツ拠点とするため、令和4年度に神根運動場周辺整備基本計画（以下、「基本計画」という。）を策定した。
- ・ 本基本設計は、基本構想（令和4年3月策定）及び基本計画（令和5年3月策定）、令和4年3月に埼玉県が公表した埼玉県屋内50m水泳場整備事業基本計画を踏まえ、（仮称）神根総合運動公園（以下、「対象地」という。）の整備にあたり、公園、施設及びこれらに付帯する周辺道路、水路、雨水貯留施設の整備等に加え、市施設の建て替えに伴う機能整理、法的整理等に関する設計を行うものである。

2. 整備予定地の概要

- ・ 整備予定地である神根運動場及び神根公園では、昭和46年に北スポーツセンター及び神根西公民館が開設され、神根運動場は、平成6年に設立した。
- ・ 神根運動場には、その後サッカー場兼ラグビー場、少年サッカー場、ターゲットバードゴルフ場が整備され、スポーツ振興の拠点として市民から愛されてきた。
- ・ 周辺には「川口ジャンクション」があり、東西南北を結ぶ首都圏における高速道路網の要衝となっていることから、県内外から多くの来訪者が見込まれる。
- ・ 本整備にあたっては、神根公園、神根運動場及び周辺の民有地を含む、約16.3haを敷地面積とし、総合運動公園の整備を行う。（川口都市計画公園の変更 令和5年7月27日 川口市決定）

表 対象施設概要

所在地	埼玉県川口市大字道合 390 地内他
区域区分	市街化調整区域
敷地面積	約16.3ha
種別	運動公園
アクセス	電車：JR武蔵野線東浦和駅から徒歩25分 バス：JR京浜東北線蕨駅から約20分「北スポーツセンター」下車 自動車：東京外環自動車道川口中央ICから約1.1km、川口西ICから約2.4km

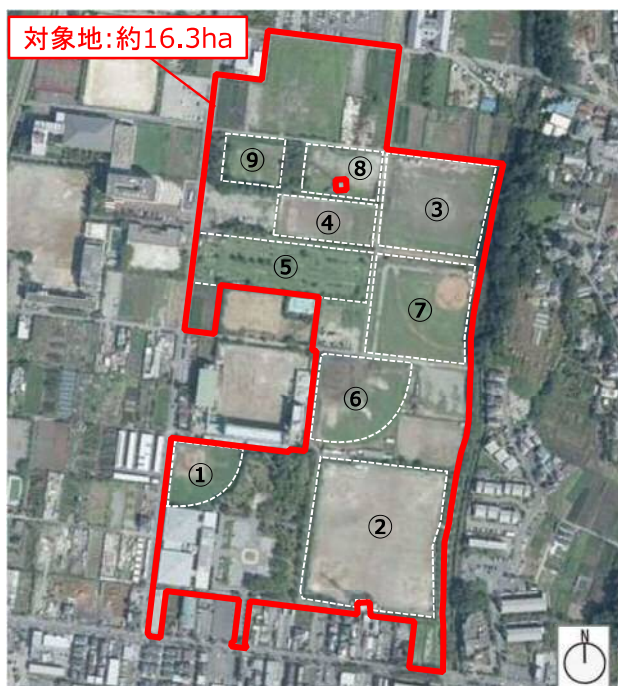


図 対象地概要図

出典：国土交通省国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」より作成

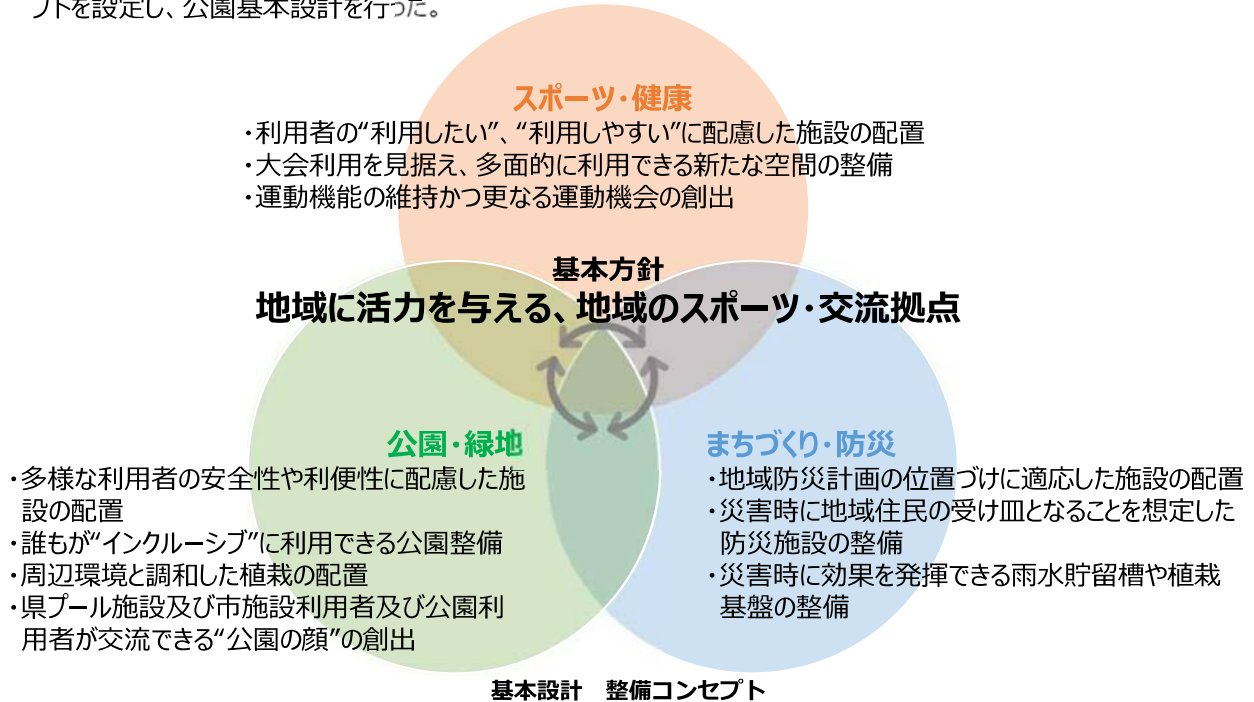
表 既存の屋外施設

施設名	主な施設
① 北スポーツセンターソフトボール場	ソフトボール場1面
② 神根運動場野球場	野球場4面
③ 神根運動場競技場A	サッカー場兼ラグビー場1面
④ 神根運動場競技場B	少年サッカー場1面
⑤ 神根運動場競技場C	ターゲットバードゴルフ場1面
⑥ 野球場	野球場1面
⑦ ソフトボール場	ソフトボール場1面
⑧ 少年ソフトボール場	少年ソフトボール場1面
⑨ 青少年野外活動広場	青少年野外活動広場

2章 公園基本設計

1. 整備コンセプト

- 基本計画では基本構想で設定されたコンセプトと視点を踏まえ、新たに防災公園として位置付けられることから災害時における防災機能の向上、公園全体の効率的な活用を踏まえて、具体的な計画指針となる整備コンセプトを策定した。
- 基本設計においては、基本計画の整備コンセプトを踏襲し、対象地にある現状のスポーツ機能を、できる限り維持できる施設配置について再検討したうえで、多様な主体・世代に開かれた「**スポーツ・健康**」、「**公園・緑地**」、「**まちづくり・防災**」の3つの拠点として、**長く愛される地域活力の創造の場**となることを目指し、以下の基本方針及び整備コンセプトを設定し、公園基本設計を行った。



2. 基本方針

- 整備コンセプトに基づき、屋外運動施設及び公園施設の配置・機能について検討した。基本設計では、東西・南北貫通園路を軸とした特色ある「3つのエリア」を形成し、より利便性の高い公園となるよう施設配置を行った。
- 【自然・憩いエリア】**
- 周辺環境に配慮し、公園北側にまとまった緑地空間を形成することで、公園利用者が静かに憩うことのできる空間を形成する。
- 【スポーツ・健康エリア】**
- スポーツ施設利用者を中心に、公園利用者も含め集い、気軽に健康づくりができ、快適に休憩ができる空間とするため、日常・大会時の動線や利便性に配慮し、あずまやと一体となったクラブハウスを配置した広場を公園の中心に形成する。
- 【賑わい・交流エリア】**
- 東西・南北の主要園路の交点に広場を創出し、多様なつながりを育むことのできる「公園の顔」となる空間を創出する。
 - 3つの広場を隣接して配置し、一体的な利用ができる広場とすることで、周辺の公園ではできない体験ができる空間とし、世代を問わず多様な公園利用者が心地よく安全に公園を利用できるインクルーシブな空間を創出する。
- 【屋外運動施設】**
- 屋外運動施設は災害時の利用を考慮した配置とし、現状のスポーツ機能を最大限維持しつつ、様々な競技が利用できる面積・施設を確保する。
- 【駐車場】**
- 駐車場は歩行者の横断が少ない位置とし、公園利用者の安全に配慮し、北側と南側に分散して配置する。
 - 南側駐車場では、大会時の利用を想定したバスロータリーを設け、臨時駐車場は日常時に多目的広場として利用できるよう整備し、効率的な土地利用を行う。
- 【園路】**
- 出入口は日常の利用を踏まえ、多方面からのアクセスが可能な配置とする。
 - 園路は各施設にスムーズに移動できるよう、東西・南北に公園の軸となるシンボル性の高い貫通園路を配置し、園路と別にランニング走路を設けることで公園利用者の利便性を確保する。
- 【周辺道路】**
- 公園西側の道路は、現況から公園側へ3.5m拡幅することで安全な歩行空間を確保する。
 - 公園に隣接する交差点は、コンパクト化を図るため、設計車両の走行軌跡に基づき計画する。

The site plan illustrates the layout of the Nishikawa Sports Center. Key features include:

- Facilities:** 屋外運動施設 1 (Outdoor Sports Facility 1), 屋外運動施設 2 (Outdoor Sports Facility 2), 屋外運動施設 3 (Outdoor Sports Facility 3), 屋外運動施設 4 (Outdoor Sports Facility 4), クラブハウス (あずまや・トイレ) (Clubhouse (Veranda/Toilet)), イベント広場 (Event Plaza), 遊びの広場 (Play Plaza), 市施設 (City Facility), 県プール施設 (Prefectural Pool Facility), 多目的広場 (臨時駐車場 103台) (Multi-purpose Plaza (Temporary Parking 103 cars)), 南側駐車場 (281台) (South Parking (281 cars)), 北側駐車場 (275台) (North Parking (275 cars)).
- Green Spaces:** 自然・憩いエリア (Natural/Leisure Area), 自然林の緑地 (Natural Forest Green Space), 芝生広場 (Grass Field).
- Circulation:** 歩行者出入口 (Pedestrian Entrance/Exit), 車両出入口 (Vehicle Entrance/Exit), 南北貫通路 (North-South Throughway), 東西貫通路 (East-West Throughway).
- Other:** テニスコート (Tennis Court), トイレ (Toilet), 木曾呂下 (Kiseguro), 道合 (Michikae), 久保前 (Kobomae).

3

2章 公園基本設計

3. 各種設計方針の検討

(1) 造成計画

- 対象地は西側から東側にかけて高くなっているものの、大きな起伏はなく概ねフラットとなっている。
- 対象地南東側は周辺との高低差が約2mあるため、公園及び市施設、県施設とのアクセス性を考慮し造成計画を行う。
- 南北貫通園路の造成高は5.00を基本とし、出入口の現況レベルに合わせて、バリアフリー勾配ですりつけることとし、各施設は、南北貫通園路に合わせて最低限の盛土行為を行うこととする。

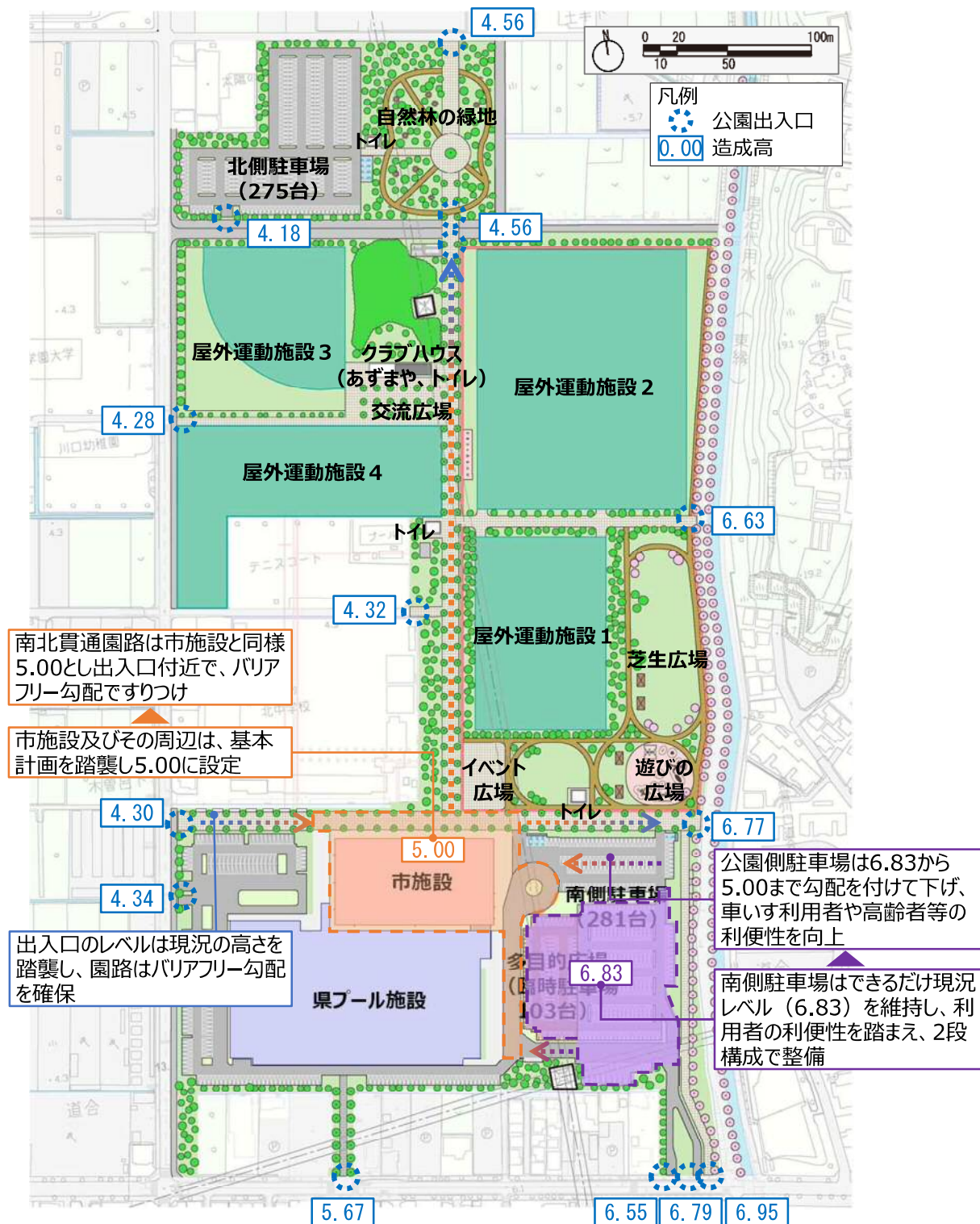


図 外周レベル及び造成基本設計方針

2章 公園基本設計

(2) 設備計画（雨水排水設備）

- ・ 土地利用に応じて、4つの流域に区分し、各流域の雨水貯留施設へ接続を行う。雨水排水の接続先は木曽呂放水路や用水路（芝-26-1、23-4）とし、水路の改修(蓋掛けや暗渠化)を併せて行う。
- ・ 敷地内の排水は、U型側溝を基本とし、勾配の取れない部分は自由勾配側溝を用いて排水を行う。
- ・ コスト削減、工期短縮等を踏まえつつ、埼玉県雨水流出抑制の設置等に関する条例に基づき、雨水流出増加行為に対する必要対策量を整備する。

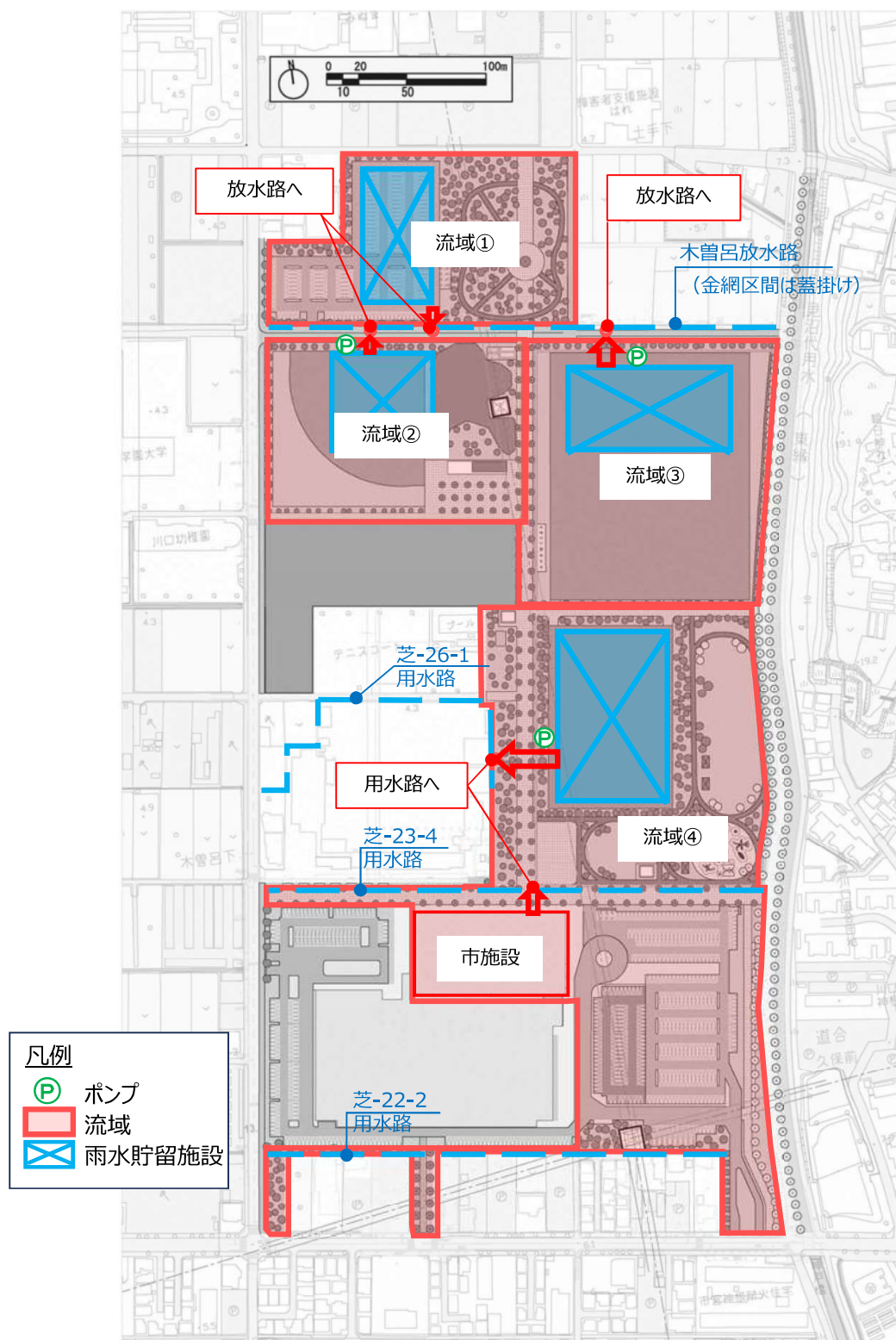


図 雨水・排水設備の設計方針図

2章 公園基本設計

(3) 遊戯施設設計画

- 都市計画変更前の神根公園の広場面積は約0.7haで、芝生のエリア、植栽帯エリア、遊具エリアで構成されており、遊具は4連ブランコ、砂場、シーソーのみ。
- 対象地の立地特性及び周辺の公園の整備状況より、南側に遊具を置いた遊びの広場を設ける。遊びの広場は、スポーツ利用者の滞留空間と交錯しないよう安全な位置とし、親子で集い、憩うことができるよう、広場空間と合わせた配置とする。
- 子どもの遊具は多様な年齢が対象地を訪れることを想定し、安全かつ機能性の高い遊具を配置する。
- 周辺公園に少ない健康遊具や複合遊具、また、多様な子どもたちが同時に遊べるインクルーシブ遊具を整備する。
- 公園利用者が気軽に健康づくりをできるよう、交流広場近くに健康遊具エリアを設ける。

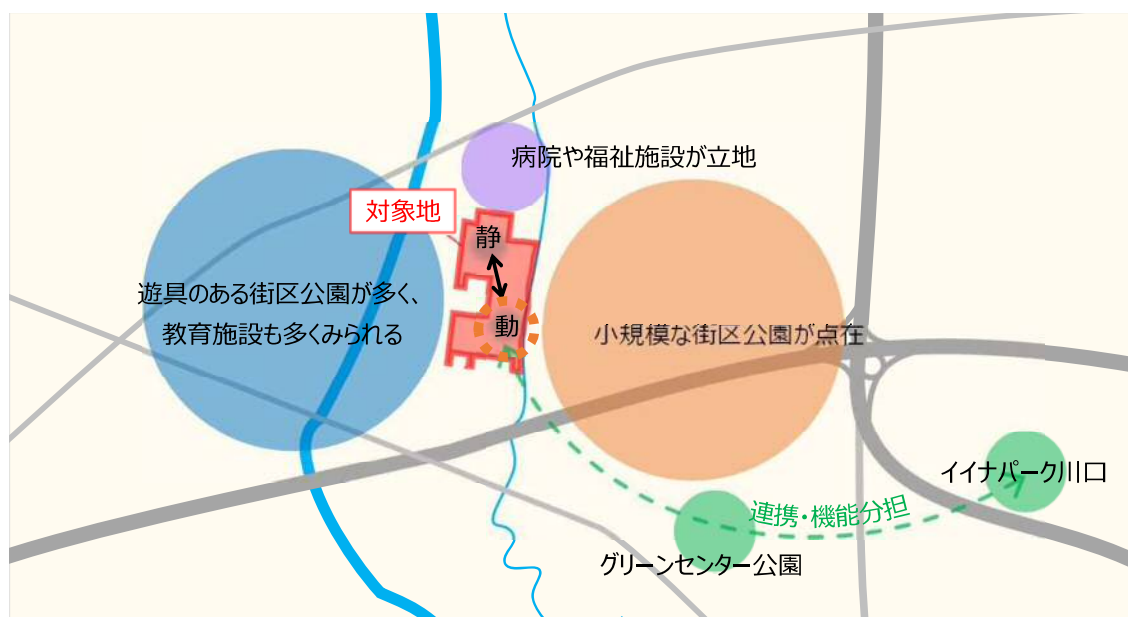


図 遊戯施設整備の考え方

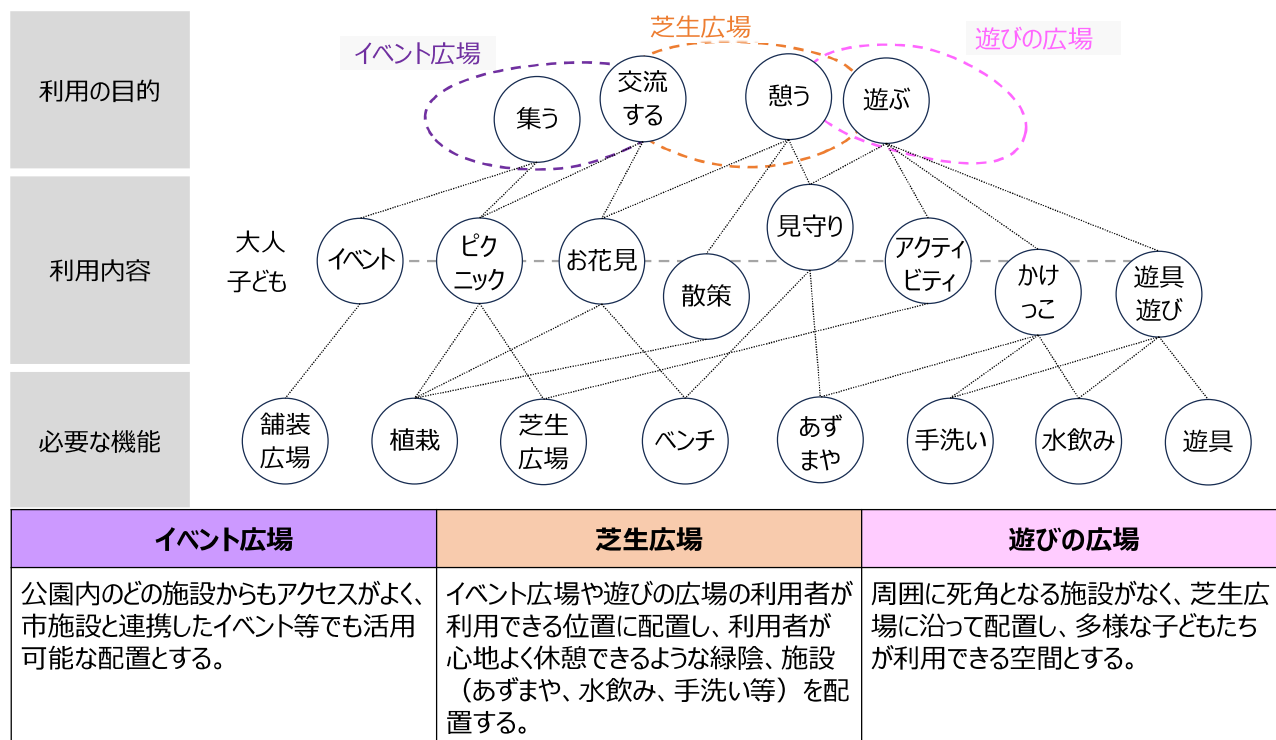


図 広場の考え方

2章 公園基本設計



遊具の選定について

- ・対象地では、スポーツをする子どもだけでなく、様々な子どもたちが集い、遊ぶことのできる「**インクルーシブな広場**」を形成し、周辺公園との機能分担を図る。
- ・また、違う要素を持つ広場を近くに配置することで一体的な利用を可能とし、周辺の公園ではできない体験ができる空間とする。

インクルーシブ遊具の要素

触る・掴む・引っぱる

バランスをとる

見る・覗く

聞く・奏でる

みんなで遊ぶ

誰でも遊べる

想定遊具 ●:幼児用遊具 ○:児童用遊具 ◆:インクルーシブ対応

複合遊具	ブランコ	砂場	シーソー・スプリング遊具	回転遊具	シェルター遊具
●○◆	●○◆	●○◆	●○◆	●○◆	●○◆
出典：豊島区HP	出典：幸手市HP	出典：豊島区HP	出典：埼玉県HP(左) 千葉県HP(右)	出典：豊島区HP	出典：能美市HP

図 遊戯施設の基本設計方針

2章 公園基本設計

(4) 植栽計画

- 見沼代用水や周辺の自然環境と調和した植栽配置を行う。南側は広場的植栽を整備し、北側に行くに連れ、自然的な緑が見られる配置とする。また、エリアごとに配置する植栽を差別化し、エリアの特色を活かす。
- 見沼代用水沿いのサクラを活かした植栽とすることで一体的な景観を形成し、園路沿いや広場内には四季を楽しむことのできる植栽を配置し、季節感を強調した公園とする。
- 剪定や施肥、病害虫防除など、管理に手間のかからない樹種を中心に樹種を選定する方針とし、詳細な樹種については実施設計時に「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準（第2版：令和4年3月、埼玉県環境部みどり自然課）」に基づき、在来種※を中心とした植栽選定を行う。

※在来種：埼玉県内に自生している種及び低地・台地、標高100m程度までに生息する種

表 緑化樹木としてよく使われている在来種

高木	落葉	アカシデ、イヌシデ、イロハモミジ、エノキ、オニグルミ、カツラ、クリ、ケヤキ、コナラ、コブシ、トチノキ、ハンノキ、ミズキ、ヤマザクラ
	常緑	アカマツ、サワラ、シラカシ、スギ、スダジイ、ヒノキ
中高木	落葉	エゴノキ、ナツツバキ、リョウブ
	常緑	ネズミモチ、ヒイラギ、ヤブツバキ
低木	落葉	イボタノキ、ウツギ、ガマズミ、カワヤナギ、クサボケ、コマユミ、タラノキ、ナツグミ、ネコヤナギ、マユミ、ムラサキシキブ、ヤマツツジ、ヤマブキ
	常緑	アオキ、アセビ、イヌツゲ

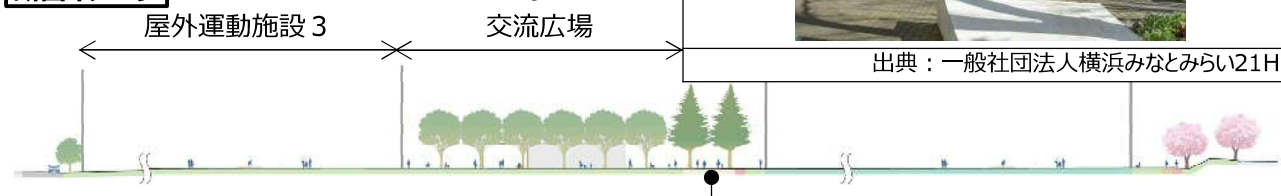
出典：埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準（第2版：令和4年3月、埼玉県環境部みどり自然課）

○交流広場：広場利用者に緑陰を感じさせる高木を選定
ケヤキ（グランモール公園）



出典：一般社団法人横浜みなとみらい21HP

A-A' 断面イメージ



○主要園路：東西・南北貫通園路は公園のシンボルロードとなるよう、線形を強調するスタイリッシュな樹種を選定（園路幅員10m、樹木のピッチ：10m）

イチヨウ （加須はなさき公園）	メタセコイア （和田山中央文化公園）	プラタナス （新宿御苑）	モミジバフウ （三木山森林公園）	カツラ （長岡造形大学）
出典：公益財団法人埼玉県公園緑地協会HP	出典：但馬情報特急HP	出典：一般社団法人国民公園協会HP	出典：兵庫県立三木山森林公園HP	出典：長岡造形大学公式X

B-B' 断面イメージ

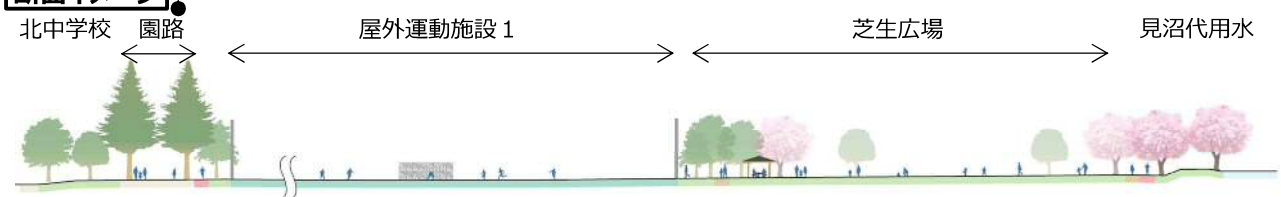


図 整備イメージ図（断面）

2章 公園基本設計

自然的植栽

公園北側は保全緑地や周辺の植栽と同様、地域の植栽を中心とした自然的な植栽を行い、緑のネットワーク形成を図る。

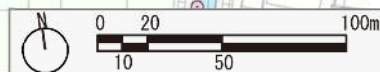
【周辺植栽と調和した緑地】

- ・対象地周辺に見られる樹木を中心に植栽し、周辺の自然環境との緑のネットワークを形成し、地域性のある豊かな緑空間の創出。
- ・子どもたちが散策、環境学習ができるような様々な樹木を選定し、生物の生息環境の拡充。
- ・スダジイ、クヌギ、コナラ、アカシデ等。

金崎斜面林保全緑地
(対象地より約1.2km)

豊かな自然環境を
維持・保全する拠点

東内野前町東保全緑地
(対象地より約1.5km)



【親しみのある広場空間】

- ・広場利用者に緑陰を感じさせ、四季を楽しむことのできるケヤキをグリッド状に植栽する。

【軸線を意識した並木】

- ・季節を感じることができ、主要園路のシンボル性を高める樹種を選定する。
- ・イチョウ、メタセコイア、プラタナス・モミジバフウ等

【用水路と一体的な植栽】

- ・見沼代用水沿いの景観資源であるサクラとの調和を図る。
- ・(2) サクラ以外にも四季を楽しめる樹木を配置し、にぎわいを生み出す。
- ・ハクモクレン、コブシ、ヤマボウシ等

広場的植栽

公園南側はグリーンセンターやイナパーク、また対象地内の市施設及び県施設とのつながりを意識し、人の集まる広場空間を設けることから、花や紅葉など四季を感じさせる樹木を配置する他、広場利用者に緑陰の提供を目指す。

グリーンセンター
(対象地より約1.5km)

イナパーク川口
(対象地より約2.5km)

緑の拠点

図 緑化計画の基本設計方針

3章 市施設概略設計

1. 建築計画

(1) 施設計画コンセプト

- ・市の上位計画等を踏まえた施設の位置づけを整理、「運動・健康」「文化・コミュニティ」「景観」「環境・エネルギー」「安全・安心」を、本施設の位置づけとした。
- ・また、「都市構造としての道」が古来から現代まで残る歴史性、周辺の斜面林に代表される崖線状の「風景となる地形」、地形差を活かした水運など「自然の利活用の工夫」など、神根周辺の特徴・個性を読み込み、施設計画コンセプトを検討した。
- ・以上を踏まえ、「『神根らしさ』でつながる ひと・まち・自然の交流拠点」を本施設計画のコンセプトとし、施設・公園間の接続や交流の場を示す「ミチ」、自然景観との調和を示す「キノ」、自然エネルギーの利活用を示す「ジバ」を計画し重視する3つのキーワードとした。

上位計画を踏まえた施設の位置づけ

運動・健康

- 健康を支える身体活動・運動の拠点
- スポーツを「する」「みる」機会の充実

文化・コミュニティ

- 多様な学習機会の提供
- 多様な世代の憩い・交流の場づくり

景観

- 地場産業を活かしたデザイン要素の導入
- 見沼代用水、斜面林の景観を活かす計画（水と緑のネットワーク）
- 神根の風景との調和、共存

環境・エネルギー

- 環境保全
- 省エネルギー化・温室効果ガス排出量減による建物環境負荷低減

安全・安心 ● 防災機能の強化 耐震化の推進 バリアフリー

神根周辺の特徴・個性

○都市構造としての道

- ・交通の要衝として発展した歴史
- ・各時代の交通機能が残る都市構造
- ・交通に伴って生まれる賑わい

○風景となる地形

- ・変わらない台地状の微地形
- ・地名の由来ともなる「キノ」
- ・景観資源となる斜面林

○自然の利活用の工夫

- ・自然や立地をうまく活用
- ・人間の工夫で自然を活かす
- ・まちの資源となる

施設計画コンセプト

「神根らしさ」でつながる ひと・まち・自然の交流拠点

3つのキーワード

ミチ

—ひとや場所をつなぎ、にぎわいを生む—



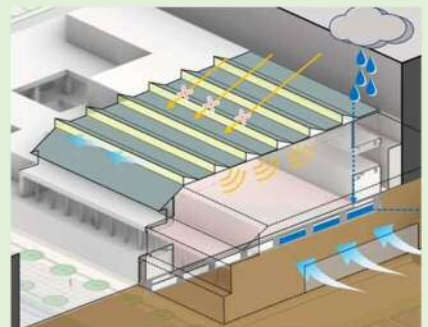
キノ

—地域の自然景観と調和した風景—



ジバ（地場）

—自然素材を活用する知恵・技—



3章 市施設概略設計

(2) 施設ゾーニング計画

- 市施設のゾーニングは、主に以下の点に配慮して検討した。

公園計画・県施設計画との整合性

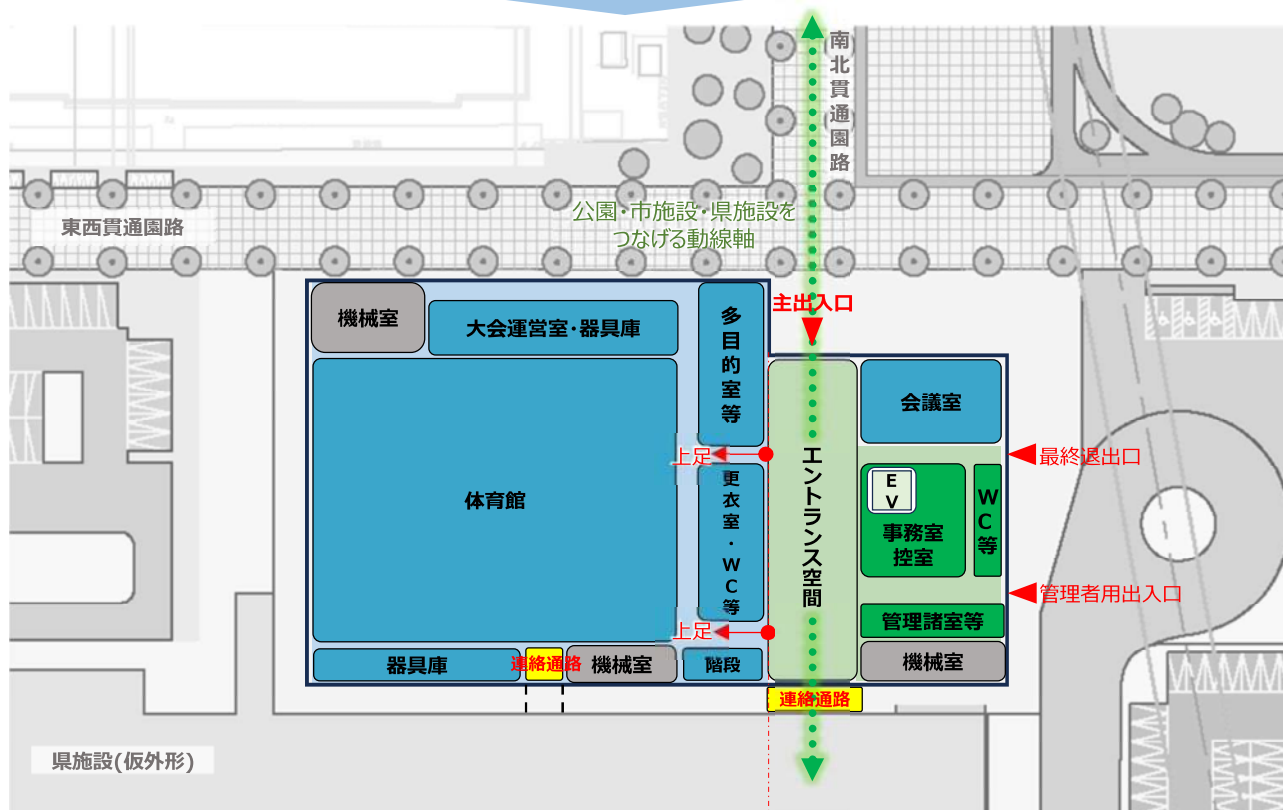
- 公園の主要園路（南北貫通園路）の軸に沿って施設出入口/エントランス空間/県連絡通路を設けることで、公園・市/県プール施設を明確に繋げる動線を確保する。
- 事務室は1階エントランスロビー空間の中央に配置し、案内・受付・精算等を円滑に行えるよう配慮するとともに、公園側、県プール施設側両方からの入退館が視認可能な配置とする。

体育館・公民館エリア区分の明確化

- 体育館エリアは基本的には上足、公民館エリアは下足で運用される。1Fエントランスを境に、東西で上下足を明確に区分する構成とする。
- 但し、コスト・スペース効率を鑑み、EVは公民館側に一基のみとする。車いす利用者が2F体育館機能を利用する場合、公民館側のEVから展示ホールを経由してアクセスするなど、運用面に対応する。

県大規模大会時の動線の配慮

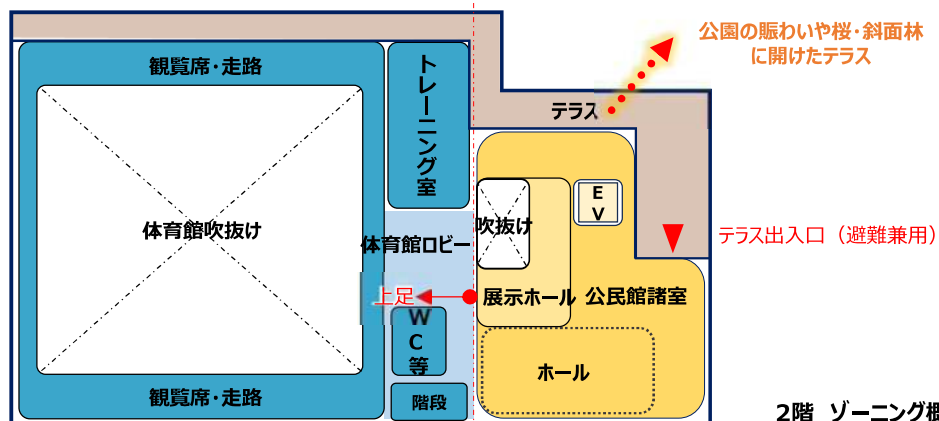
- 県プール施設での大規模大会時には体育館を選手控室として利用することから、体育館南側に選手移動用の連絡通路を別途設ける。大規模大会時は体育館のみ水泳競技大会用に運用し、その他市施設機能（公民館、多目的室、トレーニング室等）の利用が継続して可能な計画とする。



1階 ゾーニング概念図

色塗凡例

■	体育館諸室
■	公民館諸室
■	管理諸室
■	機械室等
■	連絡通路
■	体育館共用部
■	公民館共用部
■	全体共用部



2階 ゾーニング概念図

3章 市施設概略設計

2. 構造計画

- ・ 経済性に配慮し、上部構造・基礎ともに鉄筋コンクリート（RC）造を基本とする。
- ・ 体育館の屋根は鉄骨（S）造とし、ロングスパンを実現する。架構形式は建築・設備計画に配慮し張弦梁とする。
- ・ 耐震性能は、大地震時における人命の安全及び機能確保のため、基準法上求められる性能の1.25倍とする。
- ・ 耐震要素となる壁面をバランスよく配置することで地震時の偏心を防止する。
- ・ 基礎形式は、既存ボーリング調査結果より、杭基礎とする。
- ・ 県プール施設とはエキスパンションジョイント等で接続する。接続部分の詳細は基本設計以降に検討する。

体育館屋根：鉄骨造

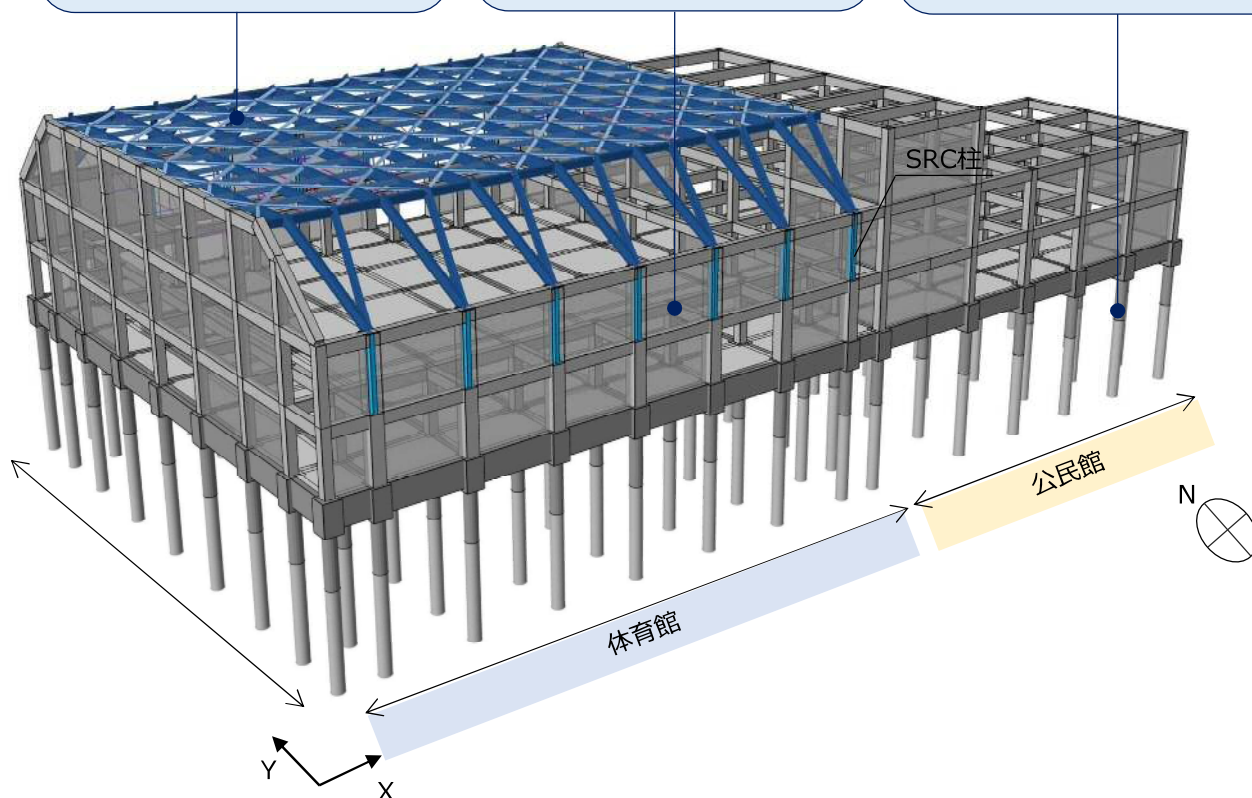
- ・ 張弦梁架構とし、屋根面からの自然光をできるだけ遮ることなく室内に取り込めるよう配慮する。
- ・ 北側の中学校に対する日影に配慮し、両端を斜め柱として北面の高さを抑えた架構形状とする。
- ・ 屋根面には水平ブレースを設け、地震時に生じる応力を耐力壁に伝達する。

上部構造：鉄筋コンクリート造

- ・ 架構形式は、耐震壁付きラーメン構造とする。
- ・ 水平力の多くを耐力壁で処理するため、純ラーメン構造に比べ柱梁の断面を小さくすることが可能。
- ・ 鉄筋コンクリート造とすることで、水平剛性を高め、地震時の安全性を確保する。
- ・ 屋根面の斜め柱に接続する柱は、応力を確実に伝達するため鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）造とする（2階のみ）。

基礎：杭基礎

- ・ 表層から支持層まで軟弱な粘性土が厚く堆積しているため、摩擦杭を採用し、杭中間部からも支持力を確保する。
- ・ 杭先端は、GL-20m付近に出現する支持層（N = 50以上の砂礫層）に根入れする。
- ・ 杭頭周辺の地盤は特に軟弱であるため外殻鋼管付コンクリート杭（SC杭）として耐力を確保する。



※図は杭の下部を省略しています。

3章 市施設概略設計

3. 設備計画

- ・ 市の上位計画にて省エネルギー化、環境負荷低減が位置づけられていることから、建物・立地の特徴を踏まえ、自然エネルギーを活かした設備計画にする。自然エネルギー利用にあたっては、計画上必要な設備等を極力活かすことでコスト面にも配慮する。
- ・ 体育館においては、火災時に必要な排煙窓を、自然採光や自然換気にも用いるシステムとする。
- ・ 建物で貯留した雨水の一部を、トイレ洗浄水、植栽灌水等に利用する。

体育館屋根：自然排煙窓の省エネ活用

① 自然採光を取り入れる

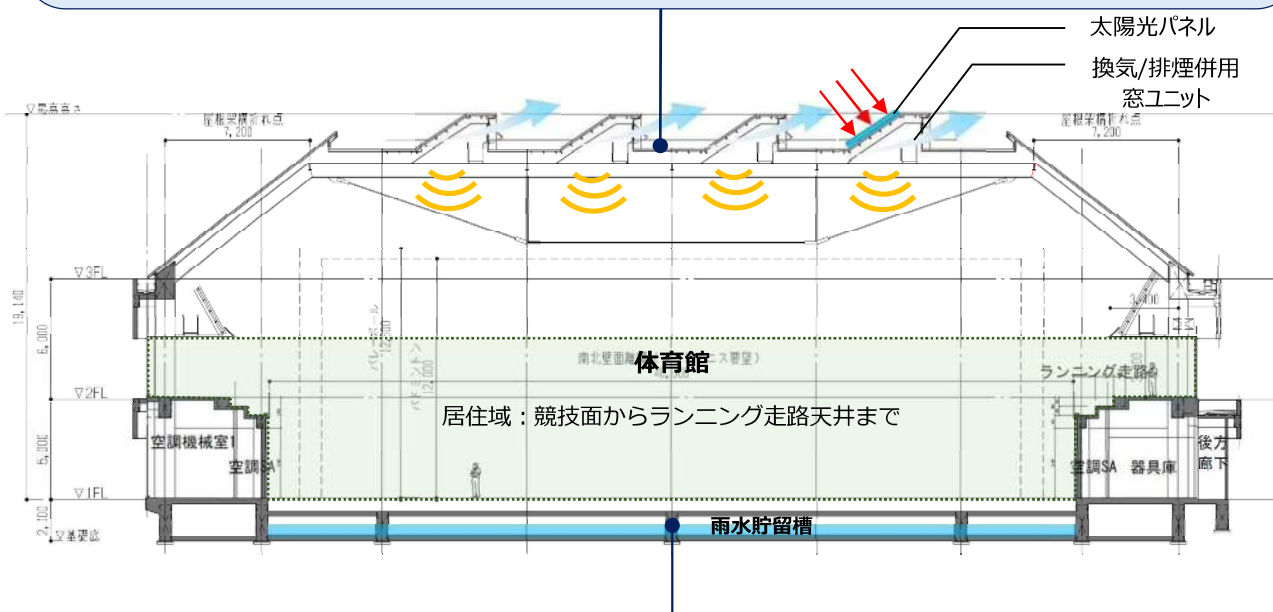
- ・ 運動施設で敬遠される直射日光が入らないよう北向きかつひさしを設けた窓形状とし、まぶしくない間接光を競技面に取り入れる。
- ・ 自然採光により、日中レクリエーション時に必要な照度（300lx程度）を確保し、照明の省エネルギー化を図る。競技面の人工照明は市民大会開催時等を想定した設計照度（平均照度500lx）とする。
- ・ 十分な自然光が期待出来ない日没前や冬季は、適宜、人工照明で補う方針とする。

② 自然換気へ利用する

- ・ 換気/排煙両方の機能を併用出来る窓を採用。また、雨天・強風、大会時など、環境に応じて開閉を制御できるシステムを備えたものとする。
- ・ 感染症対策（居住域の2回/h以上）に加え運動時の発熱除去を考慮し、居住域（人が居る空間）を中心として適切な換気量を確保する。

③ 太陽光パネルの設置

- ・ 北向きの窓形状を利用して太陽光パネルを設置。人工照明に必要なエネルギーを太陽光で賄う方針とする。
- ・ 設置面積については、自然採光による省エネ効果を加味しつつ、コストバランスに留意して設定する。



地下ピット：雨水の再利用

- ・ 年間を通じて、雨水をろ過し、雑用水（トイレ洗浄水、植栽灌水）等として活用する。
- ・ 計画地の月別雨量を踏まえ、年間を通じて安定的に雨水利用を可能としつつも、過大にならない貯留量を設定する。

4章 イメージ図



図 ①南西鳥瞰図



図 ②北東鳥瞰図

4章 イメージ図

イベント広場



図 ③東西貫通園路よりイベント広場を見る



図 ④芝生広場よりイベント広場を見る

交流広場



図 ⑤交流広場



図 ⑥南北貫通園路より交流広場を見る

南北貫通園路



図 ⑦南北貫通園路より北を見る

自然林の緑地



図 ⑧自然林の緑地



図 イメージ図 視点位置

5章 事業スケジュール

- 令和6年度に実施設計、令和7年度～令和9年度に整備、令和9年度供用開始を予定している。
- 事業は公園整備事業や市施設整備事業、県プール施設整備事業から成り、相互で調整を図りながら事業を進めていく。

事業スケジュール

